

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

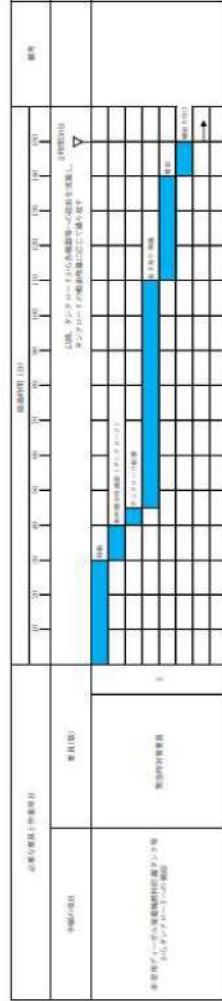
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由



【島根】記載内容の相違
 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。

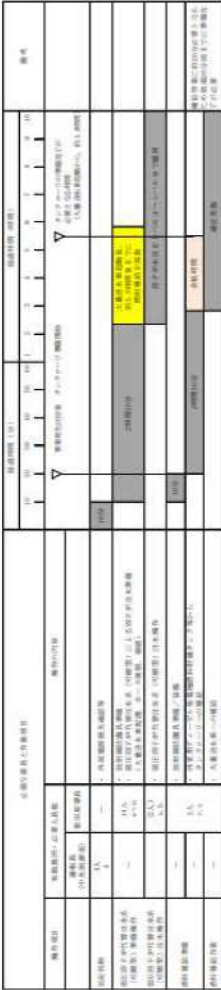
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="721 204 1308 810" style="border: 1px solid black; height: 380px; width: 100%;"></div> <p data-bbox="712 837 1326 890">第11図 非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用した燃料抜取り手順のルート</p> <div data-bbox="878 944 1308 970" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> 本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。 </div>		<p data-bbox="1989 146 2168 252">【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第12図 有効性評価における非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用した成立性確認 (全交流動力電源喪失(TBP))</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>e. 土石流対応のうち海水注水切替え等を決定・実施するための判断基準と対応内容</p> <p>(a) 海水注水切替え等における土石流対応にあたっての流れ 土石流対応にあたっての流れを以下に示す。なお、土石流対応のうち海水注水切替え等を決定・実施するための判断基準と対応内容を第3表に示す。</p> <p>①発電所構内雨量計により、1時間雨量が60mm以上を確認した場合には、警戒体制を構築し、発電所施設への監視を強化する。なお、発電所構内の雨量に加え、気象庁から発表される防災気象情報を参考にする。</p> <p>②構内監視カメラによる確認や現場作業員による目視確認により、作業場所周辺（代替淡水源である輪谷貯水槽（西1/西2）周辺）の土石流危険区域①、②において土石流発生を確認した場合には、土石流危険区域内のアクセスルート等への立入制限及び代替淡水源（輪谷貯水槽（西1/西2））から海を水源とする原子炉等への注水への切替え等の手順を講じることを決定・実施する。</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	<p style="text-align: center;">第3表 土石流対応のうち海水注水切替え等を決定・実施するための判断基準と対応内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">判断基準</th> <th style="width: 80%;">警戒体制の構築（監視強化） 海水注水切替え等の決定・実施</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 発電所構内の雨量に加え、気象庁から発表される防災気象情報を参考に、発電所構内雨量計による1時間雨量が6mm以上を確認した場合</td> <td>■ 構内監視カメラにより、作業場所周辺（代野淡水原である輪谷貯水槽（西1/西2）周辺）の土石流危険区域①、②において土石流発生を確認した場合[※]</td> </tr> <tr> <td>通常時</td> <td>■ 土石流危険区域①、②内のアクセスルート等への立入を制限する。 ■ 重大事故等発生時において、以下の手順を講じることとを決定する。 ・ 海を水原とした原子炉等への注水とすること。 ・ 非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を用いた燃料補給とすること。</td> </tr> <tr> <td>重大事故等発生時</td> <td>■ 土石流危険区域①、②内のアクセスルート等への立入を制限する。 ■ 以下の手順を講じることとを決定する。 ・ 代野淡水原からの海を水原とする原子炉等への注水に切り替えること。 ・ ガスタキーン発電機用軽油タンクから非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を用いた燃料補給に切り替えること。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：作業場所周辺（代野淡水原である輪谷貯水槽（西1/西2）周辺）の土石流発生が確認されない状況においても、発電所構内の状況、防災気象情報（警戒レベル相当情報）及び発電所構内雨量計による判断基準を参考に、あらかじめ海水注水切替え等の事前準備を実施する、並びに人的被害の予防の観点で、海水注水切替え等を決定・実施する場合があります。</p>	判断基準	警戒体制の構築（監視強化） 海水注水切替え等の決定・実施	■ 発電所構内の雨量に加え、気象庁から発表される防災気象情報を参考に、発電所構内雨量計による1時間雨量が6mm以上を確認した場合	■ 構内監視カメラにより、作業場所周辺（代野淡水原である輪谷貯水槽（西1/西2）周辺）の土石流危険区域①、②において土石流発生を確認した場合 [※]	通常時	■ 土石流危険区域①、②内のアクセスルート等への立入を制限する。 ■ 重大事故等発生時において、以下の手順を講じることとを決定する。 ・ 海を水原とした原子炉等への注水とすること。 ・ 非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を用いた燃料補給とすること。	重大事故等発生時	■ 土石流危険区域①、②内のアクセスルート等への立入を制限する。 ■ 以下の手順を講じることとを決定する。 ・ 代野淡水原からの海を水原とする原子炉等への注水に切り替えること。 ・ ガスタキーン発電機用軽油タンクから非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を用いた燃料補給に切り替えること。		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>
判断基準	警戒体制の構築（監視強化） 海水注水切替え等の決定・実施										
■ 発電所構内の雨量に加え、気象庁から発表される防災気象情報を参考に、発電所構内雨量計による1時間雨量が6mm以上を確認した場合	■ 構内監視カメラにより、作業場所周辺（代野淡水原である輪谷貯水槽（西1/西2）周辺）の土石流危険区域①、②において土石流発生を確認した場合 [※]										
通常時	■ 土石流危険区域①、②内のアクセスルート等への立入を制限する。 ■ 重大事故等発生時において、以下の手順を講じることとを決定する。 ・ 海を水原とした原子炉等への注水とすること。 ・ 非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を用いた燃料補給とすること。										
重大事故等発生時	■ 土石流危険区域①、②内のアクセスルート等への立入を制限する。 ■ 以下の手順を講じることとを決定する。 ・ 代野淡水原からの海を水原とする原子炉等への注水に切り替えること。 ・ ガスタキーン発電機用軽油タンクから非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を用いた燃料補給に切り替えること。										




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(b) 海水注水切替えの決定・実施を判断するための土石流発生の確認方法</p> <p>作業場所周辺（代替淡水源である輪谷貯水槽（西1／西2）周辺）の土石流危険区域①、②に対する土石流発生の確認は、構内監視カメラによる確認や現場作業員による目視確認により実施する。具体的な確認方法を以下に示す。</p> <p>i. 構内監視カメラによる確認</p> <p>重大事故等発生時においても土石流発生の確認ができるよう、構内監視カメラ（DB設備）に加えて、構内監視カメラ（DB／SA設備）をガスタービン発電機建物屋上に、1台新規に設置する。</p> <p>ii. 現場による目視確認（構内監視カメラ以外の確認）</p> <p>発電所構内の降雨状況により警戒体制を構築し、発電所施設（土石流危険区域の状況を含む。）への監視を強化するが、通常時及び重大事故等発生時共に、定期的な現場パトロールを行い、土石流発生状況を確認する。</p> <p>可搬型設備の運転状況確認や、可搬型設備への定期的な燃料補給作業を実施するため、現場作業員による目視確認により、土石流発生状況を確認する。</p> <p>iii. 事象発生確認後の連絡体制</p> <p>土石流が発生するおそれがある状況においては、既に警戒体制を構築し監視強化を行っており、発電所構内の施設状況を適宜連絡することとしていることから、土石流発生を確認した後、遅滞なく、緊急時対策本部において、海水注水切替えの決定・実施を判断可能である。</p> <p>(c) 土石流発生を確認するために新規設置する構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）の概要</p> <p>i. 設置目的</p> <p>重大事故等発生時においても、海水注水切替え等の決定・判断を遅滞なく行えるよう、構内監視カメラ（DB設備）に加えて、作業場所周辺（代替淡水源である輪谷貯水槽（西1／西2）周辺）の土石流危険区域①、②における土石流発生状況を確認できる、耐震性を有する構内監視カメラを、ガスタービン発電機建物屋上に1台新規設置する。</p> <p>ii. 位置付け</p> <p>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）は、「DB設備（第二十六条原子炉制御室等）／SA設備（第五十六条重大事故等の収束に必要となる水の供給設備）」として設置する。</p> <p>iii. 耐震設計及び供給電源</p> <p>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）の耐震設計は、C（Ss機能維持）とし、非常用電源（無停電交流電源）及び代替交流電源設備から給電可能とする。</p>		<p>【島根】記載内容の相違・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

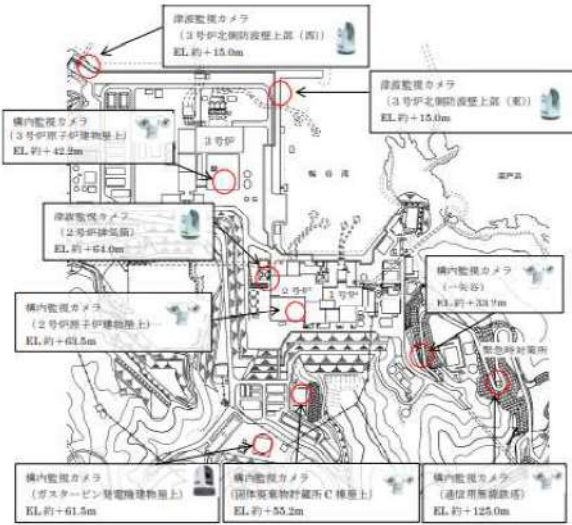

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項


女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																						
	<p>iv. 監視方法</p> <p>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）は、重大事故等発生時に中央制御室において運転員により、また、緊急時対策所において緊急時対策要員により監視可能とする。</p> <p>構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）の概要を第4表に示す。また、構内監視カメラの設置場所及び監視範囲を第13、14図に、土石流危険区域方向の状況把握イメージを第15図に示す。</p> <p>第4表 構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）の概要</p> <table border="1" data-bbox="757 501 1290 995"> <thead> <tr> <th colspan="2">構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外観</td> <td></td> </tr> <tr> <td>カメラ構成</td> <td>可視光と赤外線デュアルカメラ</td> </tr> <tr> <td>ズーム</td> <td>可視光カメラ：光学ズーム30倍 デジタルズーム12倍 赤外線カメラ：デジタルズーム1～4倍</td> </tr> <tr> <td>遠隔可動</td> <td>水平可動：360° 上下可動：±90°</td> </tr> <tr> <td>暗視機能</td> <td>可能（赤外線カメラ）</td> </tr> <tr> <td>耐震設計</td> <td>C（S s機能維持）</td> </tr> <tr> <td>供給電源</td> <td>非常用電源（無停電交流電源） 代替交流電源設備</td> </tr> <tr> <td>風荷重</td> <td>風速（30m/s）による荷重を考慮</td> </tr> <tr> <td>積雪荷重</td> <td>積雪（100cm）による荷重を考慮</td> </tr> <tr> <td>台数</td> <td>ガスタービン発電機建物屋上 1台</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：詳細設計中であり変更の可能性がある。</p>	構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）		外観		カメラ構成	可視光と赤外線デュアルカメラ	ズーム	可視光カメラ：光学ズーム30倍 デジタルズーム12倍 赤外線カメラ：デジタルズーム1～4倍	遠隔可動	水平可動：360° 上下可動：±90°	暗視機能	可能（赤外線カメラ）	耐震設計	C（S s機能維持）	供給電源	非常用電源（無停電交流電源） 代替交流電源設備	風荷重	風速（30m/s）による荷重を考慮	積雪荷重	積雪（100cm）による荷重を考慮	台数	ガスタービン発電機建物屋上 1台		<p>【島根】記載内容の相違 ・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>
構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）																									
外観																									
カメラ構成	可視光と赤外線デュアルカメラ																								
ズーム	可視光カメラ：光学ズーム30倍 デジタルズーム12倍 赤外線カメラ：デジタルズーム1～4倍																								
遠隔可動	水平可動：360° 上下可動：±90°																								
暗視機能	可能（赤外線カメラ）																								
耐震設計	C（S s機能維持）																								
供給電源	非常用電源（無停電交流電源） 代替交流電源設備																								
風荷重	風速（30m/s）による荷重を考慮																								
積雪荷重	積雪（100cm）による荷重を考慮																								
台数	ガスタービン発電機建物屋上 1台																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第13図 構内及び津波監視カメラの設置場所</p>  <p>第14図 構内及び津波監視カメラの監視範囲</p>		<p>【島根】記載内容の相違・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>(例) 構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）にて 輪谷貯水槽（西1／西2）の南側方向</p>  <p>(例) 構内監視カメラ（ガスタービン発電機建物屋上）にて 輪谷貯水槽（西1／西2）の北側方向</p> <p>第15図 ガスタービン発電機建物屋上からの土石流危険区域①、②方向の状況把握イメージ</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(d) 土石流発生後に海水注水切替えを決定・実施するとした場合の成立性</p> <p>海水注水切替え等の決定・実施の判断基準を「作業場所周辺（代替淡水源である輪谷貯水槽（西1／西2）周辺）の土石流危険区域①、②において土石流発生を確認した場合」とし、ホース展張等の事前準備を行わず、土石流発生を確認後から決定・実施しても、重大事故等の対応上、成立することを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重大事故等発生後、可搬型設備を用いて原子炉等への注水を実施する際の作業想定時間は、以下のとおり。 輪谷貯水槽（西1／西2）を水源とした場合の想定時間： 約2時間10分（実績1時間41分） 海を水源とした場合の想定時間： 約2時間10分（実績1時間40分） 重大事故等発生後、原子炉への注水は、高圧注水系（原子炉隔離時冷却系、高圧原子炉代替注水系）、低圧原子炉代替注水系（常設）を用いて、優先的に実施する。 可搬型設備による原子炉等への注水は、代替淡水源である輪谷貯水槽（西1／西2）を用いて準備を実施するが、注水準備には約2時間10分が想定される。注水準備完了後、土石流発生を確認し海を水源とした注水への切替えを決定・実施することを想定しても、高圧注水系、低圧原子炉代替注水系（常設）による原子炉等への注水に係るそれぞれの制約時間*までに、海を水源とした注水に切替えることが可能かどうか確認した。 第16図のとおり、海を水源とした注水準備作業には約2時間10分が想定されるが、土石流発生の確認及び海水注水切替え等の決定・判断に10分を想定しても、高圧注水系及び低圧原子炉代替注水系（常設）による原子炉注水を実施している間に、海を水源とした原子炉等への注水準備は完了可能なため、注水は途切れることなく継続可能である。 <p>※：高圧注水系：機能維持可能なサブプレッション・プール水温度100℃到達までの時間（約8時間） 低圧原子炉代替注水系（常設）：炉心冠水、崩壊熱に応じた注水量を考慮した低圧原子炉代替注水槽枯渇までの時間（約21時間）</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第16図 土石流が発生した場合の作業の成立性</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

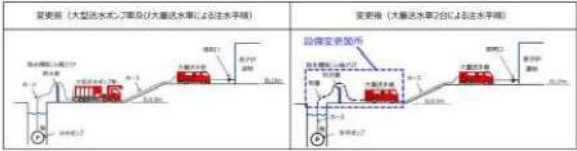
泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(2) 土石流の影響を受けない参集ルート</p> <p>発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常の一矢入口及び本谷入口を通過するルートに加え迂回ルートを確認している。</p> <p>一矢入口及び本谷入口を通過するルートは、発電所構内の土石流危険区域の範囲に含まれているため、土石流の影響を受けて通行できないおそれがあるが、土石流の影響を受けるおそれのない迂回ルート（宇中入口、宇中谷入口、内カネ谷入口）により、発電所構内に参集する。</p> <p>発電所敷地外から発電所構内への参集ルートを、第17図に示す。</p> <div data-bbox="741 480 1317 879" style="border: 1px solid black; height: 250px; margin: 10px 0;"></div> <p>第17図 発電所敷地外から発電所構内への参集ルート及び緊急時対策所へのアクセスルート</p>		<p>【島根】記載内容の相違</p> <p>・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>


1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">添付資料-1</p> <p>海を水源とした場合の注水における所要時間を短縮する取り組みについて</p> <p>海を水源とした場合の原子炉等への注水作業時間を短縮する取り組みとして、第1図のとおり海水取水用の可搬型設備を、大型送水ポンプ車から大量送水車に変更することとした。</p> <p>1. 海を水源とした所要時間を短縮する取り組み 時間短縮取り組み前後の訓練結果（タイムチャート）の比較を第2図に、時間短縮が可能な作業内容を第1表に示す。 訓練の結果、従来の大型送水ポンプ車及び大量送水車を使用した作業時間「2時間8分」に対して、大量送水車2台を使用した作業時間を「1時間40分」に短縮できることを確認した。 なお、大量送水車による海水取水は水中ポンプ及び車載している送水ポンプによる真空引き^{※1}にて揚程を確保する。これに伴い、流路を「平型ホース」から「平型ホース+吸管」に変更^{※2}する。</p> <p>※1：基準津波による引き波時において海面が低下すると、水中ポンプだけでは揚程が不足し海水取水できなくなるおそれがあるため。 ※2：平型ホースでは、送水ポンプの真空引きによりホースが潰れて流路が確保できないことから、真空引き区間を耐圧力のある吸管にて流路を確保する。また、吸管敷設区間は短く（10m×2本）、訓練実績により平型ホースと同等の時間で敷設作業が可能であることを確認している。なお、吸管は「消防用吸管的の技術上の規格を定める省令」に適合しており、耐圧力（-94kPaで10分保持でも変形しないこと）があり、送水ポンプは82kPa程度で海水を吸い込むことから変形することなく、流路が確保可能である。なお、吸管は大量送水車の付属品（資機材）として車載し、保管する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>第1図 海を水源とした対応手順 概略図</p> </div>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【訓練実施日】 令和2年5月24日（天候：晴れ、気温27℃）</p> <p>【訓練結果】 海水取水用の可搬型設備を大型送水ポンプ車から大量送水車に変更することで、水中ポンプの設置作業時間及びホース敷設時間を短縮することができ、全体作業時間を28分短縮し、1時間40分で終えることができることを確認した。</p>  <p>■：今回の訓練実績</p> <p>※：タイムチャート内の番号は第1表の番号を示す</p> <p>第2図 海を水源とした注水手順実績時間タイムチャート</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第1表 主な時間短縮が可能な作業

No. ①	主な作業項目	作業時間		時間短縮可能な作業内容
		変更前	変更後	
①	海水取水ポンプ所周り (E.L.8.5m) 作業 (車両配置, 水中ポンプ設置)	70分	38分	・大型海水ポンプ車の水中ポンプは約130kgの重量があり車載のユニットで運搬・設置作業を実施するのは、大量送水車の水中ポンプは約20kgと軽便であり人力での運搬が可能であることから、運搬・設置が容易であり、時間を要しない。 ・大量送水車は、大型海水ポンプ車に比べて小型で、車両の取り回し及び配置に時間を要しない。 ・②の作業において、大型海水ポンプ車は、ポンプの流量調整範囲内に入るよう排スラインを設置し流量を確保していたが、大量送水車は、ポンプの出口圧力に応じた流量調整が可能であることから、排スラインの設置を要しない。 ・上記②の作業を要しないことから、海水取水ポンプ所周り (E.L.8.5m) の緊急時対策要員が③のホース敷設作業を実施することで、作業時間の短縮が可能である。 なお、①と③の作業は一部並行作業から、作業負荷軽減のため、シリーズで作業を実施することに変更した。
②	排スラインホース敷設 (E.L.8.5m)	49分	該当作業なし	・③の作業において、大型海水ポンプ車を使用する場合には、海水取水ポンプ所周りでは300Aホースを敷設し、300Aホースから媒介金具により、150Aホースにサイズダウンし、150Aホースを敷設する。一方、大量送水車を使用する場合には、媒介金具を使用することなく、150Aホースのみを敷設する。なお、いずれのホースもアタセスルード上にホース車載車を用いて敷設する。 ・大量送水車に変更することで、150Aホース (約3kg/m) に比べて重い300Aホース (約5kg/m) を使用しなくなることで、媒介金具が不要となることから、ホース敷設・巻線に時間を要しない。
③	車両間 (E.L.8.5m~E.L.1.5m) ホース敷設	46分	16分	

※1：番号は第2図のタイムチャート内の番号を示す

【島根】記載内容の相違
 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【訓練時の考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緊急時対策所から第3及び第4保管エリアに、時間を要する第二輪谷トンネルを通行し、徒歩にて移動する。その後、第3及び第4保管エリアに配置する大量送水車にて各作業場所へ移動する。（アクセスルートは第4図参照） ○緊急時対策要員の装備は、炉心損傷防止時の作業も考慮し、防護具（全面マスク、綿手袋、ゴム手袋、汚染防護服）を着用する。 ○現場の工事状況等により一部作業ができない工程は、同等の作業等を模擬することで作業時間を算出する。 具体的な作業は以下のとおり。（第3図参照） <ul style="list-style-type: none"> ・大量送水車～海の流路確保作業（吸管、ホース敷設作業は、必要な長さ分を考慮し、ポンプ運搬・投入作業は、ポンプ運搬距離及び投入距離を考慮して模擬作業を実施） ・流路の確保における防水壁乗り越え作業（防水壁の高さ分を想定した作業を模擬して実施） <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>緊急時対策所からの徒歩移動 (E.L.33m 付近)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>吸管・ホース設置状況 (模擬) (E.L.8.5m 2号炉取水槽付近)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>防水壁ホース乗り越え作業 (模擬) (E.L.8.5m 2号炉取水槽付近)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>吸管・ホース、水中ポンプ設置完了後 (模擬) (E.L.8.5m 2号炉取水槽付近)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ホース敷設作業 (E.L.8.5m～16m 西側道路付近)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大量送水車へのホース接続 (E.L.15m 原子炉建物西側)</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">第3図 訓練風景写真</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 694 1281 718">第4図 訓練及び想定時間の算出に用いたアクセスルート</p> <p data-bbox="712 750 1326 949"> 2. 海を水源とした対応手順（SA手順）の変更 海水取水に使用する可搬型設備を、大型送水ポンプ車から大量送水車に変更することで、大量送水車を使用する手順を自主手順からSA手順に、大型送水ポンプ車を使用する手順をSA手順から自主手順に変更する。 上記を含む、海を水源としたSA手順で使用する可搬型設備を、第2表に示す。 </p>		<p data-bbox="1989 143 2168 247">【島根】記載内容の相違 ・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由															
	<p>第2表 海を水源としたSA手順で使用する可搬型設備の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="757 906 987 1193">SA手順</th> <th data-bbox="757 485 987 906">使用前</th> <th data-bbox="757 210 987 485">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="801 906 936 1193"> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉圧力容器への注水 原子炉格納容器内へのスプレイ 原子炉格納容器下部への注水 燃料プールの注水/スプレイ 低圧原子炉代替注水槽への補給 </td> <td data-bbox="801 485 936 906"> <ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2} 大量送水車（送水用） </td> <td data-bbox="801 210 936 485"> <ul style="list-style-type: none"> 大量送水車（海水取水用）^{※5} 大量送水車（送水用） </td> </tr> <tr> <td data-bbox="936 906 987 1193"> <ul style="list-style-type: none"> 輸谷貯水槽（西1）又は輸谷貯水槽（西2）への補給 </td> <td data-bbox="936 485 987 906"> <ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2, 3} </td> <td data-bbox="936 210 987 485"> <ul style="list-style-type: none"> 大量送水車（海水取水用）^{※3, 5} </td> </tr> <tr> <td data-bbox="987 906 1070 1193"> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機代替冷却系による除熱 </td> <td data-bbox="987 485 1070 906"> <ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2} 移動式代替熱交換設備（原子炉補機代替冷却系用） </td> <td data-bbox="987 210 1070 485"> <p>変更なし</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1070 906 1122 1193"> <ul style="list-style-type: none"> 大気への放射性物質の拡散抑制 航空機燃料火災への対応 </td> <td data-bbox="1070 485 1122 906"> <ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※4} </td> <td data-bbox="1070 210 1122 485"> <p>変更なし</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：（ ）内は可搬型設備の用途を示す。 ※2：大型送水ポンプ車は2ライン同時に送水が可能であり、「大量送水車（送水用）への送水」又は「輸谷貯水槽（西1）又は輸谷貯水槽（西2）への補給」と「移動式代替熱交換設備への送水」で使用する大型送水ポンプ車（1台）は、同一のものを使用する。 ※3：海水取水及び送水を1台で実施する。 ※4：海水取水及び注水を1台で実施する。 ※5：海を水源とした原子炉圧力容器等への注水手順は、「輸谷貯水槽（西1）又は輸谷貯水槽（西2）からの原子炉圧力容器等への注水」ができる場合に実施することから、「輸谷貯水槽（西1）又は輸谷貯水槽（西2）への補給」と同時に実施することはないため、大量送水車（海水取水用）は同一のものを使用する。</p>	SA手順	使用前	変更後	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉圧力容器への注水 原子炉格納容器内へのスプレイ 原子炉格納容器下部への注水 燃料プールの注水/スプレイ 低圧原子炉代替注水槽への補給 	<ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2} 大量送水車（送水用） 	<ul style="list-style-type: none"> 大量送水車（海水取水用）^{※5} 大量送水車（送水用） 	<ul style="list-style-type: none"> 輸谷貯水槽（西1）又は輸谷貯水槽（西2）への補給 	<ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2, 3} 	<ul style="list-style-type: none"> 大量送水車（海水取水用）^{※3, 5} 	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機代替冷却系による除熱 	<ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2} 移動式代替熱交換設備（原子炉補機代替冷却系用） 	<p>変更なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大気への放射性物質の拡散抑制 航空機燃料火災への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※4} 	<p>変更なし</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>
SA手順	使用前	変更後																
<ul style="list-style-type: none"> 原子炉圧力容器への注水 原子炉格納容器内へのスプレイ 原子炉格納容器下部への注水 燃料プールの注水/スプレイ 低圧原子炉代替注水槽への補給 	<ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2} 大量送水車（送水用） 	<ul style="list-style-type: none"> 大量送水車（海水取水用）^{※5} 大量送水車（送水用） 																
<ul style="list-style-type: none"> 輸谷貯水槽（西1）又は輸谷貯水槽（西2）への補給 	<ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2, 3} 	<ul style="list-style-type: none"> 大量送水車（海水取水用）^{※3, 5} 																
<ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機代替冷却系による除熱 	<ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※2} 移動式代替熱交換設備（原子炉補機代替冷却系用） 	<p>変更なし</p>																
<ul style="list-style-type: none"> 大気への放射性物質の拡散抑制 航空機燃料火災への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 大型送水ポンプ車（原子炉補機代替冷却系用）^{※4} 	<p>変更なし</p>																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
	<p>3. 海を水源とした原子炉等への注水手順の成立性 海水取水に使用する可搬型設備を、大型送水ポンプ車から大量送水車に変更した場合においても、以下の手順が成立することを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き波時を考慮した海水取水の揚程（16.2m）を確保でき、原子炉等へ送水する大量送水車への海水送水が可能であること。 原子炉圧力容器への注水に必要な流量（30m³/h）及び原子炉格納容器内へのスプレイに必要な流量（120m³/h）が同時に確保可能であること。 <p>4. 可搬型設備の台数及び保管場所の変更 大量送水車は、「設置許可基準規則」第四十三条第3項第一号に基づき、2n+α設備として、3台確保する計画としていたが、大量送水車による海水取水手順をSA手順化することに伴い、5台確保することに変更する。 なお、これに伴い、大量送水車の保管場所を第3表のとおり変更する。</p> <p style="text-align: center;">第3表 大量送水車の保有台数及び保管場所の変更</p> <table border="1" data-bbox="728 730 1301 943"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設備名称</th> <th rowspan="2">用途</th> <th rowspan="2">使用場所</th> <th colspan="4">変更前</th> <th colspan="4">変更後</th> </tr> <tr> <th>第1保管エリア</th> <th>第2保管エリア</th> <th>第3保管エリア</th> <th>第4保管エリア</th> <th>第1保管エリア</th> <th>第2保管エリア</th> <th>第3保管エリア</th> <th>第4保管エリア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大量送水車</td> <td>送水用</td> <td>E.L.4m周辺 E.L.5m周辺</td> <td>0台</td> <td>1台</td> <td>1台</td> <td>予備1台</td> <td>0台</td> <td>1台</td> <td>1台</td> <td>0台</td> <td>予備1台 (兼用)</td> </tr> <tr> <td>海水取水用</td> <td>E.L.R.5m周辺</td> <td>0台</td> <td>0台</td> <td>0台</td> <td>0台</td> <td>1台</td> <td>0台</td> <td>0台</td> <td>1台</td> <td>予備1台 (兼用)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：送水用及び海水取水用の設置許可基準規則解釈第43条第6項に基づく、故障時のバックアップ及び保守点検による待機除外時のバックアップ（α）は、発電所全体で確保する。なお、要求されるいずれの機能も満足するため、兼用で1台確保する。</p>	設備名称	用途	使用場所	変更前				変更後				第1保管エリア	第2保管エリア	第3保管エリア	第4保管エリア	第1保管エリア	第2保管エリア	第3保管エリア	第4保管エリア	大量送水車	送水用	E.L.4m周辺 E.L.5m周辺	0台	1台	1台	予備1台	0台	1台	1台	0台	予備1台 (兼用)	海水取水用	E.L.R.5m周辺	0台	0台	0台	0台	1台	0台	0台	1台	予備1台 (兼用)		<p>【島根】記載内容の相違 ・ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>
設備名称	用途				使用場所	変更前				変更後																																			
		第1保管エリア	第2保管エリア	第3保管エリア		第4保管エリア	第1保管エリア	第2保管エリア	第3保管エリア	第4保管エリア																																			
大量送水車	送水用	E.L.4m周辺 E.L.5m周辺	0台	1台	1台	予備1台	0台	1台	1台	0台	予備1台 (兼用)																																		
	海水取水用	E.L.R.5m周辺	0台	0台	0台	0台	1台	0台	0台	1台	予備1台 (兼用)																																		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉 別紙(26)	泊発電所3号炉 別紙(38)	相違理由
<p>屋外の可搬型重大事故等対処設備の保管庫内収納の配置設計の考え方について</p> <p>1. 概要 玄海原子力発電所3, 4号炉の屋外の可搬型重大事故等対処設備のうち、保管庫内収納を行う第3, 5保管エリアの可搬型重大事故等対処設備について、基本的な保管庫内の配置設計の考え方を整理する。</p> <p>2. 保管エリアの配置設計 屋外の可搬型重大事故等対処設備は、設計基準事故対処設備及び常設重大事故等対処設備と位置的分散を図るとともに複数の保管エリアに分散して保管しているため、仮に1つの保管エリアが使用できない場合においても、別の保管エリアにある可搬型重大事故等対処設備により確実に事故対処可能な設計としている。</p> <p>第3, 5保管エリアの可搬型重大事故等対処設備は、風（台風）及び竜巻による風荷重を考慮して機能が損なわれないように、原子炉建屋の外から水又は電力を供給する設備は1基あたり2セット以上、それ以外の設備は1負荷あたり1セット以上を保管するとともに、原子炉建屋の外から水又は電力を供給する設備については、第3, 5保管エリアに相互に分散して保管する。</p>	<p>屋外の可搬型重大事故等対処設備の51m倉庫・車庫内収納の配置設計の考え方について</p> <p>1. 概要 泊発電所3号炉の屋外の可搬型重大事故等対処設備のうち、保管庫内収納を行う51m倉庫・車庫エリアの可搬型重大事故等対処設備について、基本的な保管庫内の配置設計の考え方を整理する。</p> <p>2. 保管エリアの配置設計 屋外の可搬型重大事故等対処設備は、設計基準事故対処設備及び常設重大事故等対処設備と位置的分散を図るとともに複数の保管エリアに分散して保管しているため、仮に1つの保管エリアが使用できない場合においても、別の保管エリアにある可搬型重大事故等対処設備により確実に事故対処可能な設計としている。</p> <p>51m倉庫・車庫エリアには、冬季における信頼性を向上させるため、原子炉建屋又は原子炉補助建屋の外から水を供給する設備の1セットを保管する。</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・泊は、倉庫・車庫（保管庫）に可搬型重大事故等対処設備を保管している。このため、本項については、同様に保管庫に可搬型重大事故等対処設備を保管する玄海3,4号炉との比較を行った。</p> <p>【玄海】設備名称の相違</p> <p>【玄海】設計方針の相違 ・倉庫・車庫（保管庫）の設置目的の相違。泊は、冬季における信頼性向上を目的とする。 ・倉庫・車庫（保管庫）に保管する設備の相違。泊は、水を供給する設備の1セットを保管している。 ・玄海は保管庫が2箇所に対し、泊は1箇所である。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 保管庫の特徴</p> <p>玄海原子力発電所は敷地が非常に狭隘であるため、先行プラントで実績のある風（台風）及び竜巻の風荷重を考慮した固縛装置を採用した場合、固縛装置の設置スペースが十分に確保できないことから、保管庫を採用することで限られたスペースを有効活用し、必要となる可搬型重大事故等対処設備を保管することを可能とした。</p> <p>また、保管庫とすることで、風（台風）及び竜巻のみならず積雪及び火山の影響についても、可搬型重大事故等対処設備が直接的に影響を受けることがない。</p> <p>保管庫は地震による可搬型重大事故等対処設備への波及的影響を考慮して耐震Sクラス相当で設計していること、出入口扉付近の障害物はホイールローダにより除去可能であることから、出入口扉が使用できなくなることはない。</p> <p>【柏崎6号及び7号炉まとめ資料より転載】</p> <p>なお、地震の変形により建屋扉やシャッターの開閉が不能となる可能性を考慮し、シャッターを常時開放し、消防車両及び消防車隊要員の出動が可能な運用とする。</p> <p>【川内1号及び2号炉まとめ資料より転載】</p> <p>専属消防本部建屋は倒壊しないが、地震時の変形により建屋扉やシャッターの開閉が不能となる可能性がある。</p> <p>そのため、シャッターを常時開放し、消防車両及び専属消防隊員の出動が可能な運用とする。</p>	<p>3. 51m倉庫・車庫の特徴</p> <p>51m倉庫・車庫は、可搬型重大事故等対処設備等を保管する車庫エリアと予備品及び資機材を保管する倉庫エリアから構成される。</p> <p>泊発電所は寒冷地であるため、原子炉建屋又は原子炉補助建屋の外から水を供給する設備の1セットを51m倉庫・車庫に保管することで、積雪及び凍結による影響を軽減し、冬季における可搬型重大事故等対処設備の信頼性を向上させることとしている。</p> <p>また、51m倉庫・車庫内に保管することで、積雪のみならず火山の影響についても、影響を軽減することができる。</p> <p>51m倉庫・車庫は地震による可搬型重大事故等対処設備への波及的影響を考慮して基準地震動に対して倒壊しない設計とすること、出入口付近の障害物はホイールローダにより除去可能であること及び地震の変形によりシャッターの開閉が不能となる可能性を考慮して、シャッターを撤去して出入口を常時開放することから、出入口が使用できなくなることはない。</p> <p>なお、出入口には、積雪及び凍結の影響を軽減するために防雪シートを設置する方針である。防雪シートは、人力で開閉可能な設計とし、地震等の発生により脱落した場合においても人力で排除可能な重量とすることから、地震時に可搬型重大事故等対処設備の運搬、移動に影響を及ぼすことはない。また、防雪シートは不燃性材料又は建築基準法施行令若しくは消防法施行令に基づく試験により不燃性材料と同等の性能であることを確認した材料を用いることから、火災により可搬型重大事故等対処設備や他の設備に影響を及ぼすことはない。想定される自然現象については、防雪シート自体が他の設備に影響を与えないことを確認の上、設置する。（竜巻による防雪シートの飛散に対する影響確認については、第六条 外部からの衝撃による損傷の防止参照）</p>	<p>【玄海】記載表現の相違</p> <p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、51m倉庫・車庫の構成について記載。 <p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫・車庫（保管庫）の設置目的の相違。 ・玄海は、風（台風）及び竜巻による風荷重を考慮した頑健な保管庫を設置し、可搬型重大事故等対処設備を保管庫内に配置している。 ・泊は、風（台風）及び竜巻に対しては、保管場所を複数箇所に分散配置することにより、可搬型重大事故等対処設備が同時に機能喪失しない設計としている。 <p>【玄海】記載表現の相違</p> <p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震評価方針の相違。 ・玄海は堅固な扉を設置しているのに対し、泊は地震時の変形を考慮し、出入口のシャッターを撤去して常時開放する。また、常時開放に伴い防雪シートを設置予定である。（シャッター常時開放については、柏崎6, 7号の自衛消防隊建屋及び川内1, 2号の専属消防本部建屋と同様）

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>出入口扉については、自然現象等を考慮した堅固な仕様で設置することから、扉の機能が喪失することは考えにくい。 出入口扉の仕様を別表26-3-1、外観を別図26-3-1に示す。</p> <p>仮に、出入口扉が固着し開放できない場合は、ホイールローダ等の車両により出入口扉を開放することで、自走式の可搬型重大事故等対処設備がエンスト等により移動できない場合は、ニュートラルとしホイールローダ等の車両により引出すことで、他の可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障を与えることはない。</p> <p>しかしながら、保管庫の特徴として移動、運搬経路が出入口扉からに制限されるため、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬をより確実なものとする観点から、可能な範囲で複数の出入口扉から移動、運搬が可能となるように、保管庫内に収納する可搬型重大事故等対処設備及び運搬用車両等の資機材の逼迫感を改善し余裕のあるスペースを確保するとともに配置をより最適化する。</p> <p>なお、保管庫内の可搬型重大事故等対処設備は、車輪止め等により固定して保管する。</p>	<p>51m倉庫・車庫の建屋概要を第1表、建屋平面図及び断面図を第1図、出入口の外観を第2図、防雪シートの設置イメージを第3図に示す。</p> <p>仮に、自走式の可搬型重大事故等対処設備がエンスト等により移動できない場合は、他の可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障を与える可能性がある。</p> <p>そのため、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬を確実なものとする観点から、51m倉庫・車庫内に収納する可搬型重大事故等対処設備、自主対策設備及び資機材も含めて配置を最適化する。</p> <p>なお、車庫内の可搬型重大事故等対処設備は、車輪止め、竜巻による飛散防止を考慮した固縛等により固定して保管する。</p> <div data-bbox="1344 829 1523 853" style="text-align: center;"> <p>第1表 建屋概要</p> <table border="1" data-bbox="1176 861 1691 1085"> <thead> <tr> <th>建屋名称</th> <th>51m倉庫・車庫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構造</td> <td>地上部S造/地下部RC造</td> </tr> <tr> <td>階数</td> <td>地上2階/地下1階</td> </tr> <tr> <td>基礎形状</td> <td>直接基礎</td> </tr> <tr> <td>平面形状</td> <td>21.0×71.8m</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>地上高さ13.6m</td> </tr> </tbody> </table> </div>	建屋名称	51m倉庫・車庫	構造	地上部S造/地下部RC造	階数	地上2階/地下1階	基礎形状	直接基礎	平面形状	21.0×71.8m	高さ	地上高さ13.6m	<p>【玄海】記載内容の相違 ・泊は出入口を常時開放することによる記載内容の相違。 ・泊は、51m倉庫・車庫の概要、平面図、断面図及び防雪シートについて記載。</p> <p>【玄海】記載表現の相違 【玄海】設計方針の相違 ・泊は、自走式の可搬型重大事故等対処設備が故障により移動できない場合に他の可搬型重大事故等対処設備の移動に支障をきたさないよう、車庫内の配置を見直すこととした。</p> <p>【玄海】記載表現の相違 【玄海】設計方針の相違 ・泊は、固縛により竜巻による飛散防止を行う。</p> <p>【玄海】記載内容の相違 ・泊は、51m倉庫・車庫の概要について記載。</p>
建屋名称	51m倉庫・車庫													
構造	地上部S造/地下部RC造													
階数	地上2階/地下1階													
基礎形状	直接基礎													
平面形状	21.0×71.8m													
高さ	地上高さ13.6m													

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

別表26-3-1 重大事故等対処設備保管庫の扉仕様について

玄海原子力発電所3, 4号炉			泊発電所3号炉		相違理由
開閉方式	タンクローリ保管エリア	その他のエリア	備考		
扉本体の厚さ	手動 約 10cm	手動 約 10cm	扉の芯材等を含んだ全体の厚さ 約 10cm		
扉の板厚（外部表面）	手動 約 10mm	手動 約 10mm	約 10mm：設計飛来物に対し貫通しない設計		
重量（両扉）	手動 約 10t	手動 約 10t			
地震	○	○	建屋：S s 機能維持		
竜巻（風圧力による荷重）	○	○	設計竜巻の最大風速：100m/s （耐風圧扉）		
竜巻（気圧差による荷重）	○	○	最大気圧低下量：8,900N/m ²		
竜巻（設計飛来物による衝撃荷重）	○	○	設計飛来物 鋼製材：4.2m×0.3m×0.2m、135kg （耐衝撃扉）		
自然現象等					

本図みの範囲は、防衛上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。

【玄海】記載内容の相違
 ・泊が出入口を常時開放することによる記載内容の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

<p>玄海原子力発電所3, 4号炉</p>	<p>泊発電所3号炉</p>	<p>相違理由</p>
	<p>地下1階</p> <p>1階</p> <p>概略断面図</p> <p>第1図 51m倉庫・車庫の平面図及び断面図</p>	<p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、51m倉庫・車庫の平面図及び断面図を記載。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="190 175 817 1252" style="border: 1px dashed black; height: 675px; width: 280px;"></div> <div data-bbox="828 343 873 1077" style="position: absolute; top: 215px; left: 370px; width: 200px;"> 別図26-3-1 タンクローリ車庫（第5保管エリア）の出入口扉の外観 </div> <div data-bbox="302 1292 716 1388" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。 </div>	<div data-bbox="1052 271 1601 1380" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="1601 877 1646 1380" style="text-align: center; color: blue;"> ※：積雪の影響を軽減するため、防雪シートを設置予定 </div> <div data-bbox="1702 710 1747 1005" style="text-align: center;"> 第2図 51m倉庫・車庫の出入口 </div>	<p>相違理由</p> <p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊が出入口を常時開放することによる記載内容の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【凡例】 防雪シート</p> <p>※：防雪シートの設置方法の詳細については、今後検討する。</p> <p>第3図 防雪シートの設置イメージ</p>	<p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、防雪シートの設置イメージについて記載。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. 保管庫内の配置設計</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則（以下「設置許可基準規則」という。）」の第43条第3項第6号に基づき、アクセスルートは、自然現象、外部人為事象、溢水及び火災を想定しても、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障をきたすことがないように、迂回路も考慮して保管エリアまで複数のアクセスルートを確認している。</p> <p>そのため、保管庫についても、設置許可基準規則第43条第3項第6号を踏まえて、可搬型重大事故等対処設備を移動、運搬するための通路を確実に確保するために、別表26-4-1に示すとおり他の保管エリアとあいまって原子炉建屋の外から水又は電力を供給する設備は1基あたり2セット以上、それ以外の設備は1負荷あたり1セット以上が確実に移動、運搬可能な配置とする。</p> <p>また、配置の最適化に伴い、保管庫外で保管することとした設備の一覧を別表26-4-2に示す。</p>	<p>4. 51m倉庫・車庫エリアの配置設計</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則（以下「設置許可基準規則」という。）」の第43条第3項第6号に基づき、アクセスルートは、自然現象、人為事象、溢水及び火災を想定しても、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障をきたすことがないように、迂回路も考慮して可搬型重大事故等対処設備の保管場所から使用場所まで複数のアクセスルートを確認している。</p> <p>そのため、51m倉庫・車庫エリアを含めた保管場所について、設置許可基準規則第43条第3項第6号を踏まえて、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬するための経路を確実に確保するため、第2表に示すとおり、原子炉建屋又は原子炉補助建屋の外から水又は電力を供給する設備は2セット以上、それ以外の設備は1セット以上が確実に移動、運搬可能な配置とする。</p>	<p>【玄海】記載表現の相違</p> <p>【玄海】記載内容の相違 ・泊は、配置見直しの結果、51m倉庫・車庫外へ保管することとなった可搬型重大事故等対処設備は無い。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

別表26-4-1 保管庫内の可搬型重大事故等対処設備一覧

該当条文	可搬型重大事故等対処設備	必要数	保管数	保管場所	保管状況	複数経路確保台数	必要数≤	複数経路確保台数	備考
43	ホイールローダ	1台	1台	第3 第4	保管庫内 屋外	○	○		
47, 54, 55	可搬型ディーゼル注入ポンプ※1 (接続用中継ユニット、入口ユニット、可搬型ホース含む)	4台	2台 2台 2台	第3 第4 第5	保管庫内 屋外 屋外	○ ○ ×	○		
47, 48, 49, 50, 54, 55, 56	移動式大容量ポンプ車※1 (可搬型ホース含む)	2台 【1台】	1台 1台	第3 第5	保管庫内 屋外	○ ×	○		
54, 56	水中ポンプ用発電機※1 (可搬型ホース含む)	8台	4台 4台	第3 第4 第5	保管庫内 屋外 保管庫内	○ ○ ○	○		
54, 55, 58	放水砲※2	2台	1台 1台	第3 第5	保管庫内 保管庫内	○ ○	○		
54	使用済燃料ビット監視装置用 空気供給システム (コンプレッサ、エアコン、発電機)	2個	2個	第3	保管庫内	○	○		
57	タンクローリ	1台	1台	第3 第4 第5	保管庫内 屋外 保管庫内	× ○ ×	○		第4号エリアに1台追加配備
57	発電機車※1 (高圧発電機車)	4台	2台 2台	第3 第5	保管庫内 保管庫内	○ ○	○		
57	発電機車※1 (中容量発電機車)	4台	2台 2台	第3 第5	保管庫内 保管庫内	○ ○	○		
57	直流電源用発電機※1	4台	2台 2台 2台	第3 第4 第5	保管庫内 屋外 保管庫内	○ ○ ○	○		

※1 原子炉建屋の外から水又は電力を供給する注水設備及び電源設備 (1基当たり2セット以上集束のある可搬型重大事故等対処設備)
 ※2 半備数が想定される重大事故等の取扱いに必要な1セットに満たない可搬型重大事故等対処設備

第2表 各保管エリアの可搬型重大事故等対処設備一覧

該当条文	可搬型重大事故等対処設備	必要数	保管数	保管場所	保管状況	複数経路確保台数	必要数≤	複数経路確保台数	備考
43	ホイールローダ	1台	1台	1号北西側31mエリア	屋外	○	○		
43	バックホウ	1台	1台	2号北西側31mエリア(a) 2号北西側31mエリア(b)	屋外	○	○		
47, 48, 49, 50, 54, 55, 56	可搬型大型送水ポンプ車、ホース延長・回収車 (送水車用)	4台	2台 2台	2号北西側31mエリア(a) 2号北西側31mエリア(b)	屋外	○ ○	○		
54, 55	可搬型大容量海水送水ポンプ車、放水砲	1台	1台	51m倉庫・車庫エリア	屋外	○	○		
55	貯蔵設備	1台	1台	1, 2号北側31mエリア 51m倉庫・車庫エリア	屋外 屋外	○ ○	○		
55	集水機シフトアジェンス	2組	1組 1組	1, 2号北側31mエリア 51m倉庫・車庫エリア	屋外 屋外	○ ○	○		
57	可搬型タンクローリー	2台	2台 2台	1号北西側31mエリア 2号北西側31mエリア(a) 2号北西側31mエリア(b)	屋外 屋外 屋外	○ ○ ○	○		
57	可搬型代替電源車	2台	1台 1台	1号北西側31mエリア 展望台行管理道路踏懸側60mエリア	屋外 屋外	○ ○	○		
57	可搬型直流電源用発電機	2台	1台 1台	1号北西側31mエリア 2号北西側31mエリア(a) 2号北西側31mエリア(b)	屋外 屋外 屋外	○ ○ ○	○		
60	小型船舶	1艘	1艘	展望台行管理道路踏懸側60mエリア	屋外	○	○		
61	緊急時対策用発電機	4台	4台 2台	2号北西側31mエリア 2号北西側31mエリア(b)	屋外 屋外	○ ○	○		

※：他の機能を有する可搬型重大事故等対処設備と干渉せずに、保管場所から可搬型重大事故等対処設備を移動、運搬するための経路を確保する設計としている。

【玄海】設計方針の相違
 ・泊は、他の機能を有する可搬型重大事故等対処設備と干渉せずに、保管場所から可搬型重大事故等対処設備を移動、運搬するための経路を確保する設計としている。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 50px; top: 250px;">別表26-4-2 保管庫外に保管する可搬型重大事故等対処設備一覧</p> <div style="border: 2px dashed black; width: 300px; height: 600px; margin: 100px auto;"></div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> <p>枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。</p> </div>		<p>【玄海】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、配置見直しの結果、51m倉庫・車庫外に保管することとした可搬型重大事故等対処設備がないため、左表に記載する事項がない。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. 1 第3保管エリア</p> <p>第3保管エリアの可搬型重大事故等対処設備については、以下のとおり異なる2面の出入口扉から移動、運搬可能な配置とする。</p> <p>但し、タンクローリーについては、設計基準事故時にも使用するため電巻防護対象であることから、設計飛来物による衝撃荷重を考慮した専用区画に配置するため除外する。</p> <p>最適化前の配置図を別図26-4.1-1に、最適化後の配置図を別図26-4.1-2に示す。また、保管庫へ収納する設備の一覧を別表26-4.1-1に示す。</p> <p>①自走式の可搬型重大事故等対処設備は、進行方向に対して前後に出入口扉が2つの区画に配置し、確実な出入口扉からの移動を可能とする。</p> <p>②自走できない可搬型重大事故等対処設備は、進行方向に対して前後で出入口扉が1つの区画に配置するが、進行方向に対して左右へ運搬が可能であることから、自走式の可搬型重大事故等対処設備の移動により空いたスペースを有効活用して、複数の出入口扉からの運搬を可能とする。</p> <p>具体的な移動、運搬方法については、別図26-4.1-3に示す。また、自走式の可搬型重大事故等対処設備が2つの出入口扉から確実に移動可能とするために、電気室及びコンテナの設置位置を変更するとともに、移動後の停車位置を設定した。具体的には、別図26-4.1-4に示す。</p>	<p>51m 倉庫・車庫エリアの可搬型重大事故等対処設備については、以下のとおり異なる機能を有する設備ごとに専用の出入口を設けることにより、確実に移動、運搬可能な配置とする。</p> <p>最適化前の配置図を第4図に、最適化後の配置図を第5図に示す。また、51m 倉庫・車庫へ収納する設備の一覧を第3表に示す。</p> <p>①エンスト等の故障により、自走式の可搬型重大事故等対処設備の移動ができない場合においても、同時に複数の異なる機能が喪失しないように、異なる機能を有する可搬型重大事故等対処設備を縦列に配置しない。</p> <p>②設備の重要度の観点から、重大事故等対処設備の前方に自主対策設備を配置しない。</p>	<p>【玄海】記載方針の相違</p> <p>【玄海】記載表現の相違</p> <p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、シャッター撤去による出入口の常時開放及び異なる機能を有する設備ごとに専用の出入口を設けることにより、確実に移動、運搬可能な配置としている。(複数の出入口を想定しない点については、玄海の第5保管エリアと同様。専用の出入口を設ける点については、玄海のタンクローリー専用区画と同様。) <p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は可搬型タンクローリーを51m 倉庫・車庫内に保管していない。また、泊の可搬型タンクローリーは、重大事故等時に使用する。 <p>【玄海】記載表現の相違</p> <p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、自走式の可搬型重大事故等対処設備がエンスト等により移動できない場合でも、同時に複数の異なる機能が喪失しないように可搬型重大事故等対処設備を配置する。また、SA設備の前方に自主設備を配置しない。 <p>【玄海】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、第2図及び第3図に進行方向を記載。 <p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、2つの出入口設置のために改造等は実施していない。 泊は、倉庫・車庫から出発した可搬型重大事故等対処設備が使用場所に直接向かうため、停車位置は設定しない。

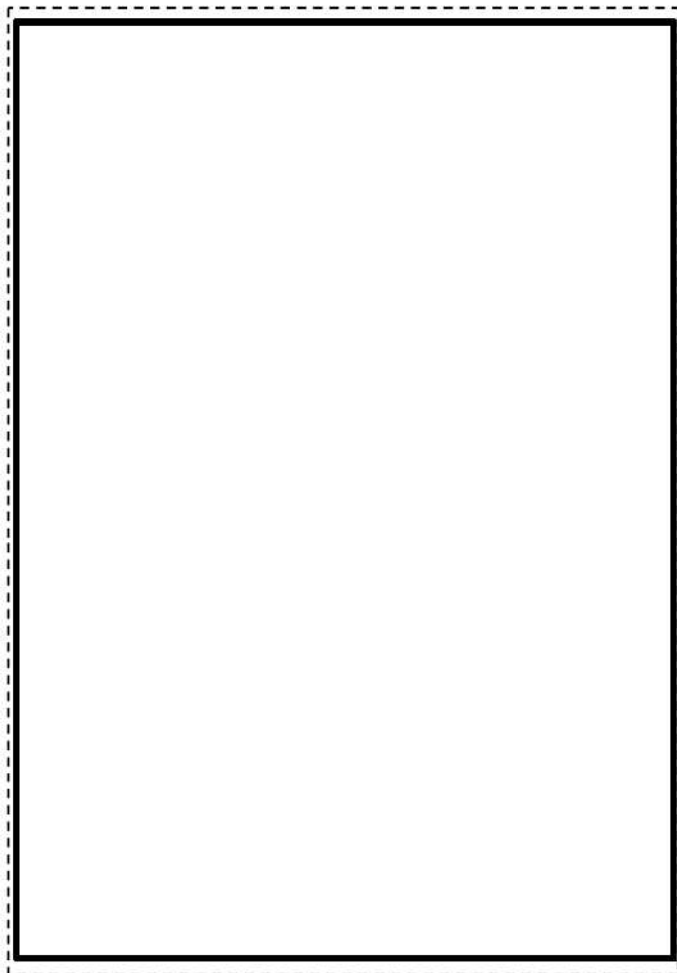
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉

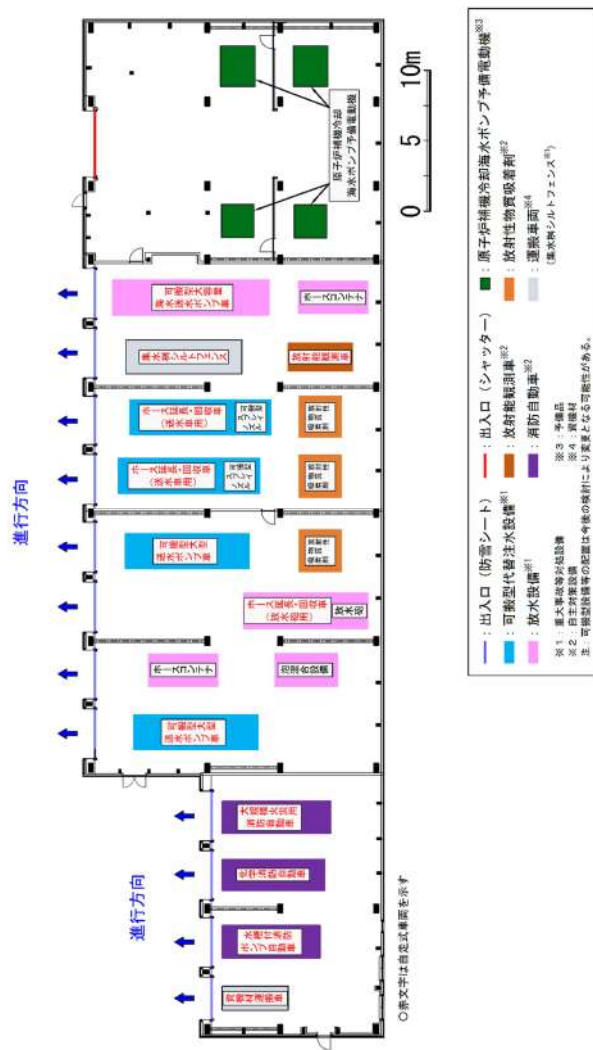
泊発電所3号炉

相違理由



別図26-4-1-2 第3保管エリア保管庫内の可搬型重大事故等対策設備の配置（最適化後）

枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。



第5図 51m倉庫・車庫エリアの可搬型重大事故等対策設備等の配置（最適化後）

【玄海】記載内容の相違
 ・設備及び保管場所の相違による記載内容の相違。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3、4号炉

別表26-4、1-1 第3保管エリア保管庫へ収納する設備一覧

設備名	保管数	全長 (m)	幅 (m)	重量(t)	備考
水中ポンプ用発電機	4台	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	
ホース展張回収車用コンテナ	11個				
移動式大容量ポンプ車	2台				自走式
放水砲	1台				
可搬型ディーゼル注入ポンプ	2台				自走式
収納容器 (小)	2個				
入口ユニット	2台				
直流電源用発電機	2台				
高圧発電機車	2台				自走式
コンプレッサ (排気ファン含む)	2台				
エアコン	2台				
発電機	2台				
タンクローリ	1台				自走式
ホース展張回収車	2台				自走式
ホイールローダ	1台				自走式
接続用中継ユニット	2台				
フォークリフト	1台				自走式

○可搬型重大事故等対策設備を進行方向に対して左右へ運搬する場合に通すスペースの開口は□である。

枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。

泊発電所3号炉

第3表 51m倉庫・車庫へ収納する設備一覧

設備名	保管数	全長 (m)	幅 (m)	重量 (t)	備考
可搬型大型送水ポンプ車	2台	約 8.9	約 2.9	約 13.2	自走式
可搬型大容量海水送水ポンプ車	1台	約 12.0	約 2.9	約 24.9	自走式
ホース延長・回収車 (送水車用)	2台	約 9.9	約 2.9	約 15.8	自走式
ホース延長・回収車 (放水砲用)	1台	約 8.7	約 2.9	約 21.9	自走式
放水砲	1台	約 4.7	約 1.9	約 3.0	ホース延長・回収車 (放水砲用) に積載
泡混合設備	1台	約 4.7	約 2.4	約 5.7	
可搬型スプレインゾル	2台	約 1.0	約 0.2	約 0.02	ホース延長・回収車 (送水車用) に積載
可搬型ホース 150A (1組:約 1,800m)	2組 ホース長ごと 1本	—	—	約 4.0	ホース延長・回収車 (送水車用) に積載
可搬型ホース 300A (1組:約 800m)	1組	約 4.9	約 2.3	約 3.8	ホースコンテナに保管
集水樹シルトフェンス	1組	—	—	約 0.04	シルトフェンス運搬車 に積載
シルトフェンス運搬車	1台	約 8.2	約 2.5	約 5.1	自走式
水槽付消防ポンプ自動車	1台	約 7.3	約 2.3	約 9.0	自走式
化学消防自動車	1台	約 7.6	約 2.3	約 9.2	自走式
大規模火災用消防自動車	1台	約 7.9	約 2.6	約 10.3	自走式
放射能観測車	1台	約 4.8	約 1.7	約 3.4	自走式
資機材運搬車	1台	約 4.7	約 1.7	約 5.7	自走式
原子炉補機冷却海水ポンプ 予備電動機	2台 (2台)	約 2.4	約 2.8	約 7.8	括弧内は 1号及び2号炉用
放射性物質吸着剤	1式	—	—	約 3.2	

※：寸法、重量は保管状態について記載しており、今後の検討により変更となる可能性がある。

相違理由

【玄海】記載内容の相違
 ・設備及び保管場所の相違による
 記載内容の相違。

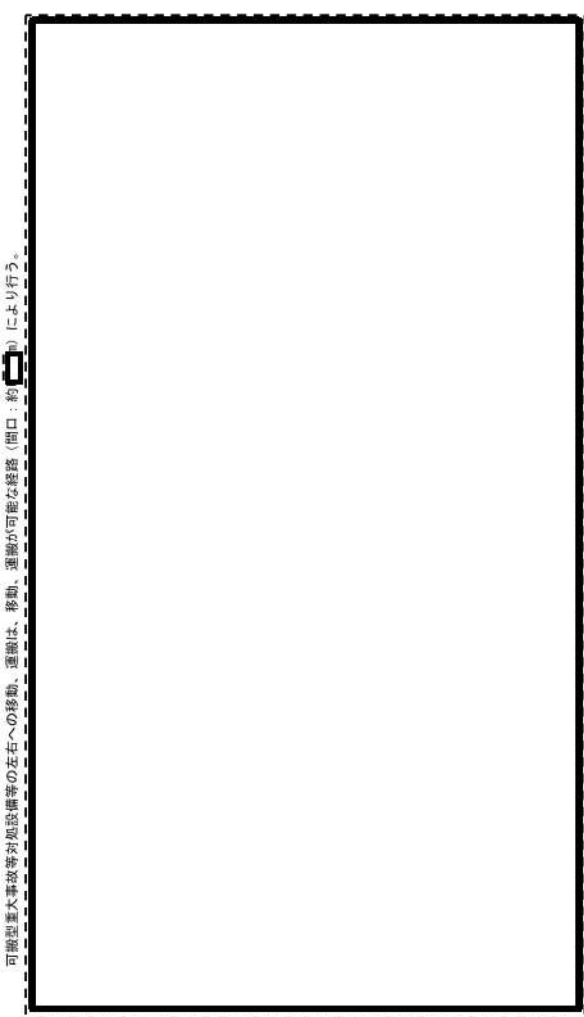
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="190 662 212 1292">STEP1 2つの扉を持つ区画に保管する自走式車両は、使用可能な際から保管庫外へ移動する。</p> <div data-bbox="235 263 795 1260" style="border: 2px dashed black; width: 250px; height: 625px; margin: 10px auto;"></div> <p data-bbox="828 375 862 1125" style="text-align: center;">別図26-4. 1-3 保管庫内での進行方向に対して左右への運搬について(1/2)</p> <div data-bbox="459 1316 873 1412" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。</p> </div>		<p data-bbox="1904 167 2083 191">【玄海】記載箇所の相違</p> <ul data-bbox="1904 199 2150 247" style="list-style-type: none"> ・泊は、第2図及び第3図に進行方向を記載。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>STEP2 1つの扉を持つ区画に保管する可燃型重大事故等対応設備等が何らかの理由により想定通りの移動、運搬経路を使用できない場合、自走式車両の移動により確保できたスペースに移動、運搬した後、いずれかの扉より保管庫外へ移動、運搬する。</p> <p>可燃型重大事故等対応設備等の左右への移動、運搬は、移動、運搬が可能な経路（開口：約）により行う。</p> <p>別図26-4. 1-3 保管庫内での進行方向に対して左右への運搬について（2/2）</p> <p>枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。</p>		<p>【玄海】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、第2図及び第3図に進行方向を記載。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="170 296 884 1206" style="border: 2px dashed black; height: 570px; width: 319px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="293 1235 761 1260" style="text-align: center;">別図26-4. 1-4 第3保管エリア 保管庫周辺図</p> <div data-bbox="288 1291 701 1386" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。 </div>		<p data-bbox="1906 169 2085 191">【玄海】記載内容の相違</p> <ul data-bbox="1906 197 2159 277" style="list-style-type: none"> ・玄海は、複数の出入口設置のために保管庫の改造等を実施している。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. 2 第5保管エリア</p> <p>第3保管エリアの可搬型重大事故等対処設備は、4. 1の配置とすることで第4保管エリアとあいまって原子炉建屋の外から水又は電力を供給する設備は1基あたり2セット以上、それ以外の設備は1負荷あたり1セット以上が確実に移動、運搬可能である。</p> <p>但し、第5保管エリアの可搬型重大事故等対処設備についても、他の可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬を妨げない配置とするとともに、以下のとおり可能な範囲で異なる2面の出入口扉から移動、運搬又は同一面の複数の出入口扉から運搬可能な配置とする。</p> <p>最適化前の配置図を別図2-6-4. 2-1に、最適化後の配置図を別図2-6-4. 2-2に示す。また、保管庫へ収納する設備の一覧を別表2-6-4. 2-1に示す。</p> <p>①自走式の可搬型重大事故等対処設備のうち高圧発電機車は、進行方向に対して前後に出入口扉が2つある区画に配置し、確実な移動を可能とする。</p> <p>②高圧発電機車を除く自走式の可搬型重大事故等対処設備は、進行方向に対して前後で出入口扉が1つの区画に、縦列とならないように配置するとともに、他の可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬を妨げない配置とする。</p> <p>③自走できない可搬型重大事故等対処設備は、進行方向に対して左右へ運搬可能な区画に配置し、異なる2面の出入口扉又は同一面の複数の出入口扉からの運搬を可能とする。</p>		<p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄海は複数の保管庫を有する。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="border: 2px dashed black; width: 80%; margin: 0 auto; height: 600px;"></div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。</p>		<p>【玄海】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 玄海は複数の保管庫を有する。

別図2.6-4、2-1 第5保管エリア保管庫内の可搬型重大事故等対策設備の配置（最適化前）

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="235 172 779 1257" style="border: 2px dashed black; width: 243px; height: 680px; margin: 10px auto;"></div> <div data-bbox="795 322 824 1129" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-left: 10px;"> 別図26-4. 2-2 第5保管エリア保管庫内の可燃型重大事故等対処設備の配置（最適化後） </div> <div data-bbox="273 1289 683 1380" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。 </div>		<p>【玄海】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄海は複数の保管庫を有する。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
<p style="text-align: center;">別表26-4, 2-1 第5保管エリア保管庫へ収納する設備一覧</p> <table border="1" data-bbox="197 260 851 874"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>保管数</th> <th>全長 (m)</th> <th>幅 (m)</th> <th>重量(t)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>水中ポンプ用発電機</td><td>4台</td><td rowspan="14" style="border: 2px dashed black;"></td><td rowspan="14" style="border: 2px dashed black;"></td><td rowspan="14" style="border: 2px dashed black;"></td><td></td></tr> <tr><td>ホース展開回収車用コンテナ</td><td>7個</td><td></td></tr> <tr><td>移動式大容量ポンプ車</td><td>1台</td><td>自走式</td></tr> <tr><td>放水砲</td><td>1台</td><td></td></tr> <tr><td>可搬型ディーゼル注入ポンプ</td><td>2台</td><td>自走式</td></tr> <tr><td>収納容器 (小)</td><td>2個</td><td></td></tr> <tr><td>接続用中継ユニット</td><td>2台</td><td></td></tr> <tr><td>入口ユニット</td><td>2台</td><td></td></tr> <tr><td>直流電源用発電機</td><td>2台</td><td></td></tr> <tr><td>高圧発電機車</td><td>2台</td><td>自走式</td></tr> <tr><td>タンクローリ</td><td>1台</td><td>自走式</td></tr> <tr><td>ホース展開回収車</td><td>1台</td><td>自走式</td></tr> <tr><td>フォークリフト</td><td>1台</td><td>自走式</td></tr> </tbody> </table> <p>○可搬型重大事故等対策設備を進行方向に対して左右へ運搬する場合に通すスペースの間口は約 mである。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。</p> </div>	設備名	保管数	全長 (m)	幅 (m)	重量(t)	備考	水中ポンプ用発電機	4台					ホース展開回収車用コンテナ	7個		移動式大容量ポンプ車	1台	自走式	放水砲	1台		可搬型ディーゼル注入ポンプ	2台	自走式	収納容器 (小)	2個		接続用中継ユニット	2台		入口ユニット	2台		直流電源用発電機	2台		高圧発電機車	2台	自走式	タンクローリ	1台	自走式	ホース展開回収車	1台	自走式	フォークリフト	1台	自走式		<p>【玄海】記載方針の相違 ・玄海は複数の保管庫を有する。</p>
設備名	保管数	全長 (m)	幅 (m)	重量(t)	備考																																													
水中ポンプ用発電機	4台																																																	
ホース展開回収車用コンテナ	7個																																																	
移動式大容量ポンプ車	1台				自走式																																													
放水砲	1台																																																	
可搬型ディーゼル注入ポンプ	2台				自走式																																													
収納容器 (小)	2個																																																	
接続用中継ユニット	2台																																																	
入口ユニット	2台																																																	
直流電源用発電機	2台																																																	
高圧発電機車	2台				自走式																																													
タンクローリ	1台				自走式																																													
ホース展開回収車	1台				自走式																																													
フォークリフト	1台				自走式																																													

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. 3 その他考慮事項</p> <p>可搬型重大事故等対処設備のうち補機駆動用の燃料を内包しているものは、保管庫内に収納して保管する場合、消防法第9条の4に基づき少量危険物に応じた防火区画を設ける必要がある。防火区画を設定するにあたっては、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬の融通が利くように、原則として防火壁ではなく防火シャッターを設ける。</p> <p>また、フォークリフト等のその他資機材については、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障をきたすことがなければ、最適化に伴い余裕を確保したスペースに配置することも可能とする。</p> <p>なお、保管庫内に重要安全施設の予備品を収納する計画はないものの、将来的に収納する場合においては、可搬型重大事故等対処設備と同じ考え方に基づき配置する。</p> <p>5. 手順の操作時間の成立性確認</p> <p>保管庫内に収納している可搬型重大事故等対処設備について、進行方向前面の出入口扉が使用できないことを考慮しても、技術的能力において想定した所要時間内に操作が成立することを確認する。</p> <p>確認に当たっては、異なる2面の出入口扉から移動、運搬可能な第3保管エリアの保管庫内に収納するタンクローリを除く可搬型重大事故等対処設備を対象とする。</p> <p>5. 1 確認方法及び想定時間</p> <p>技術的能力において確認している実績時間については、進行方向前面の出入口扉からの移動、運搬を前提として確認している。</p> <p>そのため、今回の確認については、上記の実績時間に以下の想定時間AとBを加算し、想定した所要時間内に操作が成立することを確認する。</p> <p>A. 自走式の可搬型重大事故等対処設備の移動時間</p> <p>区画にある全ての自走式可搬型重大事故等対処設備を4名又は5名で運転し、高圧発電機車側の出入口扉から所定の駐車場所まで約5分で移動できる見込みとし、更に余裕をみて1列当たり約10分と想定する。</p> <p>B. 自走できない可搬型重大事故等対処設備の左右への運搬時間</p> <p>技術的能力における要員の人数で、保管庫内の柱間の距離を模擬して、確実に運搬可能とする道具を用いて検証した結果に基づき、以下のとおり想定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホース展張回収車用コンテナ 約30分/個 ・コンプレッサ、エアコン、発電機（SF₆監視設備） 約5分/個 ・放水砲 約4分/個 ・水中ポンプ用発電機、直流電源用発電機、他 約2分/個 	<p>4.1 その他考慮事項</p> <p>放射能観測車等の自主対策設備及び資機材運搬車等の資機材については、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障をきたすことがなければ、最適化に伴い余裕を確保したスペースに配置することも可能とする。</p> <p>また、51m 倉庫・車庫の倉庫エリアには重要安全施設の予備品を収納することとしており、可搬型重大事故等対処設備を保管する車庫エリアとは別区画としている。倉庫エリアの出入口の構造はシャッターとしており、地震の変形によりシャッターの開閉が不能となった場合は、重機によりシャッターを撤去する。</p>	<p>【玄海】記載表現の相違</p> <p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、補機駆動用の燃料を内包しているものを保管しないため、防火区画の設定は必要ない。 <p>【玄海】記載表現の相違</p> <p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要安全施設における予備品の保管計画の相違による記載内容の相違。 <p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>5. 2 確認結果</p> <p>確認した結果、進行方向前面の出入口扉が使用できないことを考慮しても、別表26-5. 2-1のとおり想定した所要時間内に操作が成立することを確認した。</p> <p>確実に運搬可能とする道具については、保管庫内の可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障をきたすことがない場所に保管する。</p> <p>最適化に伴い保管庫外で保管することとした可搬型重大事故等対処設備については、同じ保管エリア内の固定したコンテナ内に保管するため、技術的能力において確認している実績時間内に操作が成立する。また、同じく保管庫外で保管することとした運搬用車両については、移動手段としても活用できるよう、参集場所である代替緊急時対策所若しくは緊急時対策所（緊急時対策棟内）までの移動ルート上にある第2、4、6保管エリア、又は保管庫までの移動ルート上にある第3、5保管エリアに必要な措置を講じて保管するため、保管庫までの移動時間は徒歩と同程度となる。保管エリアの全体配置図を別図26-5. 2-1に示す。</p> <p>なお、今後更なる移動、運搬時間短縮に向けて検討を行うとともに、訓練等を継続して行い、確実な移動、運搬に関する技術を維持していく。</p>		<p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉 別表26-5. 2-1 通常時と異なる移動、運搬経路を想定した場合の成立性確認結果(1/6)	泊発電所3号炉	相違理由																																		
<p>○可搬型ディーゼル注入ポンプによる代替炉心注入</p> <p>○移動式大容量ポンプ車による補機冷却海水通水</p> <p>○可搬型ディーゼル注入ポンプによる代替炉心注入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>要員</th> <th>作業時間(実績)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型ディーゼル注入ポンプによる代替炉心注入</td> <td>操縦対応要員</td> <td>1時間26分</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>■ : 作業時間(実績) ■ : 通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間</p> <p>※作業時間(想定)の詳細については、技術的能力のまとめ資料p.L4-202参照。</p> <p>＜通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(内訳)＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自走式の可搬型設備の移動時間</td> <td>自走できない可搬型設備の左右への運搬時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)</td> </tr> <tr> <td>30分(10分×2)</td> <td>設備名の運搬時間 水中ポンプ用集電機 2分 ホース巻取回収車用コンテナ 1時間(30分×2) 入江ユニット 2分 浮揚用吊钩ユニット 2分</td> <td>合計 1時間26分</td> </tr> </tbody> </table> <p>○移動式大容量ポンプ車による補機冷却海水通水</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>要員</th> <th>作業時間(実績)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移動式大容量ポンプ車による補機冷却海水通水</td> <td>操縦対応要員等</td> <td>30時間7分</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>■ : 作業時間(実績) ■ : 通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間</p> <p>※作業時間(想定)の詳細については、技術的能力のまとめ資料p.L5-55参照。</p> <p>＜通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(内訳)＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自走式の可搬型設備の移動時間</td> <td>自走できない可搬型設備の左右への運搬時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)</td> </tr> <tr> <td>10分</td> <td>設備名の運搬時間 ホース巻取回収車用コンテナ 1時間(30分×2)</td> <td>合計 1時間10分</td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	要員	作業時間(実績)	備考	可搬型ディーゼル注入ポンプによる代替炉心注入	操縦対応要員	1時間26分		A	B	C	自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)	30分(10分×2)	設備名の運搬時間 水中ポンプ用集電機 2分 ホース巻取回収車用コンテナ 1時間(30分×2) 入江ユニット 2分 浮揚用吊钩ユニット 2分	合計 1時間26分	作業項目	要員	作業時間(実績)	備考	移動式大容量ポンプ車による補機冷却海水通水	操縦対応要員等	30時間7分		A	B	C	自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)	10分	設備名の運搬時間 ホース巻取回収車用コンテナ 1時間(30分×2)	合計 1時間10分		<p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。
作業項目	要員	作業時間(実績)	備考																																	
可搬型ディーゼル注入ポンプによる代替炉心注入	操縦対応要員	1時間26分																																		
A	B	C																																		
自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)																																		
30分(10分×2)	設備名の運搬時間 水中ポンプ用集電機 2分 ホース巻取回収車用コンテナ 1時間(30分×2) 入江ユニット 2分 浮揚用吊钩ユニット 2分	合計 1時間26分																																		
作業項目	要員	作業時間(実績)	備考																																	
移動式大容量ポンプ車による補機冷却海水通水	操縦対応要員等	30時間7分																																		
A	B	C																																		
自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)																																		
10分	設備名の運搬時間 ホース巻取回収車用コンテナ 1時間(30分×2)	合計 1時間10分																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉 別表26-5. 2-1 通常時と異なる移動、運搬経路を想定した場合の成立性確認結果(2/6)	泊発電所3号炉	相違理由																		
<p>○移動式大容量ポンプ車を用いたA、B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>○使用済燃料ピット補給用水中ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>＜通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（内部）＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自走式の可搬型設備の移動時間</td> <td>自走できない可搬型設備の左右への移動時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)</td> </tr> <tr> <td>10分</td> <td>設備内の運搬時間 1時間 (30分×2)</td> <td>合計 1時間10分</td> </tr> </tbody> </table> <p>○使用済燃料ピット補給用水中ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>＜通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（内部）＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自走式の可搬型設備の移動時間</td> <td>自走できない可搬型設備の左右への移動時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)</td> </tr> <tr> <td>10分</td> <td>水中ポンプ用発電機 4分 (2分×2) ホース展開回収車用コンテナ 1時間 (30分×2)</td> <td>合計 1時間4分</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への移動時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)	10分	設備内の運搬時間 1時間 (30分×2)	合計 1時間10分	A	B	C	自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への移動時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)	10分	水中ポンプ用発電機 4分 (2分×2) ホース展開回収車用コンテナ 1時間 (30分×2)	合計 1時間4分		<p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。
A	B	C																		
自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への移動時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)																		
10分	設備内の運搬時間 1時間 (30分×2)	合計 1時間10分																		
A	B	C																		
自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への移動時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)																		
10分	水中ポンプ用発電機 4分 (2分×2) ホース展開回収車用コンテナ 1時間 (30分×2)	合計 1時間4分																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉		泊発電所3号炉		相違理由																					
別表26-5、2-1 通常時と異なる移動、運搬経路を想定した場合の成立性確認結果(3/6)																									
○可搬型ディーゼル注入ポンプ及び使用済燃料ピットスプレイヘッドによる使用済燃料ピットへのスプレイ																									
可搬型ディーゼル注入ポンプ及び使用済燃料ピットスプレイヘッドによる使用済燃料ピットへのスプレイ	運転対応要員	① 2時間		取水用車中ポンプの設置等																					
		② 38分	1時間	可搬型ディーゼル注入ポンプの設置等																					
<p>■：作業時間（実績）</p> <p>■：通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間</p> <p>※1 作業時間（想定）の詳細については、技術的能力のまとめ資料p.11-73参照。</p> <p>※2 大規模損傷にて考慮している想定時間</p> <p><通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（内訳）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自走式の可搬型設備の移動時間</td> <td>自走できない可搬型設備の左右への運搬時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）</td> </tr> <tr> <td>30分（10分×3）</td> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名の運搬時間</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水中ポンプ用発電機</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>ヒース風量制御車用コンテナ</td> <td>30分</td> </tr> <tr> <td>大圧ユニット</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>仮設用中継ユニット</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>仮設管線（中）</td> <td>2分</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td>38分</td> </tr> </tbody> </table>					A	B	C	自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）	30分（10分×3）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名の運搬時間</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水中ポンプ用発電機</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>ヒース風量制御車用コンテナ</td> <td>30分</td> </tr> <tr> <td>大圧ユニット</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>仮設用中継ユニット</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>仮設管線（中）</td> <td>2分</td> </tr> </tbody> </table>	設備名の運搬時間	合計	水中ポンプ用発電機	2分	ヒース風量制御車用コンテナ	30分	大圧ユニット	2分	仮設用中継ユニット	2分	仮設管線（中）	2分	38分
A	B	C																							
自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）																							
30分（10分×3）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名の運搬時間</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水中ポンプ用発電機</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>ヒース風量制御車用コンテナ</td> <td>30分</td> </tr> <tr> <td>大圧ユニット</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>仮設用中継ユニット</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>仮設管線（中）</td> <td>2分</td> </tr> </tbody> </table>	設備名の運搬時間	合計	水中ポンプ用発電機	2分	ヒース風量制御車用コンテナ	30分	大圧ユニット	2分	仮設用中継ユニット	2分	仮設管線（中）	2分	38分											
設備名の運搬時間	合計																								
水中ポンプ用発電機	2分																								
ヒース風量制御車用コンテナ	30分																								
大圧ユニット	2分																								
仮設用中継ユニット	2分																								
仮設管線（中）	2分																								
○重大事故等時の使用済燃料ピットの監視																									
重大事故等時の使用済燃料ピットの監視	運転対応要員	35分	1時間25分																						
<p>■：作業時間（実績）</p> <p>■：通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間</p> <p>※作業時間（想定）の詳細については、技術的能力のまとめ資料p.11-76参照。</p> <p><通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（内訳）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自走式の可搬型設備の移動時間</td> <td>自走できない可搬型設備の左右への運搬時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）</td> </tr> <tr> <td>15分</td> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名の運搬時間</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンプレッサ</td> <td>5分</td> </tr> <tr> <td>大圧コン</td> <td>5分</td> </tr> <tr> <td>発電機</td> <td>5分</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td>20分</td> </tr> </tbody> </table>					A	B	C	自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）	15分	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名の運搬時間</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンプレッサ</td> <td>5分</td> </tr> <tr> <td>大圧コン</td> <td>5分</td> </tr> <tr> <td>発電機</td> <td>5分</td> </tr> </tbody> </table>	設備名の運搬時間	合計	コンプレッサ	5分	大圧コン	5分	発電機	5分	20分				
A	B	C																							
自走式の可搬型設備の移動時間	自走できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）																							
15分	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名の運搬時間</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンプレッサ</td> <td>5分</td> </tr> <tr> <td>大圧コン</td> <td>5分</td> </tr> <tr> <td>発電機</td> <td>5分</td> </tr> </tbody> </table>	設備名の運搬時間	合計	コンプレッサ	5分	大圧コン	5分	発電機	5分	20分															
設備名の運搬時間	合計																								
コンプレッサ	5分																								
大圧コン	5分																								
発電機	5分																								

【玄海】設計方針の相違
 ・泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉		泊発電所3号炉		相違理由																								
別表26-5. 2-1 通常時と異なる移動、運搬経路を想定した場合の成立性確認結果(4/6)																												
○大気への拡散抑制、海洋への拡散抑制防止操作																												
<p>■：作業時間（実績）</p> <p>■：通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間</p> <p>※作業時間（想定）の詳細については、技術的能力の主とめ資料p.12-39参照。</p>																												
<p><通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（内訳）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th colspan="2">B</th> <th>C</th> </tr> <tr> <th>自主式の可搬型設備の移動時間</th> <th colspan="2">自主できない可搬型設備の左右への運搬時間</th> <th>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10分</td> <td>設備内の運搬時間</td> <td>合計</td> <td>1時間14分</td> </tr> <tr> <td></td> <td>既本船</td> <td>4分</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ボース機庫回収車用コンテナ</td> <td>1時間</td> <td>1時間4分</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(30分×2)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					A	B		C	自主式の可搬型設備の移動時間	自主できない可搬型設備の左右への運搬時間		通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）	10分	設備内の運搬時間	合計	1時間14分		既本船	4分			ボース機庫回収車用コンテナ	1時間	1時間4分			(30分×2)	
A	B		C																									
自主式の可搬型設備の移動時間	自主できない可搬型設備の左右への運搬時間		通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）																									
10分	設備内の運搬時間	合計	1時間14分																									
	既本船	4分																										
	ボース機庫回収車用コンテナ	1時間	1時間4分																									
		(30分×2)																										
○八田浦貯水池、3号炉及び4号炉取水ピット他より中間受槽への供給																												
<p>■：作業時間（実績）</p> <p>■：通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間</p> <p>※作業時間（想定）の詳細については、技術的能力の主とめ資料p.13-97参照。</p>																												
<p><通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（内訳）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th colspan="2">B</th> <th>C</th> </tr> <tr> <th>自主式の可搬型設備の移動時間</th> <th colspan="2">自主できない可搬型設備の左右への運搬時間</th> <th>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0分</td> <td>設備内の運搬時間</td> <td>合計</td> <td>1時間12分</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水中ポンプ用発電機</td> <td>2分</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ボース機庫回収車用コンテナ</td> <td>1時間</td> <td>1時間2分</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(30分×2)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					A	B		C	自主式の可搬型設備の移動時間	自主できない可搬型設備の左右への運搬時間		通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）	0分	設備内の運搬時間	合計	1時間12分		水中ポンプ用発電機	2分			ボース機庫回収車用コンテナ	1時間	1時間2分			(30分×2)	
A	B		C																									
自主式の可搬型設備の移動時間	自主できない可搬型設備の左右への運搬時間		通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間（A+B）																									
0分	設備内の運搬時間	合計	1時間12分																									
	水中ポンプ用発電機	2分																										
	ボース機庫回収車用コンテナ	1時間	1時間2分																									
		(30分×2)																										
				<p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。 																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉		泊発電所3号炉		相違理由									
別表26-5. 2-1 通常時と異なる移動、運搬経路を想定した場合の成立性確認結果(5/6)													
○中間受槽を使用した復水タンクへの供給													
<p>■：作業時間(実績)</p> <p>■：通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間</p> <p>※作業時間(想定)の詳細については、技術的能力のまとめ資料p.13-103参照。</p> <p>＜通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(内訳)＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自走式の可搬型A設備の移動時間</td> <td>自走できない可搬型A設備の左右への運搬時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)</td> </tr> <tr> <td>10分</td> <td>設備毎の運搬時間 水中ポンプ用発電機 2分 合計 2分</td> <td>12分</td> </tr> </tbody> </table>					A	B	C	自走式の可搬型A設備の移動時間	自走できない可搬型A設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)	10分	設備毎の運搬時間 水中ポンプ用発電機 2分 合計 2分	12分
A	B	C											
自走式の可搬型A設備の移動時間	自走できない可搬型A設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)											
10分	設備毎の運搬時間 水中ポンプ用発電機 2分 合計 2分	12分											
○発電機車(高圧発電機車又は中容量発電機車)による代替電源(交流)からの給電													
<p>■：作業時間(実績)</p> <p>■：通常時と異なる経路を用いた運搬時間</p> <p>※作業時間(想定)の詳細については、技術的能力のまとめ資料p.11-73参照。</p> <p>＜通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(内訳)＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自走式の可搬型A設備の移動時間</td> <td>自走できない可搬型A設備の左右への運搬時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)</td> </tr> <tr> <td>10分</td> <td>—</td> <td>10分</td> </tr> </tbody> </table>					A	B	C	自走式の可搬型A設備の移動時間	自走できない可搬型A設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)	10分	—	10分
A	B	C											
自走式の可搬型A設備の移動時間	自走できない可搬型A設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)											
10分	—	10分											
				<p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。 									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>別表26-5. 2-1 通常時と異なる移動、運搬経路を想定した場合の成立性確認結果(6/6)</p> <p>○直流電源用発電機及び可搬型直流変換器による代替電源(直流)からの給電</p> <p>■ : 作業時間(実績) ■ : 通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間</p> <p>※作業時間(想定)の詳細については、技術的能力のまとめ資料p.14-87参照。</p> <p><通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(内訳)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自主式の可搬型設備の移動時間</td> <td>自主できない可搬型設備の左右への運搬時間</td> <td>通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)</td> </tr> <tr> <td>10分</td> <td>設備毎の運搬時間 2分</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>直流電源用発電機</td> <td>2分</td> <td>2分</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	自主式の可搬型設備の移動時間	自主できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)	10分	設備毎の運搬時間 2分	2分	直流電源用発電機	2分	2分		<p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。
A	B	C												
自主式の可搬型設備の移動時間	自主できない可搬型設備の左右への運搬時間	通常時と異なる経路を用いた移動、運搬時間(A+B)												
10分	設備毎の運搬時間 2分	2分												
直流電源用発電機	2分	2分												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="183 188 833 1216" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="846 453 878 919" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed; position: absolute; right: 10px; top: 50%; transform: translateY(-50%);"> 図26-5, 2-1 保管エリアの全体配置図 </div> <div data-bbox="264 1257 680 1347" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> 枠囲みの範囲は、防護上の観点又は機密に係る事項であるため、公開できません。 </div>		<p>【玄海】設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、シャッターを撤去して出入口を常時開放するため、出入口が使用できないことを想定していない。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

玄海原子力発電所3, 4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>6. タンクローリーの追加配備</p> <p>重大事故等時に重大事故等対処設備の補機駆動用の燃料を補給するタンクローリーについては、設置許可基準規則第43条第3項第6号を踏まえて、以下のとおり考える。</p> <p>タンクローリーについては、設計基準事故時にも使用するため竜巻防護対象であることから、設計飛来物による衝撃荷重を考慮した専用区画に1台ずつ配置している。しかし、進行方向に1つある出入口扉からの移動に制限されているため、複数の移動経路が確実に確保される屋外の第4保管エリアに、可搬型重大事故等対処設備としてタンクローリーを1台（＝必要数）追加配備する。</p> <p>なお、第3、5保管エリアのタンクローリーは、複数の移動経路が確保されていないものの、風（台風）及び竜巻による風荷重を考慮しても機能が損なわれないため、出入口扉が健全な場合において重大事故等に対処するために必要な機能を有効に発揮できることから、運用としては第3、5保管エリアから使用することとし、必要により第4保管エリアを使用する。</p> <p>7. まとめ</p> <p>以上により最適化に伴い改善を図った事項について、別表26-7-1に示す。</p> <p>今後は保管庫完成後に実施する訓練等を通じて、可能な範囲で保管庫内の配置を見直していくこととし、更なる最適化を図っていく。</p>	<p>5. まとめ</p> <p>以上により最適化に伴い改善を図った事項について、第4表に示す。</p> <p>今後は訓練等を通じて、可能な範囲で51m倉庫・車庫エリアの配置を見直していくこととし、更なる最適化を図っていく。</p>	<p>【玄海】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は可搬型タンクローリーを51m倉庫・車庫内に保管していない。また、泊の可搬型タンクローリーは、重大事故等時に使用する。 <p>【玄海】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 赤字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

別表26-7-1 最適化に伴う主な改善点について

玄海原子力発電所3, 4号炉

改善項目	最適化前の状況	最適化後の改善内容
全般	1方向からの移動、運搬経路を確保	必要数 ^{a)} について、複数方向からの移動、運搬経路を確保 ・目走式の可搬型重大事故等対処設備は出入口扉が2つある区画に配置し2ルート確保 ・目走できない可搬型重大事故等対処設備は出入口扉が2つある区画へ運搬することで2ルート確保
保管庫（火災対応）	前後方向：防火シャッター 左右方向：防火壁	前後方向：防火シャッター 左右方向：防火シャッター ・目走できない可搬型重大事故等対処設備の左右方向への運搬が可能
タンクローリ	電巻防護対象の専用区画に配置	電巻防護対象の専用区画に配置 ・複数方向からの移動経路を確保するため、1台追加配備
自走式の可搬型重大事故等対処設備	1つの出入口扉からの移動のみを考慮	2つの出入口扉からの移動を考慮 ・複数の出入口扉から移動可能とするため、出入口近傍の屋外に設置予定だった重気重及びコンテナの位置を変更するとともに、壁障による検証を実施済
自走できない可搬型重大事故等対処設備	進行方向のみの運搬を考慮	進行方向に加え、後方と左右への運搬も考慮 ・確実に運搬可能とする道具を用いて壁障による検証を実施済
運搬用車両等の資機材	可搬型重大事故等対処設備よりも出入口扉に近い位置に保管	可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬に支障をきたすことがない位置に保管 ・保管庫外で必要な措置を講じて保管

※必要数は、原子炉建屋の外から水又は電力を供給する設備は1基あたり2セット以上、それ以外の設備は1基荷あたり1セット以上

泊発電所3号炉

改善項目	最適化前の状況	最適化後の改善内容
車庫エリアの出入口	・通常時はシャッターを閉止し、可搬型重大事故等対処設備使用時にシャッターを開放	・地震の変形によりシャッターの閉閉が不能となった場合を考慮し、シャッターを撤去して出入口を常時開放 ・積雪の影響を軽減するため、防雪シートを設置予定
可搬型重大事故等対処設備の配置	・異なる機能を有する可搬型重大事故等対処設備を縦列に配置	・エンスト等の故障により、自走式の可搬型重大事故等対処設備の移動ができない場合においても、同時に複数の異なる機能が喪失しないように、異なる機能を有する可搬型重大事故等対処設備を縦列としない配置
自主対策設備の配置	・重大事故等対処設備の前方に自主対策設備を配置	・設備の重要度の観点から、自主対策設備の前方に重大事故等対処設備を配置 ・自主対策設備の一部を51m倉庫・車庫エリア外へ移設

第4表 最適化に伴う主な改善点について

相違理由

【玄海】記載内容の相違
 ・泊は、出入口の常時開放によって、可搬型重大事故等対処設備の移動、運搬を軸実なものとしており、複数の出入口からの移動、運搬について想定しないことによる記載の相違。
 ・泊は、自走式の可搬型重大事故等対処設備がエンスト等により移動できない場合でも、同時に複数の異なる機能が喪失しないように配画設計を行ったことによる記載の相違。
 ・泊は、補機要動用の燃料を内包しているものを保管しないため、防火区画の設定は必要としないことによる記載の相違。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">補足(1)</p> <p>第159回審査会合（平成26年11月13日）からの主要な変更点について</p> <p>第159回審査会合（平成26年11月13日）から第819回審査会合（令和元年12月24日）間の主な変更点について、先行他プラントの状況や島根2号炉の審査の進捗により対応が必要となった保管場所及び屋外アクセスルートについて、以下のとおり変更を実施した。</p> <p>1. 保管場所の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予備も原子炉建物から100m以上の離隔距離を確保することとしたため、2号炉原子炉建物から100m以内に予備置場として設定していた第4保管エリアを他の保管場所と統合し、第5保管エリアを第4保管エリアとして再設定した。 ・可搬型設備の数量見直し等に伴い、第1保管エリア及び第4保管エリアの形状を変更した。 ・構内敷地造成、可搬型重大事故等対処設備等の数量見直しに伴い、第3保管エリアをE L 44mからE L 33mに移設した。 ・輪谷貯水槽（西1/西2）を密閉式貯水槽に変更し、貯水槽上面を第2保管エリアとして設定した。 <p>2. 屋外アクセスルートの変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電所構内の道路をアクセスルート（可搬型設備の運搬、要員の移動等が可能なルート）とサブルート（地震及び津波時に期待しないルート）に再設定した。 ・1号炉北側の防波壁内側に新たにサブルートを設定し、防波壁内側に1、2号炉の周回ルートを確認した。 ・管理事務所2号館は損壊することを前提として評価を行った。その結果、必要な幅員が確保できないことから、南側背後斜面の一部を切り取り、管理事務所2号館の損壊による影響範囲外にアクセスルートの必要な幅員を確保した。 ・通行不能となる全ての段差発生箇所に対して、あらかじめ段差緩和対策を行うこととする。これにより、仮復旧なしで可搬型設備の通行が可能である。 	<p style="text-align: right;">補足資料(1)</p> <p>第38回審査会合（平成25年10月29日）以降の主要な変更点について</p> <p>先行他プラントの審査実績又は地震・津波側の審査状況に関する反映事項として、第38回審査会合（平成25年10月29日）以降から以下の変更を実施している。</p> <p>1. 第38回審査会合（平成25年10月29日）からの主要な変更点</p> <p>(1) 保管場所の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、可搬型設備の配置数の変更に伴い保管場所の再設定を行った。 <p>(2) 屋外アクセスルートの変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、発電所構内の道路をアクセスルート（地震及び津波時に随伴する津波を考慮しても使用可能なルート）、サブルート（地震及び津波時に期待しないルート）及び自主整備ルート（使用可能な場合に活用するルート）に再設定した。 ・地震・津波側の審査状況の反映事項として、防潮堤を再構築することに伴い、アクセスルートを以下のとおり変更した。 <ul style="list-style-type: none"> ▶T.P. 31mからT.P. 10mへのアクセスルートは、西側は岩盤内にトンネルを設置し、東側は形状を変更した道路を設置。 ▶T.P. 10mにおけるアクセスルートについては、防潮堤の内側に道路を設置。 ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、T.P. 10mにおける3号炉原子炉建屋西側を経由したルートの設定を変更することとした。 ・先行他プラントの審査実績の反映事項として、通行不能となるすべての段差発生箇所に対して、あらかじめ段差緩和対策を行うこととした。これにより、段差解消作業なしで可搬型設備の通行が可能である。 	<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による保管場所及びアクセスルート設定変更の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

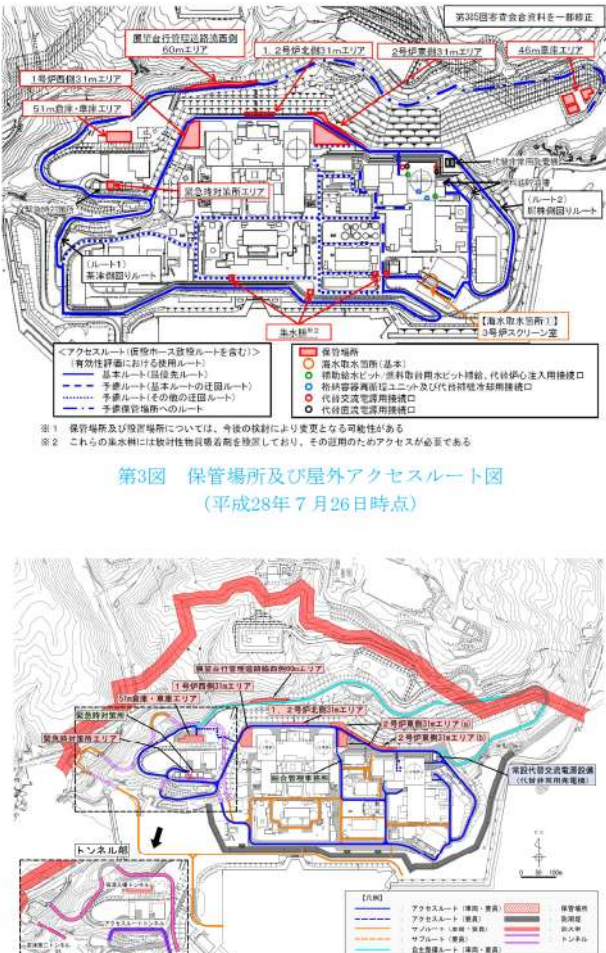
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>2. 第385回審査会合*（平成28年7月26日）からの主要な変更点</p> <p>※：第385回審査会合は、泊3号炉において今後詳細な説明が必要と考えている事項について概要説明を実施している。</p> <p>(1) 保管場所の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行他プラントの審査実績の反映事項として、森林火災の影響を考慮し、46m車庫エリアは保管場所として使用しないこととした。 先行他プラントの審査実績の反映事項として、66kV泊支線送電鉄塔の倒壊時のアクセスルートへの影響を考慮し、展望台行管理道路脇西側60mエリアは保守点検による待機除外時のバックアップ専用の保管場所とした。これにより、当該エリアは重大事故等発生時にただちにアクセスする必要はない。 上記保管場所の見直しに伴い、可搬型設備の配置変更により1、2号炉北側31mエリアの範囲を変更した。 先行他プラントの審査実績の反映事項として、原子炉補助建屋からの離隔距離との関係を明確にするため、2号炉東側31mエリアを(a)と(b)に区分*し再設定した。 <p>※：2号炉東側31mエリア(a)は、原子炉補助建屋からの離隔距離を確保しているため、「2n+α」又は「n」の可搬型設備の1セットを保管する。2号炉東側31mエリア(b)は、原子炉補助建屋からの離隔距離を確保できていないため、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップを保管する。</p> <p>(2) 屋外及び屋内アクセスルートの変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> 第38回審査会合（平成25年10月29日）からの主要な変更点と同様。 	<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> プラントの相違による保管場所及びアクセスルート設定変更の相違。

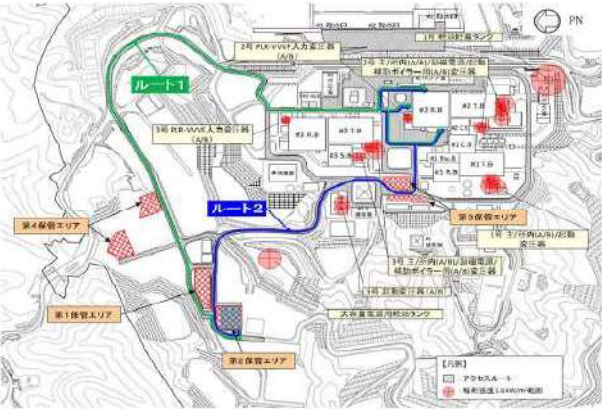
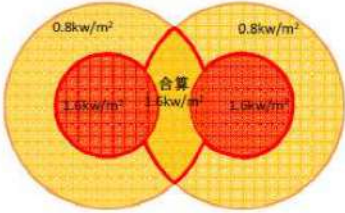
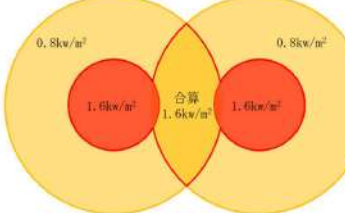
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>第3図 保管場所及び屋外アクセスルート図 (平成28年7月26日時点)</p> <p>第4図 保管場所及び屋外アクセスルート図 (令和4年12月6日説明時点)</p>	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違による保管場所及びアクセスルート設定変更の相違。</p>



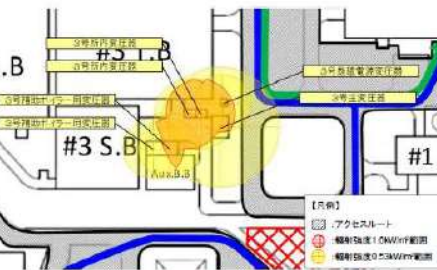



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(2)</p> <p style="text-align: center;">火災の重量による熱影響評価について</p> <p>アクセスルート近傍にある可燃物施設の火災が発生した場合においても、第1図のとおりアクセスルートが放射強度 1.6kW/m²以下であることを確認しているが、火災が同時に発生し、放射強度を合算しても通行可能であることを確認した。</p> <p>なお、接続口に対しては2号炉 PLR-VVVF 入力変圧器が接続口付近での火災が想定されるが、2号炉 PLR-VVVF 入力変圧器と接続口の間には大物搬入口があり、直接放射の影響を受けない。その他の火災想定箇所と接続口は十分な離隔距離があることから放射強度を合算しても火災による影響を受けない。</p> <p>以下にアクセスルートに対する評価結果を示す。</p> <p>※ 石油コンビナートの防災アセスメント指針における長時間さらされても苦痛を感じない放射強度</p>  <p style="text-align: center;">第1図 火災影響範囲</p> <p>1. 評価方法 放射強度の合算方法について概念図を第2図に示す。</p>  <p style="text-align: center;">第2図 放射強度合算概念図</p>	<p style="text-align: center;">島根原子力発電所2号炉</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(2)</p> <p style="text-align: center;">火災の重量による熱影響評価について</p> <p>アクセスルート近傍にある可燃物施設の火災が発生した場合においても、第1図のとおりアクセスルートが放射強度 1.6kW/m²以下であることを確認しているが、火災が同時に発生し、放射強度を合算しても通行可能であることを確認した。</p> <p>なお、接続口は原子炉建屋内及び原子炉補助建屋内であり、火災想定箇所と十分な離隔距離があることから放射強度を合算しても火災による影響を受けない。</p> <p>以下にアクセスルートに対する評価結果を示す。</p> <p>※ 石油コンビナートの防災アセスメント指針における長時間さらされても苦痛を感じない放射強度</p> <div style="border: 2px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">第1図 火災影響範囲</p> <p>□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> <p>1. 評価方法 放射強度の合算方法について概念図を第2図に示す。</p>  <p style="text-align: center;">第2図 放射強度合算概念図</p>	<p>【島根】記載箇所の相違 ・島根は「別紙(6)可燃物施設の火災について」において整理している。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊は接続口と十分な離隔距離を確保している。</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による火災影響範囲の相違。</p>

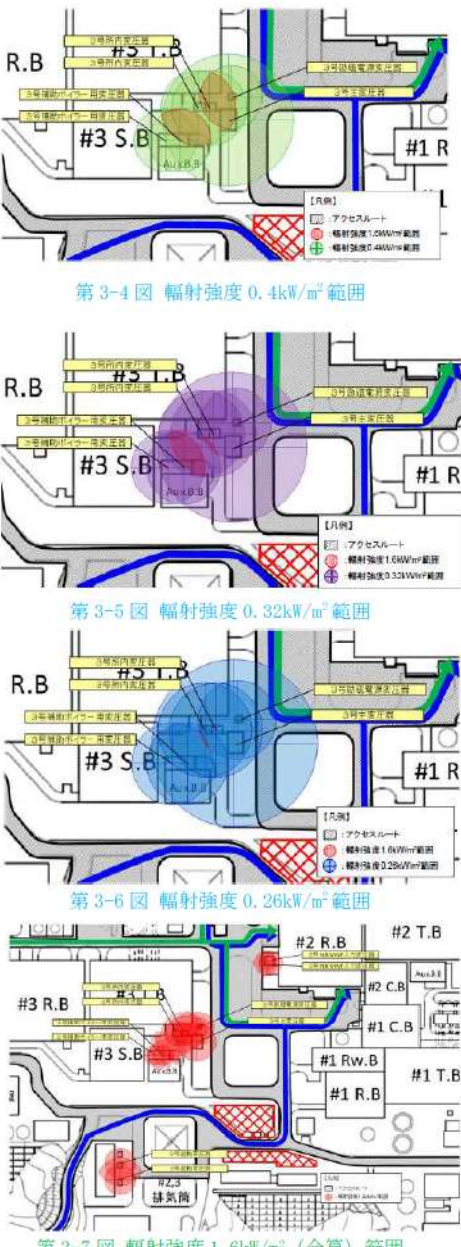

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 評価結果</p> <p>アクセスルート近傍にあり、複数の火災により輻射強度が増す可能性のある、3号炉変圧器エリア、2号炉PLR-VVVF入力変圧器エリアについて確認した結果、第3-1～7図のとおりアクセスルートに影響がないことを確認した。</p>  <p>第3-1図 輻射強度1.6kW/m²範囲</p>  <p>第3-2図 輻射強度0.8kW/m²範囲</p>  <p>第3-3図 輻射強度0.53kW/m²範囲</p>	<p>島根原子力発電所2号炉</p>	<p>2. 評価結果</p> <p>アクセスルート近傍にあり、複数の火災により輻射強度が増す可能性のある、2号炉変圧器エリアについて確認した結果、第3-1～4図のとおりアクセスルートに影響がないことを確認した。</p>  <p>第3-1図 輻射強度1.6kW/m²範囲</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>  <p>第3-2図 輻射強度0.8kW/m²範囲</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>  <p>第3-3図 輻射強度0.53kW/m²範囲</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による火災が重畳するエリアの相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による火災の重畳のエリアの相違。（以下同様。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第3-4図 輻射強度0.4kW/m²範囲</p> <p>第3-5図 輻射強度0.32kW/m²範囲</p> <p>第3-6図 輻射強度0.26kW/m²範囲</p> <p>第3-7図 輻射強度1.6kW/m²（合算）範囲</p>		 <p>第3-4図 輻射強度1.6kW/m²（合算）範囲</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【女川】記載内容の相違・重畳する設備の個数違いによる輻射強度範囲の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																														
<p style="text-align: right;">補足資料(3)</p> <p style="text-align: center;">溢水評価について</p> <p>1. 滞留水の排水所要時間の評価 (1) 溢水量 アクセスルート近傍にある溢水源となる可能性のあるタンクが、地震起因により複数同時破損を想定した溢水量は第1表のとおり。</p> <p style="text-align: center;">第1表 溢水影響評価の対象となる屋外タンク</p> <table border="1" data-bbox="80 694 694 1305"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>タンク名称</th> <th>基数</th> <th>設置高さ(m)</th> <th>容量(m³)</th> <th>評価に用いる容量(m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>No.1 純水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>1,000</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>2</td><td>No.2 純水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.4</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>3</td><td>1, 2号ろ過水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>4</td><td>再生純水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>1,000</td><td>0^{※1}</td></tr> <tr><td>5</td><td>No.1 SPT^{※2}</td><td>1</td><td>O.P. +15.3</td><td>2,000</td><td>0^{※1}</td></tr> <tr><td>6</td><td>No.2 SPT^{※2}</td><td>1</td><td>O.P. +15.3</td><td>1,000</td><td>0^{※1}</td></tr> <tr><td>7</td><td>3号純水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>1,000</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>8</td><td>3号ろ過水タンク</td><td>1</td><td>O.P. +15.1</td><td>2,000</td><td>2,000</td></tr> <tr><td>9,10</td><td>原水タンク</td><td>2</td><td>O.P. +70.04</td><td>4,000</td><td>8,000</td></tr> <tr><td>11-1</td><td>1号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽</td><td>1</td><td>O.P. +16.1</td><td>5.4</td><td>5.4</td></tr> <tr><td>11-2</td><td>1号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽</td><td>1</td><td>O.P. +16.2</td><td>20</td><td>20</td></tr> <tr><td>12</td><td>1号差圧調合槽</td><td>1</td><td>O.P. +15.0</td><td>2.2</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>13-1</td><td>2号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽</td><td>1</td><td>O.P. +16.0</td><td>32</td><td>0^{※1}</td></tr> <tr><td>13-2</td><td>2号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽</td><td>1</td><td>O.P. +16.6</td><td>7.5</td><td>0^{※1}</td></tr> <tr><td>13-3</td><td>2号硫酸計量槽</td><td>1</td><td>O.P. +15.8</td><td>0.3</td><td>0^{※1}</td></tr> <tr><td>14</td><td>2号バック入り差圧調合装置</td><td>1</td><td>O.P. +15.4</td><td>1</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)	1	No.1 純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	1,000	2	No.2 純水タンク	1	O.P. +15.4	2,000	2,000	3	1, 2号ろ過水タンク	1	O.P. +15.1	2,000	2,000	4	再生純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	0 ^{※1}	5	No.1 SPT ^{※2}	1	O.P. +15.3	2,000	0 ^{※1}	6	No.2 SPT ^{※2}	1	O.P. +15.3	1,000	0 ^{※1}	7	3号純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	1,000	8	3号ろ過水タンク	1	O.P. +15.1	2,000	2,000	9,10	原水タンク	2	O.P. +70.04	4,000	8,000	11-1	1号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽	1	O.P. +16.1	5.4	5.4	11-2	1号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽	1	O.P. +16.2	20	20	12	1号差圧調合槽	1	O.P. +15.0	2.2	2.2	13-1	2号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽	1	O.P. +16.0	32	0 ^{※1}	13-2	2号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽	1	O.P. +16.6	7.5	0 ^{※1}	13-3	2号硫酸計量槽	1	O.P. +15.8	0.3	0 ^{※1}	14	2号バック入り差圧調合装置	1	O.P. +15.4	1	1	<p style="text-align: right;">別紙 (33)</p> <p style="text-align: center;">屋外タンク溢水時の影響等について</p> <p>【島根2号炉 別紙(33)1.0.2-補足3-5より転載】</p> <p>1. 溢水伝播挙動評価 地震によりタンクに大開口が生じ、短時間で大量の水が流出するようなことはないと考えられるが、溢水防護対象設備への影響を評価するため、タンクの損傷形態及び流出水の伝播に係る評価条件を保守的に設定した上で、溢水伝播挙動評価を実施している。 （評価概要は、第九条「溢水による損傷の防止等」において説明）</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(3)</p> <p style="text-align: center;">溢水評価について</p> <p>1. 滞留水の排水所要時間の評価 (1) 溢水量 アクセスルート近傍にある溢水源となる可能性のあるタンクが、地震起因により複数同時破損を想定した溢水量は第1表のとおり。 （評価概要は、第九条「溢水による損傷の防止等」において説明）</p> <p style="text-align: center;">第1表 溢水影響評価の対象となる屋外タンク</p> <table border="1" data-bbox="1344 694 1957 1129"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>タンク名称</th> <th>基数</th> <th>設置高さ(m)</th> <th>容量(m³)</th> <th>評価に用いる容量(m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>A-2次系純水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>2</td><td>B-2次系純水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>3</td><td>3A-ろ過水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>4</td><td>3B-ろ過水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>5</td><td>A-ろ過水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>6</td><td>B-ろ過水タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>1,600</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>7</td><td>1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>600</td><td>450[※]</td></tr> <tr><td>8</td><td>3号炉補助ボイラー燃料タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.8m</td><td>735</td><td>410[※]</td></tr> <tr><td>9</td><td>1号炉タービン油計量タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>70</td><td>70</td></tr> <tr><td>10</td><td>3号炉タービン油計量タンク</td><td>1</td><td>T.P. 10.3m</td><td>110</td><td>0[※]</td></tr> <tr><td colspan="5" style="text-align: center;">合計</td><td>10,530</td></tr> </tbody> </table> <p>※：評価に用いる容量は、発電所の所別類に反映し、運用容量を超過しないように管理する。</p>	No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)	1	A-2次系純水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	2	B-2次系純水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	3	3A-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	4	3B-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	5	A-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	6	B-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600	7	1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク	1	T.P. 10.3m	600	450 [※]	8	3号炉補助ボイラー燃料タンク	1	T.P. 10.8m	735	410 [※]	9	1号炉タービン油計量タンク	1	T.P. 10.3m	70	70	10	3号炉タービン油計量タンク	1	T.P. 10.3m	110	0 [※]	合計					10,530	<p>【島根】記載内容の相違・第九条（屋外タンクからの溢水影響評価）の参照プラントは女川としているため、本資料は女川の資料構成をベースとする。</p> <p>【女川】記載内容の相違・泊は屋外タンクの溢水の評価概要について第九条で説明することを明確化した。（島根と同様）</p> <p>【女川】記載内容の相違・プラントの相違による溢水影響評価の対象となる屋外タンクの相違。</p>
No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)																																																																																																																																																																												
1	No.1 純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	1,000																																																																																																																																																																												
2	No.2 純水タンク	1	O.P. +15.4	2,000	2,000																																																																																																																																																																												
3	1, 2号ろ過水タンク	1	O.P. +15.1	2,000	2,000																																																																																																																																																																												
4	再生純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	0 ^{※1}																																																																																																																																																																												
5	No.1 SPT ^{※2}	1	O.P. +15.3	2,000	0 ^{※1}																																																																																																																																																																												
6	No.2 SPT ^{※2}	1	O.P. +15.3	1,000	0 ^{※1}																																																																																																																																																																												
7	3号純水タンク	1	O.P. +15.1	1,000	1,000																																																																																																																																																																												
8	3号ろ過水タンク	1	O.P. +15.1	2,000	2,000																																																																																																																																																																												
9,10	原水タンク	2	O.P. +70.04	4,000	8,000																																																																																																																																																																												
11-1	1号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽	1	O.P. +16.1	5.4	5.4																																																																																																																																																																												
11-2	1号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽	1	O.P. +16.2	20	20																																																																																																																																																																												
12	1号差圧調合槽	1	O.P. +15.0	2.2	2.2																																																																																																																																																																												
13-1	2号復水浄化系復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽	1	O.P. +16.0	32	0 ^{※1}																																																																																																																																																																												
13-2	2号復水浄化系復水脱塩装置硫酸貯槽	1	O.P. +16.6	7.5	0 ^{※1}																																																																																																																																																																												
13-3	2号硫酸計量槽	1	O.P. +15.8	0.3	0 ^{※1}																																																																																																																																																																												
14	2号バック入り差圧調合装置	1	O.P. +15.4	1	1																																																																																																																																																																												
No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)																																																																																																																																																																												
1	A-2次系純水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
2	B-2次系純水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
3	3A-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
4	3B-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
5	A-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
6	B-ろ過水タンク	1	T.P. 10.3m	1,600	1,600																																																																																																																																																																												
7	1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク	1	T.P. 10.3m	600	450 [※]																																																																																																																																																																												
8	3号炉補助ボイラー燃料タンク	1	T.P. 10.8m	735	410 [※]																																																																																																																																																																												
9	1号炉タービン油計量タンク	1	T.P. 10.3m	70	70																																																																																																																																																																												
10	3号炉タービン油計量タンク	1	T.P. 10.3m	110	0 [※]																																																																																																																																																																												
合計					10,530																																																																																																																																																																												

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

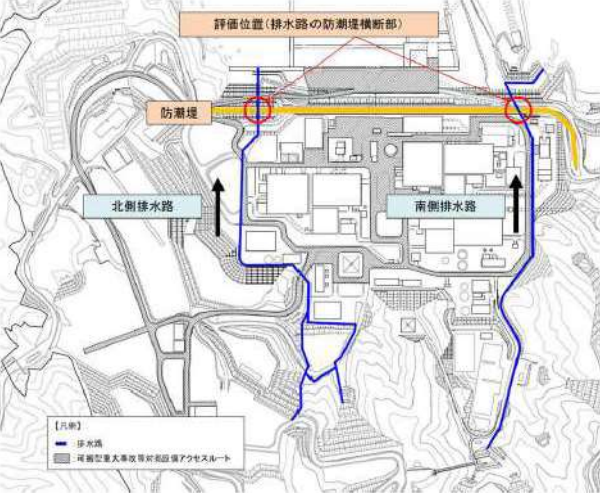
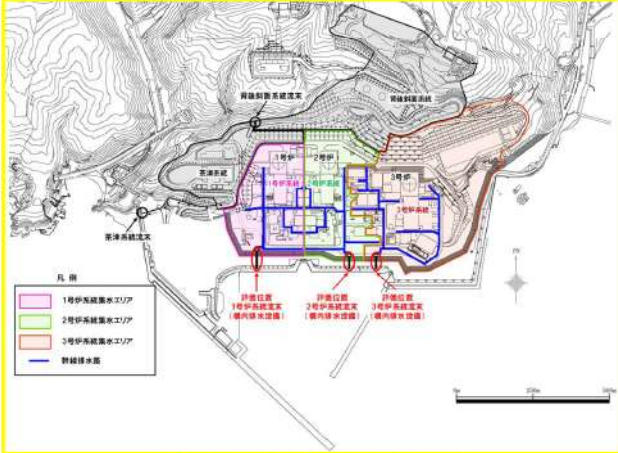
女川原子力発電所2号炉						島根原子力発電所2号炉						泊発電所3号炉						相違理由
No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)													
15	3号各種薬液貯蔵及び移送系硫酸貯槽	1	0.P. +16.0	2.2	0 ^{※1}													
16	3号各種薬液貯蔵及び移送系苛性ソーダ貯槽	1	0.P. +16.0	10.5	0 ^{※1}													
17	3号差圧調合槽	1	0.P. +15.3	0.1	0.1													
18-1	PAC貯槽	1	0.P. +15.3	2	2													
18-2	硫酸貯槽	1	0.P. +17.3	3.9	3.9													
18-3	苛性ソーダ貯槽	1	0.P. +15.7	7	7													
18-4	H塔再生用硫酸貯留槽	1	0.P. +16.8	0.3	0.3													
19	1, 2号給排水処理建屋	1	0.P. +14.8	375.21	375.21													
20	3号給排水処理建屋	1	0.P. +14.8	404.88	404.88													
21-1	高置水槽（給湯系統）	1	0.P. +33.3	6	6													
21-2	高置水槽（給水系統）	1	0.P. +33.3	8	8													
22-1	No.1高架水槽	1	0.P. +34.7	8	8													
22-2	No.2高架水槽	1	0.P. +34.7	8	8													
23-1	上水高架水槽	1	-	9.2	9.2													
23-2	雑用水高架水槽	1	-	13.7	13.7													
24-1	高架水槽（飲料用）	1	0.P. +34.8	1.2	1.2													
24-2	高架水槽（雑用）	1	0.P. +34.8	2.0	2.0													
24-3	水蓄熱槽（PAI-1）	1	0.P. +19.68	1.01	1.01													
24-4	水蓄熱槽（PAI-3）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
24-5	水蓄熱槽（PAI-4）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
24-6	高架水槽（飲料水）	1	0.P. +36.55	1.5	1.5													
24-7	高架水槽（雑用水）	1	0.P. +36.55	2.2	2.2													
24-8	水蓄熱槽（PAI-1）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
24-9	水蓄熱槽（PAI-2）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
24-10	水蓄熱槽（PAI-3）	1	0.P. +19.68	1.49	1.49													
25	主復水器用電解鉄イオン注入装置電解槽	2	0.P. +15.613	3.4	6.8													
26	水蓄熱槽（PAI-1）	1	0.P. +14.95	1.49	1.49													
27	受水槽	1	0.P. +15.3	6	6													
28-1	上水受水槽	1	0.P. +62.9	37	37													
28-2	雑用水受水槽	1	0.P. +62.9	55	55													
28-3	受水槽	1	0.P. +62.9	0.5	0.5													
29	燃料小出槽	1	0.P. +58.592	0.95	0.95													
30	給水タンク	1	-	2	2													
31	配水池	1	0.P. +69.7	300	300													
32-1	ろ過タンク（浄水）	1	0.P. +69.7	6	6													
32-2	ろ過タンク（浄水）	1	0.P. +69.7	4	4													
33	消火水タンク	1	0.P. +14.8	230	230													
				合計容量(m ³)	17,540													

No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m ³)	評価に用いる容量(m ³)
29	燃料小出槽	1	0.P. +58.592	0.95	0.95
30	給水タンク	1	-	2	2
31	配水池	1	0.P. +69.7	300	300
32-1	ろ過タンク（浄水）	1	0.P. +69.7	6	6
32-2	ろ過タンク（浄水）	1	0.P. +69.7	4	4
33	消火水タンク	1	0.P. +14.8	230	230
				合計容量(m ³)	17,540

※1 評価に用いる容量は、発電所の所則類に反映し、運用容量を超過しないように管理する。
 ※2 SPT：サブプレッションプール水貯蔵タンク

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
<p>(2) 排水可能量 敷地内に広がった溢水は第1図に示す排水路から海洋に流出する。 各排水路の排水可能流量は、「森林法に基づく林地開発許可申請の手引き」に基づく平成30年2月の宮城県への林地開発許可申請における値とする。排水路の仕様及び排水可能流量は、第2表のとおり。</p> <p style="text-align: center;">第2表 排水路の仕様</p> <table border="1" data-bbox="129 422 645 619"> <thead> <tr> <th>排水路</th> <th>仕様</th> <th>排水可能流量^① [m³/s]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北側排水路</td> <td>ボツツ300mm R3500, R2500</td> <td>51.16</td> </tr> <tr> <td>南側排水路</td> <td>ダブ4ブレスト管 Φ1000×3</td> <td>16.23</td> </tr> </tbody> </table> <p>※林地開発許可申請書記載値（平成30年2月）</p>  <p style="text-align: center;">第1図 排水路の配置概要図</p>	排水路	仕様	排水可能流量 ^① [m ³ /s]	北側排水路	ボツツ300mm R3500, R2500	51.16	南側排水路	ダブ4ブレスト管 Φ1000×3	16.23	<p>(2) 排水可能量 敷地内に広がった溢水は第1図に示す構内排水設備から海洋に流出する。 各構内排水設備の排水可能流量は、設計基準降水量(57.5mm/h)により想定される雨水流入量に対して、裕度を持って排水可能な流量とする。構内排水設備の仕様及び排水可能流量は、第2表のとおり。</p> <p style="text-align: center;">第2表 構内排水設備の仕様</p> <table border="1" data-bbox="1344 406 1953 545"> <thead> <tr> <th>排水可能流量</th> <th>仕様</th> <th>排水可能流量 [m³/s]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1号炉系統流末</td> <td rowspan="3">鋼管 φ1,800</td> <td>3.89</td> </tr> <tr> <td>2号炉系統流末</td> <td>3.89</td> </tr> <tr> <td>3号炉系統流末</td> <td>3.89</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：構内排水設備については構造検討中</p>  <p style="text-align: center;">第1図 構内排水設備の配置概要図</p>	排水可能流量	仕様	排水可能流量 [m ³ /s]	1号炉系統流末	鋼管 φ1,800	3.89	2号炉系統流末	3.89	3号炉系統流末	3.89	<p>【女川】記載表現の相違 ・排水可能流量の設定方法の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・プラントの相違による排水路の仕様の相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による図の内容の相違。</p>
排水路	仕様	排水可能流量 ^① [m ³ /s]																			
北側排水路	ボツツ300mm R3500, R2500	51.16																			
南側排水路	ダブ4ブレスト管 Φ1000×3	16.23																			
排水可能流量	仕様	排水可能流量 [m ³ /s]																			
1号炉系統流末	鋼管 φ1,800	3.89																			
2号炉系統流末		3.89																			
3号炉系統流末		3.89																			

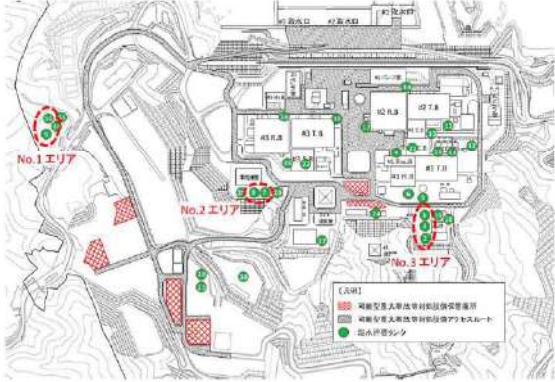
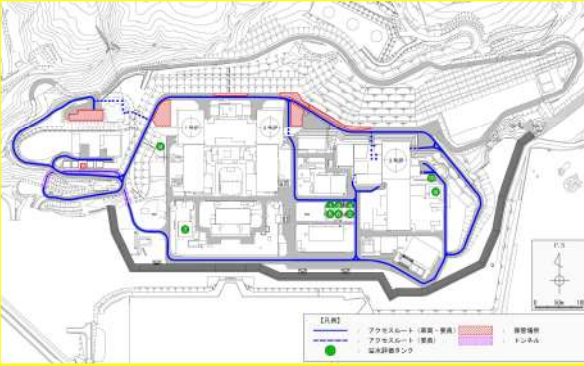
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>(3) 排水所要時間 排水所要時間は溢水量と排水可能流量から求められる。排水所要時間の計算においては、保守的に排水可能流量が小さい南側排水路のみから排水されると仮定した。排水所要時間の計算結果は、第3表のとおり。</p> <p style="text-align: center;">第3表 排水所要時間</p> <table border="1" data-bbox="125 411 622 507"> <thead> <tr> <th>溢水量 [m³]</th> <th>排水可能流量 [m³/s]</th> <th>排水所要時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17,540</td> <td>16,23</td> <td>約19分 (1,091秒)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) アクセスルート仮復旧への影響 屋外タンク破損による溢水の排水所要時間が約19分であるのに対し、重機によるアクセスルートの仮復旧作業開始は事象発生から70分後であることから、溢水滞留による仮復旧作業への影響はない。 また、段差発生箇所が局所的に溢水が滞留する可能性のある箇所としては、地下構造物が並行する3号炉タービン建屋東側があるが、当該箇所に滞留水があった場合でも、ブルドーザで碎石を投入することにより段差を解消し、通行可能となるよう仮復旧することを想定していることから、対象車両の通行には影響がないと考えられる。</p>	溢水量 [m ³]	排水可能流量 [m ³ /s]	排水所要時間	17,540	16,23	約19分 (1,091秒)		<p>(3) 排水所要時間 排水所要時間は溢水量と排水可能流量から求められる。排水所要時間の計算においては、保守的に1箇所からの排水は期待できないものと仮定した。排水所要時間の計算結果は、第3表のとおり。</p> <p style="text-align: center;">第3表 排水所要時間</p> <table border="1" data-bbox="1346 411 1955 528"> <thead> <tr> <th>溢水量 (m³)</th> <th>排水可能流量 (m³/s)</th> <th>排水所要時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,530</td> <td>7.78</td> <td>約23分 (1,354秒)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 屋外作業実施への影響 屋外タンク破損による溢水の排水所要時間が約23分であるのに対し、可搬型設備を用いたT.P.10mエリアでの屋外作業開始は事象発生から55分後であることから、溢水滞留による屋外作業への影響はない。</p>	溢水量 (m ³)	排水可能流量 (m ³ /s)	排水所要時間	10,530	7.78	約23分 (1,354秒)	<p>【女川】記載内容の相違 ・泊の構内排水設備の排水可能流量は、3箇所とも同じ仕様である。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・プラントの相違による排水所要時間の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊は、事前対策により復旧作業を想定していないことから、屋外作業実施に対する影響評価を行った。</p>
溢水量 [m ³]	排水可能流量 [m ³ /s]	排水所要時間													
17,540	16,23	約19分 (1,091秒)													
溢水量 (m ³)	排水可能流量 (m ³ /s)	排水所要時間													
10,530	7.78	約23分 (1,354秒)													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																									
<p>2. 流動解析</p> <p>耐震性の確保されていないタンクの破損に伴う溢水の影響について、地形等の影響は考慮せず、すべての溢水源（屋外タンク類）容量が、建屋設置レベルである0.P.+14.8mに流れ込んだものとして評価した結果、敷地内浸水深は0.16mであり、アクセスルートの復旧に支障がないことを確認しているが、タンク破損に伴う溢水による影響について流動解析（解析コード fluent Ver16.0.0）を実施し、その影響について評価した。</p> <p>(1) 屋外タンク溢水評価モデルの設定</p> <p>a. 水源の配置</p> <p>女川原子力発電所の溢水影響評価対象となる屋外タンク配置図を第2図に示す。評価に影響を及ぼす大型の水源（1,000m³以上の大型タンク）は敷地内3箇所に分散配置されている（第2図中の赤丸）ことから、これらの大型タンクから溢した場合の影響について確認するため、第4表に示すとおり水源を配置した。</p>  <p>第2図 溢水影響評価の対象となる屋外タンク配置図</p> <p>第4表 水源の配置</p> <table border="1" data-bbox="123 1165 649 1396"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>タンク名称</th> <th>基数</th> <th>タンク容量 (m³)</th> <th>評価に用いる容量^{※1} (m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">No.1 エリア</td> <td>原水タンク</td> <td>1</td> <td>4,000</td> <td>4,160</td> </tr> <tr> <td>原水タンク</td> <td>1</td> <td>4,000</td> <td>4,160</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No.2 エリア</td> <td>3号純水タンク</td> <td>1</td> <td>1,000</td> <td>1,280</td> </tr> <tr> <td>3号ろ過水タンク</td> <td>1</td> <td>2,000</td> <td>2,280</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">No.3 エリア</td> <td>No.1 純水タンク</td> <td>1</td> <td>1,000</td> <td>1,230</td> </tr> <tr> <td>No.2 純水タンク</td> <td>1</td> <td>2,000</td> <td>2,230</td> </tr> <tr> <td>1, 2号ろ過水タンク</td> <td>1</td> <td>2,000</td> <td>2,230</td> </tr> <tr> <td colspan="4">総量</td> <td>17,570</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 評価に用いる容量は、評価対象タンク周りの屋外タンク容量も加算した値。</p>	No.	タンク名称	基数	タンク容量 (m ³)	評価に用いる容量 ^{※1} (m ³)	No.1 エリア	原水タンク	1	4,000	4,160	原水タンク	1	4,000	4,160	No.2 エリア	3号純水タンク	1	1,000	1,280	3号ろ過水タンク	1	2,000	2,280	No.3 エリア	No.1 純水タンク	1	1,000	1,230	No.2 純水タンク	1	2,000	2,230	1, 2号ろ過水タンク	1	2,000	2,230	総量				17,570	<p>1. 溢水伝播挙動評価</p> <p>地震によりタンクに大開口が生じ、短時間で大量の水が流出するようなことはないと考えられるが、溢水防護対象設備への影響を評価するため、タンクの損傷形態及び流出水の伝播に係る評価条件を保守的に設定した上で、溢水伝播挙動評価を実施している。</p> <p>（評価概要は、第九条「溢水による損傷の防止等」において説明）</p>	<p>2. 流動解析</p> <p>耐震性の確保されていないタンクの破損に伴う溢水の影響について、地形等の影響は考慮せず、すべての溢水源（屋外タンク類）容量が、敷地レベルであるT.P.10.0mに滞留するものとして評価した結果、敷地内浸水深は0.10mであり、事故対応のためのアクセスルート確保及び作業実施に影響がないことを確認しているが、タンク破損に伴う溢水による影響について流動解析（解析コード fluent Ver.18.2.0）を実施し、その影響について評価した。</p> <p>(1) 屋外タンク溢水評価モデルの設定</p> <p>a. 水源の配置</p> <p>泊発電所の溢水影響評価対象となる屋外タンク配置図を第2図に示す。</p>  <p>第2図 溢水影響評価の対象となる屋外タンク配置図</p>	<p>【島根】記載内容の相違 ・第九条の参照プラントは女川としているため、本資料についても女川の資料構成をベースとする。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊は、事前対策により復旧作業を想定していない。</p> <p>【女川】記載表現の相違 【女川】記載内容の相違 ・女川は大型の水源が敷地内3箇所に分散配置されているのに対し、泊はT.P.10mの敷地1箇所に配置されていることから、女川のような水源配置の想定は不要である。</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による溢水影響評価の対象となる屋外タンクの相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・女川は大型の水源が敷地内3箇所に分散配置されているのに対し、泊はT.P.10mの敷地1箇所に配置されていることから、女川のような水源配置の想定は不要である。</p>
No.	タンク名称	基数	タンク容量 (m ³)	評価に用いる容量 ^{※1} (m ³)																																								
No.1 エリア	原水タンク	1	4,000	4,160																																								
	原水タンク	1	4,000	4,160																																								
No.2 エリア	3号純水タンク	1	1,000	1,280																																								
	3号ろ過水タンク	1	2,000	2,280																																								
No.3 エリア	No.1 純水タンク	1	1,000	1,230																																								
	No.2 純水タンク	1	2,000	2,230																																								
	1, 2号ろ過水タンク	1	2,000	2,230																																								
総量				17,570																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>b. 評価条件 タンクの損傷形態及び流出水の伝播に係る条件について以下のとおり設定した。</p> <p>(a) 評価対象タンクは基礎ボルトのない平面タンクであり、地震時にはすべりが発生するためタンクと接続されているすべての配管について全周破断を想定した。</p> <p>(b) 破断位置については、保守的にタンク付け根部とした。</p> <p>(c) タンクからの流出については、タンク水頭に応じて流出流量が低下するものとして評価を実施した。</p> <p>(d) 排水路からの流出や、地盤への浸透は考慮しない。</p> <p>c. 解析モデル 解析に使用した敷地モデルを第3図に示す。</p>  <p>第3図 敷地モデル</p> <p>(2) 評価結果</p>	<p>1.1 評価の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 溢水源となるタンクを表現し、地震による損傷をタンク側板が瞬時に消失するとして模擬する。 ・ 構内排水路による排水機能及び敷地外への排出は期待しない。 ・ 輪谷貯水槽(東1/東2)は基準地震動S_sによって生じるスロッシングによる溢水量(時刻歴)を模擬する。 ・ 3号ろ過水タンク、3号純水タンク及び消火用水タンクから第4保管エリアまでの伝播経路上の2m程度の壁は評価モデルに考慮しない。 <p>1.2 評価結果</p> <p>溢水伝播挙動評価による評価の結果として得られた溢水伝播挙動を第1図に示す。また、浸水深の時系列データの抽出地点を第2図に、抽出地点毎の浸水深の時系列データを第3～12図に示す。</p> <p>(1) 2号炉への影響について</p> <p>評価の結果、2号炉原子炉建物南側の可搬型設備接続口付近(第3図地点①)では、タンクからの溢水後、最大で約18cmの浸水深となること、また、同建物西側の可搬型設備接続口付近(第4図地点②)はほとんど浸水深がないことが確認されている。</p>	<p>b. 評価条件 タンクの損傷形態及び流出水の伝播に係る条件について以下のとおり設定した。</p> <p>(a) 基準地震動に対する耐震性が確保されている2次系純水タンク及びろ過水タンクについては、タンクと接続されているすべての配管について全周破断を想定した。</p> <p>(b) 破断位置については、保守的にタンク付け根部とした。</p> <p>(c) タンクからの流出については、タンク水頭に応じて流出流量が低下するものとして評価を実施した。</p> <p>(d) 容量が1,000m³以下のタンクについては、地震による損傷をタンク側板が瞬時に消失するとして模擬した。</p> <p>(e) 構内排水設備からの流出や、地盤への浸透は考慮しない。</p> <p>c. 解析モデル 解析に使用した敷地モデルを第3図に示す。敷地モデルには保守性を考慮し、防潮堤の厚さを敷地側に2倍拡張させ、実際よりも滞留面積が小さくなるよう設定した。</p>  <p>第3図 敷地モデル</p> <p>(2) 評価結果</p> <p>流動解析による評価の結果として得られた溢水伝播挙動を第4図に示す。また、浸水深の時系列データの水位測定箇所を第5図に、水位測定箇所ごとの浸水深の時系列データを第6図に示す。</p>	<p>【女川】記載内容の相違 ・プラントの相違による評価条件の相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊では保守的な敷地モデルとなるよう、実際の敷地面積より滞留面積が小さくなるよう設定している。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・プラントの相違による敷地モデルの相違。</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による評価結果の相違。</p>

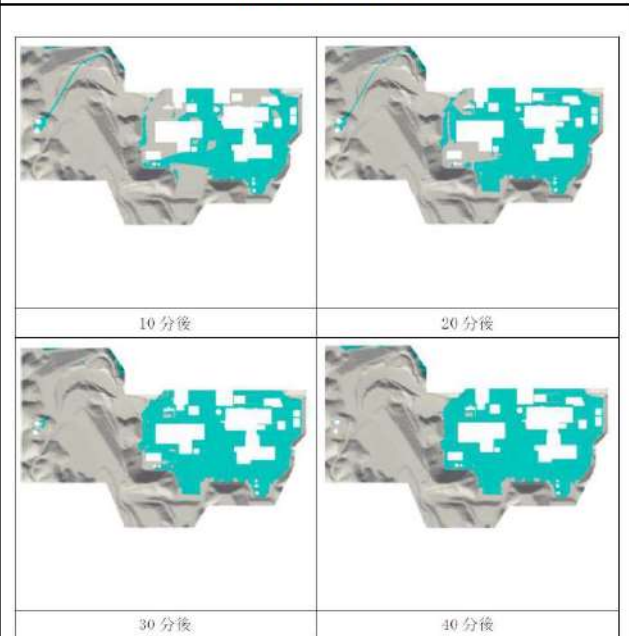
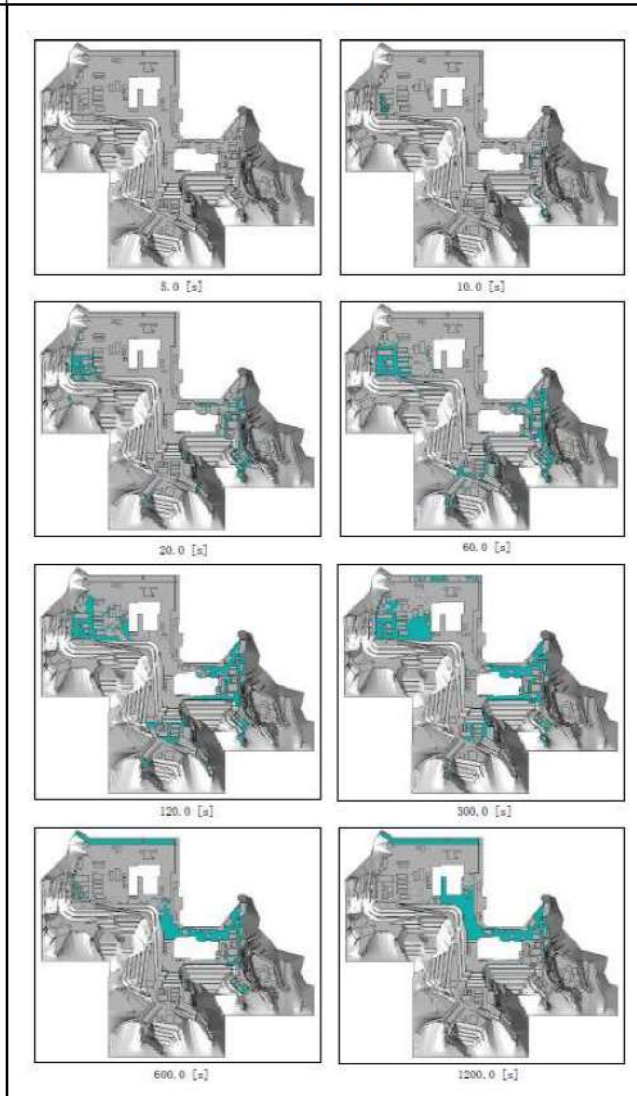

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>No.1エリアにて発生した溢水の大部分は、海域に流出することが確認された。No.2エリア及びNo.3エリアにて発生した溢水は原子炉建屋等が設置されている 0.P.+14.8m に広がっていくことが確認された。</p> <p>解析の結果、各ポイントにおける最大水位は0.15mであることから、人員への影響は小さいと考えられる。また、溢水流路上の設備等が損壊し、がれきの発生が想定されるが、迂回又は重機にて撤去することにより、アクセスルート確保への影響はないと考える。</p>	<p>(2) 保管場所への影響について</p> <p>第1～3保管エリアについては、最大浸水深が約0cmであり、可搬設備の機関吸排気口高さより低く、可搬設備に影響はない。</p> <p>第4保管エリアについては、可搬設備の機関吸排気口高さの最低値22cmに対し、最大浸水深が約21cmであり、可搬設備の機関吸排気口高さより低く、可搬設備に影響はない。機関吸排気口高さは、最大浸水深に対し裕度が小さいが、最大浸水深となる溢水は、第4保管エリア近傍にある大型タンク（3号ろ過水タンク、3号純水タンク及び消火用水タンク）からの溢水の影響が支配的であるため、「1.1 評価の条件」に示す条件を踏まえると以下のとおり溢水影響軽減効果を考慮していないことから実現における溢水水位は、溢水伝播挙動評価の最大浸水深よりも低くなると考えられる。第4保管エリア近傍の溢水の伝播挙動を第13図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型タンク（3号ろ過水タンク、3号純水タンク及び消火用水タンク）から第4保管エリアまでの伝播経路上には溢水伝播挙動評価では評価モデルに考慮していない2m程度の壁がある。実現象においてこの壁は、溢水の伝播を阻害する。なお、当該壁が損壊することを想定した場合においても、がれきにより溢水の伝播を阻害する。 大型タンク（3号ろ過水タンク、3号純水タンク及び消火用水タンク）から第4保管エリアまでの伝播経路上には溢水伝播挙動評価では評価モデルに考慮していない敷地内に設けられた排水路がある。実現象においてタンクからの溢水は、この排水路を通じて北側の排水設備へ向けて流下する。 <p>屋外タンクからの溢水による保管場所に対する影響評価結果を第1表に示す。</p> <p>2. 作業の成立性</p> <p>屋外タンクから溢水が発生した場合には、タンク周辺の空地が平坦かつ広大であり周辺道路等を自然流下し拡散するものと考えられるが、最大約100cmの浸水深となるルート上（第9図地点⑦）であっても敷地形状により管理事務所東側道路からE L8.5mエリアへ向けて流下するため、10分後には可搬型設備がアクセス可能な浸水深となること、可搬型設備接続口付近を含むその他の抽出地点においては常に可搬型設備がアクセス可能な浸水深であることから、事故対応のためのアクセスルート確保及び作業実施に影響はない。</p> <p>また、溢水流路上の設備等が損壊し、がれきの発生が想定されるが、迂回又は重機にて撤去することにより、アクセスルート確保への影響はない。</p> <p>なお、溢水流路に人員がいる場合も想定されるが、安全を最優先し、溢水流路から待避することにより、人身への影響はない。</p>	<p>屋外タンクから発生した溢水は、周辺道路等を自然流下し拡散することが確認された。</p> <p>解析の結果、最大水位が0.27mとなる原子炉建屋（タービン建屋入口）付近（第6図②）や最大水位が0.22mとなる可搬型設備接続口付近（第6図③）その他水位測定箇所においても、13分後には可搬型設備車両の走行可能水位以下となることから、事故対応のためのアクセスルート確保及び作業実施に影響はない。（別紙(19)参照）</p> <p>また、溢水流路上の設備等が損壊し、がれきの発生が想定されるが、迂回又は重機にて撤去することにより、アクセスルート確保への影響はない。</p> <p>なお、溢水流路に人員がいる場合も想定されるが、安全を最優先し、溢水流路から待避することにより、人身への影響はない。</p>	<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、高台に保管場所を設定しており、周囲に溢水源となる屋外タンクがない。 <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> プラントの相違による評価結果の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

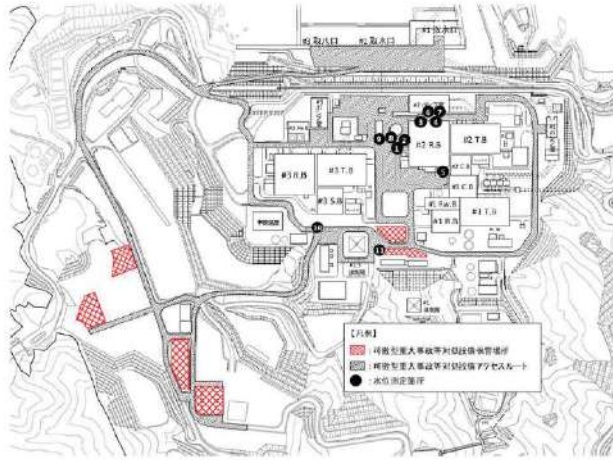
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>10分後</p> <p>20分後</p> <p>30分後</p> <p>40分後</p> <p>〔溢水範囲を赤色で示す。〕</p>	 <p>5.0 [s]</p> <p>10.0 [s]</p> <p>20.0 [s]</p> <p>60.0 [s]</p> <p>120.0 [s]</p> <p>300.0 [s]</p> <p>600.0 [s]</p> <p>1200.0 [s]</p>	 <p>0.40 0.30 0.20 0.10 0.00 p/h₀(g)</p> <p>3.0e+00 2.5 2 1.5 1 0.5 0.0e+00 Velocity magnitude (m/s)</p> <p>10分後</p> <p>30分後</p> <p>5分後</p> <p>20分後</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラントの相違による溢水伝播挙動の相違。
<p>第4図 溢水伝播挙動</p>	<p>第1図 屋外タンクの溢水伝播挙動</p>	<p>第4図 溢水伝播挙動</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

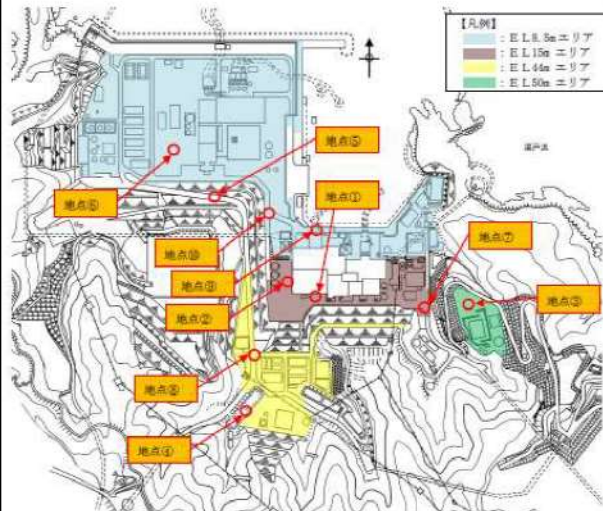


第5図 水位測定箇所

【水位測定箇所】

- ① 原子炉建屋（大物搬出入口前）
- ② 原子炉建屋（DG(A)室前）
- ③ 原子炉建屋（DG(HPCS)室前）
- ④ 原子炉建屋（DG(B)室前）
- ⑤ 制御建屋
- ⑥ 海水ポンプ室1
- ⑦ 海水ポンプ室2
- ⑧ CST エリア
- ⑨ LOT エリア
- ⑩ 敷地1
- ⑪ 敷地2

島根原子力発電所2号炉

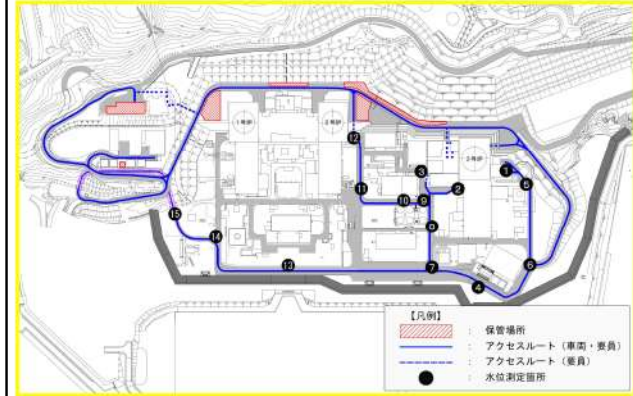


(抽出地点の標高)

地点	標高
地点①	E L 15m
地点②	E L 15m
地点③	E L 50m
地点④	E L 53.3m
地点⑤	E L 31m
地点⑥	E L 8.5m
地点⑦	E L 15m
地点⑧	E L 44m
地点⑨	E L 8.5m
地点⑩	E L 8.5m

第2図 浸水深の時系列データの抽出地点

泊発電所3号炉



第5図 水位測定箇所

【水位測定箇所】

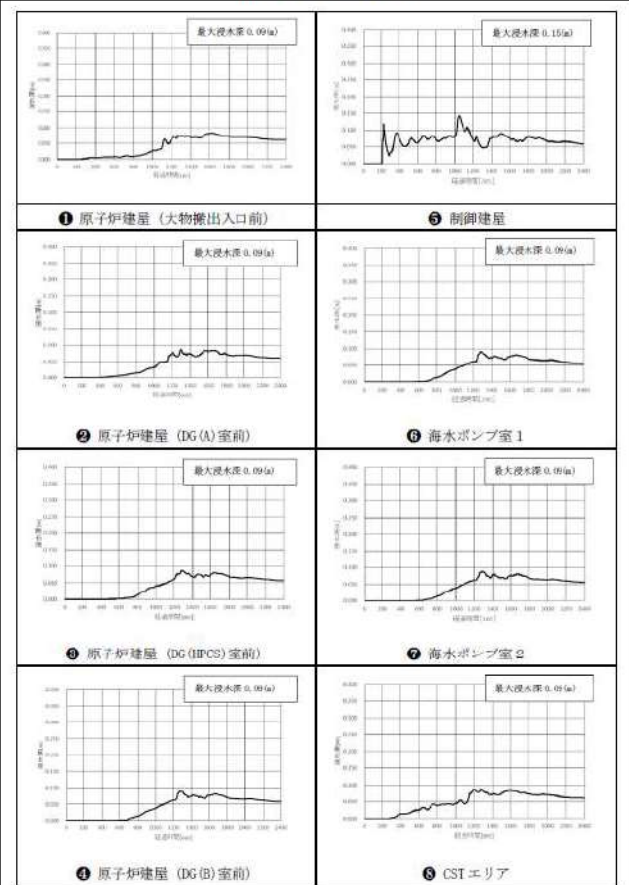
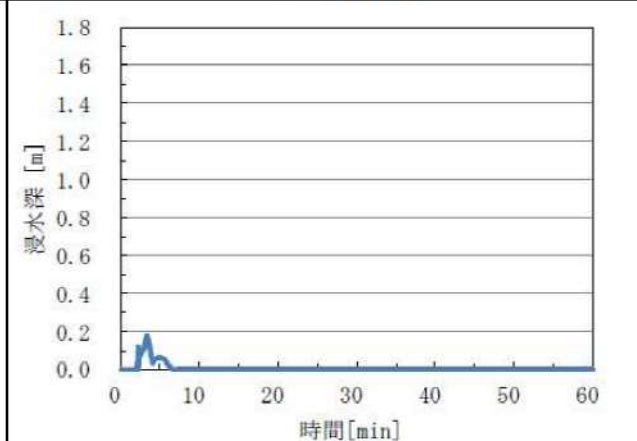
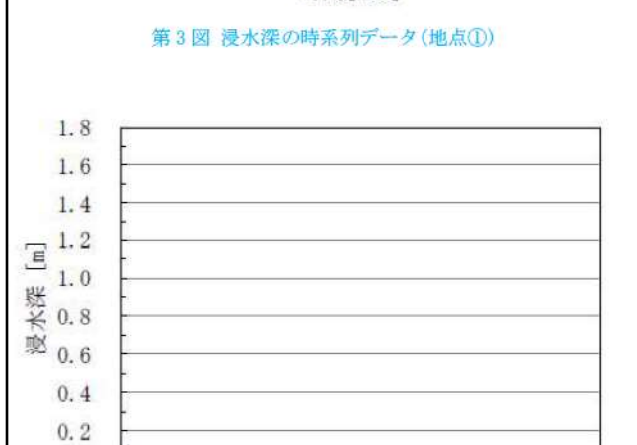
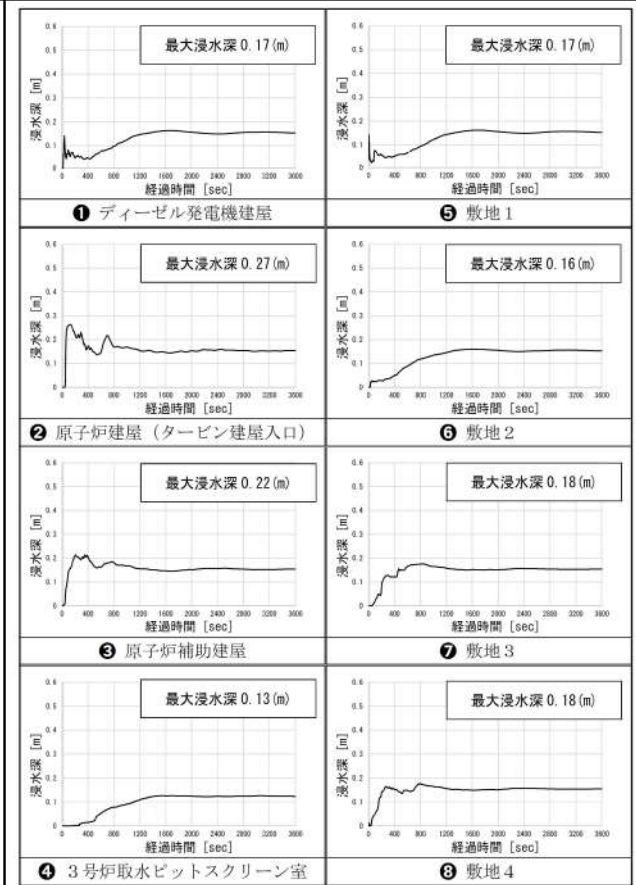
- ① ディーゼル発電機建屋
- ② 原子炉建屋（タービン建屋入口）
- ③ 原子炉補助建屋
- ④ 3号炉取水ビットスクリーン室
- ⑤ 敷地1
- ⑥ 敷地2
- ⑦ 敷地3
- ⑧ 敷地4
- ⑨ 敷地5
- ⑩ 敷地6
- ⑪ 敷地7
- ⑫ 敷地8
- ⑬ 敷地9
- ⑭ 敷地10
- ⑮ 敷地11

相違理由

- 【女川及び島根】
- 記載内容の相違
- ・プラントの相違による
- 水位測定箇所の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第6図 水位測定箇所における浸水深(1/2)</p>	 <p>第3図 浸水深の時系列データ(地点①)</p>  <p>第4図 浸水深の時系列データ(地点②)</p>	 <p>第6図 水位測定箇所における浸水深(1/2)</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による浸水深の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

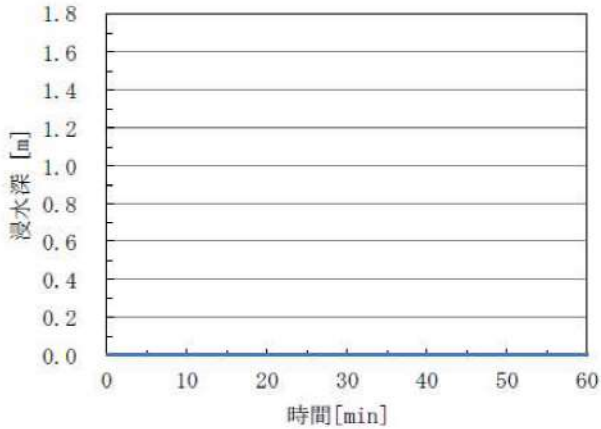
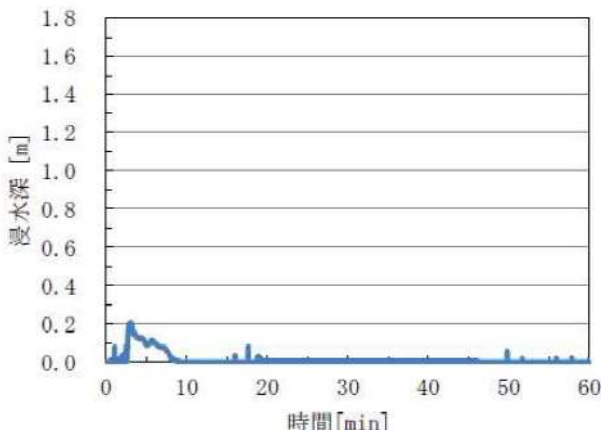
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第6図 水位測定箇所における浸水深(2/2)</p>	<p>第5図 浸水深の時系列データ(地点③)</p> <p>第6図 浸水深の時系列データ(地点④)</p>	<p>第6図 水位測定箇所における浸水深(2/2)</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による浸水深の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

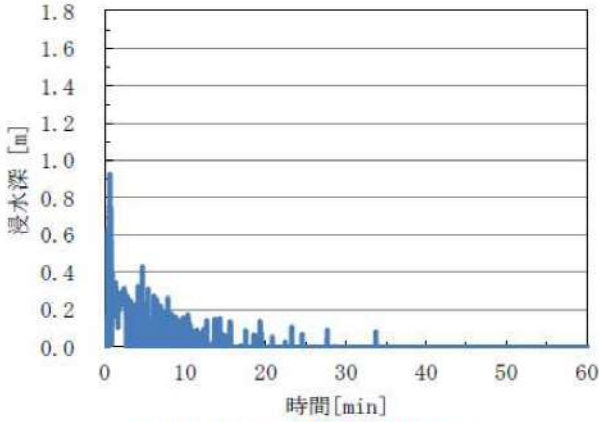
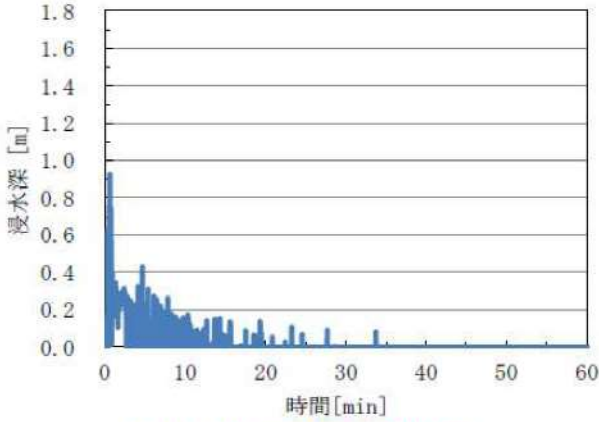
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第7図 浸水深の時系列データ(地点⑤)</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による浸水深の相違。</p>
	 <p>第8図 浸水深の時系列データ(地点⑥)</p>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

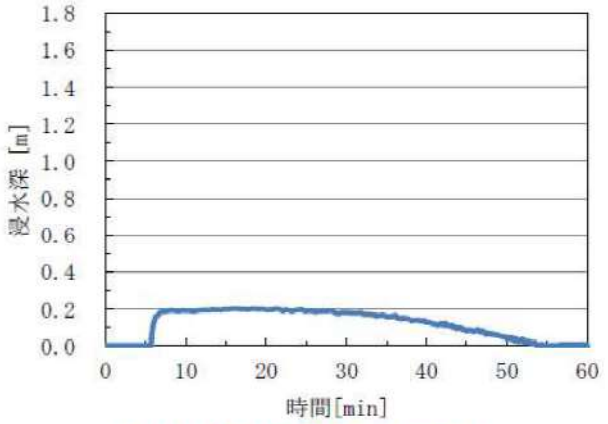
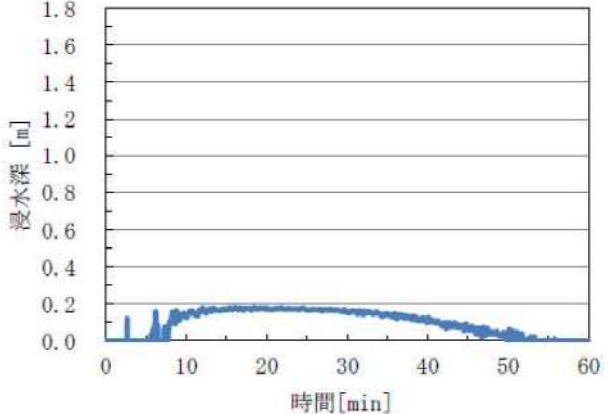
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="846 576 1191 600">第9図 浸水深の時系列データ(地点⑦)</p>		<p data-bbox="1982 145 2157 220">【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による 浸水深の相違。</p>
	 <p data-bbox="846 1129 1191 1153">第10図 浸水深の時系列データ(地点⑧)</p>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第11図 浸水深の時系列データ（地点⑨）</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による浸水深の相違。</p>
	 <p>第12図 浸水深の時系列データ（地点⑩）</p>		


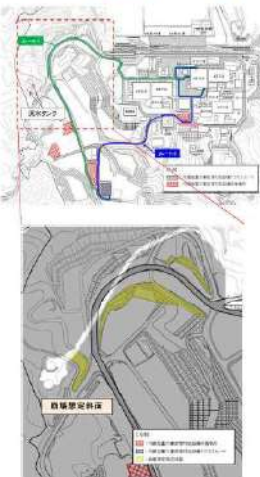
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由										
	<p>第13図 第4保管エリア近傍の溢水の伝播挙動</p> <p>第1表 保管場所に対する影響評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>保管場所</th> <th>影響評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1保管エリア</td> <td>エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第5図地点③)</td> </tr> <tr> <td>第2保管エリア</td> <td>密閉式貯水槽上部であり、周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第6図地点④)</td> </tr> <tr> <td>第3保管エリア</td> <td>周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第7図地点⑤)</td> </tr> <tr> <td>第4保管エリア</td> <td>エリア内の最大浸水深は約21cmとなり、可搬型設備等の機関吸気口及び排気口高さ以下である。 (第8図地点⑥)</td> </tr> </tbody> </table>	保管場所	影響評価結果	第1保管エリア	エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第5図地点③)	第2保管エリア	密閉式貯水槽上部であり、周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第6図地点④)	第3保管エリア	周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第7図地点⑤)	第4保管エリア	エリア内の最大浸水深は約21cmとなり、可搬型設備等の機関吸気口及び排気口高さ以下である。 (第8図地点⑥)		<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、高台に保管場所を設定しており、周囲に溢水源となる屋外タンクがない。
保管場所	影響評価結果												
第1保管エリア	エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第5図地点③)												
第2保管エリア	密閉式貯水槽上部であり、周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第6図地点④)												
第3保管エリア	周囲に溢水源が存在せず、エリア内の最大浸水深は約0cmとなる。 (第7図地点⑤)												
第4保管エリア	エリア内の最大浸水深は約21cmとなり、可搬型設備等の機関吸気口及び排気口高さ以下である。 (第8図地点⑥)												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 崩壊土砂とタンク溢水による影響評価</p> <p>(1) 評価対象</p> <p>溢水源と崩壊斜面の配置から斜面崩壊後に No.1 エリアの原水タンクが溢水した場合、アクセスルートの復旧時間評価に影響を及ぼす可能性があることから、影響評価を実施する。</p>  <p>第7図 溢水源と斜面崩壊の位置関係図</p> <p>(2) 影響評価</p> <p>No.1 エリアの原水タンクが溢水した場合の流動解析の結果は第8図のとおり。原水タンクの溢水により崩壊想定斜面の崩壊土砂の一部がルート1に流入することも考えられるが、有効性評価上のアクセスルート復旧時間4時間にに対し、ルート1の仮復旧時間評価は2時間28分で仮復旧することが可能で、時間的な余裕があることから、重機による土砂撤去することにより対応可能である。なお、ルート2には影響がないことを確認している。</p>  <p>第8図 原水タンク溢水による流動解析の結果</p> <p>※ 浸水範囲を白色で示す。</p>			<p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊はアクセスルートの周辺斜面崩壊箇所近傍には、溢水源となる可能性のあるタンクが存在しないため、溢水による土砂撤去作業への影響は無い。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

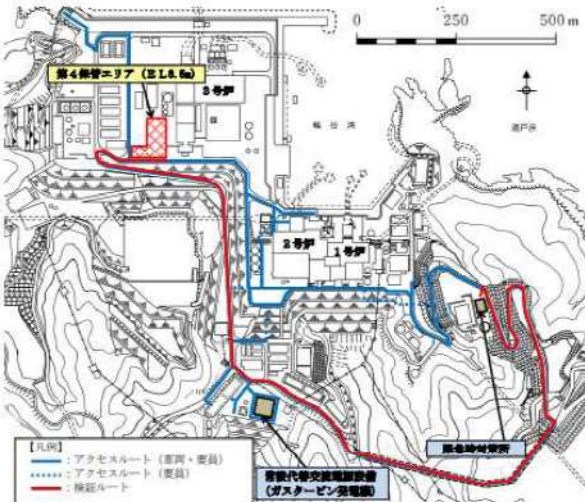
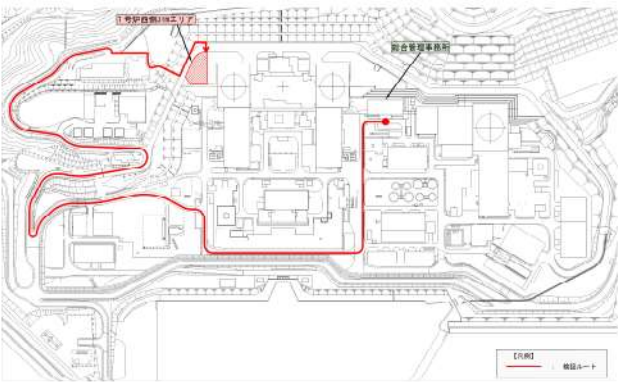
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

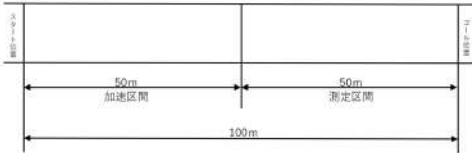

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足(2)</p> <p style="text-align: center;">作業に伴う屋外の移動手段について</p> <p>1. 作業に伴う屋外の移動手段について 重大事故等時の屋外の移動手段については、対応する要員の負担及び対応する作業の迅速化の観点から、車両が使用可能な場合には車両による移動を基本とする。 なお、地震による重大事故等時において、緊急時対策所から可搬型重大事故等対処設備の保管場所までのアクセスルートは必要な幅員を確保可能である。(別紙(19)参照)</p> <p>2. 徒歩移動が必要となる作業に関する作業員の負担 アクセスルートが確保できず車両による移動が困難な場合は、重機を操作する要員が保管場所まで徒歩で移動する必要がある。 この場合、炉心損傷の徴候等に応じて放射線防護具を着用する(炉心損傷の徴候等に応じて指示者が適切な放射線防護具類を判断し、要員に着用を指示する。)が、移動後の作業は重機での操作となること、重機にはエアコンが装備されていることから、酷暑期であっても作業負担は軽減される。 また、アクセスルートが確保されてからは車両で移動できることから、徒歩による移動はないものと考えている。</p> <p>3. 徒歩移動時間の検証 通常状態の道路における徒歩移動時間が時速4kmであることの妥当性について、保守的に放射線防護具を着用した状況(全面マスク等を着用)での移動時間を検証した。</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(4)</p> <p style="text-align: center;">作業に伴う屋外の移動手段について</p> <p>1. 作業に伴う屋外の移動手段について 重大事故等時の屋外の移動手段については、対応する要員の負担及び対応する作業の迅速化の観点から、車両が使用可能な場合には車両による移動を基本とする。 なお、地震による重大事故等時において、屋外のアクセスルートは必要な幅員を確保可能である。(別紙(25)参照)</p> <p>2. 徒歩移動が必要となる作業に関する作業員の負担 アクセスルートが確保できず車両による移動が困難な場合は、重機を操作する要員が保管場所まで徒歩で移動する必要がある。 この場合、炉心損傷の徴候等に応じて放射線防護具を着用する(炉心損傷の徴候等に応じて指示者が適切な放射線防護具類を判断し、要員に着用を指示する。)が、移動後の作業は重機での操作となること、重機にはエアコンが装備されていることから、酷暑期であっても作業負担は軽減される。 また、アクセスルートが確保されてからは車両で移動できることから、徒歩による移動はないものと考えている。</p> <p>3. 徒歩移動時間の検証 通常状態の道路における徒歩移動時間が時速4kmであることの妥当性について、保守的に放射線防護具を着用した状況(全面マスク等を着用)での移動時間を検証した。 なお、検証は2022年7月24日に実施しており、検証ルートはその時点での構内ルートを使用した。</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】検証条件の相違 ・泊は検証時と再稼働時で道路状況(構内ルート)が異なる。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																						
	 <p>第1図 徒歩移動検証ルート</p> <p>第1表 緊急時対策所から第4保管エリアまでの徒歩による移動時間</p> <table border="1" data-bbox="739 885 1288 1069"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ケース</th> <th rowspan="2">所要時間</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>天候等</th> <th>被験者年齢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>被験者A 全面マスク +化学防護服</td> <td>29分41秒</td> <td rowspan="4">曇り 気温：11.0℃ 湿度：67%</td> <td>56才</td> </tr> <tr> <td>被験者B +被水防護服 +化学防護手袋</td> <td>30分04秒</td> <td>26才</td> </tr> <tr> <td>被験者C +化学防護 長靴+ヘッド ライト</td> <td>31分42秒</td> <td>41才</td> </tr> <tr> <td>被験者D</td> <td>32分07秒</td> <td>39才</td> </tr> </tbody> </table> <p>緊急時対策所から第4保管エリア（約2,710m）まで、徒歩での移動時間は約30分～32分であった。移動時間は積雪や暑さ等の環境による影響も考えられるが、途中休憩を取る、又はスローペースで移動することにより想定する移動速度（時速4kmで想定すると41分）程度での移動は可能であることを確認した。</p>	ケース	所要時間	参考		天候等	被験者年齢	被験者A 全面マスク +化学防護服	29分41秒	曇り 気温：11.0℃ 湿度：67%	56才	被験者B +被水防護服 +化学防護手袋	30分04秒	26才	被験者C +化学防護 長靴+ヘッド ライト	31分42秒	41才	被験者D	32分07秒	39才	 <p>第1図 徒歩移動検証ルート</p> <p>第1表 総合管理事務所から1号炉西側31mエリアまでの徒歩による移動時間</p> <table border="1" data-bbox="1422 885 1881 1069"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ケース</th> <th rowspan="2">所要時間</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>天候等</th> <th>被験者年齢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>被験者A 全面マスク +タイベック</td> <td>17分48秒</td> <td rowspan="4">曇り 気温：21.5℃ 湿度：81.7%</td> <td>28才</td> </tr> <tr> <td>被験者B +ヘルメット</td> <td>20分55秒</td> <td>56才</td> </tr> <tr> <td>被験者C +ヘッドライト</td> <td>23分29秒</td> <td>43才</td> </tr> <tr> <td>被験者D +長靴</td> <td>23分33秒</td> <td>36才</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合管理事務所から1号炉西側31mエリア（約1,850m）まで、徒歩での移動時間は約18分～24分であった。移動時間は積雪や暑さ等の環境による影響も考えられるが、途中休憩を取る、又はスローペースで移動することにより想定する移動速度（時速4kmで想定すると28分）程度での移動は可能であることを確認した。</p>	ケース	所要時間	参考		天候等	被験者年齢	被験者A 全面マスク +タイベック	17分48秒	曇り 気温：21.5℃ 湿度：81.7%	28才	被験者B +ヘルメット	20分55秒	56才	被験者C +ヘッドライト	23分29秒	43才	被験者D +長靴	23分33秒	36才	<p>【島根】記載内容の相違・試験条件の相違とそれに伴う試験結果の相違。</p>
ケース	所要時間			参考																																					
		天候等	被験者年齢																																						
被験者A 全面マスク +化学防護服	29分41秒	曇り 気温：11.0℃ 湿度：67%	56才																																						
被験者B +被水防護服 +化学防護手袋	30分04秒		26才																																						
被験者C +化学防護 長靴+ヘッド ライト	31分42秒		41才																																						
被験者D	32分07秒		39才																																						
ケース	所要時間	参考																																							
		天候等	被験者年齢																																						
被験者A 全面マスク +タイベック	17分48秒	曇り 気温：21.5℃ 湿度：81.7%	28才																																						
被験者B +ヘルメット	20分55秒		56才																																						
被験者C +ヘッドライト	23分29秒		43才																																						
被験者D +長靴	23分33秒		36才																																						

1.0 重大事故等対策における共通事項

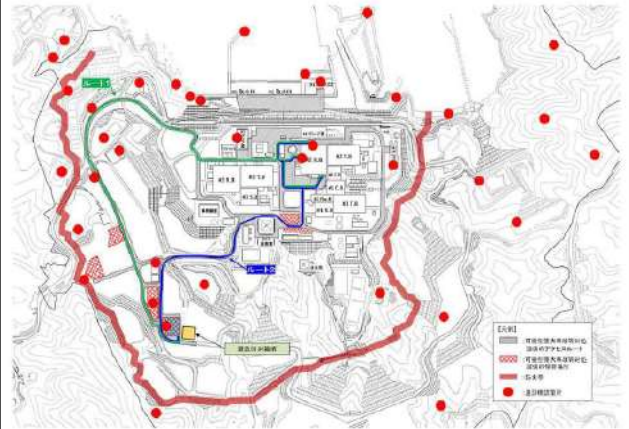
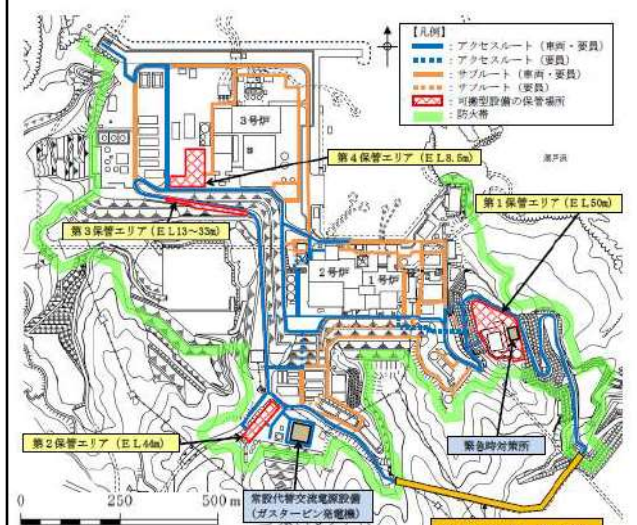
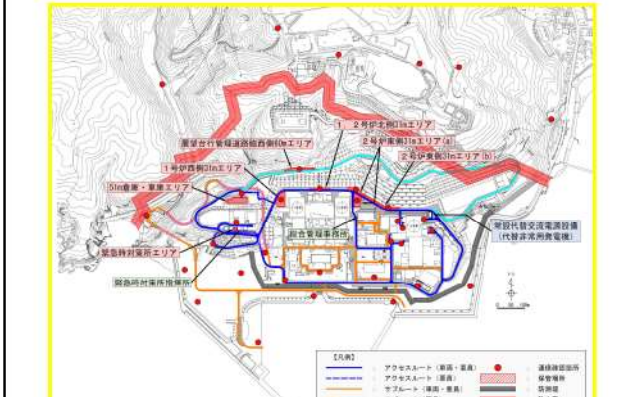
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(5)</p> <p style="text-align: center;">ホイールローダの走行速度の検証について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容 ホイールローダの走行速度の検証 2. 実施日 令和4年11月7日 3. 場所 港湾施設荷揚げ場 4. 検証概要 泊発電所に配備しているホイールローダにより、測定区間50mの直線コースを1速、2速及び3速でそれぞれ3回走行し、走行速度を測定した。 なお、各ギアの最大速度を測定する目的から、試験コースを100m（加速区間50m、測定区間50m）に設定し、試験を実施した。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>検証実施状況</p> </div> <p style="text-align: center;">第1図 走行速度検証の概要</p> <p>《ホイールローダの仕様》 全長：713cm 全幅：337cm 高さ：337cm 車両総重量：約10.2t バケット容量：1.6m³</p>	<p>【女川及び島根】 記載方針の相違 ・泊は、ホイールローダの走行速度の検証について補足資料を作成。</p>

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
		<p>5. 検証結果</p> <p>(1) 1速の速度検証</p> <table border="1" data-bbox="1384 225 1917 344"> <thead> <tr> <th></th> <th>走行距離</th> <th>走行時間</th> <th>走行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td rowspan="3">50m</td> <td>14.92 秒</td> <td>12.0km/h</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>14.93 秒</td> <td>12.0km/h</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>14.88 秒</td> <td>12.0km/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>1速での走行速度は、検証試験結果で最も遅い速度から12.0km/hであることを確認した。</p> <p>(2) 2速の速度検証</p> <table border="1" data-bbox="1384 464 1917 584"> <thead> <tr> <th></th> <th>走行距離</th> <th>走行時間</th> <th>走行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td rowspan="3">50m</td> <td>9.52 秒</td> <td>18.9km/h</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>9.46 秒</td> <td>19.0km/h</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>9.47 秒</td> <td>19.0km/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>2速での走行速度は、検証試験結果で最も遅い速度から18.9km/hであることを確認した。</p> <p>(3) 3速の速度検証</p> <table border="1" data-bbox="1384 703 1917 823"> <thead> <tr> <th></th> <th>走行距離</th> <th>走行時間</th> <th>走行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td rowspan="3">50m</td> <td>5.59 秒</td> <td>32.2km/h</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>5.48 秒</td> <td>32.8km/h</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>5.58 秒</td> <td>32.2km/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>3速での走行速度は、検証試験結果で最も遅い速度から32.2km/hであることを確認した。</p> <p>6. ホイールローダの走行速度の設定</p> <p>屋外のアクセスルートは、通行に支障のある段差（15cm以上）が発生しないよう、あらかじめ段差緩和対策を行う設計としているため、3速又は2速での移動が可能である。しかしながら、地震時の被害の不確実性を考慮して移動時間を保守的に算出するため、最も速度の遅い1速での移動を想定する。</p> <p>1速の走行速度は、上記検証結果の12.0km/hに余裕をみて10km/hとする。</p>		走行距離	走行時間	走行速度	1回目	50m	14.92 秒	12.0km/h	2回目	14.93 秒	12.0km/h	3回目	14.88 秒	12.0km/h		走行距離	走行時間	走行速度	1回目	50m	9.52 秒	18.9km/h	2回目	9.46 秒	19.0km/h	3回目	9.47 秒	19.0km/h		走行距離	走行時間	走行速度	1回目	50m	5.59 秒	32.2km/h	2回目	5.48 秒	32.8km/h	3回目	5.58 秒	32.2km/h	
	走行距離	走行時間	走行速度																																										
1回目	50m	14.92 秒	12.0km/h																																										
2回目		14.93 秒	12.0km/h																																										
3回目		14.88 秒	12.0km/h																																										
	走行距離	走行時間	走行速度																																										
1回目	50m	9.52 秒	18.9km/h																																										
2回目		9.46 秒	19.0km/h																																										
3回目		9.47 秒	19.0km/h																																										
	走行距離	走行時間	走行速度																																										
1回目	50m	5.59 秒	32.2km/h																																										
2回目		5.48 秒	32.8km/h																																										
3回目		5.58 秒	32.2km/h																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(7)</p> <p style="text-align: center;">屋外での通信機器通話状況の確認について</p> <p>発電所構内における屋外での作業や移動中及び発電所構外における要員参集の途中において、通信機器が確実に機能することを以下の方法により確認した。</p> <p>方法：無線連絡設備（携帯型）での通話確認 アクセスルート上の車中又は屋外において、緊急時対策所建設予定地との通話が可能であることを確認する。確認方法は、ルート上で、緊急時対策所と通信を行う可能性のある場所（例：可搬型設備保管場所、可搬型設備接続口、可搬型モニタリングポスト設置場所等）を想定して、緊急時対策所と実際に通話を行い、感度及びSメータの値を確認した。</p> <p>結果：アクセスルートからの通信状況は良好であること（必要箇所での通話が可能であること）を確認した。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 無線連絡設備（携帯型）における通信状況の確認結果</p>	<p style="text-align: right;">補足(5)</p> <p style="text-align: center;">屋外での通信機器通話状況の確認</p> <p>発電所構内における屋外での作業や移動中、及び発電所構外における要員参集の途中において、通信機器が確実に機能することを以下の方法により確認した。</p> <p>方法：無線通信設備（携帯型）での通話確認 屋外アクセスルート上の車中、又は、歩行において、緊急時対策所及び中央制御室との通話が可能であることを確認する。</p> <p>結果：アクセスルート、サブルートからの通信状況は良好であること（一部連絡が取りづらい場所も少しの移動で解消されること）を確認した。 なお、第二輪谷トンネルについては、通信連絡設備が使用できないことから、入城の際と退出の際に緊急時対策本部へ連絡する運用とする。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 無線通信設備（携帯型）における通信状況の確認範囲</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(6)</p> <p style="text-align: center;">屋外での通信機器通話状況の確認について</p> <p>発電所構内における屋外での作業や移動中及び発電所構外における要員参集の途中において、通信機器が確実に機能することを以下の方法により確認した。</p> <p>方法：衛星電話設備（携帯型）での通話確認 屋外アクセスルート上の歩行において、緊急時対策所及び中央制御室との通話が可能であることを確認する。確認方法は、ルート上で、緊急時対策所及び中央制御室と通信を行う可能性のある場所（例：可搬型設備保管場所、可搬型設備接続口、可搬型モニタリングポスト設置場所）を想定して、緊急時対策所及び中央制御室と実際に通話を行い、通話が可能であることを確認した。</p> <p>結果：屋外アクセスルートからの通信状況は良好であること（必要箇所での通話が可能であること）を確認した。</p> <p>なお、トンネル部については、通信連絡設備が使用できないことが想定されることから、入城の際と退出の際に緊急時対策所又は中央制御室へ連絡する運用とする。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 衛星電話設備（携帯型）における通信状況の確認結果</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・通話設備の相違。 ・通話確認方法の相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊はトンネル部での対応について記載。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(8)</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について、有効性評価で提示したケースをもとに評価を行った。</p> <p>1. 前提条件 (1) 想定する重大事故等<有効性評価で説明> 必要となる対応操作、必要な要員及び資源を評価する際に想定する各号炉の状態を第1表に示す。 東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故及び共通要因による複数炉の重大事故等の発生の可能性を考慮し、女川原子力発電所1号、2号及び3号炉について、全交流動力電源喪失及び使用済燃料プールでのスロッシングの発生を想定する。 なお、1号及び3号炉の使用済燃料プールにおいて、全保有水喪失を想定した場合は自然対流による空気冷却での使用済燃料の冷却維持が可能と考えられるため[※]、必要な要員及び資源を検討する本事象では、使用済燃料プールへの注水実施が必要となるスロッシングの発生を想定した。</p> <p>また、不測の事態を想定し、1号及び3号炉のうち、いずれか1つの号炉において、事象発生直後に内部火災が発生していることを想定する。なお、水源評価に際しては、1号及び3号炉における消火活動による水の消費を考慮する。</p> <p>2号炉について、有効性評価の各シナリオのうち、必要な要員及び資源（水源、燃料及び電源）ごとに最も厳しいシナリオを想定する。</p> <p>2号炉への対応に必要な緊急時対策所機能及び重大事故等対策に関する作業、アクセスルートの移動による現場の線量率を評価する際において、1号及び3号炉の状態は放射線遮蔽の観点で厳しい使用済燃料プールの全保有水喪失を想定する。</p> <p>※ 技術的能力 添付資料 1.0.16「重大事故等時における停止号炉の影響について」参照</p>	<p style="text-align: right;">補足(6)</p> <p>1～3号炉同時被災時における屋外のアクセスルートへの影響</p> <p>1～3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について、有効性評価で提示したケースをもとに評価を行った。</p> <p>1. 前提条件 (1) 想定する重大事故等<有効性評価で説明> 必要となる対応操作、必要な要員及び資源を評価する際に想定する各号炉の状態を第1表に示す。 東京電力福島第一原子力発電所の事故及び共通要因による複数炉の重大事故等の発生の可能性を考慮し、島根原子力発電所1、2号炉について、全交流動力電源喪失及び燃料プールでのスロッシングの発生を想定する。 なお、1号炉の燃料プールにおいて、全保有水喪失を想定した場合は自然対流による空気冷却での使用済燃料の冷却維持が可能と考えられるため[※]、必要な要員及び資源を検討する本事象では、燃料プールへの注水実施が必要となるスロッシングの発生を想定した。</p> <p>また、不測の事態を想定し、1号炉において事象発生直後に内部火災が発生していることを想定する。なお、水源評価に際しては1号炉における消火活動による水の消費を考慮する。</p> <p>なお、島根原子力発電所3号炉については、初装荷燃料装荷前のため、燃料からの崩壊熱除去が不要であり、アクセスルート等への影響評価のみを実施する。</p> <p>2号炉について、有効性評価の各シナリオのうち、必要な要員及び資源（水源、燃料及び電源）ごとに最も厳しいシナリオを想定する。</p> <p>2号炉への対応に必要な緊急時対策所における活動、及び重大事故等対策に係る作業、アクセスルートの移動による現場の線量率を評価する際において、1号炉の状態は放射線遮蔽の観点で厳しい1号炉の燃料プールの全保有水喪失を想定する。</p> <p>※1：技術的能力 添付資料 1.0.16「重大事故等時における停止号炉の影響について」参照</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(7)</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時における屋外のアクセスルートへの影響について</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について、有効性評価で提示したケースを基に評価を行った。</p> <p>1. 前提条件 (1) 想定する重大事故等<有効性評価で説明> 必要となる対応操作、必要な要員及び資源を評価する際に想定する各号炉の状態を第1表に示す。 東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故及び共通要因による複数炉の重大事故等の発生の可能性を考慮し、泊発電所3号炉について、全交流動力電源喪失並びに使用済燃料ピットでの冷却機能喪失及び注水機能喪失の発生を想定する。 また、泊発電所1号及び2号炉については、全交流動力電源喪失及び使用済燃料ピットでのサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失が発生し、使用済燃料ピットの水位が低下する事故を想定する。 なお、1号及び2号炉の使用済燃料ピットにおいて、全保有水喪失を想定した場合、燃料被覆管のクリープラプチャ発生時間が約30日であり、相当な期間、燃料健全性が確保されることを確認したことから、使用済燃料ピットへの注水実施が必要となるサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失の発生を想定した[※]。</p> <p>また、不測の事態を想定し、1号及び2号炉のうち、いずれか1つの号炉において、事象発生直後に内部火災が発生していることを想定する。なお、水源評価に際しては、1号及び2号炉における消火活動による水の消費を考慮する。</p> <p>3号炉について、有効性評価の各シナリオのうち、必要な要員及び資源（水源、燃料及び電源）ごとに最も厳しいシナリオを想定する。</p> <p>※1：技術的能力 添付資料 1.0.16「重大事故等時における停止号炉の影響について」参照</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】想定する重大事故等の相違</p> <p>・女川及び島根は複数炉の同時被災時に必要な要員及び資源の十分性を評価する上で保守的となるスロッシングの発生を想定している。</p> <p>また、線量率を評価する上では放射線遮蔽の厳しい燃料プールの全保有水喪失を想定している。</p> <p>・泊3号炉は、有効性評価「全交流動力電源喪失」及び「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」と同様、全交流動力電源喪失による使用済燃料ピットでの冷却機能喪失及び注水機能喪失について想定している。</p> <p>・泊1号及び2号炉も女川と同様に、複数炉の同時被災時に必要な要員及び資源の十分性を評価する上で保守的となり、かつスロッシングよりも事象発生初期に使用済燃料ピット水位が低下する事象である使用</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 必要となる対応操作、必要な要員及び資源の整理 「(1) 想定する重大事故等」にて必要となる対応操作、必要な要員、7日間の対応に必要なとなる資源、各作業の所要時間について、第2表及び第1図のとおり整理する。また、各号炉の必要な水量を第3表、1号及び3号炉の注水及び給電に用いる設備の台数を第4表に示す。</p> <p>(3) 想定する高線量場発生 2号炉への対応に必要なとなる緊急時対策所における活動、重大事故等対策に関する作業及びアクセスルートの移動による現場線量率の概略を第2図、第3図に示す。</p>	<p>(2) 必要となる対応操作及び必要な要員及び資源の整理 「(1) 想定する重大事故等」にて必要となる対応操作、必要な要員、7日間の対応に必要なとなる資源、各作業の所要時間について、第2表及び第1図のとおり整理する。また、各号炉の必要な水量を第3表、1号炉の注水及び給電に用いる設備の台数を第4表に示す。</p> <p>(3) 想定する高線量場発生 2号炉への対応に必要なとなる緊急時対策所における活動、及び重大事故等対策に係る作業、アクセスルートの移動による現場線量率の概略を第2図～第3図に示す。</p>	<p>(2) 必要となる対応操作、必要な要員及び資源の整理 「(1) 想定する重大事故等」にて必要となる対応操作、必要な要員、7日間の対応に必要なとなる資源、各作業の所要時間について、第2表及び第1図のとおり整理する。また、1号及び2号炉の注水及び給電に用いる設備の台数を第3表に示す。</p> <p>(3) 想定する高線量場発生 3号炉への対応に必要なとなる緊急時対策所における活動及び重大事故等対策に関する作業及びアクセスルートの移動による現場線量率の評価点の概略を第2図、第3図に示す。</p>	<p>済燃料ピットでのサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失が発生し、使用済燃料ピットの水位が低下する事故を想定している。また、線量率等がスロッシングより厳しい全保有水喪失を評価対象とした。</p> <p>【女川及び島根】設備の相違 ・女川及び島根は淡水を水源としているため、必要な水量を表に整理している。 ・泊は海水を水源としているため、表に必要な水量は整理していない。</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・女川及び島根は線量率の概略分布を図で示しているのに対し、泊はアクセスルートの移動経路に被ばくの評価点を示しているため、記載内容が異なる。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について</p> <p>アクセスルートへの影響については、1号及び3号炉の使用済燃料プールで全保有水が喪失した場合の現場線量率をもとに評価した。第2図、第3図に、線量率の概略を示す。</p> <p>(1) 緊急時対策所への参集及び保管場所への移動による影響</p> <p>緊急時対策所への参集については、事務建屋又は事務本館からのアクセスルートにおける周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべりを考慮した徒歩の総移動時間は約20分であり、各エリアでの移動時間及び第2図の現場線量率（1号炉からの線量率：0.33mSv/h、3号炉からの線量率：4.5mSv/h）の関係より移動にかかる被ばく線量は約1.7mSvとなる。</p> <p>また、緊急時対策所から第1～第4保管エリアへの移動等における被ばく線量の一例として、緊急時対策所から第3保管エリア（保守性を考慮し最も1号及び3号炉寄りの場所）への移動を考える。周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべりを考慮した場合、徒歩での総移動時間は約20分であり、各エリアでの移動時間及び第2図の現場線量率（1号炉からの線量率：1.2mSv/h、3号炉からの線量率：3.2mSv/h）の関係より移動にかかる被ばく線量は約1.5mSvとなる。</p> <p>なお、線量率の高いエリアは限られることから、これらを極力避けることにより、被ばく線量を抑えることができる。また、徒歩での移動に比べ車両で移動した場合は総移動時間及び被ばく線量は小さくなる。</p>	<p>2. 1～3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について</p> <p>アクセスルートへの影響については、1号炉の燃料プールで全保有水が喪失した場合の現場線量率をもとに評価した。第2図に、線量率の概略を示す。</p> <p>(1) 緊急時対策所への参集及び保管場所への移動による影響</p> <p>緊急時対策所への参集については、管理事務所又は宿泊場所からのアクセスルートにおける徒歩の総移動時間は約10分であり、各エリアでの移動時間及び第2図の現場線量率の関係より移動にかかる被ばく線量は約1.7mSvとなる。</p> <p>また、緊急時対策所から各保管エリアへの移動等における被ばく線量の一例として、緊急時対策所から第4保管エリア（保守性を考慮し最も移動時間がかかるエリア）への移動を考える。徒歩での総移動時間は約40分であり、各エリアでの移動時間及び第2図の現場線量率の関係より移動にかかる被ばく線量は約0.45mSvとなる。</p> <p>なお、線量率の高いエリアは限られることから、これらを極力避けることにより、被ばく線量を抑えることができる。また、徒歩での移動に比べ車両で移動した場合は総移動時間及び被ばく線量はより小さくなる。</p>	<p>2. 1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートへの影響について</p> <p>アクセスルートへの影響については、1号及び2号炉の使用済燃料ピットで全保有水が喪失した場合の現場線量率を基に評価した。第2図、第3図に評価点を示す。</p> <p>(1) 緊急時対策所への参集及び緊急時対策所近傍の屋外作業による影響</p> <p>緊急時対策所への参集については、総合管理事務所からのアクセスルートにおける徒歩の移動時間は、第2図に示す複数の緊急時対策所への参集ルートのうちAルートの場合約10分であり、緊急時対策所への参集ルート上で、1号及び2号炉の使用済燃料ピット内の使用済燃料からの線量影響が最大となる地点（2号炉使用済燃料ピット最近接点）における線量率（1号炉からの線量率：約0.32mSv/h、2号炉からの線量率：約6.0mSv/h）より移動にかかる被ばく線量は約1.1mSvとなる。</p> <p>なお、線量率の高いエリアは限られることから、これらを極力避けることにより、被ばく線量を抑えることができる。また、徒歩での移動に比べ車両で移動した場合は総移動時間及び被ばく線量はより小さくなる。</p> <p>また、緊急時対策所近傍の屋外作業となる緊急時対策所用発電機への燃料補給作業については、第2図の燃料補給作業地点における線量率（1号炉からの線量率：約0.27mSv/h、2号炉からの線量率：約0.038mSv/h）より燃料補給作業にかかる被ばく線量は7日間の作業を考慮しても約0.12mSvとなる。</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川及び島根は線量率の概略を図で示している。泊は評価点を図で示している。 <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構内常駐場所から緊急時対策所への参集時の被ばく線量を算出しており、移動時間、線量及び被ばく線量評価の相違。 <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川及び島根は、被ばく線量の一例として、緊急時対策所から保管場所への被ばく線量評価を記載している。泊は、緊急時対策所近傍での屋外作業の被ばく線量評価を記載している。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>よって、高線量場の発生を含め、1号及び3号炉に重大事故等が発生した場合であっても、2号炉の重大事故等への対応作業のためのアクセスは可能であり、重大事故等時における活動が可能である。</p> <p>また、固体廃棄物貯蔵所に保管されている低レベル放射性廃棄物からの放射線についてはアクセスルートに対して十分な隔離距離が確保されていること、遮蔽能力を有した建物内に保管されていることから影響はない。</p> <p>(2) 2号炉の重大事故等への対応作業への影響</p> <p>2号炉の重大事故等への対応作業のうち、比較的時間を要する操作として原子炉補機代替冷却系の準備操作（資機材配置及びホース敷設、起動及び系統水張り）が想定されるが、当該操作場所及びアクセスルートに対する線量率は、第3図に示すとおり3号炉近傍が最も高い箇所（約4.9mSv/h（1号炉からの線量率：0.33mSv/h、3号炉からの線量率：4.5mSv/h）となる。</p> <p>当該操作の想定時間は9時間であるが、線量率の高いエリアは限られ、この想定時間には当該操作場所への移動時間も含まれている。また、起動後には監視が必要となるが、当該監視における被ばく線量率は約2.3mSv/hであることから、常駐している要員にて被ばく線量を管理し交代しながら対応を継続していくことが可能である。</p> <p>さらに、事象発生12時間以降参集してくる要員による交代も可能であることから、緊急時被ばく線量を超えることはない。</p> <p>また、固体廃棄物貯蔵所に保管されている低レベル放射性廃棄物からの放射線についてはアクセスルートに対して十分な隔離距離が確保されていること、遮蔽能力を有した建物内に保管されていることから影響はない。</p>	<p>よって、高線量場の発生を含め、1号炉に重大事故等が発生した場合であっても、2号炉の重大事故等への対応作業のためのアクセスは可能であり、重大事故等時における活動が可能である。</p> <p>(2) 2号炉の重大事故等への対応作業への影響</p> <p>2号炉の重大事故等への対応作業のうち、比較的時間を要する操作として原子炉補機代替冷却系の準備操作（資機材配置及びホース敷設、起動及び系統水張り）を想定しているが、1号炉の燃料プールに近い2号炉での当該操作場所での線量率は、第2図に示す線量率を内挿すると約5mSv/hとなる。</p> <p>当該操作の想定操作時間は約7時間20分であること、及びこの想定操作時間には当該操作場所への移動時間も含まれていること、あるいは参集要員による操作要員の交代も可能であることから、重大事故等時における活動が可能である。</p>	<p>よって、高線量場の発生を含め、1号及び2号炉に重大事故等が発生した場合であっても、3号炉の重大事故等への対応作業のためのアクセスは可能であり、重大事故等時における活動が可能である。</p> <p>(2) 3号炉の重大事故等への対応作業への影響</p> <p>3号炉の重大事故等への対応作業のうち、作業員の被ばくの観点から結果が最も厳しくなる有効性評価「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」の燃料取替用水ビットへの補給（海水）、使用済燃料ビットへの注水確保（海水）及び原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）への影響について確認した。</p> <p>各評価点は第3図、当該作業の作業時間は、第4表のとおりであり、燃料取替用水ビットへの補給（海水）、使用済燃料ビットへの注水確保（海水）及び原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の作業それぞれについて、作業員の被ばく線量は、それぞれ約39mSv、約18mSv、約23mSvであるが、1号及び2号炉の使用済燃料ビットにおいて高線量場が発生した場合であっても、被ばく線量の増加分はそれぞれ約5mSv、約4mSv、約2mSvであるため作業性に影響はない。</p> <p>また、当該作業は、常駐している要員にて被ばく線量を管理し交代しながら対応を継続していくことが可能である。</p> <p>さらに、事象発生12時間以降参集してくる要員による交代も可能であることから、緊急時被ばく線量を超えることはない。</p> <p>よって、高線量場の発生を含め、1号及び2号炉に重大事故等が発生した場合であっても、3号炉の重大事故等への対応作業のためのアクセスは可能であり、重大事故等時における活動が可能である。</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被ばく線量を考慮した操作にて評価していることに相違はない。 ・泊は作業時間を示した表を整理している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートの輻輳性について</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートの輻輳性について、徒歩での移動によるアクセスルートの輻輳は考えづらいことから車両移動時の輻輳性について考慮する。</p> <p>地震による被害想定一覧を第4図に示す。</p> <p>(1) 可搬型設備の移動の特徴</p> <p>女川原子力発電所の保管場所は、第1～第4保管エリアの2箇所に重大事故等の対応に使用する可搬型設備が設置されている。大型可搬型設備は保管エリアから設置場所に移動する際の往路のみとなるが、タンクローリヤホース延長回収車等は、保管エリア等を往復となることが可搬型設備の移動における特徴である。</p> <p>(2) 検討内容</p> <p>保管場所からの可搬型設備の移動において、第1～第4保管エリアから2号炉の使用場所までのアクセスルートのうち、</p> <p>①建物の損壊等の影響により仮復旧する範囲 ②段差の発生の影響により仮復旧する範囲</p> <p>となる箇所を第5図に示す。</p> <p>第1～第4保管エリアから2号炉に向かうアクセスルートで仮復旧を行う道路部分が片側通行となるが、大型可搬型設備は設置場所に移動する際の往路のみとなるため、車両の通行性に影響はない。</p> <p>なお、タンクローリヤホース延長回収車等についても、発電所対策本部が各車両と無線連絡設備（携帯型）等により相互連絡することにより、車両の離合による時間は問題ないと考える。</p> <p>なお、1号及び3号炉への対処として、使用済燃料プールへの代替注水車による注水（第1図）及びタンクローリによる給油が考えられるが、これらについても、可搬型設備の移動はタンクローリを除き保管場所から当該号炉への1方向となること、また、注水が必要になるタイミングまで十分な時間的余裕があること（第3表）から、アクセスルートの輻輳の要因とはならず、対応作業への影響はないと考える。</p>	<p>3. 1～3号炉同時被災時におけるアクセスルートの輻輳性について</p> <p>1～3号炉同時被災時におけるアクセスルートの輻輳性について、徒歩での移動によるアクセスルートの輻輳は考えづらいことから車両移動時の輻輳性について考慮する。</p> <p>地震による被害想定一覧を第3図に示す。</p> <p>(1) 可搬型設備の移動の特徴</p> <p>島根原子力発電所の保管場所は、第1、2、3及び4保管エリアの4箇所に可搬型設備が設置されている。このため、可搬型設備はタンクローリを除き、保管場所から設置場所に移動する際の往路のみとなるため、車両の流れは基本的には1方向になることが可搬型設備の移動における特徴である。（第3図）</p> <p>(2) 検討内容</p> <p>保管場所からの可搬型設備の移動において、第1、2、3及び4保管エリアから2号炉の使用場所までのアクセスルートのうち、仮復旧の必要はないが、車両が交互通行となるアクセスルート（幅員7m未満）となる箇所を第4図に示す。</p> <p>第1、4保管エリアから2号炉に向かうアクセスルート及び第2、3保管エリアから作業場所へ向かうアクセスルートの一部で片側通行となるが、タンクローリを除き、可搬型設備は設置場所に移動する際の往路のみとなるため、車両の通行性に影響はない。</p> <p>なお、1号炉への対処として、燃料プールへの大量送水車による注水（第1図）及びタンクローリによる給油が考えられるが、これらについても、可搬型設備の移動はタンクローリを除き保管場所から当該号炉への1方向となること、また、注水が必要になるタイミングまで十分な時間的余裕があること（第3表）から、アクセスルートの輻輳の要因とはならず、対応作業への影響はないと考える。</p> <p>また、アクセスルートのうち道幅が狭い箇所（第4図）を各車両が通行する場合は、無線通信設備（携帯型）を使用し相互連絡することにより、交互通行が可能であることから、車両の通行性に影響はない。</p>	<p>3. 1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートの輻輳性について</p> <p>1号、2号及び3号炉同時被災時におけるアクセスルートの輻輳性について、徒歩での移動によるアクセスルートの輻輳は考えづらいことから車両移動時の輻輳性について考慮する。</p> <p>地震による被害想定一覧を第4図に示す。</p> <p>(1) 可搬型設備の移動の特徴</p> <p>泊発電所の保管場所は、51m倉庫・車庫エリア、1号炉西側31mエリア、1、2号炉北側31mエリア、2号炉東側31mエリア(a)及び2号炉東側31mエリア(b)の5箇所に重大事故等の対応に使用する可搬型設備が設置されている。大型可搬型設備は保管エリアから設置場所に移動する際の往路のみとなるが、可搬型タンクローリ及びホース延長・回収車（送水車用）は、保管エリア等を往復となることが可搬型設備の移動における特徴である。</p> <p>(2) 検討内容</p> <p>保管場所からの可搬型設備の移動において、51m倉庫・車庫エリア、1号炉西側31mエリア、1、2号炉北側31mエリア、2号炉東側31mエリア(a)及び2号炉東側31mエリア(b)から3号炉の使用場所までのアクセスルートのうち、仮復旧の必要はないが、車両が交互通行となるアクセスルート（幅員6m未満）となる箇所を第5図に示す。</p> <p>51m倉庫・車庫エリアから3号炉に向かうアクセスルートの一部で片側通行となるが、可搬型タンクローリ及びホース延長・回収車（送水車用）を除き、可搬型設備は設置場所に移動する際の往路のみとなるため、車両の通行性に影響はない。</p> <p>なお、可搬型タンクローリ及びホース延長・回収車（送水車用）についても、発電所対策本部が各車両と衛星携帯電話、電力保安通信用電話設備等により相互連絡することにより、車両の離合による時間は問題ないと考える。</p> <p>なお、1号及び2号炉への対処として、使用済燃料ピットへの可搬型大型送水ポンプ車によるスプレイ（第1図）及び可搬型タンクローリによる給油が考えられるが、これらについても、可搬型設備の移動は可搬型タンクローリを除き保管場所から当該号炉への1方向となること、また、1.(1)で示すとおり、使用済燃料ピットの冷却水が全量喪失した場合において、燃料被覆管のクリープブランチ発生時間が約30日であり、十分な時間的余裕があることから、アクセスルートの輻輳の要因とはならず、対応作業への影響はないと考える。</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・泊は往復する可搬型設備があるため記載。</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・プラントの相違による片側通行となる範囲又は車両が交互通行となるアクセスルートの幅員の相違。</p> <p>【女川及び島根】設計方針の相違 ・1.0.2-補足7-1の想定する重大事故等の相違と同じ相違理由。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 評価結果</p> <p>上記2～3.の評価及び対策により、1～3号炉が同時に発災しても、2号炉重大事故等の対応については影響を与えないことを確認した。</p>	<p>4. 評価結果</p> <p>上記2～3.の評価及び対策により、1号、2号及び3号炉が同時に被災しても、3号炉重大事故等の対応については影響を与えないことを確認した。</p>	<p>【女川】記載内容の相違 ・泊は評価結果を記載。 【島根】記載表現の相違</p>

1.0 重大事故等対策における共通事項

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第1表 想定する各号炉の状態

項目	3号炉	1号及び3号炉
要員	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 使用済燃料プールでのスロロッシング発生 「想定事故2」※1 「高圧・低圧注水機能喪失」 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失※2 使用済燃料プールでのスロロッシング発生※3 内部火災※4
水源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 使用済燃料プールでのスロロッシング発生 「想定事故2」※1 「高圧・低圧注水機能喪失」 	
燃料	<ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失※2 使用済燃料プールでのスロロッシング発生 「想定事故2」※1 「高圧溶融物放出/格納容器雰囲気直接加熱」 	
電源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 使用済燃料プールでのスロロッシング発生 「想定事故2」※1 「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）（代替降霜冷却却系を使用する場合）」 	

※1 サイフォン現象による溢水量は、スロロッシングによる漏えい量に包絡されるため、使用済燃料プールからの漏えいはスロロッシングによる漏えいを想定する。
 ※2 燃料については、消費量の観点から非常用ディーゼル発電機及び高圧心スプレィ系ディーゼル発電機の運転を想定する。
 ※3 使用済燃料プールへの注水が必要となることから、1号及び3号炉での内部火災の発生を想定する。また、1号及び3号炉で管線の内部火災を想定されるが、時間差で発生するが、時間差で発生することを想定し、全交流動力電源喪失及び使用済燃料プールにおけるスロロッシング発生と同時に発生する内部火災として1つの号炉とする。ただし、消火活動に必要な水源は、1号及び3号炉分の消費を想定する。

第1表 想定する各号炉の状態

項目	2号炉	1号炉
要員	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 燃料プールでのスロロッシング発生 「3.1.3 雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）（残留熱代替却系を使用しない場合）」 「4.2 想定事故2」※1 	
水源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 燃料プールでのスロロッシング発生 「2.1 高圧・低圧注水機能喪失」, 「2.4.2 崩壊解除去機能喪失（残留熱除去系が故障した場合）」 「4.2 想定事故2」※1 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失※2 燃料プールでのスロロッシング発生 内部火災※3
燃料	<ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 燃料プールでのスロロッシング発生 「2.1 高圧・低圧注水機能喪失」, 「2.4.2 崩壊解除去機能喪失（残留熱除去系が故障した場合）」, 「2.6 LOCA時注水機能喪失」 「4.2 想定事故2」※1 	
電源	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 燃料プールでのスロロッシング発生 「2.3.1 全交流動力電源喪失（共用TB）」 「4.2 想定事故2」※1 	

※1：サイフォン現象による漏えいは、サイフォンブレイク配管により停止される。
 ※2：燃料については、消費量の観点から非常用ディーゼル発電機及び高圧心スプレィ系ディーゼル発電機の運転を想定する。
 ※3：2号炉は火災防護措置が強化されることから、1号炉での内部火災を想定する。

第1表 想定する各号炉の状態

項目	3号炉	1号及び2号炉
要員	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 「想定事故1」 「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 使用済燃料ピットでのサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失が発生し、使用済燃料ピットの水位が低下する事故を想定 内部火災※2
水源	<ul style="list-style-type: none"> 「想定事故1」 「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」 「全交流動力電源喪失（外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールロータリーが発生する事故）」 外部電源喪失※3 	
燃料	<ul style="list-style-type: none"> 「想定事故1」 全交流動力電源喪失 	
電源	<ul style="list-style-type: none"> 「想定事故1」 「全交流動力電源喪失（外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールロータリーが発生する事故）」 	

※1：燃料については、消費量の観点からディーゼル発電機の運転を想定する。
 ※2：3号炉は火災防護措置が強化されることから、1号及び2号炉での内部火災の発生を想定する。また、1号及び2号炉で管線の内部火災を想定することが考えられるが、時間差で発生することを想定し、全交流動力電源喪失及び使用済燃料ピットでのサイフォン現象等により使用済燃料ピット内の水の小規模な喪失が発生し、使用済燃料ピットの水位が低下する事故と同時に発生する内部火災として1つの号炉とする。ただし、消火活動に必要な水源は1号及び2号炉分の消費を想定する。

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

【女川及び島根】記載内容の相違
 ・各プラントによる想定するプラント状態の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

項目	1号炉		2号炉		3号炉	
	炉	SFP	炉	SFP	炉	SFP
炉心燃料	全燃料取り出し		全燃料取り出し		全燃料取り出し	
原子炉閉鎖状態	閉鎖（プールゲート閉）		閉鎖（プールゲート閉）		閉鎖（プールゲート閉）	
水位	オーバーフロー水位		オーバーフロー水位		オーバーフロー水位	
想定するプラントの状態	スロッシングによる沸騰、全交流動力電源喪失		スロッシングによる沸騰、全交流動力電源喪失		スロッシングによる沸騰、全交流動力電源喪失	
事業計画に喪失を想定する水量 [m ³]	316		212		212	
65℃到達までの時間 [h]	750 (約31日)		30		300	
100℃到達までの時間 [h]	不変		239		不変	
必要な注水量① [m ³] (約68k)	312		139		212	
必要な注水量② [m ³] (約68k)	1.3		1.3		1.3	
必要な注水量③ [m ³] (約68k)	1864 (約91日)		143 (約5日)		221 (約92日)	

※1 1号及び3号炉については、平成26年4月1日時点の燃焼率より算出。2号炉については、燃料取扱等を実施した燃料取出率により算出。2号炉は、燃料取扱等を実施した燃料取出率により算出。
 ※2 1号及び3号炉は、原子炉停止時に発生するスロッシングによる沸騰を想定する。2号炉は、原子炉停止時に発生するスロッシングによる沸騰を想定する。2号炉は、原子炉停止時に発生するスロッシングによる沸騰を想定する。
 ※3 設備（1号炉の燃料プール、原子炉建屋上層での燃料プール及びBSピット）は、原子炉停止時に発生するスロッシングによる沸騰を想定する。2号炉は、原子炉停止時に発生するスロッシングによる沸騰を想定する。
 ※4 「必要な注水量①」：蒸発による水位低下防止に必要な注水量。「必要な注水量②」：過剰水位での回復及びその後の水位維持に必要な注水量。
 ※5 2号炉の燃料プールの必要な注水量は、燃料取扱設備より約 6.1m³以上水位を有している。必要な注水量は約 1.3m³とする。必要な注水量は約 1.3m³とする。必要な注水量は約 1.3m³とする。

島根原子力発電所2号炉

第3表 1、2号炉に必要な水量

項目	1号炉		2号炉	
	炉	燃料プール	炉	燃料プール
炉心燃料	全燃料取り出し		全燃料取り出し	
原子炉開放状態	開放（プールゲート閉）		開放（プールゲート閉）	
水位	NWL		NWL	
想定するプラントの状態	スロッシングによる沸騰、全交流動力電源喪失		スロッシングによる沸騰、全交流動力電源喪失	
スロッシング注水量① [m ³]	180		180	
65℃到達までの時間 [hr]	111		重要事故シナシケンズ (2.1 高圧・低圧注水機能喪失、2.4.2 崩壊熱除去機能喪失 (残留熱除去系が故障した場合)) による	17.94
100℃到達までの時間 [hr]	266.4		394	43.07
必要な注水量② [m ³]	—		306.03	2.6
事象発生から100℃到達までの時間 [hr]	1,579		574	
必要な注水量③ [m ³]	180		574	

※1：停止措置中の1号炉は平成27年4月時点での燃焼率により算出。2号炉はプラント停止50日後の燃焼率により算出。
 ※2：1号炉の注水量は、2号炉の評価結果に基づきスロッシングによる注水量を算定。（1号炉の燃料プールは2号炉に比べて保水容量や表面積が小さいため注水量は少なくなると思われる）
 ※3：「必要な注水量②」：蒸発による水位低下防止に必要な注水量。「必要な注水量③」：過剰水位での回復及びその後の水位維持するために必要な注水量。
 ※4：2号炉の原子炉建屋上層での燃料プール4層（燃料取扱設備）での燃焼率を10mSv/L以下となる水位。燃焼率の計算に用いた1号炉の燃焼率の換算は保守的に設定（実測の燃焼率106体に対して1.039体換算している前提で算出）

泊発電所3号炉

相違理由

【女川及び島根】設備の相違
 ・女川及び島根は淡水を水源としているため、必要な水量を表に整理している。
 ・泊は海水を水源としているため、表に整理していない。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第4表 1号及び3号炉の注水及び給電に用いる設備の台数

記載は設置台数であり、() 内はその系統のみで注水するのに必要な台数

	1号炉	3号炉	共通	備考
注水設備	燃料プール補給水系	2 (1)	—	全交流動力電源喪失時は電源車による給電を実施することで使用可能
	復水補給水系	2 (1)	—	全交流動力電源喪失時は電源車による給電を実施することで使用可能
	ろ過水系	2 (1) ※1	—	全交流動力電源喪失時は電源車による給電を実施することで使用可能
	代替注水車	1 (1)	1	
給電設備	1 (1)	2 (2)	1	

※1 ろ過水ポンプは2号炉と共用で3台設置されているが、1号炉用電源から給電される台数が2台、2号炉用電源から給電される台数が1台である。

※2 1号炉ろ過水系により、3号炉使用済燃料プールへ注水が可能である。

島根原子力発電所2号炉

第4表 1号炉の注水及び給電に用いる設備の台数

記載は設置台数であり、() 内はその系統のみで注水するのに必要な台数

	1号炉	共通	備考
注水設備	復水輸送系	—	全交流動力電源喪失時は高圧発電機車による給電を実施すること で使用可能
	補給水系	—	全交流動力電源喪失時は高圧発電機車による給電を実施すること で使用可能
	消火系	—	全交流動力電源喪失時は高圧発電機車による給電を実施すること で使用可能
	大量送水車	1 (1)	十分な余裕があるため、1台を用いて、必要な箇所に順次注水を 実施していくことが可能
給電設備	1 (1)	必要な台数に対して十分 な台数を保有(1)	十分な余裕があるため、1台を用いて、必要な箇所に順次給電を 実施していくことが可能

第3表 1号及び2号炉の注水及び給電に用いる設備の台数

	記載は設置台数であり、() 内はその系統のみで注水するのに必要な台数			備考
	1号炉	2号炉	共通	
注水設備	燃料取替用水ポンプ (水源：燃料取替用水タンク)	2 (1)	—	全交流動力電源喪失時は移動発電機車による 給電を実施することで使用可能
	1次系補給水ポンプ (水源：1次系純水タンク)	2 (1)	—	全交流動力電源喪失時は移動発電機車による 給電を実施することで使用可能
	補給水ポンプ (水源：2次系純水タンク)	—	—	全交流動力電源喪失時は移動発電機車による 給電を実施することで使用可能
	送水ポンプ車 (水源：海)	1 (1)	1 (1)	—
給電設備	2 (1)	2 (1)	—	—

※1：補給水ポンプは1号炉と2号炉の共用で3台設置されているが、1号炉用電源から給電される台数が2台、2号炉用電源から給電される台数が1台である。

相違理由

【女川及び島根】記載内容の相違
 ・各プラントによる注水及び給電に用いる設備の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

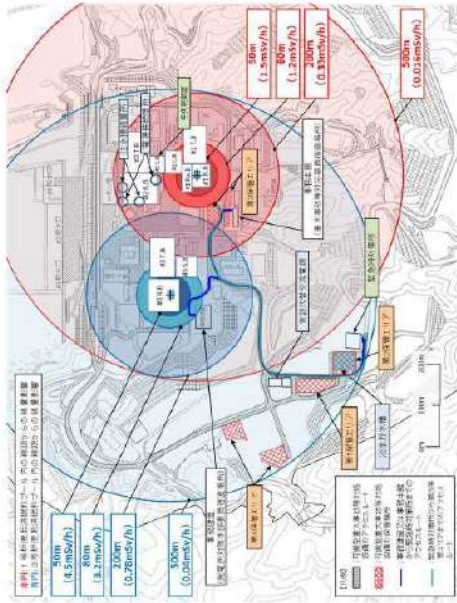
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第4表 作業員の対応手順と所要時間（屋外作業）</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は3号炉の作業時間を示すため、表に整理している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

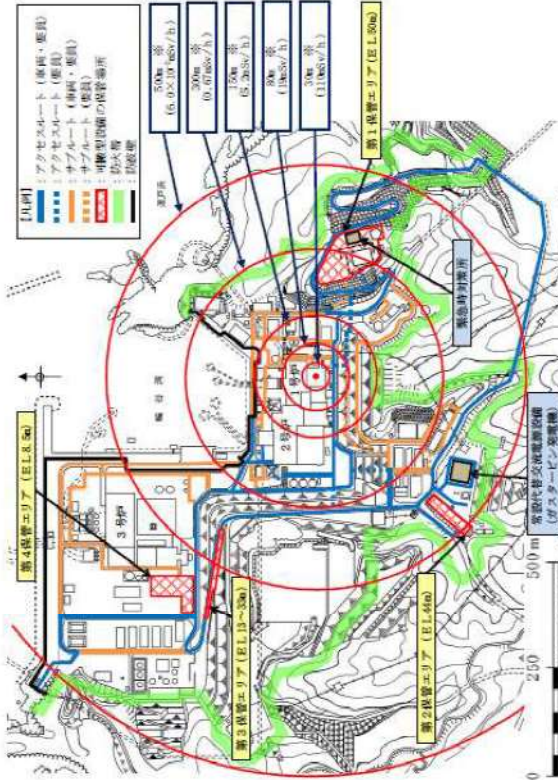
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉



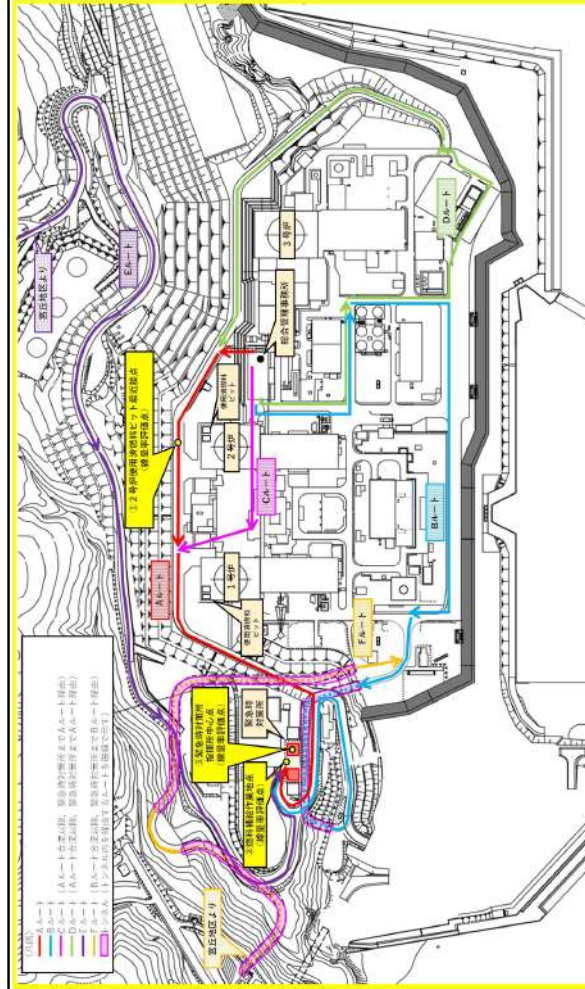
第2図 線量率の概略分布と要員のアクセスルート

島根原子力発電所2号炉



第2図 線量率の概略分布（1号炉での高線量発生時）

泊発電所3号炉



第2図 緊急時対策所への参集ルート等を踏まえた評価点

相違理由

【女川及び島根】記載内容の相違
 ・女川及び島根は線量率の概略分布を示しており、泊は評価点を示している。
 ・上記理由として、泊発電所敷地内は標高差があるため、エリアを円で区分した場合、同一円内でも標高の高い地点と低い地点での評価値の差が大きくなり、標高の低い地点に対し過度に保守的な評価値を示すこととなってしまふことから、ルート上の評価点で線量を算出している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川及び島根は線量率の概略分布を示しており、泊は評価点を示している。 ・上記理由として、泊発電所敷地内は標高差があるため、エリアを円で区分した場合、同一円内でも標高の高い地点と低い地点での評価値の差が大きくなり、標高の低い地点に対し過度に保守的な評価値を示すこととなってしまふことから、ルート上の評価点で線量を算出している。 <p>第3区(1/3) 燃料取扱用水ピットへの補給（海水）の作業動線と評価点</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第3図(2/3) 使用済燃料ピットへの注水確保(海水)の作業動線と評価点</p>	<p>相違理由</p>

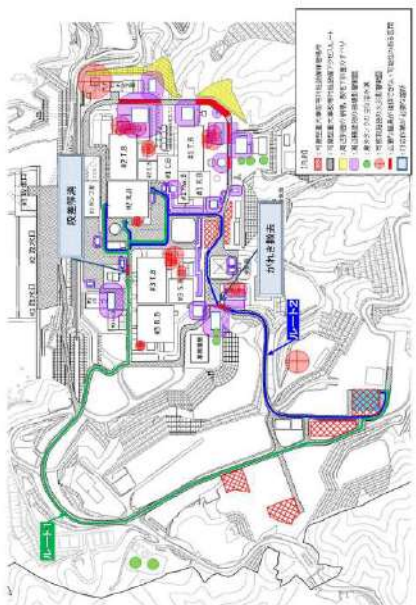
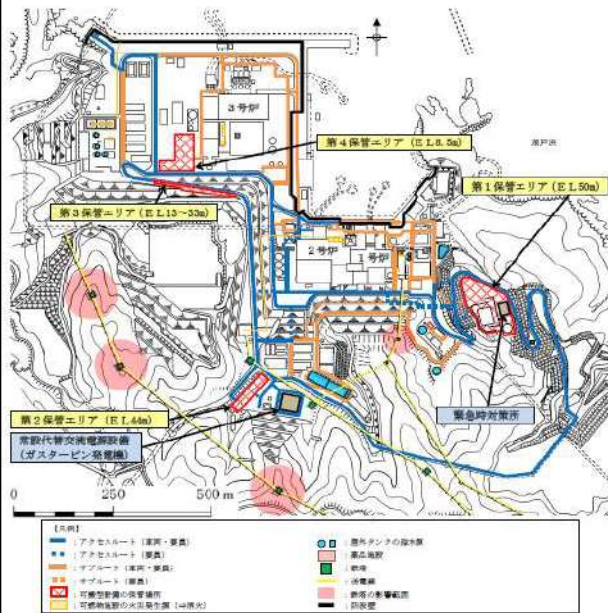
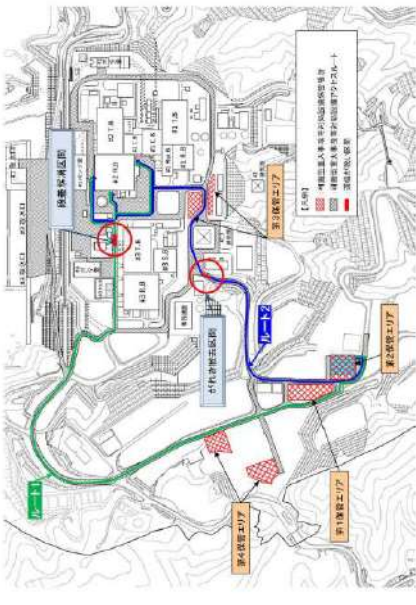
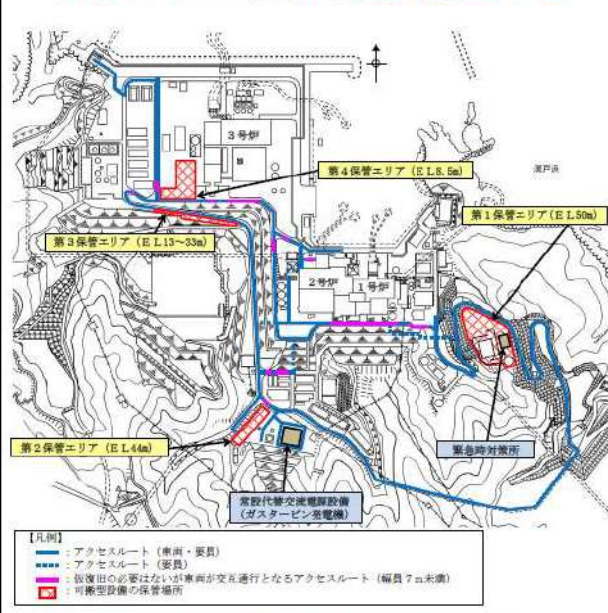
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第3図(3/3) 原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の作業動線と評価点</p>	

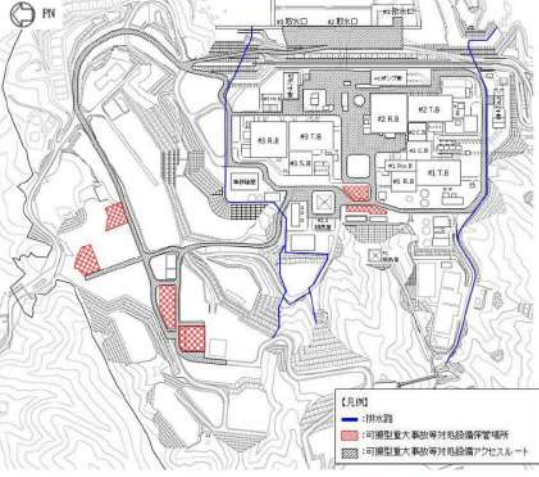
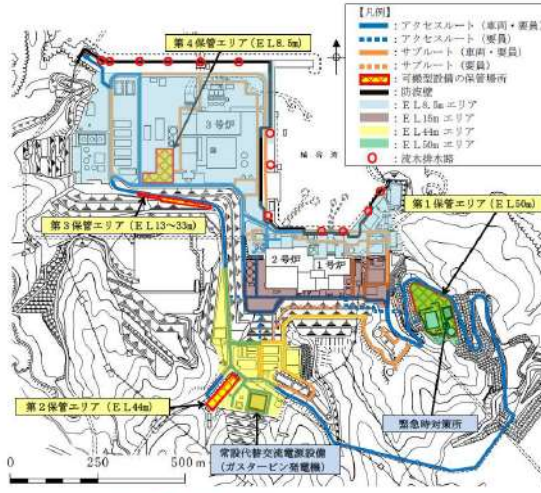

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第4図 屋外アクセスルートにおける地震後の被害想定（一覧）</p>	 <p>第3図 アクセスルートにおける地震後の被害想定（一覧）</p>	<div style="border: 2px solid black; height: 100%; width: 100%;"></div> <p>第4図 アクセスルートにおける地震後の被害想定（一覧）</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・各プラントによる地震時の被害想定相違。</p>
 <p>第5図 アクセスルートのうち道幅が狭い箇所</p>	 <p>第4図 アクセスルートのうち道幅が狭い箇所</p>	<div style="border: 2px solid black; height: 100%; width: 100%;"></div> <p>第5図 アクセスルートのうち道幅が狭い箇所</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・各プラントによるアクセスルートにおける道路幅が狭い箇所の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(9)</p> <p style="text-align: center;">保管場所及び屋外アクセスルートの点検状況について</p> <p>保管場所、屋外アクセスルート及びそれらの周辺斜面並びに構内排水路等について、以下に示すように定期的に土木専門技術者による点検を行い、健全性を確認する。また、台風、地震、大雨、強風、津波等が発生した場合には、土木専門技術者による臨時点検を行い、必要に応じて補修工事を実施する。</p> <p>屋外アクセスルートについては、復旧が可能な重機や砕石等の資機材をあらかじめ備えており（別紙(23)）、屋外アクセスルートの性能が維持できる運用を整えている。</p> <p>また、構内排水路については、設計基準としての降水量（91mm/h）に対し、降水が敷地内に滞留しないような設計としていることから、屋外アクセスルートのアクセス性に支障がないことを確認している（別紙(6)）。</p> <p>第1図に保管場所、屋外アクセスルート及び構内排水路の配置を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保管場所：外観目視点検を1回/年 ○屋外アクセスルート：外観目視点検を1回/年 ○保管場所及び屋外アクセスルート周辺斜面：外観目視点検を1回/年 ○構内排水路：外観目視点検を1回/年  <p style="text-align: center;">第1図 保管場所、屋外アクセスルート及び構内排水路図</p>	<p style="text-align: right;">別紙(21)</p> <p style="text-align: center;">保管場所及び屋外のアクセスルート等の点検状況</p> <p>保管場所、アクセスルート及びそれらの周辺斜面並びに排水路等について、以下に示すように定期的に土木専門技術者による点検を行い、健全性を確認する。また、台風、地震、大雨、強風、津波等が発生した場合には土木専門技術者による臨時点検を行い、必要に応じて補修工事を実施する。</p> <p>保管場所、アクセスルート及びそれらの周辺斜面については、応急復旧が可能な重機や砕石等の資機材をあらかじめ備えており（別紙(9)参照）、当該設備の性能が維持できる運用・管理体制を整えている。また、排水路については、十分な排水能力を有しており、敷地内に滞留するおそれはなく、アクセスルートのアクセス性に支障がないことを確認した。（別紙(26)参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保管場所：外観目視点検を1回/年 ○アクセスルート：外観目視点検を1回/年 ○保管場所及びアクセスルート周辺斜面：外観目視点検を1回/年 ○フラップゲート：動作確認、外観目視点検を1回/年 ○排水路：外観目視点検を1回/年 <p style="text-align: center;">第1図に保管場所及びアクセスルートの配置を示す。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 保管場所及びアクセスルート</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(8)</p> <p style="text-align: center;">保管場所及び屋外のアクセスルート等の点検状況</p> <p>保管場所、アクセスルート及びそれらの周辺斜面並びに構内排水設備等について、以下に示すように定期的に土木専門技術者による点検を行い、健全性を確認する。また、台風、地震、大雨、強風、津波等が発生した場合には、土木専門技術者による臨時点検を行い、必要に応じて補修工事を実施する。</p> <p>保管場所、アクセスルート及びそれらの周辺斜面については、復旧が可能な重機や砕石等の資機材をあらかじめ備えており（別紙(22)）、当該設備の性能が維持できる運用・管理体制を整えている。</p> <p>また、構内排水設備については、設計基準としての降水量（57.5mm/h）に対し、降水が敷地内に滞留しないような設計としていることから、アクセスルートのアクセス性に支障がないことを確認している（別紙(6)）。</p> <p>第1図に保管場所、アクセスルート及び構内排水設備の配置を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保管場所：外観目視点検を1回/年 ○アクセスルート：外観目視点検を1回/年 ○保管場所及びアクセスルート周辺斜面：外観目視点検を1回/年 ○フラップゲート：動作確認、外観目視点検を1回/年 ○構内排水設備：外観目視点検を1回/年  <p style="text-align: center;">第1図 保管場所、アクセスルート及び構内排水設備図</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違・泊はフラップゲートの確認を実施。</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p>

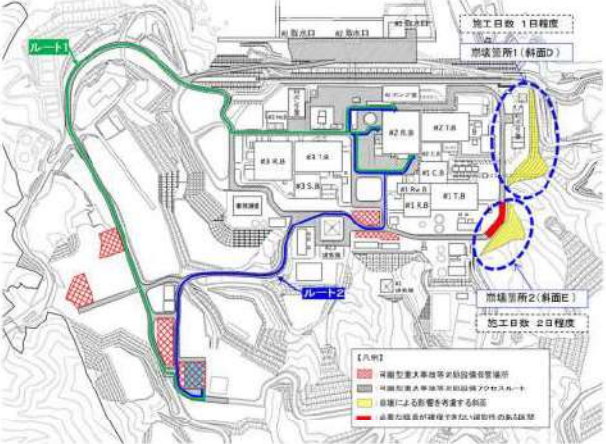
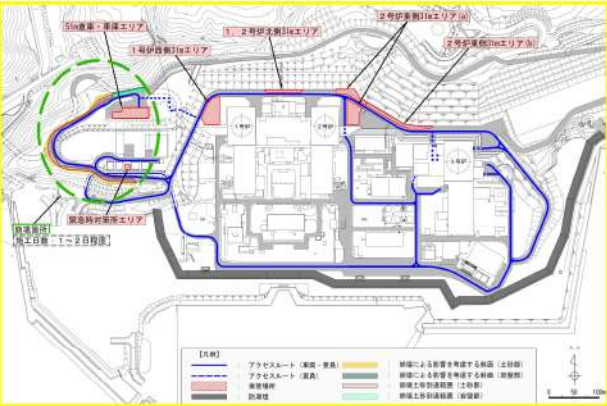
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">補足資料(10)</p> <p style="text-align: center;">仮復旧後の対応について</p> <p>1. 仮復旧後の対応について 仮復旧後の余震や降雨による二次的被害を防止するため、仮復旧後速やかに、法面整形（緩勾配化、土羽うち）及び通行幅の拡幅作業に移る。さらに、運搬車両等の搬入が可能となったのち、本復旧（土砂掘削運搬、法面補強等）を実施する。</p> <p><仮復旧> 熱交換器ユニットが通行可能となる通行幅3.7mを確保 →道路脇に押土ブルドーザによる作業</p> <p><二次的被害防止> 余震や降雨による二次的被害の防止 →法面の整形（緩勾配化、土羽打ち） →通行幅の拡幅（6.0m程度） バックホウ・ホイールローダによる作業</p> <p><本復旧> 従前道路幅の確保、法面の安定化 →土砂の本格掘削及び運搬 →法面の整形、補強 バックホウ+運搬車両による作業</p> 	<p style="text-align: center;">該当箇所なし</p>	<p style="text-align: center;">補足資料(9)</p> <p style="text-align: center;">土砂撤去後の対応について</p> <p>1. 土砂撤去後の対応について 土砂撤去後の余震や降雨による二次的被害を防止するため、土砂撤去後速やかに、法面整形（緩勾配化、土羽打ち）及び通行幅の拡幅作業に移る。さらに、運搬車両等の搬入が可能となったのち、本復旧（土砂掘削運搬、法面補強等）を実施する。</p> <p><土砂撤去（※）> 必要な道路幅4.0mを確保 →道路脇に押土ホイールローダによる作業</p> <p>※：屋外のアクセスルートでは想定されない作業であるが、万一、必要な道路幅が確保されない場合は、当該作業を実施する。</p> <p><二次的被害防止> 余震や降雨による二次的被害の防止 →法面の整形（緩勾配化、土羽打ち） →通行幅の拡幅（6.0m程度） バックホウ・ホイールローダによる作業</p> <p><本復旧> 従前道路幅の確保、法面の安定化 →土砂の本格掘削及び運搬 →法面の整形、補強 バックホウ+運搬車両による作業</p> 	<p>【女川】記載内容の相違 ・泊は仮復旧作業が想定されないことによる相違。 【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・必要な道路幅の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・復旧用重機の相違。 【女川】記載内容の相違 ・泊は仮復旧作業が想定されないことによる相違。</p>

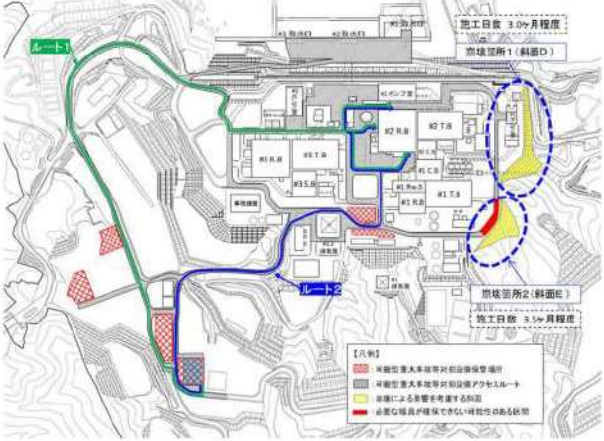
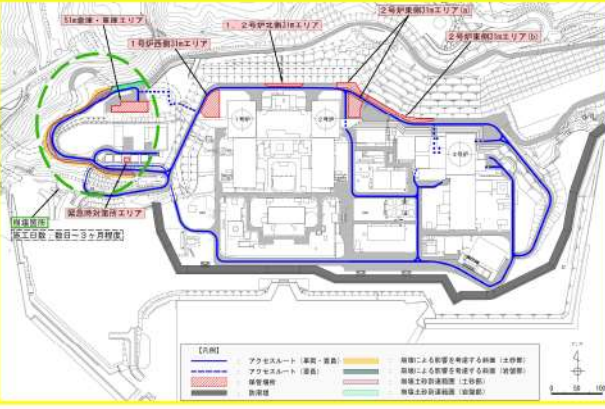
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 二次的被害防止対策について</p> <p>道路に流入した土砂を撤去し、道路幅員を3.7mから6.0m程度に拡幅後、法面勾配（緩勾配化、土羽打ち）を実施する。1箇所当たりの復旧に要する期間は1日～2日程度であり、復旧に当たっては、早期に復旧可能な箇所や主要なルートを優先的に復旧するなど、合理的な事故処理に努める。</p>  <p>第1図 二次的被害防止対策箇所</p>		<p>2. 二次的被害防止対策について</p> <p>道路に流入した土砂を撤去し、道路幅員を4.0mから6.0m程度に拡幅後、法面勾配（緩勾配化、土羽打ち）を実施する。復旧に要する期間は1日～2日程度である。</p>  <p>第1図 二次的被害防止対策箇所</p>	<p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な道路幅の相違。 ・泊は復旧箇所が1箇所のための、優先的に復旧するルートはない。 <p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧箇所の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 本復旧対策について</p> <p>道路に流入した土砂を撤去（掘削及び運搬）するなど、従来の道路幅員まで拡幅後、法面整形及び安定化対策を実施する。1箇所当たりの復旧に要する時間は数日～3.5ヶ月程度であり、復旧に当たっては、早期に復旧可能なルートを優先的に復旧するなど、合理的な事故処理に努める。</p>  <p>第2図 本復旧対策箇所</p>		<p>3. 本復旧対策について</p> <p>道路に流入した土砂を撤去（掘削及び運搬）する等、従来の道路幅員まで拡幅後、法面整形及び安定化対策を実施する。復旧に要する時間は数日～3ヶ月程度である。</p>  <p>第2図 本復旧対策箇所</p>	<p>【女川】記載表現の相違 【女川】記載内容の相違 ・復旧日数の相違。 ・泊は復旧箇所が1箇所のための、優先的に復旧するルートはない。</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・復旧箇所の相違。</p>

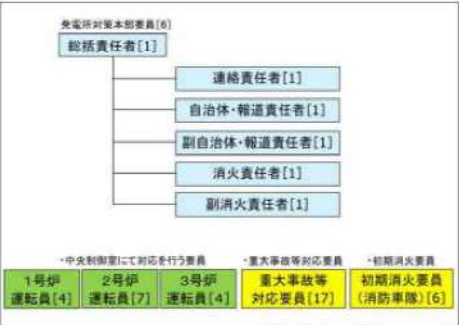
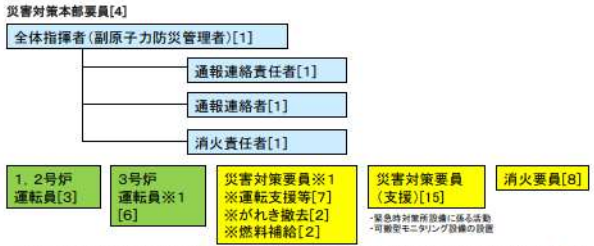
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉 補足資料(11) 発電所構外からの要員参集について 重大事故等発生時には発電所対策本部を設置する。原子力防災組織の要員は第1図に示すとおりであり、要員の招集が可能であることを確認した。 第1図 原子力防災組織の要員 (第2緊急体制) 夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においても、重大事故等が発生した場合に備えて、必要な初動対応を行うために44名が発電所に常駐している。事故対応に必要な有効性評価上のすべての初動対応は発電所に常駐する44名で対応可能である。 長期的な事故対応を行うために、事象発生後12時間を目途に発電所外の参集要員54名を招集・確保し、体制の拡大を図ることとしている。また、構外からの参集ルートは複数の陸路を確保しており、いずれのルートにおいても発電所に到着することができる。要員の呼出しは、自動呼出システム、通信連絡設備によって実施する。	島根原子力発電所2号炉 別紙 (22) 発電所構外からの要員の参集について	泊発電所3号炉 補足資料(10) 発電所構外からの要員参集について 重大事故等発生時には発電所対策本部を設置する。原子力防災組織の要員は第1図に示すとおりであり、要員の招集が可能であることを確認した。 第1図 原子力防災組織の要員 (参集要員招集後) 夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においても、重大事故等が発生した場合に備えて、必要な初動対応を行うために47名が発電所に常駐している。事故対応に必要な有効性評価上の初動対応は発電所に常駐する47名で対応可能である。 長期的な事故対応を行うために、事象発生後12時間を目途に発電所外の発電所災害対策要員51名を招集・確保し、体制の拡大を図ることとしている。また、構外からの参集ルートは複数の陸路を確保しており、いずれのルートにおいても発電所に到着することができる。要員の呼出しは、緊急時の呼び出しシステム、通信連絡設備によって実施する。	相違理由 【島根】記載方針の相違 ・泊は、要員参集について補足資料に整理した。(女川と同様) 【島根】記載方針の相違 ・泊は、重大事故等時の体制に係る概要を記載した。(女川と同様。) 【女川】体制の相違 ・要員数、要員の名称に相違はあるが、運転員、可搬型 SA 設備を用いて電源復旧活動や給水活動等を行う要員、緊急時対策所にて対応を行う各機能班の要員、消火活動を行う要員等、重大事故等時の対応に必要な要員を確保する方針であることについては女川と同様。(詳細は技術的能力1.0で整理)
			【女川】名称の相違 【女川】参集要員の人数の相違 ・泊は、12時間以内に参集要員51名を確保し発電所対策本部を強化する。参集要員の人数に相違はあるものの、女川と同様に対策本部として必要な機能は確保できる。

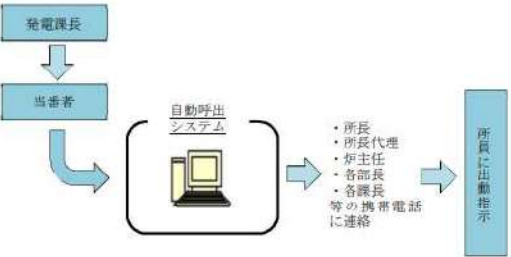

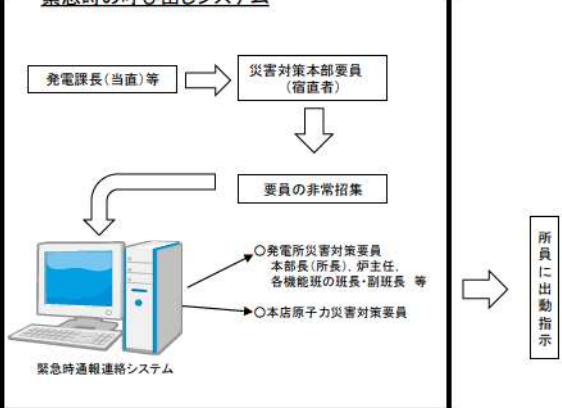
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1. 発電所構内に待機している要員の招集について</p> <p>発電所構内には夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において初動対応に必要な要員を待機させており、重大事故等への対応が可能である。夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、待機している原子力防災組織の要員を第2図に示す。</p>  <p>（今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。）</p> <p>第2図 原子力防災組織の要員 （夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外））</p>		<p>1. 発電所構内に待機している要員の招集について</p> <p>発電所構内には夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において初動対応に必要な要員を待機させており、重大事故等への対応が可能である。夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、待機している原子力防災組織の要員を第2図に示す。</p>  <p>※1：発電所対策本部の体制が機能するまでは、発電課長（当直）の指揮の下、運転員及び災害対策要員を主体とした初動体制を確保し、迅速な対応を図る。</p> <p>第2図 原子力防災組織の要員 （夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外））</p>	<p>【女川】体制の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要員数、要員の名称に相違はあるが、運転員、可搬型 SA 設備を用いて電源復旧活動や給水活動等を行う要員、緊急時対策所にて対応を行う本部要員、消火活動を行う要員等、重大事故等時の初動対応に必要な要員を確保する方針であることは女川と同様。 ・泊は、常駐の本部要員数が4名。（玄海、伊方と同様）（玄海は全体指揮者（副原子力防災管理者）1名、号炉ごと指揮者2名、通報連絡者1名）（伊方は、連絡責任者1名、連絡当番者2名、放管当番者1名）（詳細は技術的能力1.0で整理）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 発電所構外に滞在している要員の招集について</p> <p>(1) 要員の招集の流れ</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）に重大事故等が発生した場合に、発電所外にいる重大事故等対策要員を速やかに非常招集するため、「自動呼出システム」（第3図参照）、「通信連絡設備」等を活用し、要員の非常招集及び情報提供を行う。</p> <p>なお、故障等の要因で自動呼出システムが使用できない場合には、事務建屋の対策室又は緊急時対策所の通信連絡設備を用いて、あらかじめ定める連絡体制に従い、要員の非常招集を行う。</p>  <p>第3図 自動呼出システム</p>	<p>1. 要員の招集の流れ</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）に重大事故等が発生した場合に、発電所外にいる重大事故等に対処する要員を速やかに非常招集するため、「要員招集システム」、「通信連絡手段」等を活用し、要員の非常招集及び情報提供を行う。（第1図）</p>  <p>■ 要員招集システムによる対応要員の招集</p> <p>連絡責任者が要員招集システムを操作し、招集メールを発信する。</p> <p>※1 発電所沿岸で津波警報、大津波警報が発令された場合は気象庁の情報により要員招集システムからも招集メールが自動配信される。</p> <p>※2 松江市内で震度6弱以上の地震が発生した場合、自主的に作業を開始するが、地震情報は当該システムからも自動配信される。</p> <p>第1図 要員招集システム</p>	<p>2. 発電所構外に滞在している要員の招集について</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）に重大事故等が発生した場合に、発電所外にいる発電所災害対策要員を速やかに非常招集するため、「緊急時の呼び出しシステム」（第3図参照）、「通信連絡手段」等を活用し、要員の非常招集及び情報提供を行う。</p> <p>なお、故障等の要因で緊急時の呼び出しシステムが使用できない場合には、緊急時対策所の通信連絡設備を用いて、あらかじめ定める連絡体制に従い、要員の非常招集を行う。</p>  <p>第3図 緊急時の呼び出しシステム</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】名称の相違(以降、相違理由を省略)</p> <p>【女川】記載表現の相違(島根と同様)</p> <p>【島根】記載方針の相違・泊は、呼び出しシステムの故障時の対応について記載しており、女川と同様である。</p> <p>【女川】記載表現の相違・通信連絡設備を使用する場所は異なるが、故障等の要因により、緊急時の呼び出しシステムが使用できない場合に、通信連絡設備を用いて要員の非常招集を行うことについては、女川と同様である。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>発電所周辺地域（女川町、石巻市又は東松島市）で震度6弱以上の地震が発生した場合には、非常招集連絡がなくても参集する。</p> <p>地震等により、家族、自宅等が被災した場合や自治体からの避難指示等が出された場合は、家族の身の安全を確保した上で参集する。</p> <p>集合場所は、基本的には各寮・アパートに滞在中の場合は、当該宿舎の駐車場又は集会所、外出先や石巻市内から参集する場合には高台に設置された浦宿寮（第4図）とする。発電所の状況が入手できる場合は、直接発電所へ参集可能とするが、道路状況や発電所における事故の進展状況等が確認できない場合又は徒歩による参集が必要になる場合には、浦宿寮を経由して発電所に向かうものとする。</p>	<p>松江市内で震度6弱以上の地震が発生した場合には、社内規程に基づき、非常招集連絡がなくても自主的に参集する。</p> <p>地震等により家族、自宅等が被災した場合や自治体からの避難指示等が出された場合は、家族の身の安全を確保した上で参集する。</p> <p>集合場所は、基本的には構外参集拠点（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）（第2図）とするが、発電所の状況が入手できる場合は、直接発電所へ参集可能とする。</p>	<p>発電所周辺地域（泊村、共和町、岩内町又は神恵内村）で震度5弱以上の地震が発生した場合や発電所前面海域における大津波警報が発表された場合には、社内規程類に基づき、非常招集連絡がなくても自主的に参集する。</p> <p>地震等により家族、自宅等が被災した場合や自治体からの避難指示等が出された場合は、家族の身の安全を確保した上で参集する。</p> <p>集合場所は、基本的には共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮とし、参集ルートや移動手段の選定、放射線防護具の着用等の発電所までの参集に係る準備を行う。参集準備完了後、参集が必要な要員は、発電所構内に向け参集を開始する。なお、残る要員は、集合場所で待機し発電所対策本部の指示に従う。発電所の状況が入手できる場合は、直接発電所へ参集可能とするが、道路状況や発電所における事故の進展状況等が確認できない場合には、共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮を経由して発電所に向かうものとする。（第4図）</p>	<p>【女川及び島根】運用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、震度5弱以上、大津波警報発表で自動参集する。 <p>【女川】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、社内規程類に基づき自主的に参集することを記載した。（島根と同様） <p>【女川】記載表現の相違（島根と同様）</p> <p>【女川及び島根】地理的要素の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、発電所から半径2.5km圏内の共和町宮丘地区（社宅・寮）に約7割の発電所員が居住していることから、共和町宮丘地区にあるエナメゾン共和寮を集合場所としている。 <p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、集合場所に集合した要員は発電所までの参集に係る準備を行うこと等について記載した。 <p>【島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、道路状況や発電所における事故の進展状況等が確認できない場合に集合場所を経由して発電所に向かうことを記載（女川と同様） <p>【女川】運用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、徒歩による参集が必要な場合でも、道路状況や発電所における事故の進展状況

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>集合場所に集合した要員は、発電所対策本部と非常招集に係る以下の確認、調整を行い、通信連絡設備、懐中電灯等（第1表）を持参し、発電所と連絡を取りながら集団で発電所に移動する。集合場所には通信連絡設備として衛星電話設備（携帯型）を配備する。</p> <p>①発電所の状況、招集人数、必要な装備（放射線防護服、マスク、線量計等） ②招集した要員の確認（人数、体調等） ③携行資機材（通信連絡設備、懐中電灯等） ④天候、災害情報（道路状況含む。）等 ⑤参集場所（対策室（事務建屋）、緊急時対策所）</p>	<p>構外参集拠点（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）に集合した要員は、緊急時対策本部と非常招集に係る以下の確認、調整を行い、通信連絡設備、懐中電灯等を持参し、発電所と連絡を取りながら集団で移動する。構外参集拠点（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）には通信連絡設備として衛星電話設備（携帯型）を各5台配備する。</p> <p>①発電所の状況（発電所への移動が可能なプラント状況かどうか（格納容器ベントの実施見通し）、発電所に行くための必要な装備（放射線防護具、マスク、線量計を含む。）） ②その他発電所で得られた情報（発電所への移動に関する道路状況等、移動する上で有益な情報） ③発電所へ移動する人の情報（人数、体調、移動手段（徒歩、車両）、連絡先）</p>	<p>集合場所に集合した要員は、発電所対策本部と非常招集に係る以下の確認、調整を行い、通信連絡設備、懐中電灯等（第1表）を持参し、発電所と連絡を取りながら集団で移動する。集合場所には通信連絡設備として衛星電話設備（携帯型）を2台配備する。</p> <p>①発電所の状況、発電所構内の本部要員等の要員数 ②入構時に携行すべきもの（通信連絡設備、懐中電灯、放射線防護具等） ③あらかじめ定められている参集ルートの中から、天候・災害情報及び発電所の状況を踏まえ、開放する門扉及び参集する場所も含めた、適切なルートの選定 ④集合した要員の状況（集合状況、各班の人数、体調等） ⑤入構手段（社有車、自家用車、徒歩等） ⑥入構手段、天候、災害情報等からの大まかな到着時間</p>	<p>が確認できる場合は、直接発電所へ向かうこととしている。（島根と同様）</p> <p>【島根】記載表現の相違 【女川及び島根】名称の相違（以降、相違理由を省略） 【女川】記載方針の相違 ・泊は、集合場所に配備する衛星電話設備（携帯型）の台数を記載した。 【島根】運用の相違 ・泊は、発電所対策本部との連絡を取り合うために必要な台数として2台確保している。</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違 ・集合場所で入手する情報、TSCとの調整事項等については同様。 【女川】運用の相違 ・女川は、状況に応じて参集場所を変更する運用。原災法10条以降又は震度6弱以上の場合は緊急時対策所へ参集することとしている。 ・泊は、原子力防災準備体制又は原子力防災体制発令後は緊急時対策所へ参集することとしている。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>先に出発した参集要員は、参集ルートの道路状況を衛星電話設備（携帯型）にて発電所対策本部に報告する。発電所対策本部は、参集要員からの情報を基により良い参集ルートを選定し、衛星電話設備（携帯型）にて、後続の参集要員に連絡する。</p>  <p>第4図 女川原子力発電所とその周辺</p>	<p>発電用原子炉主任技術者は通信連絡手段により、必要の都度、発電所の連絡責任者と連絡をとり、発電用原子炉施設の運転に関し、保安上の指示を行う。</p>  <p>第2図 島根原子力発電所とその周辺</p>	<p>先に出発した参集要員は、参集ルートの道路状況を衛星電話設備（携帯型）にて発電所対策本部に報告する。発電所対策本部は、参集要員からの情報を基により良い参集ルートを選定し、衛星電話設備（固定型）又は衛星電話設備（携帯型）にて、後続の参集要員に連絡する。</p> <p>発電用原子炉主任技術者は通信連絡手段により、必要の都度、発電所の災害対策本部要員と連絡をとり、発電用原子炉施設の運転に関し、保安上の指示を行う。</p>  <p>第4図 泊発電所とその周辺</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、参集要員と発電所対策本部は、衛星電話設備（固定型）又は衛星電話設備（携帯型）を用いて参集ルートにおける道路状況等の情報収集を行うことを記載した。</p> <p>【女川】運用の相違 ・泊は、緊急時対策所に配備する固定型の衛星電話設備（固定型）も使用する。</p> <p>【島根】名称の相違</p>

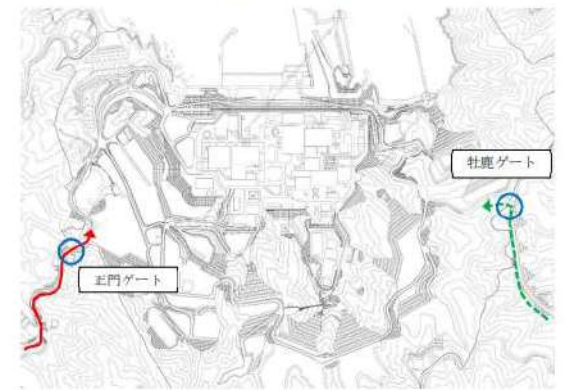
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																													
<p>第1表 集合場所に配備する装備品及び携行資機材等（相当品）一覧</p> <table border="1" data-bbox="85 172 685 304"> <thead> <tr> <th>装備品</th> <th colspan="2">携行資機材等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線防護服、マスク</td> <td>線量計</td> <td>熊鈴</td> </tr> <tr> <td>登山靴</td> <td>通信連絡設備</td> <td>リュックサック</td> </tr> <tr> <td>合羽</td> <td>懐中電灯、ヘッドライト</td> <td>救急キット</td> </tr> <tr> <td>手袋</td> <td>ステッキ</td> <td>ノーバンク自転車</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 重大事故等対策要員の所在について 女川原子力発電所の所員の大多数は女川町内の社有宿舎等や周辺市町に居住している（第2表）。</p> <p>第2表 居住地別の発電所員数（平成30年1月時点）</p> <table border="1" data-bbox="76 863 680 946"> <thead> <tr> <th>居住地</th> <th>女川町</th> <th>石巻市</th> <th>その他地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居住者数</td> <td>345人 (約77%)</td> <td>92人 (約20%)</td> <td>13人 (約3%)</td> </tr> </tbody> </table>	装備品	携行資機材等		放射線防護服、マスク	線量計	熊鈴	登山靴	通信連絡設備	リュックサック	合羽	懐中電灯、ヘッドライト	救急キット	手袋	ステッキ	ノーバンク自転車	居住地	女川町	石巻市	その他地域	居住者数	345人 (約77%)	92人 (約20%)	13人 (約3%)	<p>第1表 集合場所に配備する装備品及び携行資機材等（相当品）一覧</p> <p>2. 重大事故等に対処する要員の所在について 発電所員の社宅・寮がある島根原子力発電所から半径5km圏内に、発電所員（約540名）の約4割が居住している。更に、島根原子力発電所から半径5～10km圏内には、発電所員の約3割が居住しており、おおむね島根原子力発電所から半径10km圏内に発電所員の約7割が居住している。（第2図）（第1表）</p> <p>第1表 居住地別の発電所員数（令和3年3月時点）</p> <table border="1" data-bbox="716 863 1319 952"> <thead> <tr> <th>居住地</th> <th>5 km 圏内</th> <th>5～10km 圏内</th> <th>10～20km 圏内</th> <th>その他地域 (半径20km 圏外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居住者数</td> <td>231名 (43%)</td> <td>155名 (29%)</td> <td>90名 (17%)</td> <td>60名 (11%)</td> </tr> </tbody> </table>	居住地	5 km 圏内	5～10km 圏内	10～20km 圏内	その他地域 (半径20km 圏外)	居住者数	231名 (43%)	155名 (29%)	90名 (17%)	60名 (11%)	<p>第1表 集合場所に配備する装備品及び携行資機材等（相当品）一覧</p> <table border="1" data-bbox="1467 185 1832 357"> <thead> <tr> <th>装備品</th> <th>放射線防護服、マスク、作業靴、 用合羽、防寒着、手袋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>携行資機材等</th> <td>線量計、通信連絡設備、 懐中電灯、ヘッドライト、 スノーシュー、熊鈴、救急キット</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 発電所災害対策要員の所在について 泊発電所の発電所災害対策要員の大多数は共和町、泊村及び岩内町の発電所から半径12.5km圏内に居住している（第2表）。</p> <p>第2表 居住地別の発電所災害対策要員数（2021年12月時点）</p> <table border="1" data-bbox="1375 858 1921 995"> <thead> <tr> <th>居住地</th> <th>共和町宮丘地区※1 (泊発電所から半径2.5km圏内)</th> <th>共和町（宮丘地区を除く）、 岩内町、泊村滝ノ 調地区※2 (泊発電所から半径12.5km圏内)</th> <th>その他地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居住者数</td> <td>355人 (約71%)</td> <td>141人 (約28%)</td> <td>3人 (約1%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：共和町宮丘地区とは、共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮（集合場所）、柏木寮、桜木寮、みやおか寮及び社宅、並びに泊村はまなす寮 ※2：泊村滝ノ調地区とは、滝ノ調寮とその周辺地域</p>	装備品	放射線防護服、マスク、作業靴、 用合羽、防寒着、手袋	携行資機材等	線量計、通信連絡設備、 懐中電灯、ヘッドライト、 スノーシュー、熊鈴、救急キット	居住地	共和町宮丘地区※1 (泊発電所から半径2.5km圏内)	共和町（宮丘地区を除く）、 岩内町、泊村滝ノ 調地区※2 (泊発電所から半径12.5km圏内)	その他地域	居住者数	355人 (約71%)	141人 (約28%)	3人 (約1%)	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、参集時の集合場所に配備する装備品及び携行資機材等を記載。（女川と同様）</p> <p>【女川】運用の相違 ・泊は、積雪を考慮し、防寒着やスノーシューを配備している。女川とは配備する装備品が相違するが、放射線防護具、線量計、通信連絡設備、救急キット等、同等の装備品等を配備している。</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違 ・居住地別の要員数は異なるが、女川及び島根と同等の要員数を確保している。</p>
装備品	携行資機材等																																															
放射線防護服、マスク	線量計	熊鈴																																														
登山靴	通信連絡設備	リュックサック																																														
合羽	懐中電灯、ヘッドライト	救急キット																																														
手袋	ステッキ	ノーバンク自転車																																														
居住地	女川町	石巻市	その他地域																																													
居住者数	345人 (約77%)	92人 (約20%)	13人 (約3%)																																													
居住地	5 km 圏内	5～10km 圏内	10～20km 圏内	その他地域 (半径20km 圏外)																																												
居住者数	231名 (43%)	155名 (29%)	90名 (17%)	60名 (11%)																																												
装備品	放射線防護服、マスク、作業靴、 用合羽、防寒着、手袋																																															
携行資機材等	線量計、通信連絡設備、 懐中電灯、ヘッドライト、 スノーシュー、熊鈴、救急キット																																															
居住地	共和町宮丘地区※1 (泊発電所から半径2.5km圏内)	共和町（宮丘地区を除く）、 岩内町、泊村滝ノ 調地区※2 (泊発電所から半径12.5km圏内)	その他地域																																													
居住者数	355人 (約71%)	141人 (約28%)	3人 (約1%)																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>(3) 発電所構外からの要員の参集ルート</p> <p>a. 概要</p> <p>女川町内からの要員参集ルートについては、第5図に示すとおりであり、ルート①「五部浦ルート（県道41号線）」、ルート②「コバルトラインルート（県道220号線）」及びルート③「表浜ルート（県道2号線）」の3ルートを基本とし、これらのルートに迂回路を組み合わせた複数の経路を確保している。</p> <p>さらに、発電所への入構についても、第6図のとおり通常時に使用している正門ゲートのほかにも、発電所南側の牡鹿ゲートの使用も可能であることから、迂回路と組み合わせることで、ルートを重複させることなく、参集が可能である。</p> <p>集合場所（浦宿寮）から発電所までの徒歩による参集所要時間を第3表に示す。</p>  <table border="1" data-bbox="100 790 369 885"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>ルート</th> <th>表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>五部浦ルート</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>コバルトラインルート</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>表浜ルート</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※破線は迂回ルートを示す</p> <p>第5図 発電所へのアクセスルート</p>  <p>第6図 発電所構内への入城ルート</p>	No.	ルート	表示	①	五部浦ルート	—	②	コバルトラインルート	—	③	表浜ルート	—	<p>3. 発電所構外からの要員の参集ルート</p> <p>(1) 概要</p> <p>発電所構外からの参集ルートについては、第3図に示すとおりであり、参集ルートの障害要因としては、比較的平坦な土地であることから、土砂災害の影響は少なく、地震による橋の崩壊、津波による参集ルートの浸水が考えられる。</p> <p>地震による橋梁の崩落については、参集ルート上の橋梁が崩落等により通行ができなくなった場合でも、迂回ルートが複数存在することから、参集は可能である。また、木造建物の密集地域はなくアクセスに支障はない。</p> <p>なお、地震による参集ルート上の主要な橋梁への影響については、平成12年鳥取県西部地震においても、実際に徒歩による通行に支障はなかった。</p> <p>大規模な地震が発生し、発電所で重大事故等が発生した場合には、住民避難の交通渋滞が発生すると考えられるため、交通集中によるアクセス性への影響回避のため、参集ルートとしては可能な限り住民避難の渋滞を避けることとし、複数ある参集ルートから適切なルートを選定する。</p>	<p>4. 発電所構外からの要員の参集ルート</p> <p>(1) 概要</p> <p>発電所構外からの参集ルートについては、第5図に示すとおりであり、参集ルートの障害要因としては、比較的平坦な土地であることから、土砂災害の影響は少なく、地震による橋の崩壊、津波による参集ルートの浸水が考えられる。</p> <p>地震による橋梁の崩落については、参集ルート上の橋梁が崩落等により通行ができなくなった場合でも、参集ルートが複数存在することから、参集は可能である。また、木造建物の密集地域はなくアクセスに支障はない。</p> <p>なお、地震による参集ルート上の主要な橋梁への影響については、平成5年北海道南西沖地震においても、徒歩による通行に支障はなかった。</p> <p>大規模な地震が発生し、発電所で重大事故等が発生した場合には、住民避難の交通渋滞が発生すると考えられるため、交通集中によるアクセス性への影響回避のため、参集ルートとしては可能な限り住民避難の渋滞を避けることとし、複数ある参集ルートから適切なルートを選定する。</p>	<p>【女川】地理的要因の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊発電所の周辺は比較的平坦な土地であり、島根と類似していることから、以降は、主に島根との相違について相違理由を記載する。 <p>【島根】運用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、参集ルート上の橋梁の崩落等により通行不可となった場合を想定して、複数の参集ルートを確認している。 <p>【島根】地理的要因の相違</p>
No.	ルート	表示													
①	五部浦ルート	—													
②	コバルトラインルート	—													
③	表浜ルート	—													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

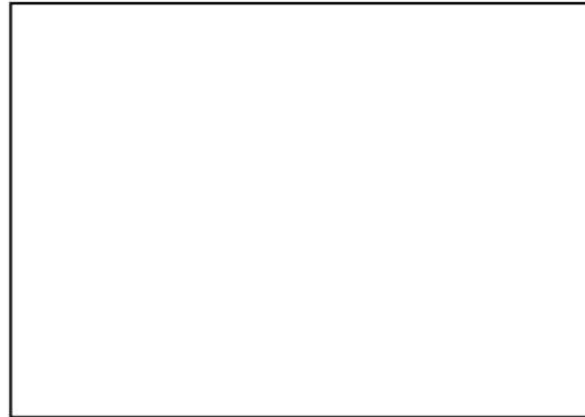
女川原子力発電所2号炉

第3表 徒歩による参集所要時間

	ルート①	ルート②	ルート③
移動距離	約18km	約17km	約20km
所要時間（昼間、晴天）*	約3時間50分	約3時間40分	約6時間10分
歩行実績	—	3時間13分（約5.2km/h）	—
参集時間の目安	所要時間に、道路状況、住民避難、夜間・雨天等を考慮し、12時間を目安と設定		
震災時の実績	震災時に、地震・津波の影響によりふれきが散乱している道路状況において当社社員が参集した実績：約5.0kmを1時間（約90m/min）で歩行		

※：「不動産の表示に関する公正競争規約施行規則」における徒歩所要時間（80m/minで歩行）

島根原子力発電所2号炉



第3図 発電所構外からの参集ルート

本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。

津波浸水時については、アクセス性への影響を未然に回避するため、大津波警報発生時には**基準津波が来襲した際に**浸水が予想されるルート（第3図に示す、比較的海に近いルート）は使用しないこととし、これ以外の参集ルートを使用して参集することとする。

泊発電所3号炉



第5図 発電所構外からの参集ルート

津波浸水時については、アクセス性への影響を未然に回避するため、大津波警報発生時には浸水が予想されるルート（第6図に示す、比較的海に近いルート）は使用しないこととし、これ以外の参集ルートを使用して参集することとする。

相違理由

【女川】記載方針の相違
 ・泊は、徒歩による要員参集の検証結果を参考2に示す。

【島根】運用の相違
 ・泊は、発電所周辺地域のハザードマップにおける津波浸水範囲を考慮して、迂回が可能となるよう複数の参集ルートを確認している。（女川と同様）
 ・女川は、女川町及び石巻市のハザードマップを用いて自然災害が参集ルートへ与える影響について検討している。（1.0.2-補足10-19頁参照）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>b. 津波による影響が考えられる場合の参集ルート</p> <p>重大事故等対策要員が女川町内から参集する場合、基本的に車両を使用するが、道路状況等により通行が困難な場合には徒歩による参集を行うこととしている。参集ルートの中には、一部低地が含まれており、この場合には津波の収束状況等を勘案して通行することとしている。さらに、低地の通行が不可能な場合にも、送電線の巡視ルート等を活用し、高台のみの通行により発電所(緊急時対策所)まで参集することが可能であることを確認している(第7図, 第8図)。</p>  <p>第7図 高台のみを通行する場合の要員参集ルート (所外)</p>  <p>第8図 高台のみを通行する場合の要員参集ルート (所内)</p>	<p>(2) 津波による影響が考えられる場合の参集ルート</p> <p>松江市津波ハザードマップによると、松江市中心部から発電所までの参集ルートへの影響はほとんど見られない(川岸で数10cm程度)が、大津波警報発生時は、津波による影響を想定し、海側や佐陀川の河口付近を避けたルートにより参集する。(第4図)</p>  <p>第4図 構外参集拠点からの参集ルート</p> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p>	<p>(2) 津波による影響が考えられる場合の参集ルート</p> <p>泊村、共和町及び岩内町ハザードマップによると、海側及び河口付近を経由した発電所までの参集ルートが津波浸水予測範囲となっている。大津波警報発生時は、津波による影響を想定し、海側や堀株川の河口付近を避けたルートにより参集する。(第6図)</p>  <p>第6図 発電所構外からの参集ルート (津波による影響が考えられる場合)</p>	<p>【島根】地理的要因の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、海側及び河口付近が津波浸水予測範囲となっていることから、大津波警報発生時は迂回することとしている。 <p>【女川】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は、集合場所までの移動ルートについては複数の迂回ルート(青線)を示す。集合場所から発電所までのルートのうち、津波の影響を受けない大和門扉ルートに係る説明は5.項にて整理している。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 住民避難がなされている場合の参集について 全面緊急事態に該当する事象が発生し、住民避難が開始している場合、住民の避難方向と逆方向に要員が移動することが想定される。 発電所へ参集する要員は、原則、住民避難に影響のないよう行動し、自動車による参集ができないような場合は、自動車を避難に支障のない場所に停止した上で、徒歩等により参集する。</p> <p>d. 発電所構内への参集ルート 発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常の正門を通過するルートに加え、迂回ルートを確保している（第9図）。</p>	<p>(3) 住民避難が行われている場合の参集について 全面緊急事態に該当する事象が発生し、住民避難が開始している場合、住民の避難方向と逆方向に要員が移動することが想定される。 発電所へ参集する要員は、原則、住民避難に影響のないよう行動し、自動車による参集ができないような場合は、自動車を避難に支障のない場所に停止した上で、徒歩や自転車により参集する。</p> <p>4. 発電所構内への参集ルート 発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常の一矢入口及び本谷入口を通過するルートに加え迂回ルートを確保している。（第5図）</p> <p>発電所近傍にある500kV、220kV及び66kVの送電鉄塔の倒壊による障害を想定し、鉄塔が倒壊しても影響を受けない参集ルートを設定する。</p> <p>発電所近傍にある500kV、220kV及び66kVの送電鉄塔の倒壊による障害を想定し、鉄塔が倒壊した場合における通行の考え方を別紙補足1に示す。</p>	<p>(3) 住民避難が行われている場合の参集について 全面緊急事態に該当する事象が発生し、住民避難が開始している場合、住民の避難方向と逆方向に要員が移動することが想定される。 発電所へ参集する要員は、原則、住民避難に影響のないよう行動し、自動車による参集ができないような場合は、自動車を避難に支障のない場所に停止した上で、徒歩や自転車により参集する。</p> <p>5. 発電所構内への参集ルート 発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常時に使用する茶津門扉を通過するルート（以下「茶津門扉ルート」という。）に加え、津波発生時に茶津門扉ルートが使用できない場合を考慮し、津波による影響を受けない大和門扉を通過するルート（以下「大和門扉ルート」という。）を確保している（第7図及び第8図）。大和門扉ルートを使用した要員参集の状況について参考2に示す。</p> <p>発電所近傍にある275kV及び66kVの送電鉄塔の倒壊による障害を想定し、275kV送電鉄塔が倒壊した場合には、徒歩により第二大和門扉を通過する迂回ルートを確保しており、鉄塔が倒壊しても影響を受けない参集ルートを設定する。</p> <p>発電所近傍にある275kV及び66kVの送電鉄塔の倒壊による障害を想定し、鉄塔が倒壊した場合における通行の考え方を参考3に示す。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違（島根と同様）</p> <p>【女川及び島根】記載方針の相違 ・泊は、通常入構ルートの代替ルートである大和門扉ルートについて記載し、その補足説明を参考資料にて整理している。</p> <p>【女川】記載方針の相違 ・泊は、発電所近傍にある送電鉄塔の倒壊による障害を想定し参集ルートの設定を行っている。（島根と同様）</p> <p>【女川及び島根】記載方針の相違 ・泊は、275kV送電鉄塔が倒壊した場合の徒歩により第二大和門扉を通過する迂回ルートについて記載した。送電鉄塔が倒壊した場合における通行の考え方については、参考3に整理している。</p> <p>【島根】倒壊を想定する送電鉄塔の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>平日の勤務時間帯においては、緊急時対策要員の多くは管理事務所で執務しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においては、初動対応する要員が免震重要棟又はその近傍及び制御室建物又はその近傍で執務若しくは待機しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>管理事務所及び免震重要棟から緊急時対策所までのアクセスルートを、第5図に示す。</p>	<p>平日の勤務時間帯においては、緊急時対策要員の多くは管理事務所で執務しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においては、初動対応する要員が総合管理事務所又はその近傍の建屋内で執務若しくは待機しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>総合管理事務所等の発電所構内の建屋内から緊急時対策所までのアクセスルートを第8図に示す。</p> <p>なお、第7図及び第8図に示す参集ルートについては、外部からの支援を受けるためのルートとしても使用する。通常時の構内入構ルートである茶津門扉ルートについては、津波発生時の使用不可も考慮し、津波の影響を受けない大和門扉ルートを確保することとし、今後、必要に応じて外部からのアクセス性を確保するための道路拡幅や整地等を行い、車両・物資輸送が適切に行えるよう対応していく。</p> <p>※：大和門扉ルートについては、現状において資機材等の輸送に必要な外部支援用車両は問題なく通行できることを確認しているが、今後支援を期待する車両の追加や変更が発生し車両が大型化した場合においても、道路の拡幅や整地を行い車両による物資輸送が適切に実施できるよう対応していく。</p>	<p>平日の勤務時間帯においては、発電所災害対策要員の多くは総合管理事務所で執務しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）においては、初動対応する要員が総合管理事務所又はその近傍の建屋内で執務若しくは待機しており、招集連絡を受けた場合は、速やかに緊急時対策所に参集する。</p> <p>総合管理事務所等の発電所構内の建屋内から緊急時対策所までのアクセスルートを第8図に示す。</p> <p>なお、第7図及び第8図に示す参集ルートについては、外部からの支援を受けるためのルートとしても使用する。通常時の構内入構ルートである茶津門扉ルートについては、津波発生時の使用不可も考慮し、津波の影響を受けない大和門扉ルートを確保することとし、今後、必要に応じて外部からのアクセス性を確保するための道路拡幅や整地等を行い、車両・物資輸送が適切に行えるよう対応していく。</p> <p>※：大和門扉ルートについては、現状において資機材等の輸送に必要な外部支援用車両は問題なく通行できることを確認しているが、今後支援を期待する車両の追加や変更が発生し車両が大型化した場合においても、道路の拡幅や整地を行い車両による物資輸送が適切に実施できるよう対応していく。</p>  <p>第7図 集合場所から発電所構内への参集ルート（茶津門扉ルート及び大和門扉ルート）</p>	<p>【島根】名称の相違（以降、相違理由を省略）</p> <p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、外部からの支援を受けるためのルートについても整理した。 【女川及び島根】記載方針の相違 ・泊は、集合場所であるエナメゾン共和寮から緊急時対策所までの参集ルートを第7図と第8図で示している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="224 606 537 630">第9図 発電所構内への参集ルート</p>	 <p data-bbox="761 606 1265 654">第5図 発電所構内への参集ルート及び緊急時対策所へのアクセスルート</p> <div data-bbox="918 670 1310 710" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	 <p data-bbox="1388 606 1904 654">第8図 発電所構内への参集ルート及び緊急時対策所へのアクセスルート</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>e. 夜間及び休日における要員参集について</p>	<p>5. 夜間及び休日における要員参集について (1) 要員の想定参集時間 第1表及び第2図に示すとおり、要員の大多数は発電所から半径10km圏内に居住していることから、仮に発電所から10km地点に所在する要員が、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、発災30分後に自宅を出発するものとし、徒歩移動で参集する場合であっても、参集時間は約6時間30分と考えられる。 さらに、要員集合場所（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）に立寄り、情報収集を行った上で参集することから、情報収集する場合の時間を30分必要であると仮定した場合であっても、発電所から10kmに所在する要員は、約7時間で発電所に参集可能であると考えられる。</p>	<p>6. 夜間及び休日における要員参集について (1) 要員の想定参集時間 第2表及び第4図に示すとおり、要員の大多数は発電所から半径12.5km圏内の共和町宮丘地区、共和町（宮丘地区を除く）、岩内町及び泊村滝ノ瀧地区（以下「参集可能地域という。）に居住していることから、仮に参集可能地域に所在する要員が、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、発災30分後に自宅を出発するものとし、さらに要員の集合場所（エナメゾン共和寮）に立寄り、情報収集を行った上で参集することから、情報収集する場合の時間を30分必要であると仮定した場合であっても、徒歩移動で参集する場合で、参集時間は約10時間と考えられることから、要員参集の目安として設定した12時間以内に発電所構外から発電所へ参集する要員は十分確保可能である。</p>	<p>【女川及び島根】地理的 要因の相違 ・泊は、発電所から半径2.5km圏内の共和町宮丘地区に約71%、共和町宮丘地区を除く発電所から半径12.5km圏内の共和町、泊村及び岩内町に約28%の発電所員が居住している。 【島根】記載方針の相違 ・泊は、徒歩にて12時間以内に発電所へ参集可能な地域を「参集可能地域」と定義した。 【島根】参集時間の相違 ・泊は、要員参集の目安として設定した12時間以内に参集要員を確保することとしており、保守的に参集時間を10時間と設定している。 【島根】記載表現の相違 【島根】記載方針の相違 ・泊は、要員参集の目安として設定した12時間以内に参集可能であることを記載。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(a) 夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の重大事故等対策要員の参集動向（所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの参集に要する時間）を評価した。その結果、集合場所からの要員の参集手段が徒歩移動を想定した場合かつ、年末年始、ゴールデンウィーク等の大型連休（以下「大型連休」という。）であっても、6時間以内に参集可能な要員は半数以上（250名以上）と考えられることから、要員参集の目安として設定した12時間以内に外部から発電所へ参集する要員は十分な数を確保可能であることを確認した。</p> <p>なお、自動車等の移動手段が使用可能な場合は、より多くの要員が早期に参集することが期待できる。</p> <p>(b) 大型連休（土日、祝日を含む。）においては、あらかじめ参集要員を指名することにより、要員を確実に確保する。</p> <p>(c) さらに、初動対応を確実にを行うため1時間を目途に参集可能な発電所近傍に4名、12時間を目途に参集可能な範囲に50名を拘束する。</p>	<p>(2) 要員参集調査</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の重大事故等に対処する要員の参集動向（所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの参集に要する時間）を評価した結果、要員の参集手段が徒歩移動のみを想定した場合かつ、年末年始やゴールデンウィーク等の大型連休であっても、7時間以内に参集可能な要員は150名以上（発電所員約540名の約3割）と考えられる。</p> <p>なお、自動車等の移動手段が使用可能な場合は、より多くの要員が早期に参集することが期待できる。</p>	<p>(2) 要員参集調査</p> <p>夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の発電所災害対策要員の参集動向（所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの参集に要する時間）を評価した結果、要員の参集手段が徒歩移動のみを想定した場合かつ、年末年始やゴールデンウィーク等の大型連休であっても、10時間以内に参集可能な要員は100名以上（発電所員約490名の約2割）と考えられる。</p> <p>なお、自動車等の移動手段が使用可能な場合は、より多くの要員が早期に参集することが期待できる。</p>	<p>【女川及び島根】要員参集調査結果の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、大型連休であっても10時間以内に100名以上が参集可能であることを要員参集調査から確認した。要員参集調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる参集要員を確保する方針について女川及び島根と同様。 【女川】記載方針の相違 ・泊は、要員参集の目安として設定した12時間以内に発電所構外から発電所へ参集する要員は十分確保可能であることを6.項(1) b. に記載。 【女川】運用の相違 ・泊は、大型連休においてあらかじめ参集要員を指名する運用とはしないが、要員参集調査の結果から必要な参集要員の人数は確保できることを確認している。（島根と同様）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>○1時間を目途に徒歩で参集可能な範囲は、出発準備の30分を考慮して発電所（緊急時対策所）を中心に、約2km徒歩移動圏内とする（第10図）。</p> <p>約2km徒歩移動圏内には発電所事務建屋、小屋取寮等がある。例えば、小屋取寮から発電所（緊急時対策所）への移動を考えた場合、以下のとおり1時間を目途に発電所に参集できることを確認した。</p> <p>①出発準備として30分を考慮。</p> <p>②小屋取寮から発電所（緊急時対策所）までの移動ルートは、小屋取寮からの要員参集ルート（迂回ルート：徒歩移動距離約1km）を通行する（第9図）。</p> <p>③迂回ルートを使用した徒歩による参集訓練実績では、移動時間は約25分。</p> <div data-bbox="94 528 667 906" data-label="Image"> <p>The map shows a coastal area with a pink-shaded region representing the 'Emergency Response Center' (緊急時対策所) and the 'Onagawa Nuclear Power Plant' (女川原子力発電所). A red diamond marks the 'Small Cabin Dormitory' (小屋取寮). A dashed circle with a radius of approximately 2km is centered on the emergency response center, indicating the target area for personnel gathering. A text box above the map states: '緊急時対策所を中心に約2km徒歩移動圏内'.</p> </div> <p>第10図 参集要員の滞在範囲の目安(1時間を目途に参集)</p>	<p>また、集合場所（緑ヶ丘施設）からの参集訓練結果について別紙補足2に示す。</p>	<p>また、要員参集調査による評価を参考1に、要員参集の検証結果について参考2に示す。</p>	<p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、要員参集調査による評価を参考1に整理した。 ・泊は、要員参集の検証結果について、参考2に示す。


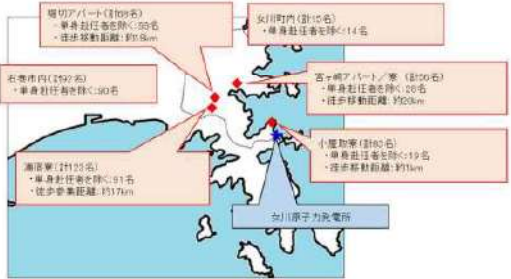
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>○12時間を目途に徒歩で参集可能な範囲^{*1}は、集合場所（浦宿寮：女川町内）を中心に、約17km 徒歩移動圏内とする（第11図）。</p> <p>※1：今後の発電所の道路整備状況等に応じて見直す可能性がある。</p> <p>・考え方</p> <p>次の前提条件のもとに、12時間のうち集合場所までの移動に使用可能な時間を算出</p> <p>①出発準備として30分を考慮。</p> <p>②集合場所（浦宿寮：女川町内）までの徒歩での移動速度は、4.0km/h^{*2}と想定。</p> <p>③女川町内の集合場所での情報収集・装備品及び携行資機材準備等（休息含む。）に30分考慮。</p> <p>④女川町内の集合場所から発電所（緊急時対策所）までの移動距離は17km（コバルトライン12km、送電線巡視ルート5km）とする。</p> <p>⑤徒歩の移動速度は、コバルトライン（舗装道路）は4.0km/h^{*2}、送電線巡視ルート（未舗装）は1.8km/h^{*3}と想定。</p> <p>⑥長時間の移動を考慮して、55分移動して5分の休憩を想定。</p> <p>※2：歩行実績約5.2km/hに対して、悪天候時の影響を考慮し保守的に4.0km/hとする。</p> <p>※3：歩行実績約2.4km/hに対して、悪天候時の影響を考慮し保守的に1.8km/hとする。</p> <p>【集合場所までの移動に使用可能な時間】</p> <p>=【参集目途時間】-【出発準備時間】+【集合場所での情報収集時間】+【集合場所から発電所までの移動に要する時間】</p> <p>=12(h)-【0.5(h)】+【0.5(h)】</p> <p>+【12(km)/4(km/h)×60(m)/55(m)+5(km)/1.8(km/h)×60(m)/55(m)】</p> <p>=4.69(h)</p> <p>よって、</p> <p>【集合場所までの徒歩での移動距離】</p> <p>=4.69(h)×4(km/h)×55(m)/60(m)=17.2(km)≒17(km)</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <p>・要員参集の検証結果を考慮した徒歩による集合場所までの移動可能距離については、参考2に示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="273 108 497 132">女川原子力発電所2号炉</p>  <p data-bbox="123 488 645 512">第11図 参集要員の潜在範囲の目安(12時間を目途に参集)</p> <p data-bbox="98 547 696 687">(d) 休日における所員の所在地確認を行い、発電所周辺に所在する所員を把握することにより、あらかじめ指名した要員以外の要員を速やかに参集・確保することができる。なお、単身赴任者以外の所員は全所員の約7割であり、女川町又は石巻市に居住している(第12図)。</p>  <p data-bbox="98 1011 663 1035">第12図 女川原子力発電所 所員の居住地(平成30年1月時点)</p>			<p data-bbox="1980 547 2157 655">【女川】記載方針の相違 ・泊の要員参集調査の結果については参考1に示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>E. 自然災害が参集ルートに与える影響について</p> <p>土石流や地滑り、浸水などの自然災害が参集ルートに与える影響について、女川町及び石巻市のハザードマップを用いて検討した。女川町及び石巻市のハザードマップを第13図に示す。</p>  <p>第13図 女川町及び石巻市ハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項,5.項にて示す。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(a) 浦宿～野々浜地区（五部浦ルート）の自然災害による影響評価 浦宿～野々浜地区（五部浦ルート）のハザードマップを第14図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、地震時においても通行可能である。また、女川町中心部付近等の土砂災害警戒区域又は土砂災害危険箇所についても、斜面から離れていて海側に開けており通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて浸水範囲が女川町中心部、大石原浜～野々浜地区に示されており、津波の収束状況を勘案して通行する。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害警戒区域又は土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。また、斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p>  <p>第14図 浦宿～野々浜地区（五部浦ルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項,5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(b) 浦宿～野々浜地区（コバルトラインルート）の自然災害による影響評価</p> <p>浦宿～野々浜地区（コバルトラインルート）のハザードマップを第15図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】ハザードマップでは区間のほとんどに土砂災害危険箇所が示されているものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて、浸水範囲が野々浜地区のみに示されており、津波の収束状況を勘案して通行する。また、送電線の巡視点検ルートを利用し、高台のみの通行により発電所まで参集することが可能である。なお、2011年東北地方太平洋沖地震及びその後発生した津波による被害状況下において、浦宿～小積1Cまでは車両通行可能であった。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、ほぼ全域が土砂災害危険箇所となっている。また、斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p> <p>なお、コバルトラインルートは、時間雨量20mm、連続雨量80mmを超えた場合に通行が規制されるため、豪雨の際は通行不可となる可能性がある。</p>  <p>第15図 浦宿～野々浜地区（コバルトラインルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <p>・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項,5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(c) 浦宿～野々浜地区（表浜ルート）の自然災害による影響評価 浦宿～野々浜地区（表浜ルート）のハザードマップを第16図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】斜面が道路に迫っている区間が多く、土砂災害警戒区域又は土砂災害危険箇所も存在するものの、安定化対策が施されている箇所、道路の片側が開けている箇所が多く、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて多くの区間が浸水範囲となることから、津波の収束状況を勘案して通行する。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害警戒区域又は土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。また、斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p>  <p>第16図 浦宿～野々浜地区（表浜ルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項,5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(d) 野々浜地区～発電所の自然災害による影響評価</p> <p>野々浜地区～発電所のハザードマップを第17図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】ハザードマップにおいて、土砂災害危険箇所が示されているが、道路の片側が開けており迂回することが可能であることから、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて多くの区間が浸水範囲となることから、津波の収束状況を勘案して通行する。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。また、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p>   <p>第17図 野々浜地区～発電所のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <p>・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項,5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(e) 小積1C～発電所（送電線巡視点検ルート）の自然災害による影響評価</p> <p>小積1C～発電所（送電線巡視点検ルート）のハザードマップを第18図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】ハザードマップにおいて土砂災害危険箇所が示されているが、林道であり迂回することが可能であることから、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて浸水箇所は示されていない。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。</p>  <p>第18図 小積1C～発電所（送電線巡視点検ルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <p>・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項,5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(f) 小積1C～発電所（迂回ルート）の自然災害による影響評価 小積1C～発電所（迂回ルート）のハザードマップを第19図に示す。本ルートの特徴は以下のとおり。</p> <p>【地震】ハザードマップにおいて土砂災害危険箇所が示されているが、道路の片側が開けており迂回することも可能であることから、地震時においても通行可能である。</p> <p>【津波】ハザードマップにおいて多くの区間が浸水範囲となることから、津波の収束状況を勘案して通行する。</p> <p>【豪雨】ハザードマップにおいて、土砂災害危険箇所が示されているが、それ以外の区間は土石流が発生する可能性は少ない。また、斜面が道路に迫っている区間が多いものの、安定化対策が施されている箇所、海側に開けている箇所が多く、通行不能になることは考えにくい。</p>  <p>第19図 小積1C～発電所（迂回ルート）のハザードマップ</p>			<p>【女川】記載方針の相違 ・発電所周辺の地方公共団体のハザードマップを用いた要員参集ルートの検討については4.項,5.項にて示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(g) 自然災害発生時の陸路の選択について</p> <p>発電所構外からの参集要員のアクセスルートについて、浦宿寮から発電所までの間の各ルートについてハザード評価を実施した。</p> <p>要員参集のアクセスルートについて、地震時、津波時、豪雨時の観点からそれぞれのルートの特徴を評価し、その結果、1つの要因で複数あるルートのすべてのルートが通行不可とならないことを確認した。</p> <p>また、参集要員がルート選択に迷わないために、津波時にはコバルトラインルート、豪雨時には五部浦ルート又は表浜ルートを優先的に選択するルートとする。</p> <p>それぞれのルートの特徴、優先的に選択するルート、ハザードマップを手順書に記載し、参集要員に事前に周知することより、参集要員は出発前に適切なルートを選択することが可能となり、安全に発電所へ移動できる。</p>			<p>【女川】記載方針の相違</p> <p>・泊は、自然災害発生時の発電所構外からの要員の参集ルート選択について、地震時には複数の参集ルートを確認していること、及び津波発生時には津波による影響を受けないルートを選択することを4項,5項に記載している。(島根と同様)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">＜参考：要員参集調査による評価＞</p> <p>○夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合、重大事故等対策要員の参集動向をより具体的に把握するため、「平日夜間」、「休日日中」、「休日夜間」、「大型連休日中」、「大型連休夜間」の5ケースにおいて緊急呼出しがかかった場合を想定し、その時々における要員の所在場所（自宅、発電所、それ以外の場所の場合は集合場所までの参集時間を回答）を調査することで、参集状況を評価した。</p> <p>○出発場所での準備時間30分及び集合場所（浦宿寮）での情報収集・装備等準備時間30分を考慮した。</p> <p>○小屋取寮所在者は、直接発電所に参集するとした。</p> <p>○宮ヶ崎寮／アパート、堀切アパート所在者は、状況が確認できている場合は直接発電所に参集することとしているが、今回の評価上は、必要に応じて装備等の準備を行うため、浦宿寮を経由するとして評価した。</p>	<p style="text-align: center;">＜参考：要員参集調査による評価＞</p> <p>○夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の重大事故等に対処する要員の参集動向をより具体的に把握するため、「平日夜間」、「休日日中」、「休日夜間」、「大型連休日中」、「大型連休夜間」の5ケースにおいて緊急呼出しがかかった場合を想定し、その時々における要員の所在場所（発電所からの直線距離に応じた区分を回答）を調査することで、参集状況を評価する。（第7図及び第8図）</p> <p>○参集の流れは、所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの移動とする。</p> <p>○集合場所（緑ヶ丘施設、宮内（社宅・寮）及び佐太前寮）での情報収集時間30分を考慮する。（第6図）</p>	<p style="text-align: center;">＜参考1＞</p> <p style="text-align: center;">要員参集調査による評価</p> <p>○夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）において、重大事故等が発生した場合の発電所災害対策要員の参集動向をより具体的に把握するため、「平日夜間」、「休日日中」、「休日夜間」、「大型連休日中」、「大型連休夜間」の5ケースにおいて緊急呼出しがかかった場合を想定し、その時々における要員の所在場所を調査することで、参集状況を評価する。（第2図及び第3図）</p> <p>○参集の流れは、所在場所（準備時間を含む。）～集合場所（情報収集時間を含む。）～発電所までの移動とする。</p> <p>○所在場所での出発準備時間30分を考慮する。</p> <p>○集合場所（エナメゾン共和寮）での情報収集時間30分を考慮する。（第1図）</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】要員参集調査方法の相違</p> <p>・泊は、要員の所在場所（共和町宮丘地区、岩内町等）を調査し、徒歩移動のみであっても所在場所から10時間以内に参集可能であることを確認している。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載方針の相違</p> <p>・島根は、出発までの準備時間を考慮することを「参考 第7図、第8図」に記載している。</p> <p>【女川】地理的要因による相違</p> <p>【島根】集合場所の名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>○過去5回の要員参集調査を実施し、重大事故等が発生した場合の重大事故等に対処する要員の参集動向を評価した結果、年末年始やゴールデンウィーク等の大型連休であっても、7時間以内に参集可能な重大事故等に対処する要員は150名以上(発電所員約540名の約3割)と考えられる。このことから、夜間及び休日(平日の勤務時間帯以外)の初動体制の拡大を図り、長期的な事故対応を行うために外部から発電所へ参集する緊急時対策要員(54名)は、要員参集の目安としている8時間以内に確保可能であることを確認している[※]。</p> <p>※： (a) 平成28年5月：162名(うち、実施組織109名(復旧班49名、プラント監視班60名)) (b) 平成29年5月：167名(うち、実施組織118名(復旧班67名、プラント監視班51名)) (c) 平成30年1月：151名(うち、実施組織102名(復旧班50名、プラント監視班52名)) (d) 令和元年1月：157名(うち、実施組織105名(復旧班49名、プラント監視班56名)) (e) 令和2年1月：221名(うち、実施組織145名(復旧班74名、プラント監視班71名))</p>	<p>○過去4回の要員参集調査を実施し、重大事故等が発生した場合の発電所災害対策要員の参集動向を評価した結果、年末年始やゴールデンウィーク等の大型連休であっても、10時間以内に参集可能な発電所災害対策要員は100名以上(発電所員約490名の約2割)と考えられる。このことから、夜間及び休日(平日の勤務時間帯以外)の初動体制の拡大を図り、長期的な事故対応を行うために外部から発電所へ参集する発電所災害対策要員(51名)は、要員参集の目安としている12時間以内に確保可能であることを確認している[※]。</p> <p>※：要員参集調査の期間、参集可能な要員数等は以下のとおり。 (a) 2020年12月26日(土)～2021年1月5日(火)：130名(うち、実施組織91名(運転班66名、復旧班25名)) (b) 2021年4月29日(木)～2021年5月9日(日)：118名(うち、実施組織80名(運転班61名、復旧班19名)) (c) 2021年12月24日(金)～2022年1月4日(火)：106名(うち、実施組織76名(運転班58名、復旧班18名)) (d) 2022年4月29日(金)～2022年5月8日(日)：128名(うち、実施組織87名(運転班65名、復旧班22名))</p>	<p>【島根】要員参集調査における実施回数 の相違 【島根】要員参集調査結果の相違 ・泊は、大型連休であっても10時間以内に100名以上が参集可能であることを要員参集調査から確認した。要員参集調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる参集要員を確保する方針について女川及び島根と同様。 【島根】参集要員の人数の相違 ・泊は、12時間以内に参集要員51名を確保し発電所対策本部を強化する。参集要員の人数に相違はあるものの、女川及び島根と同様に対策本部として必要な機能は確保できる。 【女川】記載方針の相違 ・泊は、要員参集調査の期間における参集可能な要員数と、実施組織の人数を記載した。(島根と同様)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第20図 要員参集の流れについて（イメージ）</p> <p>1. 車が使える場合（第21図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4時間以内に約9割の要員が参集可能な場所にいることを確認した（大型連休は除く。）。 ○大型連休においても、4時間以内に約7割の要員が参集可能な場所にいることを確認した。 	 <p>第6図 要員参集の流れについて（イメージ）</p> <p>a. 車が使える場合（第7図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3時間30分以内に約8割の要員が参集可能な場所にいることを確認した。（大型連休は除く。） ○大型連休でも、3時間30分以内に約5割の要員が参集可能な場所にいる。 	 <p>第1図 要員参集の流れについて（イメージ）</p> <p>a. 車が使える場合（第2図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5時間30分以内に参集可能な場所（発電所から半径12.5km圏内）に約3割の要員が、12時間以内に参集可能な場所（発電所から半径30km圏内及び札幌市を含む）に約7割の要員が所在していることを確認した。（大型連休は除く。） ○大型連休でも、12時間以内に約6割の要員が参集可能な場所（発電所から半径30km圏内及び札幌市を含む）にいることを確認した。 	<p>【女川及び島根】要員参集調査結果の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、大型連休であっても、車が使える場合には徒歩移動のみの場合に比べ、12時間以内に参集可能な要員が増加することを調査から確認し記載している。調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる要員を確保することについて女川及び島根と同様。 【女川及び島根】記載方針の相違 ・泊は、徒歩による参集可能地域から車を使える場合の参集時間に加えて、要員参集時間の目安である12時間以内に参集可能な要員数についても記載した。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

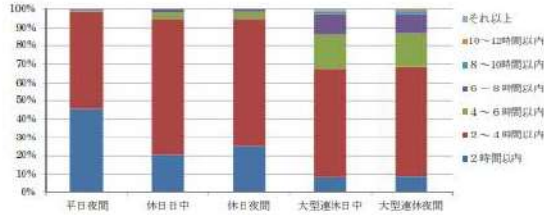
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため本比較表の抜粋を掲載（比較表 p1.0.2-補足 10-33）】</p> <p>2. 集合場所（浦宿寮）から徒歩で参集する場合（第22図）</p> <p>○車を使用した場合に比べ要員参集のタイミングが遅くなるが、9割程度の要員は、6時間以内に参集可能な場所にいることを確認した（大型連休は除く。）</p> <p>○通常の休日と大型連休を比較すると、大型連休の6時間以内の参集要員は通常と比較して約3割少ないが、6時間以内に約6割の要員が参集可能な場所にいることを確認した。</p>	<p>b. 徒歩移動のみの場合（第8図）</p> <p>○車を使用した場合に比べ要員参集のタイミングが遅くなるが、6割程度の要員は、7時間以内に参集可能な場所にいることを確認した。（大型連休は除く。）</p> <p>○通常の休日と大型連休を比較すると、大型連休には約3割多い要員が半径10km圏内から不在（徒歩7時間以上）となるが、7時間以内で参集可能な要員は約3割。</p>	<p>b. 徒歩移動のみの場合（第3図）</p> <p>○車を使用した場合に比べ要員参集のタイミングが遅くなるが、約3割の要員は、10時間以内に参集可能な場所にいることを確認した。（大型連休は除く。）</p> <p>○通常の休日と大型連休を比較すると、大型連休には要員が共和町宮丘地区、岩内町等の参集可能地域から不在（徒歩10時間以上）となるが、10時間以内で参集可能な要員は約2割。</p>	<p>【女川】記載箇所の相違</p> <p>【女川及び島根】要員参集調査結果の相違</p> <p>・泊は、大型連休であっても10時間以内に100名以上が参集可能であることを要員参集調査から確認した。要員参集調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる参集要員を確保する方針について女川及び島根と同様。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

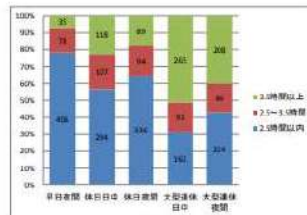
女川原子力発電所2号炉



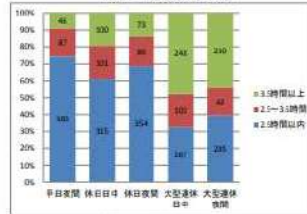
※ それぞれの存在場所から、以下の集合場所又は集合場所までの移動に要する時間を回答してもらい、その時間に以下の数値を加えた上で算出。
 ・小籠取集、前宿舎に所在の場合
 →出発準備時間（30分）、発電所までの所要時間を加算して評価
 ・小籠取集、前宿舎以外の場所に所在の場合
 →出発時間（30分）、集合場所（前宿舎）までの所要時間、集合場所（前宿舎）での情報収集・装備準備時間（30分）、発電所までの所要時間を加算して評価

第21図 要員参集シミュレーション結果（車が使える場合）

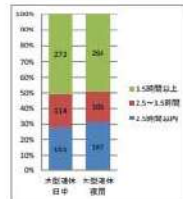
島根原子力発電所2号炉



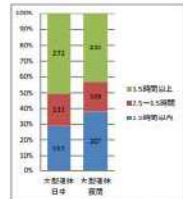
(a) 平成28年5月



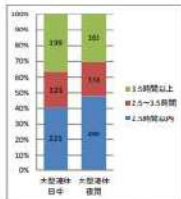
(b) 平成29年5月



(c) 平成30年1月



(d) 令和元年1月

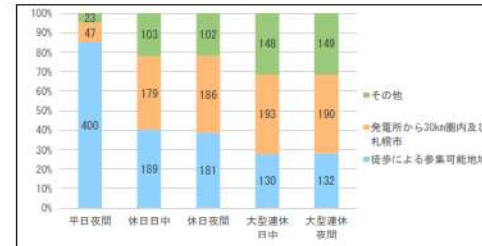


(e) 令和2年1月

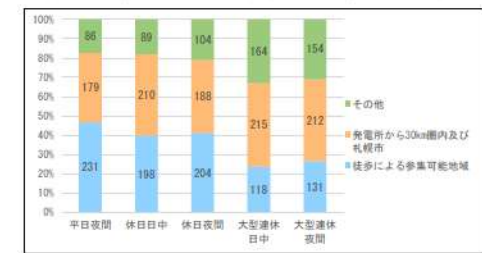
※：発電所からの直線距離に応じた区分を回答してもらい、その区分に応じた移動時間（30分以内（～10km）、30分～1.5時間（10～30km）、1.5時間以上（30km～））に以下の数値を加えて算出。
 ・出発までの準備時間：30分
 ・集合場所での情報収集時間：30分
 ・集合場所から発電所間に設ける一時立寄場所に駐車し、そこから徒歩で発電所までの移動時間：1時間

第7図 要員参集シミュレーション結果（車でアクセス可能）

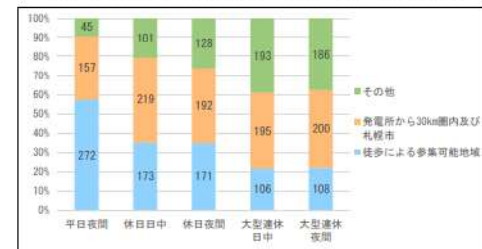
泊発電所3号炉



(a) 2020年12月26日(土)～2021年1月5日(火)



(b) 2021年4月29日(木)～2021年5月9日(日)



(c) 2021年12月24日(金)～2022年1月4日(火)

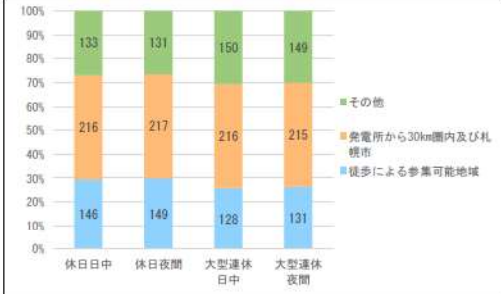
第2図 要員参集シミュレーション結果（車でアクセス可能）
 (1/2)

相違理由

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p style="text-align: center;">泊発電所3号炉</p>  <p>※：2022年5月2日、2022年5月6日は平日だが、発電所が休日体制であるため、休日とした。 (d) 2022年4月29日(金)～2022年5月8日(日)</p> <p>※：調査の対象期間中の所在場所を回答してもらった。車を使用した場合の要員参集シミュレーションについては以下の事項を考慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所在場所から共和町宮丘地区（集合場所）までの区間は車での移動とする。 ・共和町宮丘地区（集合場所）から緊急時対策所までの区間は、大和門扉ルートを経由した徒歩による参集とし、参集時間は、要員参集の検証結果を考慮し、保守的に3時間とした。 ・所在場所での出発準備時間：30分 ・集合場所での情報収集時間：30分 <p>※：棒グラフ内の数値は、発電所災害対策要員の人数を示す。</p> <p>第2図 要員参集シミュレーション結果（車でアクセス可能） (2/2)</p>	<p>【女川及び島根】要員参集調査方法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、要員の所在場所（共和町宮丘地区、岩内町、札幌市等）を調査し、車が使える場合、所在場所から12時間以内で参集可能であることを確認している。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

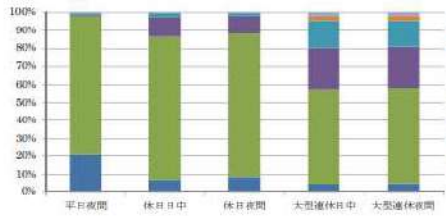
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

【本比較表のp1.0.2-補足10-30にて比較する】

2. 集合場所（浦宿寮）から徒歩で参集する場合（第22図）

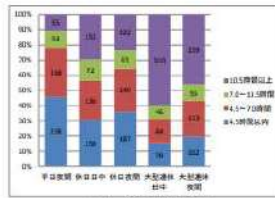
- 車を使用した場合に比べ要員参集のタイミングが遅くなるが、9割程度の要員は、6時間以内に参集可能な場所にいることを確認した（大型連休は除く。）。
- 通常の休日と大型連休を比較すると、大型連休の6時間以内の参集要員は通常と比較して約3割少ないが、6時間以内に約6割の要員が参集可能な場所にいることを確認した。



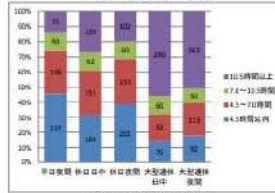
※ それぞれの滞在場所から、以下の集合場所又は集合場所までの移動に要する時間を回答してもらい、その時間に以下の数値を加えた上で算出。
 ・小居取寄、浦宿寮に所在の場合
 →出発準備時間（30分）、発電所までの所要時間を加算して算出
 ・小居取寄、浦宿寮以外の場所に所在の場合
 →出発時間（30分）、集合場所（浦宿寮）までの所要時間、集合場所（浦宿寮）での情報収集・整備等準備時間（30分）、発電所までの所要時間を加算して算出

第22図 要員参集シミュレーション結果（集合場所から徒歩で参集する場合）

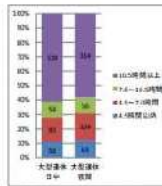
島根原子力発電所2号炉



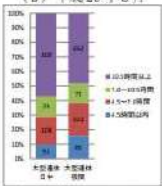
(a) 平成28年5月



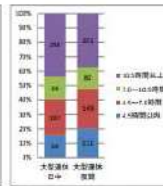
(b) 平成29年5月



(c) 平成30年1月



(d) 令和元年1月



(e) 令和2年1月

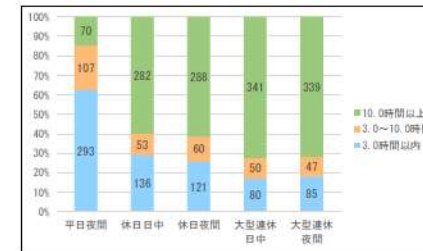
※：出発までの準備時間を考慮の上、天候が良好な状況を想定し、集合場所を経由した場合の発電所（緊急時対策所）までの移動距離4.0時間以内（～3.5km）、4.0～6.5時間（3.5～10km）、6.5～10.0時間（10～20km）、10.0時間以上（20km～）により算出。なお、移動速度は参集訓練の実績（4.0km/h（67m/min））を基に算出している。
 ※：発電所からの直線距離に応じた区分を回答。
 ※：集合場所での情報収集時間の30分を考慮。

第8図 要員参集シミュレーション結果（徒歩移動のみ）

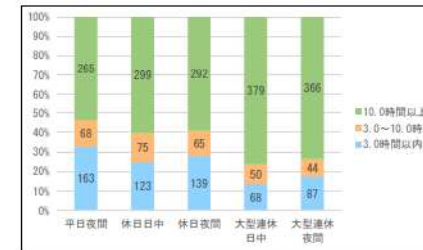
泊発電所3号炉

相違理由

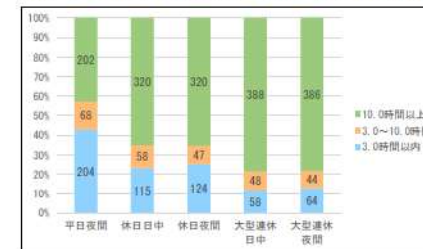
【女川】記載方針の相違
 ・泊は、徒歩移動のみであっても所在場所から10時間以内に参集可能な要員の割合について、参考1 b.項に記載している。



(a) 2020年12月26日(土)～2021年1月5日(火)



(b) 2021年4月29日(木)～2021年5月9日(日)



(c) 2021年12月24日(金)～2022年1月4日(火)

第3図 要員参集シミュレーション結果（徒歩移動のみ）(1/2)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																									
		<p style="text-align: center;">泊発電所3号炉</p> <table border="1"> <caption>第3図 要員参集シミュレーション結果（徒歩移動のみ）(2/2)</caption> <thead> <tr> <th>シナリオ</th> <th>3.0時間以内</th> <th>3.0~10.0時間</th> <th>10.0時間以上</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>休日日中</td> <td>109</td> <td>37</td> <td>349</td> <td>349</td> </tr> <tr> <td>休日夜間</td> <td>100</td> <td>49</td> <td>348</td> <td>348</td> </tr> <tr> <td>大型連休日中</td> <td>84</td> <td>44</td> <td>366</td> <td>366</td> </tr> <tr> <td>大型連休夜間</td> <td>88</td> <td>43</td> <td>364</td> <td>364</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：2022年5月2日、2022年5月6日は平日だが、発電所が休日体制であるため、休日とした。 (d) 2022年4月29日(金)～2022年5月8日(日)</p> <p>※：調査の対象期間中の所在場所を回答してもらった。所在場所から徒歩移動による要員参集シミュレーションについては以下の事項を考慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所在場所から共和町宮丘地区（集合場所）までの区間における徒歩移動速度は、要員参集の検証結果を考慮し、保守的に4 km/hとした。 ・共和町宮丘地区（集合場所）から緊急時対策所までの区間は、徒歩による大和門扉ルートを経由したルートとし、参集時間は、要員参集の検証結果を考慮し、保守的に3時間とした。 ・所在場所での出発準備時間：30分 ・集合場所での情報収集時間：30分 <p>※：棒グラフ内の数値は、発電所災害対策要員の人数を示す。</p> <p>第3図 要員参集シミュレーション結果（徒歩移動のみ）(2/2)</p>	シナリオ	3.0時間以内	3.0~10.0時間	10.0時間以上	合計	休日日中	109	37	349	349	休日夜間	100	49	348	348	大型連休日中	84	44	366	366	大型連休夜間	88	43	364	364	<p>【女川及び島根】要員参集調査方法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、要員の所在場所（共和町宮丘地区、岩内町等）を調査し、徒歩移動のみの場合、所在場所から10時間以内に参集可能であることを確認している。
シナリオ	3.0時間以内	3.0~10.0時間	10.0時間以上	合計																								
休日日中	109	37	349	349																								
休日夜間	100	49	348	348																								
大型連休日中	84	44	366	366																								
大型連休夜間	88	43	364	364																								

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(3) 参集要員の確保</p> <p>(1)要員の想定参集時間、及び(2)要員参集調査から、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）かつ、参集手段が徒歩移動のみを想定した場合であっても、発電所構外の重大事故等に対処する要員は事象発生から約7時間で発電所に参集可能と考えられること、また、年末年始、ゴールデンウィーク等の大型連休に重大事故等が発生した場合であっても、7時間以内に参集可能な重大事故等に対処する要員は150名以上（発電所員約540名の約3割）と考えられる。このことから、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）の初動体制の拡大を図り、長期的な事故対応を行うために外部から発電所へ参集する緊急時対策要員（54名[*]）は、要員参集の目安としている8時間以内に確保可能であることを確認した。</p> <p>※：要員数については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。</p>	<p>(3) 参集要員の確保</p> <p>(1)要員の想定参集時間、及び(2)要員参集調査から、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）かつ、参集手段が徒歩移動のみを想定した場合であっても、発電所構外の発電所災害対策要員は事象発生から約10時間で発電所に参集可能と考えられること、また、年末年始、ゴールデンウィーク等の大型連休に重大事故等が発生した場合であっても、10時間以内に参集可能な発電所災害対策要員は100名以上（発電所員約490名の約2割）と考えられる。このことから、夜間及び休日（平日の勤務時間帯以外）の初動体制の拡大を図り、長期的な事故対応を行うために外部から発電所へ参集する発電所災害対策要員（51名[*]）は、要員参集の目安としている12時間以内に確保可能であることを確認した。</p> <p>※：要員数については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。</p>	<p>【島根】記載表現の相違 【島根】地理的要因の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参集時間の相違 【女川及び島根】要員参集調査結果の相違 ・泊は、大型連休であっても10時間以内に100名以上が参集可能であることを要員参集調査から確認した。要員参集調査結果に相違はあるものの、要員参集の目安としている時間以内に必要となる参集要員を確保する方針について女川及び島根と同様。 【女川及び島根】参集要員の人数の相違 ・泊は、12時間以内に参集要員51名を確保し発電所対策本部を強化する。参集要員の人数は相違するが、女川及び島根と同様に対策本部として必要な機能は確保できる。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p style="text-align: right;">＜参考2＞</p> <p style="text-align: center;">大和門扉ルートを使用した要員参集について</p> <p>発電所敷地外から発電所構内への参集ルートは、通常時に使用している茶津門扉ルートに加え、津波発生時に茶津門扉ルートが使用できない場合を考慮し、津波による影響を受けない大和門扉ルートを確保している。大和門扉ルートを第1図（紫実線）に示す。</p> <p>また、大和門扉ルート上の送電鉄塔の倒壊を想定し、第二大和門扉を通過する徒歩にて迂回するルートを確保している。（第1図（緑実線））</p>  <p>※：①～⑥は大和門扉ルートの撮影箇所</p>  <p style="text-align: center;">第1図 大和門扉ルート</p> <p>1. 大和門扉ルートの運用等 大和門扉ルートを使用した要員参集の運用については、以下のとおりであり、これらの運用については社内規程類に定めている。</p>	<p>【女川及び島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、参考2に大和門扉ルートに係る補足、要員参集の検証結果等について整理した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<ul style="list-style-type: none"> ● 大津波警報が発表された場合は、中央制御室の運転員から守衛所の警備員に連絡する。 ● 連絡を受けた警備員は、大和門扉及び展望台上門扉を開放し、大和門扉を経由して緊急時対策所まで参集するルートを通行可能とする。 ● 警戒事態となれば、発電所長は社員に非常招集をかける。また、社員は、発電所周辺地域（泊村、共和町、岩内町、神恵内村）において震度5弱以上の地震、大津波警報が発表されれば、自主的に参集する運用としている。 ● 大和門扉ルートの始点となる共和町宮丘地区から終点となる大和門扉までの間の道路地権者は共和町、泊村及び当社であり、共和町及び泊村からは道路の使用許可を文書で取り交わしている。また、ルート上の橋梁の崩落、送電鉄塔の倒壊等により迂回するルートについては当社社有地に確保している。 ● 大和門扉ルートの道路には共和町及び泊村がチェーンを取付けているが、共和町及び泊村より鍵を貸与されており、当社社員が通行する場合には、開錠してチェーンを外し通行する運用としている。 ● 鍵は参集する社員の集合場所となっている当社の社員寮（エナメゾン共和寮、柏木寮）に保管している。 ● 今後、道路の拡幅や整地等を行う場合には、地権者、並びに道路管理者である共和町及び泊村との協議の上実施することとなる。 ● 共和町宮丘地区からの要員参集用としてクローラー車（1台）を配備し、要員参集の効率化を図っている。（最大登坂斜度：30度、最高速度：60km/h） <div style="text-align: center;">  <p>第2図 クローラー車</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 大和門扉ルートは、緊急時に使用するルートであることから、積雪対策として、積雪量が10cmを超えることが予想される場合又は積もった場合に除雪する運用としている。なお、発電所構内のアクセスルートの除雪を行う場合には、大和門扉ルートより優先して行う。 	

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>2. 大和門扉ルート上における橋梁の崩落等時に通行する参集ルートについて 大和門扉ルート上の橋梁の崩落等が発生し、通行ができない場合には、徒歩で迂回するルートを設定する。（第3図）</p>  <p>水路橋、ボックスカルバートは徒歩により迂回可能</p>  <p>①水路橋</p>  <p>②ボックスカルバート</p>  <p>③迂回ルート（徒歩）</p>  <p>④冬季における徒歩による迂回の様子</p>  <p>⑤冬季・夜間における徒歩による迂回の様子</p> <p>第3図 水路橋及びボックスカルバートの通行不可時の徒歩による迂回（イメージ図）</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙補足2</p> <p style="text-align: center;">参集訓練の実施結果について</p> <p>1. 概要 重大事故等が発生した場合において、発電所外から参集する重大事故等に対処する要員の参集性を評価するため参集訓練を実施した。 集合場所である緑ヶ丘施設から緊急時対策所に参集する時間を実際に計測して、移動速度を算出した。 この結果から、発電所外から参集する重大事故等に対処する要員の参集するための移動速度を設定した。</p> <p>2. 参集訓練の実施 参集訓練の実施に当たっての条件と実施結果を以下に示す。 (1) 参集訓練の実施概要 ・移動経路は、通常参集ルートである一矢入口及び本谷入口、迂回ルートである宇中入口及び内カネ入口を通過して発電所にアクセスする4ルートを設定して実施。(第1図) ・移動速度の計測は、移動手段を徒歩として実施。 ・各コースとも2名/組で実施。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 200px; height: 150px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">第1図 集合場所（緑ヶ丘施設）からの参集訓練ルート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。 </div>	<p>3. 要員参集の検証結果</p> <p>(1) 概要 重大事故等が発生した場合において、発電所外から参集する発電所災害対策要員の参集性を評価するため要員参集の検証を実施した。 検証については、集合場所である共和町富丘地区から大和門扉を経由し緊急時対策所までの区間、及び岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町富丘地区のエナメゾン共和寮までの区間について、参集する時間を実際に計測した。 この結果から、事象発生から12時間以内に発電所災害対策要員が発電所外から参集可能であることを確認した。 なお、共和町富丘地区から大和門扉を経由し緊急時対策所までの区間については、緊急時に使用するルートであることから、計画的に参集訓練を実施する。</p> <p>(2) 共和町富丘地区から大和門扉を経由し緊急時対策所までの区間の検証 a. 実施概要 ・移動経路は、共和町富丘地区から大和門扉を経由して緊急時対策所にアクセスするルート（紫実線）にて実施。(第1図) ・検証結果等を第1表に示す。</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・島根は、集合場所から緊急時対策所までの徒歩による参集訓練の実施結果を記載している。 ・泊は、『集合場所である共和町富丘地区から大和門扉を経由し、緊急時対策所までの区間』及び『岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町富丘地区のエナメゾン共和寮までの区間』について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
	<p>(2) 参集訓練の実施結果</p> <p>第1表 参集訓練の実績結果（令和元年11月22日実施）</p> <table border="1" data-bbox="712 225 1326 501"> <thead> <tr> <th>ルート</th> <th>移動手段</th> <th>実際の移動距離</th> <th>参集時間</th> <th>実際の移動速度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①一矢ルート</td> <td>徒歩</td> <td>5.7km</td> <td>80分</td> <td>4.3 km/h (72 m/min)</td> <td>通常ルート</td> </tr> <tr> <td>②本谷ルート</td> <td>徒歩</td> <td>9.0km</td> <td>110分</td> <td>4.9 km/h (82 m/min)</td> <td>通常ルート</td> </tr> <tr> <td>③宇中ルート</td> <td>徒歩</td> <td>11.4km</td> <td>169分</td> <td>4.0 km/h (67 m/min)</td> <td>迂回ルート</td> </tr> <tr> <td>④内カネルート</td> <td>徒歩</td> <td>7.0km</td> <td>99分</td> <td>4.2 km/h (70 m/min)</td> <td>迂回ルート</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均移動速度</td> <td colspan="4">4.4 km/h (73 m/min)</td> </tr> </tbody> </table>	ルート	移動手段	実際の移動距離	参集時間	実際の移動速度	備考	①一矢ルート	徒歩	5.7km	80分	4.3 km/h (72 m/min)	通常ルート	②本谷ルート	徒歩	9.0km	110分	4.9 km/h (82 m/min)	通常ルート	③宇中ルート	徒歩	11.4km	169分	4.0 km/h (67 m/min)	迂回ルート	④内カネルート	徒歩	7.0km	99分	4.2 km/h (70 m/min)	迂回ルート	平均移動速度		4.4 km/h (73 m/min)				<p>第1表 検証結果等</p> <table border="1" data-bbox="1361 236 1939 738"> <thead> <tr> <th>日時、気象条件等</th> <th>検証実施者</th> <th>所要時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夜間 天候：雪 2018年1月31日 18:05～ 積雪(道路)： 10～20cm程度 風速：2.4m/s 気温：-6.0℃</td> <td>20代～50代 (13名)</td> <td>1時間14分</td> </tr> <tr> <td>夜間 天候：くもり 2019年2月27日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：8.9m/s 気温：1.0℃</td> <td>40代、50代 (10名)</td> <td>1時間</td> </tr> <tr> <td>夜間 天候：くもり 2020年2月17日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：2.1m/s 気温：1.9℃</td> <td>20代～50代 (10名)</td> <td>1時間</td> </tr> </tbody> </table>	日時、気象条件等	検証実施者	所要時間	夜間 天候：雪 2018年1月31日 18:05～ 積雪(道路)： 10～20cm程度 風速：2.4m/s 気温：-6.0℃	20代～50代 (13名)	1時間14分	夜間 天候：くもり 2019年2月27日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：8.9m/s 気温：1.0℃	40代、50代 (10名)	1時間	夜間 天候：くもり 2020年2月17日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：2.1m/s 気温：1.9℃	20代～50代 (10名)	1時間	<p>【島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根は、集合場所から緊急時対策所までの徒歩による参集訓練の実施結果を記載している。 ・泊は、『集合場所である共和町宮丘地区から大和門扉を経由し、緊急時対策所までの区間』について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。 ・また、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮までの区間についても、徒歩による要員参集の検証を実施しており、検証結果については、参考23.(3)第2表に記載している。
ルート	移動手段	実際の移動距離	参集時間	実際の移動速度	備考																																														
①一矢ルート	徒歩	5.7km	80分	4.3 km/h (72 m/min)	通常ルート																																														
②本谷ルート	徒歩	9.0km	110分	4.9 km/h (82 m/min)	通常ルート																																														
③宇中ルート	徒歩	11.4km	169分	4.0 km/h (67 m/min)	迂回ルート																																														
④内カネルート	徒歩	7.0km	99分	4.2 km/h (70 m/min)	迂回ルート																																														
平均移動速度		4.4 km/h (73 m/min)																																																	
日時、気象条件等	検証実施者	所要時間																																																	
夜間 天候：雪 2018年1月31日 18:05～ 積雪(道路)： 10～20cm程度 風速：2.4m/s 気温：-6.0℃	20代～50代 (13名)	1時間14分																																																	
夜間 天候：くもり 2019年2月27日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：8.9m/s 気温：1.0℃	40代、50代 (10名)	1時間																																																	
夜間 天候：くもり 2020年2月17日 18:00～ 積雪(道路)： 0～20cm程度 風速：2.1m/s 気温：1.9℃	20代～50代 (10名)	1時間																																																	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>3. 参集訓練の評価</p> <p>第1表の参集訓練の結果より、徒歩での移動速度は73m/min (4.4km/h)と算出され、本訓練の評価用歩行速度を67m/min (4.0km/h)で設定した。</p> <p>また、上記の参集性の評価に当たっては、測定結果に交通事情や道路条件及び道路上に発生した障害によって発生する迂回に要する時間を考慮し、保守的に参集に係る移動速度を67m/min (4.0km/h)とした。</p>	<p>b. 評価</p> <p>第1表の検証結果等より、条件の厳しい冬季、夜間においても徒歩での共和町宮丘地区から大和門扉を経由して緊急時対策所までの所要時間は最大で1時間14分であった。</p> <p>また、要員参集の想定時間は、検証結果に道路条件及び道路上に発生した橋梁の崩落や送電鉄塔の倒壊等の障害によって発生する迂回に要する時間を考慮し、保守的に参集に係る所要時間を3時間と設定した。</p>	<p>【島根】要員参集の検証における評価方法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根は、集合場所から緊急時対策所までの参集ルートにおいて参集訓練を行い、その結果から保守的に参集に係る移動速度を4.0km/hと設定している。 ・島根は、発電所から10km地点に所在する要員の参集時間については、移動速度を4.0km/h、発災後30分後に自宅を出発することを考慮し、6.5時間と設定している。 ・泊は、集合場所である共和町宮丘地区から大和門扉を経由し緊急時対策所までルートにおいて、要員参集の検証を行い、その結果から3時間以内に要員が参集可能であることを確認した。


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 参集訓練の様子 参集訓練の様子を第2図に示す。</p>  <p>一矢ルート 本谷ルート</p> <p>宇中ルート 内カネルート</p> <p>第2図 参集訓練の様子</p>	<p>c. 検証の様子 冬季、夜間に実施した要員参集の検証の様子を第4図に示す。</p>  <p>※：道路脇にスノーポールを設置（赤矢印）</p> <p>第4図 要員参集の検証の様子</p> <p>(3) 岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から共和町富丘地区までの区間の検証</p> <p>a. 実施概要 移動経路は、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）*から最も距離が長くなるルートにて実施。（第5図）</p> <p>※：発電所災害対策要員の主な居住地である岩内町において、津波による被害を想定し、岩内町の避難場所の1つである岩内町高台地区の岩内町地域交流センターを出発地点として設定。</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、冬季、夜間に実施した要員参集の検証の様子を示した。</p> <p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町富丘地区のエナメゾン共和寮までの区間について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由										
		 <p>※：①～⑥は検証の様子の撮影箇所（第6図）</p> <p>第5図 岩内町高台地区から共和町宮丘地区（集合場所）までの要員参集の検証ルート</p> <p>第2表 検証結果等</p> <table border="1" data-bbox="1346 893 1955 1133"> <thead> <tr> <th colspan="2">日時、気象条件等</th> <th>検証実施者</th> <th>所要時間・距離</th> <th>歩行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天候： 午前中は おおむね 晴れ、午 後は曇り 一時雪</td> <td>2021年12月21日 気温： 2.7℃(最高気 温)、0.7℃(最低 気温) 積雪：約14cm</td> <td>6名 (20代1名、30 代1名、40代1 名、50代2名、 60代1名)</td> <td>3時間34分 約19km</td> <td>約5.3km/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>b. 評価 第2表の検証結果等より、条件の厳しい冬季においても徒歩での岩内町高台地区から集合場所である共和町宮丘地区までの所要時間は最大で約3時間34分であった。</p>	日時、気象条件等		検証実施者	所要時間・距離	歩行速度	天候： 午前中は おおむね 晴れ、午 後は曇り 一時雪	2021年12月21日 気温： 2.7℃(最高気 温)、0.7℃(最低 気温) 積雪：約14cm	6名 (20代1名、30 代1名、40代1 名、50代2名、 60代1名)	3時間34分 約19km	約5.3km/h	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮までの区間について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。</p>
日時、気象条件等		検証実施者	所要時間・距離	歩行速度									
天候： 午前中は おおむね 晴れ、午 後は曇り 一時雪	2021年12月21日 気温： 2.7℃(最高気 温)、0.7℃(最低 気温) 積雪：約14cm	6名 (20代1名、30 代1名、40代1 名、50代2名、 60代1名)	3時間34分 約19km	約5.3km/h									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>c. 検証の様子 冬季に実施した要員参集の検証の様子を第6図に示す。</p>  <p>第6図 要員参集の検証の様子</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は、岩内町高台地区（岩内町地域交流センター）から集合場所である共和町宮丘地区のエナメゾン共和寮までの区間について、徒歩による要員参集の検証結果を記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>(4) まとめ</p> <p>要員参集の検証結果、以下の条件等を踏まえ、事象発生後12時間を目途に参集することが可能な地域について整理した。</p> <p>a. 条件等</p> <p>①事象発生後12時間を目途に参集要員を確保するため、保守的に参集目途時間を10時間とする。</p> <p>②所在場所から集合場所（共和町宮丘地区）までの徒歩移動速度は、4.0km/h[*]と想定。</p> <p>③所在場所での出発準備時間として30分を考慮。</p> <p>④集合場所での情報収集、装備品及び携行資機材の準備等（休息含む。）に30分を考慮。</p> <p>⑤集合場所（共和町宮丘地区）から発電所構内の緊急時対策所までの区間は、大和門扉ルートを使用した要員参集の検証実績を考慮し保守的に3時間とする。</p> <p>⑥長時間の移動を考慮して、55分移動して5分の休憩を想定。</p> <p>※：歩行実績約5.3km/hに対して、悪天候時の影響を考慮し保守的に4.0km/hとする。</p> <p>b. 集合場所までの移動に使用可能な時間</p> <p>=【参集目途時間】-【出発準備時間】+【集合場所での情報収集時間】+【集合場所から発電所までの移動に要する時間】</p> <p>=10(h)-【0.5(h)】+【0.5(h)】+【3(h)】</p> <p>=6(h)</p> <p>c. 集合場所までの徒歩での移動可能距離</p> <p>=6(h)×4(km/h)×55(min)/60(min)=22km</p> <p>d. 岩内町から集合場所までの距離が最も長くなるよう設定した要員参集の検証ルートが約19kmであること及び大きく迂回する形となっていることを踏まえ、発電所から半径12.5km圏内にある共和町宮丘地区、共和町（宮丘地区を除く）、岩内町及び泊村滝ノ瀬地区を参集可能地域と設定した。</p>	<p>【島根】要員参集の検証における評価方法の相違</p> <p>・泊は、事象発生後12時間を目途に参集要員を確保することとしており、保守的に参集時間を10時間と設定している。</p> <p>・出発準備時間、休憩等を考慮し、集合場所までの徒歩での移動可能距離は22kmとなることから、事象発生後12時間を目途に参集することが可能な地域は、要員参集の検証ルートの距離等から発電所から半径12.5km圏内と設定している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙補足1</p> <p style="text-align: center;">鉄塔倒壊時のアクセスについて</p> <p>1. 鉄塔の倒壊と参集ルートについて 発電所周囲には500kV、220kV及び66kVの送電鉄塔が設置されており、送電線及び送電鉄塔は参集ルート上を横断又は参集ルートに近接している。(第1図) 送電線の脱落及び断線、あるいは送電鉄塔が倒壊した場合においても、垂れ下がった送電線又は倒壊した送電鉄塔に対して十分な離隔距離を保って通行すること、又は複数の参集ルートからその他の適切な参集ルートを選択することで、発電所に参集することは可能である。</p> <p>2. 送電鉄塔の倒壊時に通行する参集ルート 送電鉄塔の倒壊等が発生した際に通行する参集ルートについては、倒壊した送電鉄塔の場所及び損壊状況に応じて、その他の複数の参集ルートから、以下の事項を考慮して、確実に安全を確保できる適切な参集ルートを選定して通行する。 ・大津波警報発生の有無 ・倒壊した送電鉄塔及び送電線の損壊状況及び送電線の停電状況 ・上記以外の倒壊物による参集ルートへの影響状況</p> <div data-bbox="714 834 1319 1262" style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">第1図 発電所周辺の参集ルートと送電鉄塔の位置</p> <div data-bbox="801 1326 1319 1370" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。 </div>	<p style="text-align: right;">＜参考3＞</p> <p style="text-align: center;">鉄塔倒壊時のアクセスについて</p> <p>1. 鉄塔の倒壊と参集ルートについて 発電所周囲には275kV及び66kVの送電鉄塔が設置されており、送電線及び送電鉄塔は参集ルート上を横断又は参集ルートに近接している。(第1図) 送電線の脱落及び断線、あるいは送電鉄塔が倒壊した場合においても、垂れ下がった送電線又は倒壊した送電鉄塔に対して十分な離隔距離を保って通行すること、又は複数の参集ルートからその他の適切な参集ルートを選択することで、発電所に参集することは可能である。</p> <p>2. 送電鉄塔の倒壊時に通行する参集ルート 送電鉄塔の倒壊等が発生した際に通行する参集ルートについては、倒壊した送電鉄塔の場所及び損壊状況に応じて、その他の複数の参集ルートから、以下の事項を考慮して、確実に安全を確保できる適切な参集ルートを選定して通行する。 ・大津波警報発生の有無 ・倒壊した送電鉄塔及び送電線の損壊状況及び送電線の停電状況 ・上記以外の倒壊物による参集ルートへの影響状況</p> <div data-bbox="1341 812 1946 1240" style="border: 1px solid black; text-align: center;"> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> — 送電線（青：275kV、緑：66kV） ● 送電鉄塔（青：275kV、緑：66kV） ○ 送電鉄塔倒壊影響範囲 ○ 送電鉄塔倒壊時の送電線の影響範囲 — 集合場所までの参集ルート — 大和門前ルート — 大津波警報発生時は使用しない参集ルート — 迂回ルート（徒歩）（送電鉄塔の損壊を想定） ■ 緊急時対応箇所（F.F.39a） </div> <p style="text-align: center;">第1図 発電所周辺の参集ルートと送電鉄塔の位置</p>	<p>【女川】記載方針の相違 ・泊は、発電所近傍にある送電鉄塔の倒壊による障害を想定した参集ルートの設定を行い、送電鉄塔が倒壊した場合における通行の考え方を参考3に整理している。（島根と同様）</p> <p>【島根】倒壊を想定する送電鉄塔の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(1) 66kV No. 54-甲及び No. 54-乙送電鉄塔が倒壊した場合 発電所進入道路を阻害することになる 66kV No. 54-甲及び No. 54-乙送電鉄塔の倒壊が起きても、これらの送電鉄塔を迂回することでアクセスすることは可能である。(第2図)</p> <div data-bbox="741 432 1285 924" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p>第2図 一矢入口周辺の参集ルートと送電鉄塔の位置</p> <div data-bbox="801 1023 1319 1067" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。 </div>	<p>(1) 275kV送電鉄塔が倒壊した場合 発電所進入道路を阻害することになる275kV送電鉄塔の倒壊が起きても、第二大和門扉を通過するルートによりこれらの送電鉄塔、送電線等を迂回することでアクセスすることは可能である。(第1図)</p> <p>(2) 66kV泊支線No. 5鉄塔が倒壊した場合 51m 倉庫・車庫エリア付近に設置されている 66kV 泊支線 No. 5 鉄塔の倒壊が起きても、これらの送電鉄塔、送電線等を迂回することでアクセスすることは可能である。(第2図)</p> <div data-bbox="1368 451 1904 882" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; text-align: center;"> <p style="font-size: small;">※ 66kV泊支線No. 5鉄塔、66kV泊支線No. 4-1鉄塔及び66kV右支線No. 4-2鉄塔の位置については、第三十三号「保安電源取集」における座標表に特記記載により変更となる可能性がある。</p> </div> <p>第2図 51m 倉庫・車庫エリア付近の参集ルートと送電鉄塔の位置</p>	<p>【島根】記載表現の相違 ・泊は、発電所周囲に設置している275kV及び66kVの送電鉄塔が倒壊した場合を想定し、迂回ルートを設定している。島根は、66kV送電鉄塔のみであるが、送電鉄塔が倒壊した場合、送電鉄塔を迂回することで参集可能となることについては同様である。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>3. 倒壊した送電鉄塔の影響について 自然災害により送電鉄塔が倒壊した事例を第3図に示す。</p>  <p>強風による送電鉄塔の倒壊事例①^{※1} 強風による送電鉄塔の倒壊事例②^{※1}</p> <p>地震による斜面の崩落に伴う送電鉄塔の倒壊事例^{※2}</p> <p>津波による隣接鉄塔の倒壊に伴う送電鉄塔の倒壊事例^{※2}</p> <p>【出典】 ※1：電力安全小委員会送電線鉄塔倒壊事故調査ワーキンググループ報告書（平成14年11月28日） ※2：原子力安全・保安部会・電力安全小委員会電気設備地震対策ワーキンググループ報告書（平成24年3月）</p> <p>第3図 自然災害による送電鉄塔の倒壊事例</p> <p>重大事故等に対処する要員は、送電線の停電など安全を確認した上で、倒壊した送電鉄塔の影響を受けていない箇所を、離隔距離を保って迂回するルートで鉄塔の近傍を通過することが可能である。</p>	<p>3. 倒壊した送電鉄塔の影響について 自然災害により送電鉄塔が倒壊した事例を第3図に示す。</p>  <p>強風による送電鉄塔の倒壊事例①^{※1} 強風による送電鉄塔の倒壊事例②^{※1}</p> <p>地震による斜面の崩落に伴う送電鉄塔の倒壊事例^{※2}</p> <p>津波による隣接鉄塔の倒壊に伴う送電鉄塔の倒壊事例^{※2}</p> <p>大雪による鉄塔倒壊事例^{※3}</p> <p>【出典】 ※1：電力安全小委員会送電線鉄塔倒壊事故調査ワーキンググループ報告書（平成14年11月28日） ※2：原子力安全・保安部会・電力安全小委員会電気設備地震対策ワーキンググループ報告書（平成24年3月） ※3：第2回電力安全小委員会資料2-1（令和5年2月28日）</p> <p>第3図 自然災害による送電鉄塔の倒壊事例</p> <p>発電所災害対策要員は、送電線の停電等安全を確認した上で、倒壊した送電鉄塔の影響を受けていない箇所を離隔距離を保って迂回するルートで鉄塔の近傍を通過することが可能である。</p>	<p>【島根】記載方針の相違・大雪による鉄塔倒壊事例を追加した。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

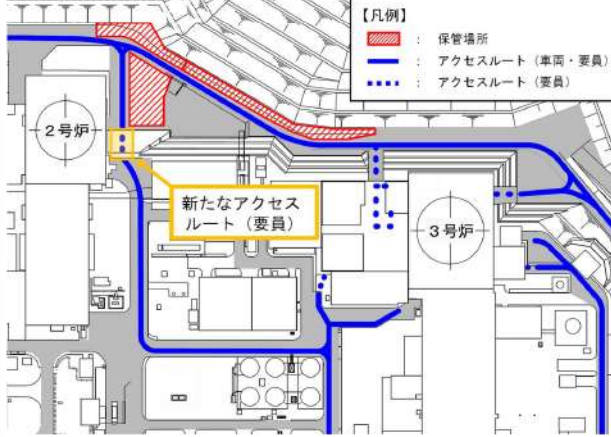

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																									
該当箇所無し	該当箇所無し	<p style="text-align: right;">補足資料(11)</p> <p style="text-align: center;">第1098回審査会合（令和4年12月6日）からの 主要な変更点について</p> <p>第1098回審査会合（令和4年12月6日）から第1149回審査会合（令和5年5月25日）における主な変更点を以下に示す。</p> <p>1. 可搬型設備の位置付け、台数及び保管場所の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効性評価において期待しているホース延長・回収車（送水車用）の位置付けを自主対策設備から重大事故等対処設備に変更することに伴い、配置数を4台から6台に変更する。 可搬型水中ポンプ（地下水低下設備が機能喪失した場合に復旧作業を行うために必要な資機材）の配置箇所の設定に伴い、可搬型直流電源用発電機の保守点検時の予備の保管場所を1、2号炉北側31mエリアから展望台行管理道路脇西側60mエリアに変更する。 重大事故等対処設備に位置付けた集水樹シルトフェンスを新たに配備する。 放射性物質吸着剤の位置付けを重大事故等対処設備から自主対策設備に変更し、保管場所をT.P.10m集水樹から51m倉庫・車庫エリアに変更する。 <p>第1表 可搬型設備の位置付け、台数及び保管場所の変更 一覧</p> <table border="1" data-bbox="1346 847 1955 1091"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th rowspan="2">設備名</th> <th rowspan="2">配置数</th> <th colspan="7">保管場所</th> </tr> <tr> <th>51m倉庫・車庫 エリア</th> <th>1号炉 西側31m エリア</th> <th>1、2号 炉北側 31mエリ ア</th> <th>2号炉 東側31m エリア (a)</th> <th>2号炉 東側31m エリア (b)</th> <th>展望台行 管理道路脇 西側60mエ リア</th> <th>緊急時 対策所 エリア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重大事故等 対処設備 (2台) (設備)</td> <td>ホース延長 ・回収車 (送水車用)</td> <td>6台</td> <td>2台</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2台</td> <td>1台</td> <td>1台</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>重大事故等 対処設備 (2台) (設備)</td> <td>可搬型直流 電源用発電機</td> <td>4台</td> <td>—</td> <td>1台</td> <td>—</td> <td>1台</td> <td>1台</td> <td>1台</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>重大事故等 対処設備 (1台) (設備)</td> <td>集水樹シルト フェンス</td> <td>3組</td> <td>1組</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2組</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>自主対策設備</td> <td>放射性物質 吸着剤</td> <td>1式</td> <td colspan="7">51m倉庫・車庫エリア</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">下線部：変更箇所</p>	分類	設備名	配置数	保管場所							51m倉庫・車庫 エリア	1号炉 西側31m エリア	1、2号 炉北側 31mエリ ア	2号炉 東側31m エリア (a)	2号炉 東側31m エリア (b)	展望台行 管理道路脇 西側60mエ リア	緊急時 対策所 エリア	重大事故等 対処設備 (2台) (設備)	ホース延長 ・回収車 (送水車用)	6台	2台	—	—	2台	1台	1台	—	重大事故等 対処設備 (2台) (設備)	可搬型直流 電源用発電機	4台	—	1台	—	1台	1台	1台	—	重大事故等 対処設備 (1台) (設備)	集水樹シルト フェンス	3組	1組	—	—	2組	—	—	—	自主対策設備	放射性物質 吸着剤	1式	51m倉庫・車庫エリア							
分類	設備名	配置数				保管場所																																																						
			51m倉庫・車庫 エリア	1号炉 西側31m エリア	1、2号 炉北側 31mエリ ア	2号炉 東側31m エリア (a)	2号炉 東側31m エリア (b)	展望台行 管理道路脇 西側60mエ リア	緊急時 対策所 エリア																																																			
重大事故等 対処設備 (2台) (設備)	ホース延長 ・回収車 (送水車用)	6台	2台	—	—	2台	1台	1台	—																																																			
重大事故等 対処設備 (2台) (設備)	可搬型直流 電源用発電機	4台	—	1台	—	1台	1台	1台	—																																																			
重大事故等 対処設備 (1台) (設備)	集水樹シルト フェンス	3組	1組	—	—	2組	—	—	—																																																			
自主対策設備	放射性物質 吸着剤	1式	51m倉庫・車庫エリア																																																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>2. アクセスルート仮復旧作業の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外作業の有効性評価の制限時間に対する余裕時間を確保するため、51m倉庫・車庫エリアからのアクセスルートが周辺斜面の崩壊影響を受けないよう道路の拡幅を行うこととした。（第1図参照） ・これにより、アクセスルート復旧作業なしで可搬型設備の通行が可能となった。 <div data-bbox="1346 379 1955 683" data-label="Image"> </div> <p>第1図 51m倉庫・車庫エリアからのアクセスルートの道路拡幅イメージ</p>	<p>相違理由</p>

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>3. アクセスルート（要員）の追加及びホース敷設ルートの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2号炉脇の法面箇所については、ホース敷設後の充水確認及び定期的な点検を行うための固定梯子を設置し、アクセスルート（要員）を確保する。（第2図参照） ・使用済燃料ピット注水のホース敷設ルートのうち3号原子炉建屋東側を経由したルートについては、3号炉脇の法面箇所を通行しないルートに変更する。（第3図参照）  <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ : 保管場所 — : アクセスルート（要員） ● : アクセスルート（要員） <p>第2図 アクセスルート（要員）の追加（2号炉脇の法面箇所）</p>  <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> — : ホース敷設ルート（屋外）（変更後） - - - : ホース敷設ルート（屋外）（変更前） — : ホース敷設ルート（屋内） <p>第3図 ホース敷設ルート変更（使用済燃料ピット注水）</p>	<p>相違理由</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>4. 3号炉原子炉建屋西側を経由したルートの設定変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3号炉原子炉建屋西側を経由したルートは3号炉タービン建屋を一部通行するルートを設定していたが、女川2号炉における審査実績を踏まえ、地震によるタービン建屋内の配管破損等の影響を考慮して、3号炉タービン建屋を通行しないルートに設定変更している。（第4図参照） ・設定変更したルートを使用する以下①、②の作業について、要員、想定時間、ホース圧損等の成立性の確認を行った。 <p>①：原子炉補機冷却水系への通水確保（海水） ②：ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ及び可搬型タンクローリーを用いた燃料補給</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

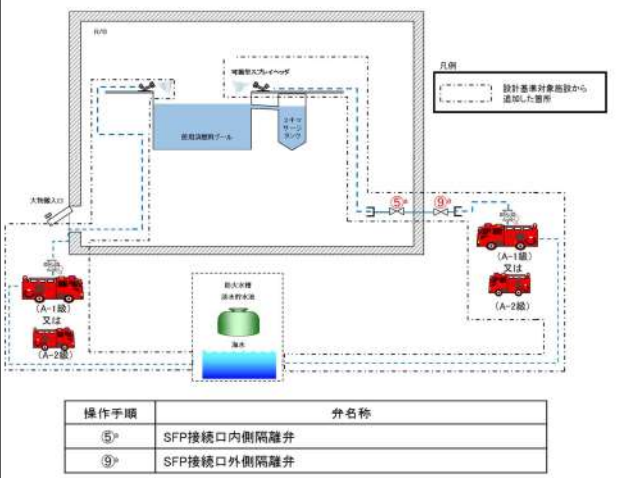

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>(1) 原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の成立性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本作業のルート設定変更の結果を第5図に、設定変更に伴う要員数、想定時間等の結果を第2表に示す。 ・ホース敷設等の作業量の増加により要員数を従来の3人から6人に増員させる必要があるが、想定時間である4時間10分に変更はなく、この想定時間内（所要時間目安：3時間20分）に対応可能であることを確認した。要員数の変更による有効性評価の成立性への影響については第6図に示す。 ・原子炉補機冷却水系への通水に必要な流量は、ホース・配管圧損を考慮しても必要な流量が確保可能であることを確認した。 ・災害対策要員を3人から6人に増員したが、災害対策要員の総数7人に変更がなく有効性評価の成立性に影響がないことを第6図のとおり確認した。 <ul style="list-style-type: none"> ➤有効性評価のうち本作業の制限時間が最も短い「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）」を代表として記載した。 ・以上のことから、有効性評価の成立性に影響がないことを確認した。 	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
	<p>【柏崎刈羽6, 7号炉のまとめ資料（技術的能力1.11）より転載】</p>  <p>第1.11.8図 燃料プール代替注水系による可搬型スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水（淡水/海水） 概要図</p>	 <p>第5図 原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の概略図</p> <p>第2表 原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）の変更結果</p> <table border="1" data-bbox="1344 842 1957 1093"> <thead> <tr> <th></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要員数</td> <td>災害対策要員3人</td> <td>災害対策要員6人</td> </tr> <tr> <td>所要時間目安</td> <td>3時間25分</td> <td>3時間20分</td> </tr> <tr> <td>想定時間</td> <td>4時間10分</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>系統成立性</td> <td>187.5m³/h以上 確保可能</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>タイムチャート</td> <td colspan="2">変更あり（詳細を第6図に記載）</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">下線部：変更箇所</p>		変更前	変更後	要員数	災害対策要員3人	災害対策要員6人	所要時間目安	3時間25分	3時間20分	想定時間	4時間10分	変更なし	系統成立性	187.5m ³ /h以上 確保可能	変更なし	タイムチャート	変更あり（詳細を第6図に記載）		<p>【女川及び島根】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋西側を經由したホースルートについては、一部、常設配管を經由して屋内の接続口に接続する設計としている。（原子炉建屋の外から水を供給するためのホースルートのうち屋外から屋内に接続する経路について一部、常設配管を經由してホースを敷設する設計については柏崎と同様）
	変更前	変更後																			
要員数	災害対策要員3人	災害対策要員6人																			
所要時間目安	3時間25分	3時間20分																			
想定時間	4時間10分	変更なし																			
系統成立性	187.5m ³ /h以上 確保可能	変更なし																			
タイムチャート	変更あり（詳細を第6図に記載）																				

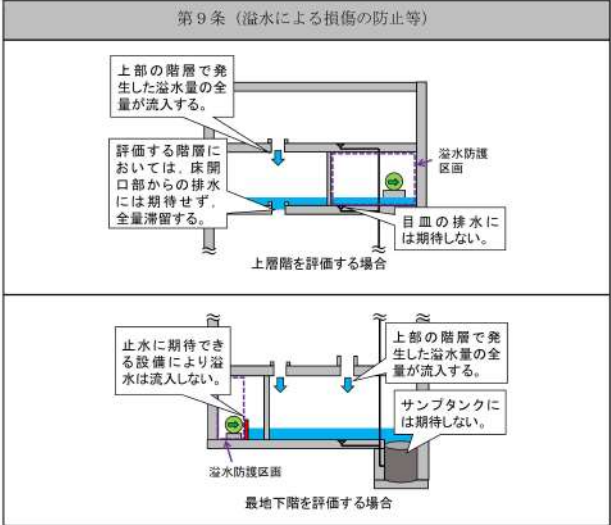
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由				
		<p>5. 屋内のアクセスルートのうち地震による内部溢水の水位評価概要図の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 設置許可基準規則第9条（溢水による損傷の防止等）の評価方針及び先行審査実績を確認し、屋内のアクセスルートにおける溢水水位の評価方法を記載した水位評価概要図を以下のとおり変更した（第8図（変更後））。 ➤第9条の溢水水位の評価方針では、目皿の排水及びサンプタンクへの流入に期待せず水位を評価している（第9図及び第4表）。アクセスルートの溢水評価もこれと同様の評価方針であるにもかかわらず、説明資料で示した水位評価概要図（第8図（変更前））では目皿の排水及びサンプタンクに期待する図となっていたことから、評価方針と整合するよう適正化した。 ➤一方、両者の評価方針については、第9条における溢水評価では、評価対象の階層においては床開口部の排水に期待せず、さらにその上の層階における溢水量（全量）を含めて溢水水位として設定することに対して、アクセスルートでの溢水評価では、より現実的な想定で、評価対象の階層においては床開口部からの排水に期待するとともに、当該箇所の最大堰高さを溢水水位として設定する点で相違している。このため、この相違点が明確となるよう溢水水位評価概要図を適正化した。 <div data-bbox="1339 817 1953 1077"> <p style="text-align: center;">第43条 技術1.0（アクセスルート）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">変更前（令和4年12月6日 第1008回審査委員会資料）</th> <th style="width: 50%;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>発生した溢水量が最高以上の場合は床開口部より下階へ排水される。</p> <p>目皿の排水及びサンプタンクへの流入に期待する図になっており、誤り等の評価方針と不整合。</p> <p>最終下階には上層からの排水が流入しない。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>期待しない目皿の排水及びサンプタンクを排除。</p> <p>階層間の相違点が明確となるようにアクセスルートの考え方を記載。</p> <p>階層の床開口部から排水される場合は、保守時に評価する階層の床開口部のうち最大の堰高さを水位とする。</p> <p>止水上部階でできる段階により溢水は流入しない。</p> <p>最終下階は、付随階以上にある溢水量の全量と排水設備から水位を算出する。</p> </td> </tr> </tbody> </table> </div> <p style="text-align: center;">第8図 アクセスルートの溢水水位評価概要図の変更内容</p>	変更前（令和4年12月6日 第1008回審査委員会資料）	変更後	<p>発生した溢水量が最高以上の場合は床開口部より下階へ排水される。</p> <p>目皿の排水及びサンプタンクへの流入に期待する図になっており、誤り等の評価方針と不整合。</p> <p>最終下階には上層からの排水が流入しない。</p>	<p>期待しない目皿の排水及びサンプタンクを排除。</p> <p>階層間の相違点が明確となるようにアクセスルートの考え方を記載。</p> <p>階層の床開口部から排水される場合は、保守時に評価する階層の床開口部のうち最大の堰高さを水位とする。</p> <p>止水上部階でできる段階により溢水は流入しない。</p> <p>最終下階は、付随階以上にある溢水量の全量と排水設備から水位を算出する。</p>	
変更前（令和4年12月6日 第1008回審査委員会資料）	変更後						
<p>発生した溢水量が最高以上の場合は床開口部より下階へ排水される。</p> <p>目皿の排水及びサンプタンクへの流入に期待する図になっており、誤り等の評価方針と不整合。</p> <p>最終下階には上層からの排水が流入しない。</p>	<p>期待しない目皿の排水及びサンプタンクを排除。</p> <p>階層間の相違点が明確となるようにアクセスルートの考え方を記載。</p> <p>階層の床開口部から排水される場合は、保守時に評価する階層の床開口部のうち最大の堰高さを水位とする。</p> <p>止水上部階でできる段階により溢水は流入しない。</p> <p>最終下階は、付随階以上にある溢水量の全量と排水設備から水位を算出する。</p>						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																											
		<p>第9条（溢水による損傷の防止等）</p>  <p>第9図 第9条における溢水水位評価概要図</p> <p>第4表 第9条とアクセスルートと比較</p> <table border="1" data-bbox="1346 790 1955 1077"> <thead> <tr> <th></th> <th>第9条 （溢水による損傷の防止等）</th> <th>第43条、技術1.0 （アクセスルート）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価対象範囲</td> <td>溢水防護区画</td> <td>アクセスルートエリア※1</td> </tr> <tr> <td>溢水原因</td> <td>地震により故障する機器 使用済燃料ピット（スロッシング）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溢水量</td> <td>設備の容量が複数箇所で開催発生すること</td> <td>第9条を踏まえる</td> </tr> <tr> <td>溢水伝播経路</td> <td>床開口部（期待等）及び溢水影響評価において期待することのできる設備（観等）の抽出を行い設定（溢水伝播経路図）</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">溢水水位</td> <td>上層階の水位設定</td> <td>下階に注水される床開口部のうち最大噴高さを水位設定※2</td> </tr> <tr> <td>目水の排水</td> <td>期待しない（第9条と整合）</td> </tr> <tr> <td>床開口部からの排水</td> <td>期待する※2</td> </tr> <tr> <td>最地下階の水位設定</td> <td>伝播経路上にある従水部の全溢水量と貯留面積から算出した水位を設定※2</td> </tr> <tr> <td>評価基準</td> <td>溢水水位<機能喪失高さ</td> <td>溢水水位<通行困難な水位※1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：第9条と評価の観点異なるため相違している。 ※2：重大事故等時の要員の通行性を評価するアクセスルートでは現実的な想定で床開口部からの排水に期待している。</p>		第9条 （溢水による損傷の防止等）	第43条、技術1.0 （アクセスルート）	評価対象範囲	溢水防護区画	アクセスルートエリア※1	溢水原因	地震により故障する機器 使用済燃料ピット（スロッシング）		溢水量	設備の容量が複数箇所で開催発生すること	第9条を踏まえる	溢水伝播経路	床開口部（期待等）及び溢水影響評価において期待することのできる設備（観等）の抽出を行い設定（溢水伝播経路図）		溢水水位	上層階の水位設定	下階に注水される床開口部のうち最大噴高さを水位設定※2	目水の排水	期待しない（第9条と整合）	床開口部からの排水	期待する※2	最地下階の水位設定	伝播経路上にある従水部の全溢水量と貯留面積から算出した水位を設定※2	評価基準	溢水水位<機能喪失高さ	溢水水位<通行困難な水位※1	
	第9条 （溢水による損傷の防止等）	第43条、技術1.0 （アクセスルート）																												
評価対象範囲	溢水防護区画	アクセスルートエリア※1																												
溢水原因	地震により故障する機器 使用済燃料ピット（スロッシング）																													
溢水量	設備の容量が複数箇所で開催発生すること	第9条を踏まえる																												
溢水伝播経路	床開口部（期待等）及び溢水影響評価において期待することのできる設備（観等）の抽出を行い設定（溢水伝播経路図）																													
溢水水位	上層階の水位設定	下階に注水される床開口部のうち最大噴高さを水位設定※2																												
	目水の排水	期待しない（第9条と整合）																												
	床開口部からの排水	期待する※2																												
	最地下階の水位設定	伝播経路上にある従水部の全溢水量と貯留面積から算出した水位を設定※2																												
評価基準	溢水水位<機能喪失高さ	溢水水位<通行困難な水位※1																												

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料(14)</p> <p style="text-align: center;">保管場所内の可搬型設備配置について</p> <p>女川原子力発電所の可搬型設備保管場所は第1図のとおりであり、保管場所における可搬型設備（車両型）の配置については第2図、第3図に示す。</p>	<p style="text-align: right;">補足 (16)</p> <p style="text-align: center;">保管場所内の可搬型設備配置について</p> <p>I. 可搬型設備の配置の考え方</p> <p>各保管エリア内の可搬型設備の配置は、以下事項を満足した必要な離隔距離を確保する設計とすることから、隣接する可搬型設備及びアクセスルートに影響を与えることはない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両の地震による転倒防止及び加振試験による変位量を考慮した離隔距離の確保^{※1} ・竜巻による飛散防止を考慮した固縛^{※2} ・車両火災による他の車両への影響を想定した離隔距離(3.0m以上)の確保^{※3} ・保管場所の敷地境界から3.0m以上の空地の確保^{※4} <p>また、可搬型設備は、作業性及び車両の動線を考慮し、手順毎に設備をまとめて配置する設計とすることから、搬出に支障となることはない。また、車両移動を考慮した通行幅は、アクセスルートに必要な通行幅(3.0m以上^{※5})を確保し、他の可搬型設備と干渉しない設計とすることから、搬出に支障はない。</p> <p>保管エリア毎の可搬型設備の配置を第1～5図に示す。</p> <p>※1： 車両同士の離隔距離は、隣り合う設備の変位量（加振試験にて確認した変位量であり、第1、3、4保管エリアの最大値は約1.5m、第2保管エリアの最大値は約1.8m）の合算値以上とする。</p> <p>なお、車両と構造物（遮蔽壁、コンテナ等）間は、構造物は移動しない（コンテナはボルト固定、免震重要棟は最大変位量を考慮）ことから、車両の変位量以上の離隔距離を確保する。</p> <p>※2： 飛来物発生防止対策エリア内のみを対象とする。</p> <p>※3： 「設置許可基準規則」第六条（外部火災）における評価。保管場所において、車両（可搬型設備）の火災が起こったとしても周囲の車両に影響を及ぼさないことを評価。具体的には、燃料積載量の大きい大型送水ポンプ車（エンジン用燃料タンク）の火災により熱容量の最も小さいタンクローリ（走行用燃料タンク）が受熱する際に、軽油の温度が許容限界温度となる危険距離を求める。</p> <p>その結果、危険距離は2.2mとなり、可搬型設備間の離隔距離を3.0m以上取ることにより、影響を及ぼすことはないと評価できる。</p> <p>※4： 可搬型設備には危険物である燃料油や可燃物を含むものがあることから、その保管場所については、「危険物の規則に関する政令」で要求される空地のない対象設備は、同令「屋外タンク貯蔵所」とみなし、同令第十一条第一項第二号で要求さ</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(12)</p> <p style="text-align: center;">保管場所内の可搬型設備配置について</p> <p>泊発電所の可搬型設備保管場所は第1図のとおりであり、保管場所における可搬型設備の配置については第2図に示す。</p>	<p>【島根】記載方針の相違 ・泊は女川の資料構成をベースとして作成。 【女川】記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表


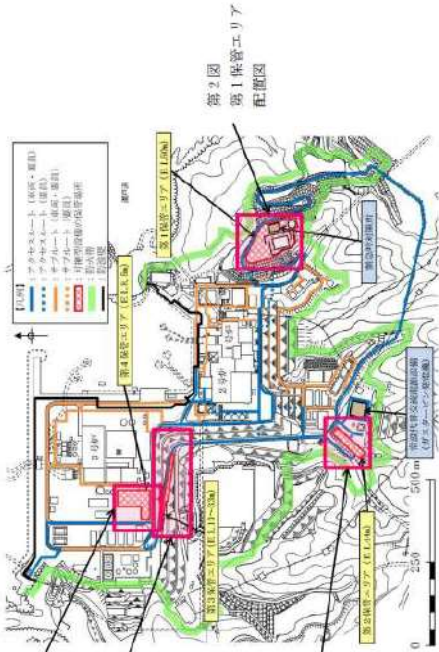

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>れる空地の幅を参考にして、保管場所の敷地境界から3.0m以上の空地を確保する。</p> <p>※5：可搬型設備のうち最大車両幅を有する大型送水ポンプ車の車両幅（約2.5m）及び使用するホースのうち最大サイズの300Aホース1本敷設の幅（約0.4m）を考慮し、設定する。なお、その他のサイズのホース使用時も1本敷設で使用する。</p> <p>2. 第1保管エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各可搬型設備は、必要な離隔距離を確保したうえで、作業性を考慮して手順毎に使用する設備をまとめて配置する。また、同一手順で使用する可搬型設備同士を必要に応じて縦列配置にする設計とする。 緊急時対策関連設備（緊急時対策所用発電機、緊急時対策所正圧化装置（空気ポンプ）、緊急時対策所空気浄化送風機、緊急時対策所空気浄化フィルタユニット）は、配置場所にて使用するため移動することはない。 第1保管エリア内の通路のうち最も狭い免震重要棟遮蔽壁と緊急時対策所間等においても通路幅は約4mあり、可搬型設備のうち最大幅の大型送水ポンプ車の車両幅（約2.5m）を考慮しても、通行に支障はない。 第1保管エリア内の最小離隔距離は、免震重要棟遮蔽壁と化学消防自動車等間の1.5mであり、地震による変位量を考慮し、互いに干渉しない設計とする。 一部に埋戻部が存在することから、詳細設計段階において決定する地下水位が埋戻部下端で浅となる場合、噴砂による不陸の影響の評価を実施し、不陸の発生が想定される場合は、あらかじめ路盤補強等の対策を行う。 <p>3. 第2保管エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）の上部に、淡水送水手順に使用する大量送水車、中型ホース展張車（150A）、可搬型ストレーナを、必要な離隔距離を確保した上で、縦列配置する設計とする。 中型ホース展張車（150A）は、出入口近傍に配置し、搬出する際に、大量送水車と干渉しない設計とする。 第2保管エリア内の最小離隔距離は、可搬型ストレーナ間の5.6mであり、互いに干渉しない設計とする。 <p>4. 第3保管エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型設備毎に、コンクリート基礎を設置し、それぞれ出入口を確保したうえで、他可搬型設備と干渉しない設計とする。なお、コンクリート基礎は、地震時における各可搬型設備の変位量を考慮した十分な広さを確保し、コンクリート基礎から落下しない設計とする。また、可搬型設備同士は必要な離隔距離を確保する。 第3保管エリア内の最小離隔距離は、可搬型ストレーナ間の2.5m 		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第1図 可搬型設備保管場所</p> 	<p>であり、互いに干渉しない設計とする。</p> <p>5. 第4保管エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各可搬型設備は、必要な離隔距離を確保したうえで、手順毎に使用する設備をまとめて配置する。また、同一手順で使用する可搬型設備同士を必要に応じて縦列配置にする設計とする。 重大事故等時に、優先的に使用する可搬型設備は、出入口付近に配置する設計とする。 埋戻土上には、可搬型重大事故等対処設備（α及び予備を除く。）は配置しない。 第4保管エリア内の最小離隔距離は、大型送水ポンプ車と大型ホース展張車（300A）間等の3.0mであり、地震による変位量を考慮し、互いに干渉しない設計とする。 可搬型設備（α及び予備を除く。）は、切土地盤（岩盤）上に保管し、通行範囲の埋戻土はあらかじめコンクリート置換等の対策を実施することから、噴砂による不陸の影響はない。 <p>第1図 保管場所及び屋外アクセスルート図</p> 	<p>第1図 可搬型設備保管場所</p> 	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> プラントの相違による図の内容の相違。

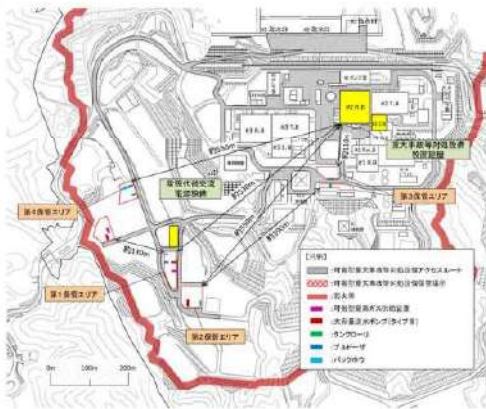
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉



第2図 「2n+a」の可搬型設備配置



第3図 「n」の可搬型設備配置

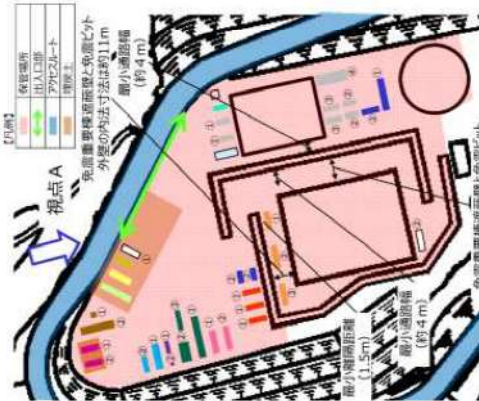
島根原子力発電所2号炉



視点A

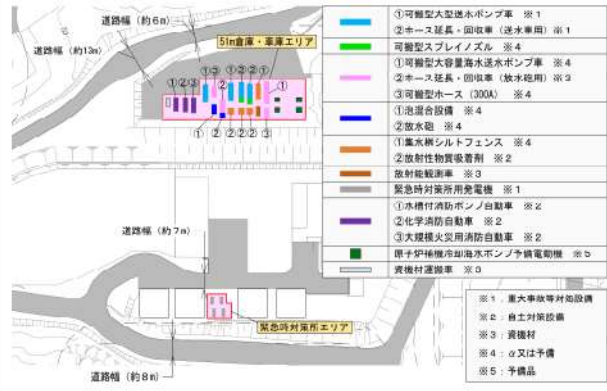
【計画】	① 可搬型大型送水ポンプ車 ※1	② ホース延長・回収車（送水車用） ※1	③ 可搬型大容量海水送水ポンプ車 ※4	④ ホース延長・回収車（放水用） ※2	⑤ 可搬型ホース（300A） ※4	⑥ 泡混合設備 ※4	⑦ 放水砲 ※4	⑧ 龍水機シフトフェンス ※4	⑨ 放射線検測器 ※2	⑩ 放射線検測車 ※3	⑪ 緊急時対策用発電機 ※1	⑫ 水筒付消防ポンプ自動車 ※2	⑬ 化学消防自動車 ※2	⑭ 大規模火災用消防自動車 ※2	⑮ 原子炉種別海水冷却ポンプ予備発電機 ※b	⑯ 資機材運搬車 ※c
① 可搬型大型送水ポンプ車	② ホース延長・回収車	③ 可搬型大容量海水送水ポンプ車	④ ホース延長・回収車	⑤ 可搬型ホース	⑥ 泡混合設備	⑦ 放水砲	⑧ 龍水機シフトフェンス	⑨ 放射線検測器	⑩ 放射線検測車	⑪ 緊急時対策用発電機	⑫ 水筒付消防ポンプ自動車	⑬ 化学消防自動車	⑭ 大規模火災用消防自動車	⑮ 原子炉種別海水冷却ポンプ予備発電機	⑯ 資機材運搬車	

※1：自主対策設備 ※2：自主対策設備 ※3：予備品 ※4：α又は予備 ※5：資機材

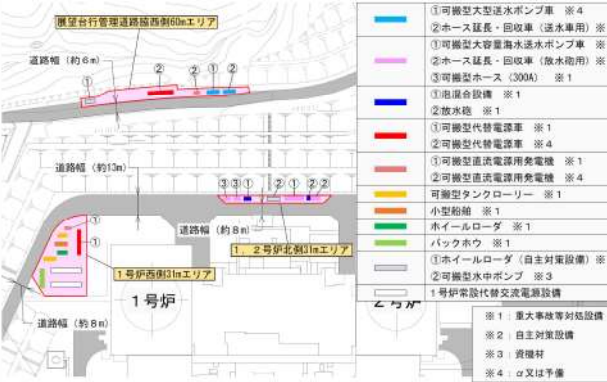


第2図 第1保管エリア配置図

泊発電所3号炉



第2図 保管場所の可搬型設備配置(1/3)


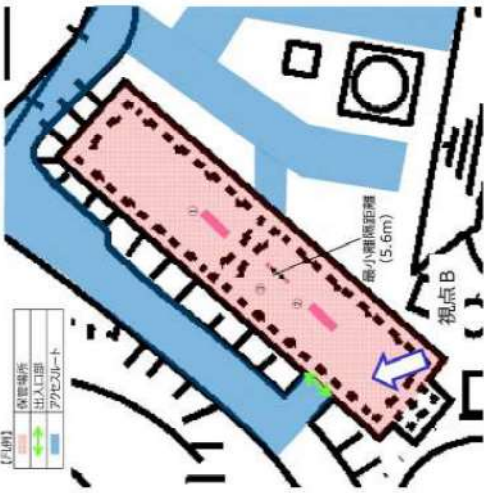
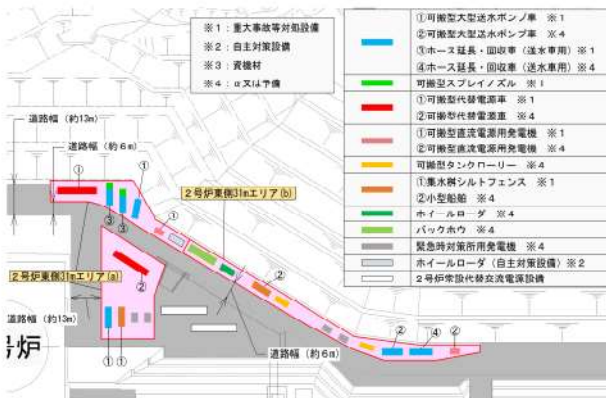


第2図 保管場所の可搬型設備配置(2/3)

【女川及び島根】記載内容の相違
 ・プラントの相違に伴う可搬型設備配置の相違。

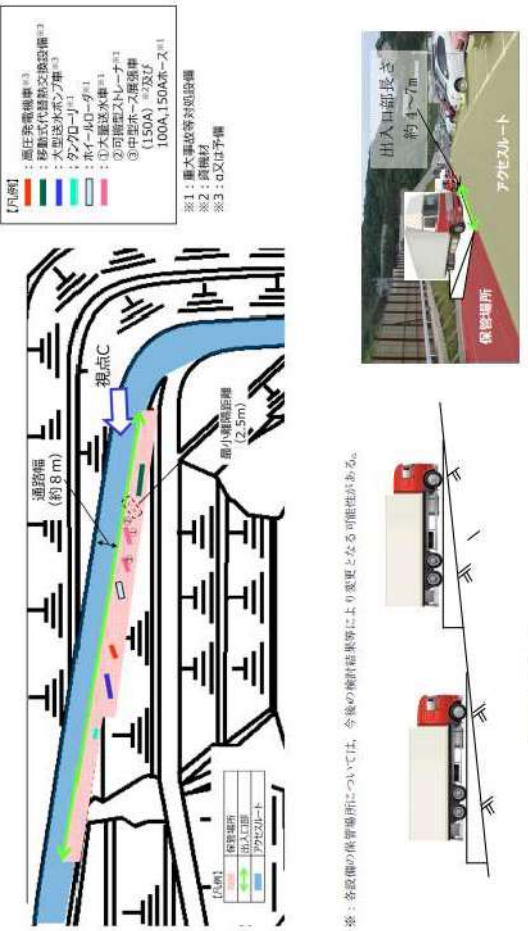
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>島根原子力発電所2号炉</p>  <p>【凡例】：①大型送水車 ②中型ホ-2駆動機 (150A) ②及び 100A,150A①-② ③可搬型エレナ ※1：重大事故等対応設備 ※2：異機材</p>  <p>※ 各設備の配置場所については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。</p> <p>第3図 第2保管エリア 配置図</p>	<p>泊発電所3号炉</p>  <p>※1：重大事故等対応設備 ※2：自主対策設備 ※3：異機材 ※4：α又はβ機</p> <p>①可搬型大型送水ポンプ ※1 ②可搬型大型送水ポンプ ※4 ③ホ-ス延長・回収車 (送水専用) ※1 ④ホ-ス延長・回収車 (送水専用) ※4 可搬型スプレイズル ※1 ①可搬型代替電源車 ※1 ②可搬型代替電源車 ※4 ①可搬型直流電源用発電機 ※1 ②可搬型交流電源用発電機 ※4 可搬型タンクローリー ※4 ①直水射シルトフェンス ※1 ②小型船舶 ※4 ホールローダ ※4 バックホウ ※4 緊急時対策用発電機 ※4 ホールローダ (自主対策設備) ※2 2号炉東側代替交流電源設備</p> <p>第2図 保管場所の可搬型設備配置(3/3)</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う可搬型設備配置の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

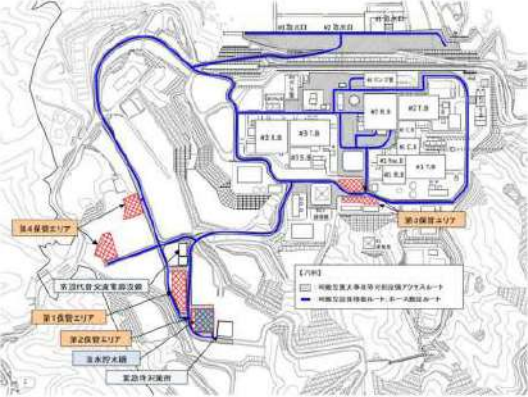

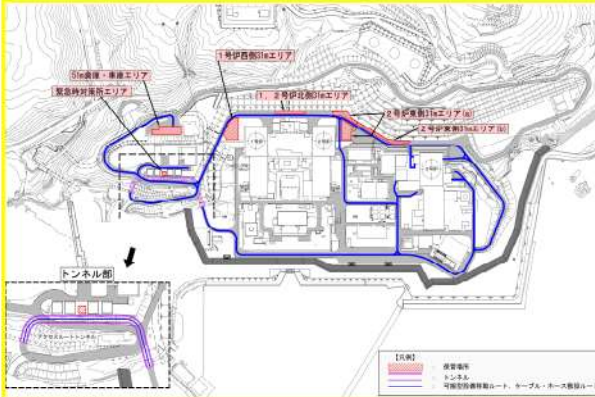

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 運転発電機室 ② 燃料取扱室 ③ 緊急時対応設備 ④ 緊急時対応設備 ⑤ 緊急時対応設備 ⑥ 緊急時対応設備 ⑦ 緊急時対応設備 ⑧ 緊急時対応設備 ⑨ 緊急時対応設備 ⑩ 緊急時対応設備 ⑪ 緊急時対応設備 ⑫ 緊急時対応設備 ⑬ 緊急時対応設備 ⑭ 緊急時対応設備 ⑮ 緊急時対応設備 ⑯ 緊急時対応設備 ⑰ 緊急時対応設備 ⑱ 緊急時対応設備 ⑲ 緊急時対応設備 ⑳ 緊急時対応設備 ㉑ 緊急時対応設備 ㉒ 緊急時対応設備 ㉓ 緊急時対応設備 ㉔ 緊急時対応設備 ㉕ 緊急時対応設備 ㉖ 緊急時対応設備 ㉗ 緊急時対応設備 ㉘ 緊急時対応設備 ㉙ 緊急時対応設備 ㉚ 緊急時対応設備 ㉛ 緊急時対応設備 ㉜ 緊急時対応設備 ㉝ 緊急時対応設備 ㉞ 緊急時対応設備 ㉟ 緊急時対応設備 ㊱ 緊急時対応設備 ㊲ 緊急時対応設備 ㊳ 緊急時対応設備 ㊴ 緊急時対応設備 ㊵ 緊急時対応設備 ㊶ 緊急時対応設備 ㊷ 緊急時対応設備 ㊸ 緊急時対応設備 ㊹ 緊急時対応設備 ㊺ 緊急時対応設備 <p>※1：重大事故等対応設備 ※2：同機材 ※3：d又は予備</p> <p>※：各設備の保管場所については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。</p> <p>断面図イメージ 第4図 第3保管エリア 配置図</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う 可搬型設備配置の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第5図 第4保管エリア 配置図</p> <p>※：各設備の保管庫内については、今後の検討結果等により変更となる可能性がある。</p>		<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う可搬型設備配置の相違。</p>

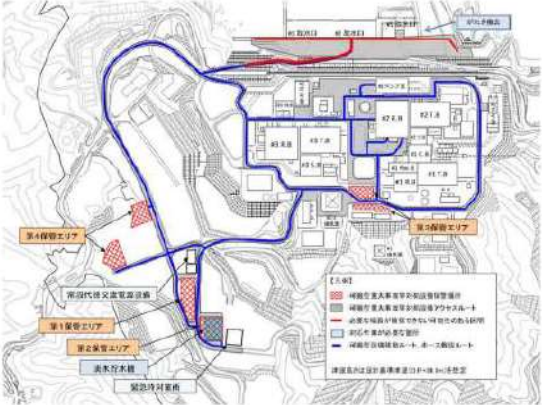
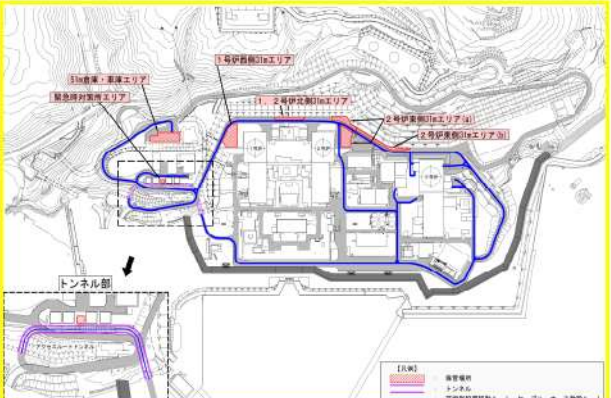
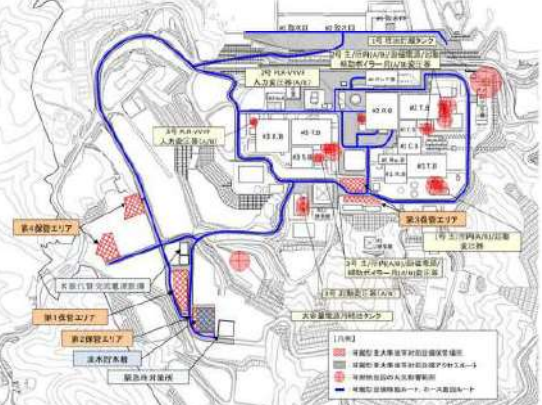

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉 補足資料(15)	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉 補足資料(13)	相違理由
<p>可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて</p> <p>各可搬型設備ごとの移動及びホース敷設ルートについて第1図～第12図に示す。</p>  <p>第1図 可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>  <p>第2図 地震時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>	<p>可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて</p> <p>各可搬型設備ごとの移動及びホース敷設ルートについて第1図～第9図に示す。</p>  <p>第1図 可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>  <p>第2図 地震時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて</p> <p>各可搬型設備の移動及びホース敷設ルートについて第1図～第9図に示す。</p> <p>第1図 可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p> <p>第2図 地震時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>

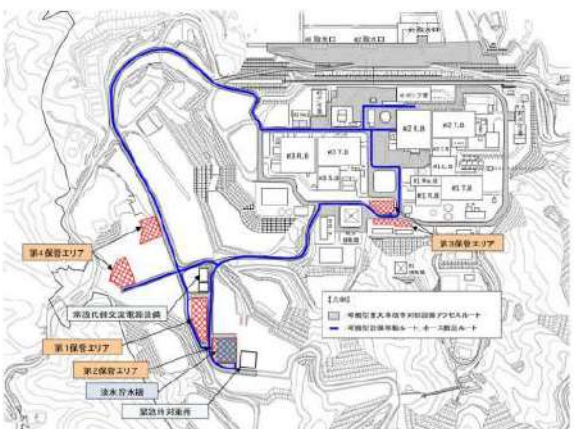
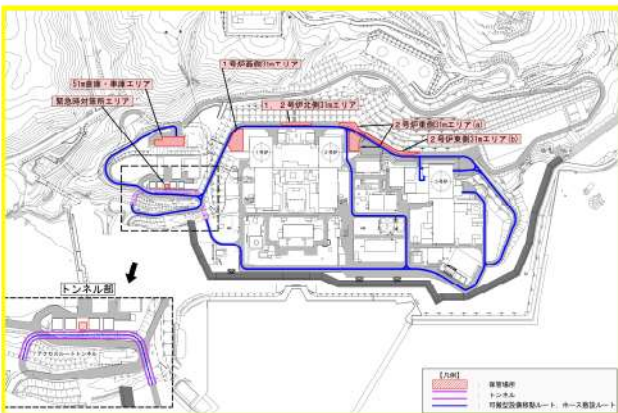
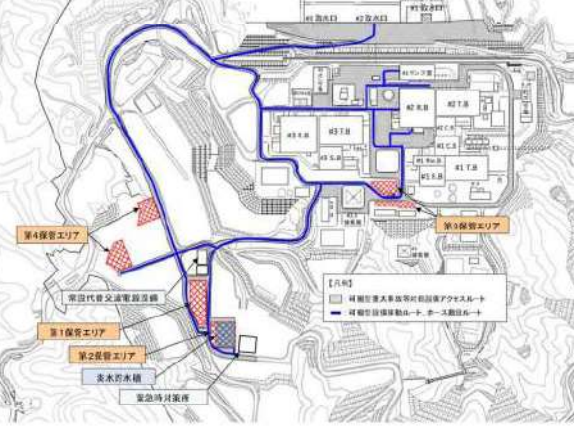
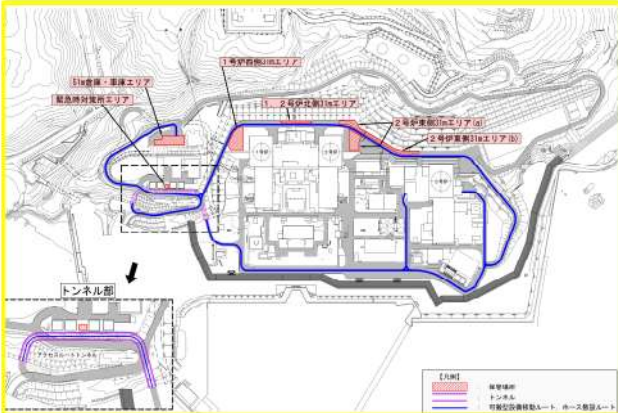
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			
<p>第3図 津波時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>		<p>第3図 津波時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>	<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>
			<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>
<p>第4図 火災時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p>		<p>第4図 火災時における可搬型設備移動及びホース敷設ルート（全体）</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	

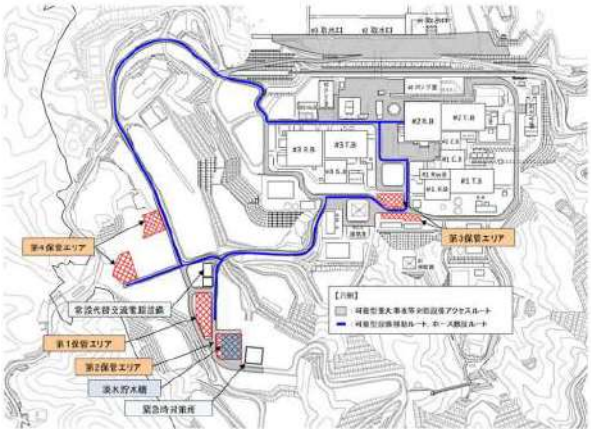
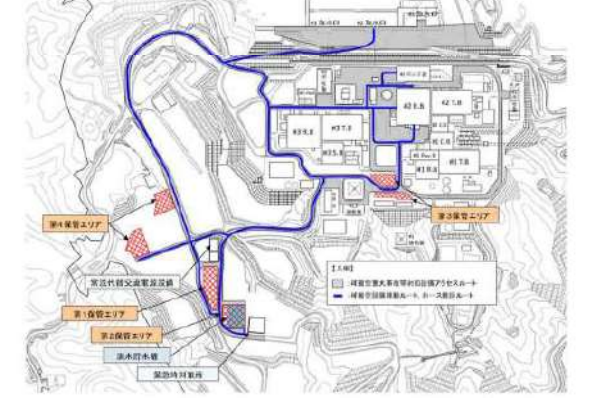
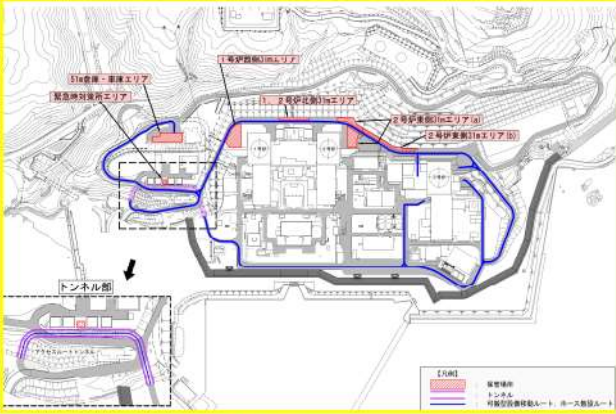
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="156 606 616 662">第5図 大容量送水ポンプ（タイプI）による送水 (淡水貯水槽から原子炉建屋及び復水貯蔵タンクへ)</p>		 <p data-bbox="1355 606 1948 694">第5図 可搬型大型送水ポンプ車による注水 (代替炉心注水、補助給水ビットへの補給、燃料取替用水ビットへの補給及び使用済燃料ビットへの注水)</p>	<p data-bbox="1982 606 2161 694">【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による 図の内容の相違。</p>
 <p data-bbox="78 1220 694 1268">第6図 熱交換器ユニット及び大容量送水ポンプ（タイプI）による除熱</p>		 <p data-bbox="1344 1220 1960 1268">第6図 可搬型大型送水ポンプ車による通水（原子炉補機冷却水系への海水通水）</p>	<p data-bbox="1982 1220 2161 1300">【女川】記載表現の相違 ・プラントの相違による 図の内容の相違。</p>

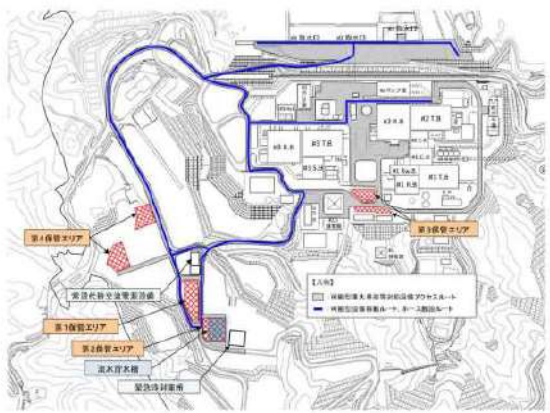
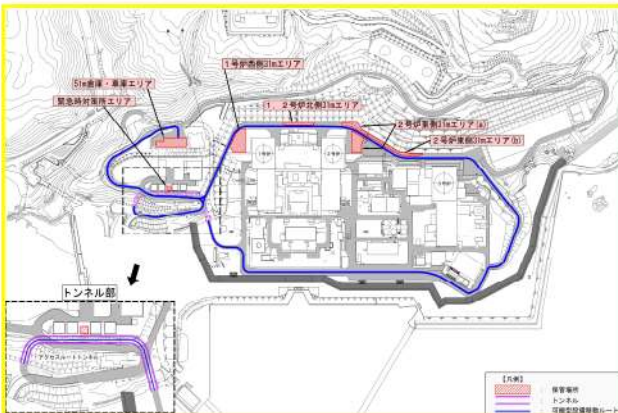
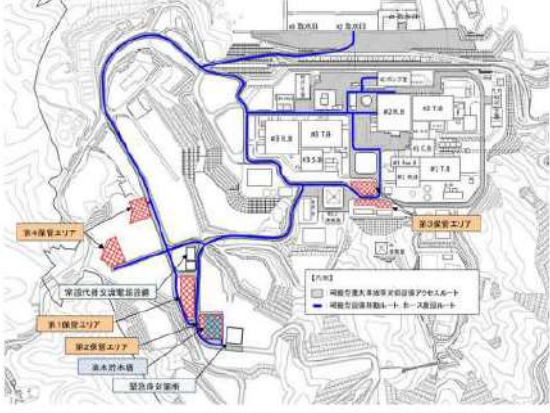
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="174 606 600 630">第7図 可搬型窒素ガス供給装置による窒素供給</p>			
 <p data-bbox="91 1157 680 1181">第8図 大容量送水ポンプ（タイプII）による放射性物質拡散抑制</p>		 <p data-bbox="1346 1157 1960 1181">第7図 可搬型大容量海水送水ポンプ車による放射性物質拡散抑制</p>	<p data-bbox="1982 606 2161 686">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p> <p data-bbox="1982 1157 2161 1236">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p>

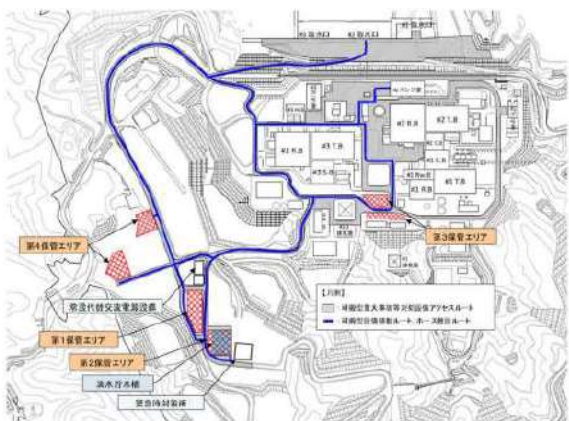
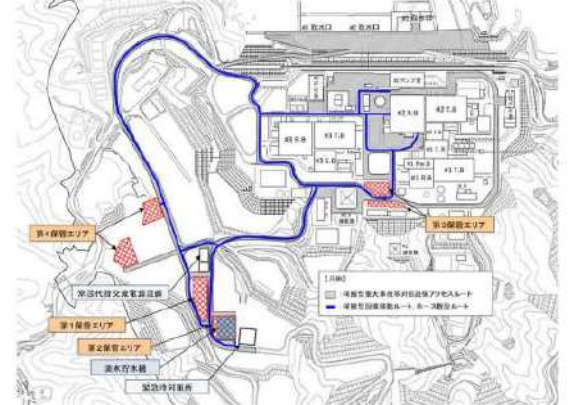
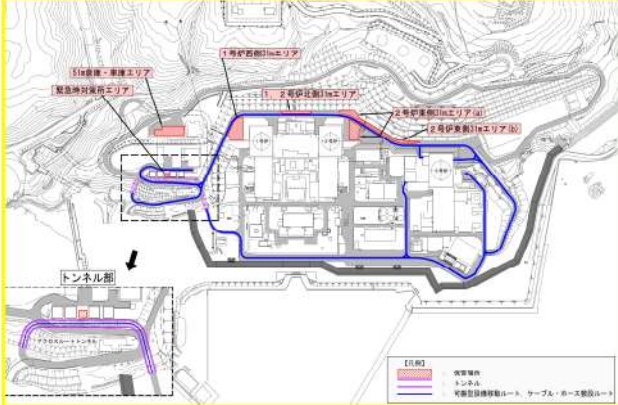
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第9図 シルトフェンスによる放射性物質拡散抑制</p>		 <p>第8図 集水樹シルトフェンスによる放射性物質拡散抑制</p>	<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p>
 <p>第10図 大容量送水ポンプ（タイプ1）による海水直接注水</p>			<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="71 603 703 662">第11図 大容量送水ポンプ（タイプII）による淡水貯水槽への海水補給</p>			<p data-bbox="1966 603 2152 686">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による対応手段の相違。</p>
 <p data-bbox="71 1185 703 1212">第12図 電源車による電源確保及びタンクローリによる燃料補給</p>		 <p data-bbox="1335 1185 1966 1244">第9図 可搬型代替電源車による電源確保及び可搬型タンクローリによる燃料補給</p>	<p data-bbox="1966 1185 2152 1268">【女川】記載表現の相違・プラントの相違による図の内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足 5</p> <p>屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒調査について</p> <p>屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒等による影響について、有効性評価の各事象の対応操作毎にウォークダウンを行っている。具体的な確認内容については、有効性評価の事象の対応操作において、時間的裕度が少ないガスタービン発電設備から交流電源を受電する操作を例に、中央制御室から原子炉建屋地下1階にある非常用電源室までのウォークダウン結果を示す。</p> <p>ウォークダウンに用いたアクセスルートは第1図のとおりである。</p> <p>ルート近傍にある資機材設備の場所及び大きさ、通路幅を計測した結果は第1表のとおりであり、「アクセスルート近傍の設置物は、転倒防止処置を施している物を含めすべて転倒する」ものとし、「設置物が転倒した際、最も通路がふさがれるパターンを想定しても通行可能な幅が30cmあれば通過可能」、「設置物が転倒した際に設置物の移動が可能な場合（重量物でない場合）は、通過可能」とした場合の各資機材設備に対する通行可能性評価を行った。通行できない場合は乗り越えることを想定する。</p> <p>このケースの場合、6号及び7号炉ともに2箇所(①、②)について転倒による乗り越えの可能性がある資機材設備として抽出した。(第1図の緑線上の設置物、第1表)</p> <p>さらに、万一通常のアクセスルートが使用できない場合を想定し、他のアクセスルートについても通過可能であることを確認した。(第1図の水色線)</p> <p>このケースの場合6号及び7号炉ともに転倒による乗り越えの可能性のある箇所がないことを確認した。</p>	<p style="text-align: right;">補足 (3)</p> <p>屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒調査について</p> <p>アクセスルートにおける資機材設備の転倒等による影響について、有効性評価の各事象の対応操作毎にウォークダウンを行っている。具体的な確認内容については、有効性評価の事象の対応操作において、時間的裕度が少ない注水弁電源切替操作を例に、中央制御室から原子炉建物3階にあるA及びB非常用電気室送風機室までのウォークダウン結果を示す。</p> <p>ウォークダウンに用いたアクセスルートは第1図のとおりである。</p> <p>ルート近傍にある資機材設備の場所及び大きさ、通路幅を計測した結果は第1表のとおりであり、「アクセスルート近傍の設置物は、転倒防止処置を施している物を含めすべて転倒する」ものとし、「設置物が転倒した際、最も通路がふさがれるパターンを想定しても通行可能な幅が30cmあれば通過可能」、「設置物が転倒した際に設置物の移動が可能な場合（重量物でない場合）は、通過可能」とした場合の各資機材設備に対する通行可能性評価を行った。通行できない場合は乗り越えることを想定する。</p> <p>このケースの場合、乗り越えの可能性のある場所がないことを確認した。</p> <p>さらに、万一通常のアクセスルートが使用できない場合を想定し、他のアクセスルートについても通過可能であることを確認した。(第1図の青破線)</p> <p>このケースの場合、転倒による乗り越えの可能性のある箇所がないことを確認した。</p>	<p style="text-align: right;">補足資料 (14)</p> <p>屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒調査について</p> <p>アクセスルートにおける資機材設備の転倒等による影響について、有効性評価の各事象の対応操作ごとにウォークダウンを行っている。具体的な確認内容については、有効性評価の事象の対応操作において、時間的裕度が少ない主蒸気逃がし弁開放操作を例に、中央制御室から原子炉建屋T.P.33.1mにある主蒸気管室までのウォークダウン結果を示す。</p> <p>ウォークダウンに用いたアクセスルートは第1図のとおりである。</p> <p>ルート近傍にある資機材設備の場所及び大きさ、通路幅を計測した結果は第1表のとおりであり、「アクセスルート近傍の設置物は、転倒防止処置を施している物を含めすべて転倒する」ものとし、「設置物が転倒した際、最も通路がふさがれるパターンを想定しても通行可能な幅が30cmあれば通過可能」、「設置物が転倒した際に設置物の移動が可能な場合（重量物でない場合）は、通過可能」とした場合の各資機材設備に対する通行可能性評価を行った。通行できない場合は乗り越えることを想定する。</p> <p>このケースの場合、2箇所(第1図及び第1表における②、③)について転倒による乗り越えの可能性がある場所として抽出した。</p> <p>さらに、万一通常のアクセスルートが使用できない場合を想定し、他のアクセスルートについても通過可能であることを確認した。(第1図の赤破線)</p> <p>このケースの場合、転倒による乗り越えの可能性のある箇所がないことを確認した。</p> <p style="text-align: right;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載内容の相違 ・泊は、資機材の転倒調査結果を記載している。このため、本項については、資機材の転倒調査結果を記載している柏崎6.7号炉及び島根2号炉との比較を行った。</p> <p>【柏崎及び島根】記載表現の相違</p> <p>【柏崎及び島根】記載内容の相違 ・有効性評価の対応手段及びアクセスルートの相違。</p> <p>【柏崎及び島根】調査結果の相違 ・泊は、乗り越えの可能性のある場所を抽出し、「別紙(32) 屋内アクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について」においてアクセス性への影響について評価している。(柏崎と同様)</p> <p>【柏崎及び島根】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 229 629 1066" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="645 277 678 1034" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒調査アクセスルート(1/2)</div> <div data-bbox="181 1118 689 1177" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</div>	<div data-bbox="719 229 1272 1098" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1283 252 1317 1072" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第1図 屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(1/4)</div> <div data-bbox="927 1129 1308 1155" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1346 229 1966 1182" style="border: 1px dashed red; padding: 10px;"> <div data-bbox="1368 252 1899 1161" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1910 331 1944 1098" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(1/4)</div> </div> <div data-bbox="1480 1209 1955 1251" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1357 1299 1928 1331" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【柏崎及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効性評価の対応手段及びアクセスルートの相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

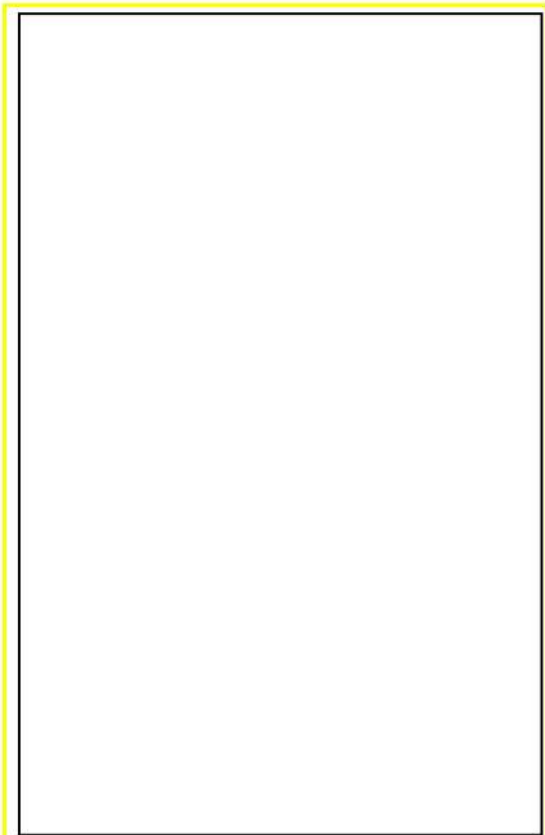
1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉

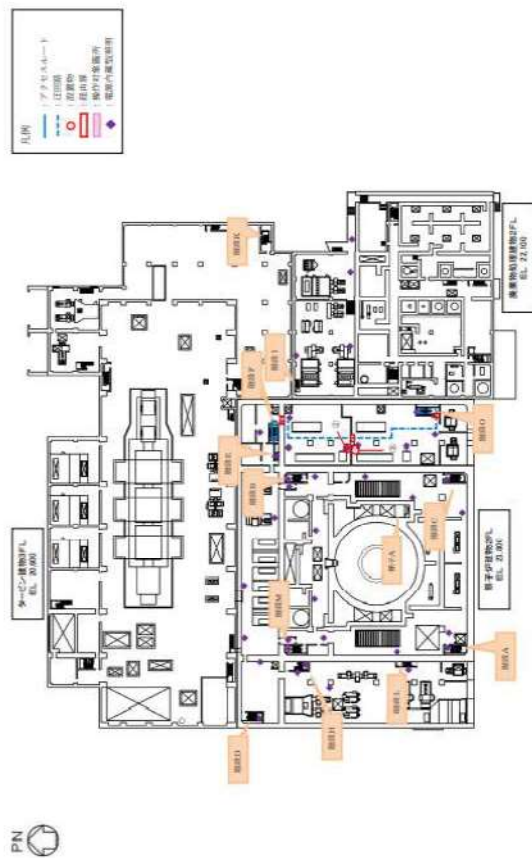
島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

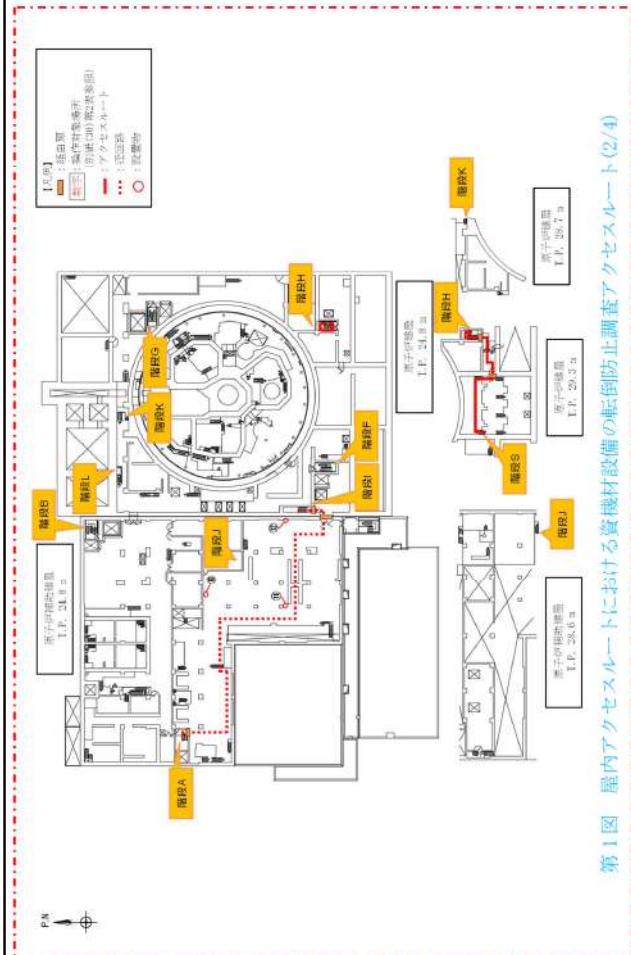
相違理由



第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒調査アクセスルート(2/2)



第1図 屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(2/4)



第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(2/4)

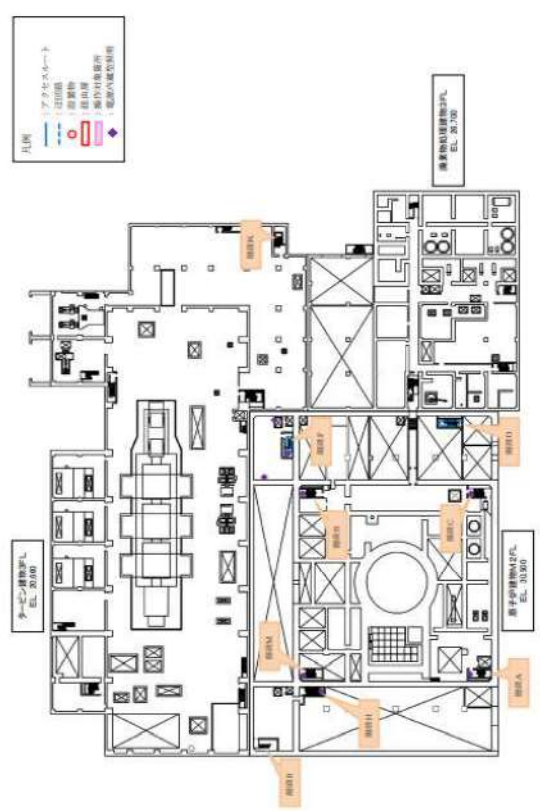
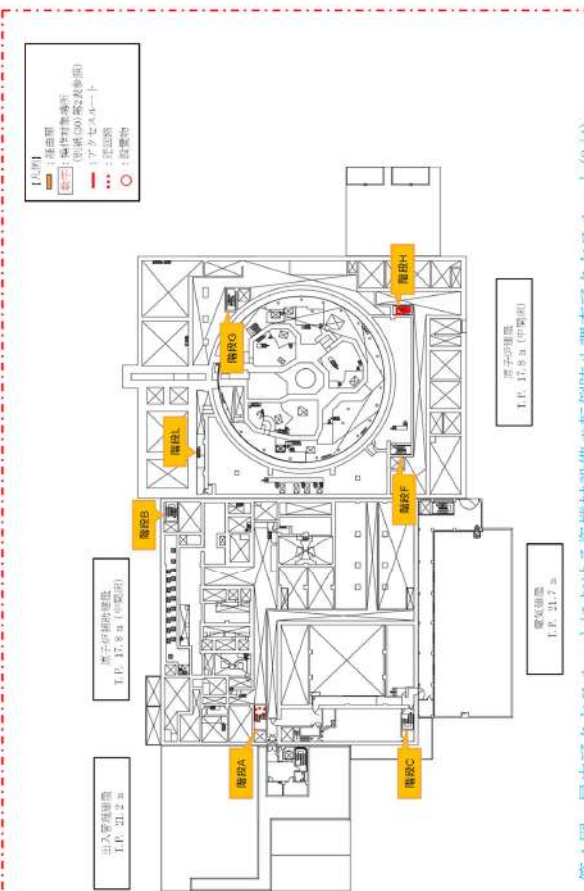
【柏崎及び島根】記載内容の相違
 ・有効性評価の対応手段及びアクセスルートの相違

：評価結果に係る部分は別途ご説明する

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>凡例 1. アクセスルート 2. 避難経路 3. 防火経路 4. 消火器の取付場所 5. 火災警報機 6. 消火器の取付場所</p> <p>第1図 屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(3/4)</p>	 <p>凡例 1. アクセスルート 2. 避難経路 3. 防火経路 4. 消火器の取付場所 5. 火災警報機 6. 消火器の取付場所</p> <p>第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(3/4)</p> <p>出入室扉幅 T.P. 21.2 m 蒸気発生炉室幅 T.P. 15.8 m (中間区) 蒸気発生炉室 T.P. 17.8 m (中間区) 暖房室幅 T.P. 21.7 m</p> <p>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>	<p>【島根】記載内容の相違 ・有効性評価の対応手段 及びアクセスルートの相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第1図 屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(4/4)</p>	<p>第1図 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒防止調査アクセスルート(4/4)</p> <p>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【島根】記載内容の相違 ・有効性評価の対応手段 及びアクセスルートの相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉

第1表 資機材設備の設置状況 (1/4)

番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路 の幅 [mm]	写真
			高さ	奥行	幅	最大 長さ		
			(下段) 評価結果					
①	サービス 建屋 地下1階 西側Ev横	清掃用具保 登ラック	1,920	710	2,170	2,900	2,430	
			設置物の転倒後、乗り越え可能なためアクセス性問題なし。					
②	サービス 建屋 地下1階 西側Ev横	工具箱	1,890	900	1,150	2,210	2,430	
			設置物の転倒後、乗り越え可能なためアクセス性問題なし。					
③	コントロ ール建屋 地下1階 (共用) 通路	固定式消火 設備用ボン ベ(二酸化 炭素ボン ベ)	1,920	710	1,740	2,600	4,200	
			通路の幅が十分なため アクセス性問題なし。					
④	6号炉原子 が建屋 地下1階 A系非常用 電気品室	リフター	2,500	1,750	1,250	2,950	3,900	
			通路の幅が十分なため アクセス性問題なし。					
⑤	6号炉原子 が建屋 地下1階 A系非常用 電気品室	電源車用ボ ラム	1450	1720	1250	2100	3,900	
			通路の幅が十分なため アクセス性問題なし。					
⑥	6号炉原子 が建屋 地下1階 A系非常用 電気品室	治具ラック	1,620	720	1,330	2,080	1,400	
			アクセスルートと関係のない 場所に設置されているため 問題なし。					

島根原子力発電所2号炉

第1表 資機材設備の設置状況

番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路 の幅 [mm]	写真
			高さ	奥行	幅	最大 長さ		
			(下段) 評価結果					
①	廃棄物 処理建屋 1階 補助室主 通路通路	資機材 保管庫	900	400	900	1,273	1,590	
			設置物が転倒したとしても通 路の幅が十分なため アクセス性問題なし。					
②	原子炉 建屋 付属棟 2階 A-非常用 電気室	資機材 保管庫	1,800	400	900	2,013	2,300	
			設置物が転倒したとしても通 路の幅が十分なため アクセス性問題なし。					
③	原子炉 建屋 付属棟 2階 B-非常用 電気室	踏み台	900	700	500	1,141	2,300	
			設置物が転倒したとしても通 路の幅が十分なため アクセス性問題なし。					

泊発電所3号炉

第1表 資機材設備の設置状況(1/3)

番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路 の幅 [mm]	写真
			高さ	奥行	幅	最大 長さ		
			(下段) 評価結果					
①	3号炉 原子が建屋 (T.P. 17. 8a)	靴箱	910	400	1,000	1,353	2,160	
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし。					
②	3号炉 原子が建屋 (T.P. 17. 8a)	担架格納箱	2,330	200	280	2,347	2,350	
			設置物の転倒後、乗り越え可能 なためアクセス性問題はなし。					
③	3号炉 原子が建屋 (T.P. 17. 8a)	ポンペ ラック	1,800	500	950	2,036	2,010	
			設置物の転倒後、乗り越え可能 なためアクセス性問題はなし。					
④	3号炉 原子が建屋 (T.P. 33. 1a)	踏み台	500	400	600	781	1,030	
			当該アクセスルートと関係の ない場所に設置されているた めアクセス性問題なし。					
⑤	3号炉 原子が補助 建屋 (T.P. 17. 8a)	ヘルメット 棚 (赤囲み箇所)	2,100	450	900	2,285	2,320	
			あらかじめ撤去することから アクセス性問題なし。					

：評価結果に係る部分は別途ご説明する

【柏崎及び島根】記載内
容の相違
・資機材の配置状況の相
違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉		島根原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
第1表 資機材設備の設置状況(2/4)				第1表 資機材設備の設置状況(2/3)		【柏崎及び島根】記載内容の相違 ・資機材の配置状況の相違。
番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm] 高さ 奥行 幅 最大長さ	通路の幅 [mm]	写真	
⑦	6号炉原子炉建屋 地下1階 A系非常用電気品室	ACBテスト用制御盤	1,050 560 570 1,200	1,200		
			アクセスルートと関係のない場所に設置されているため問題なし			
⑧	6号炉原子炉建屋 地下1階 南側通路階段付近	S/Cベント用ポンベラック(空気ポンベ)	1,600 600 1,100 1,950	5,000以上		
			通路の幅が十分なためアクセス性問題なし			
⑨	6号炉原子炉建屋 地下1階 B系非常用電気品室	リフター	2,500 1,750 1,250 2,950	3,600		
			通路の幅が十分なためアクセス性問題なし			
⑩	6号炉原子炉建屋 地下1階 B系非常用電気品室	ACBテスト用制御盤	1,050 560 570 1,200	2,500		
			アクセスルートと関係のない場所に設置されているため問題なし			
⑪	6号炉原子炉建屋 地下1階 B系非常用電気品室	治具ラック	1,620 720 1,330 2,080	2,550		
			アクセスルートと関係のない場所に設置されているため問題なし			
⑫	7号炉原子炉建屋 地下1階 A系非常用電気品室	緊急用資材ラック	870 510 1,200 1,480	2,900		
			アクセスルートと関係のない場所に設置されているため問題なし			
⑥	3号炉 原子炉補助建屋 (T.P.17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100 450 900 2,285	3,120		
			設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なためアクセス性問題なし			
⑦	3号炉 原子炉補助建屋 (T.P.17.8m)	工具棚 (赤囲み箇所)	900 450 900 1,273	2,660		
			設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なためアクセス性問題なし			
⑧	3号炉 原子炉補助建屋 (T.P.17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100 450 900 2,285	3,120		
			設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なためアクセス性問題なし			
⑨	3号炉 原子炉補助建屋 (T.P.17.8m)	ヘルメット棚 (赤囲み箇所)	2,100 450 900 2,285	3,120		
			設置物が転倒したとしても通路の幅が十分なためアクセス性問題なし			
⑩	3号炉 原子炉補助建屋 (T.P.24.8m)	踏み台	700 400 500 861	1,250		
			当該アクセスルートと関係のない場所に設置されているためアクセス性問題なし			
: 評価結果に係る部分は別途ご説明する						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第1表 資機材設備の設置状況 (3/4)

番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路の幅 [mm]	写真
			高さ	奥行	幅	最大長さ		
			(下段) 評価結果					
⑬	7号炉原子 炉建屋 地下1階 A系非常用 電気品室	リフター	2,230	1,760	960	2,840	3,300	
			通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					
⑭	7号炉原子 炉建屋 地下1階 A系非常用 電気品室	リフター	1,520	1,370	1,070	2,040	3,300	
			アクセスルートと関係のない 場所に設置されているため 問題なし					
⑯	7号炉原子 炉建屋 地下1階 A系非常用 電気品室	器具ラック	1,100	400	1,200	1,630	3,300	
			アクセスルートと関係のない 場所に設置されているため 問題なし					
⑰	7号炉原子 炉建屋 地下1階 南側通路	A.C系空気 ボンベラック (空気ボン ベ)	1,970	400	850	2,150	2,700	
			通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					
⑱	7号炉原子 炉建屋 地下1階 南側通路	予備ボンベ (空気ボン ベ)	1,500	450	400	1,570	2,700	
			通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					
⑲	7号炉原子 炉建屋 地下1階 B系非常用 電気品室	リフター	2,200	1,260	900	2,530	5,000 以上	
			通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					

第1表 資機材設備の設置状況 (3/3)



番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路の幅 [mm]	写真
			高さ	奥行	幅	最大長さ		
			(下段) 評価結果					
⑩	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24. 8m)	移動式架台	2,760	1,600	820	3,191	4,800	
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					
⑪	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 24. 8m)	踏み台	700	400	500	861	5m 以上	
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					
⑫	3号炉 原子炉補助 建屋 (T.P. 33. 1m)	担架格納箱	2,330	200	280	2,347	3,300	
			設置物が転倒したとしても 通路の幅が十分なため アクセス性問題なし					

：評価結果に係る部分は別途ご説明する

【柏崎及び島根】記載内
容の相違
・資機材の配置状況の相
違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉		島根原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由		
第1表 資機材設備の設置状況 (4/4)								
番号	場所 (フロア)	物品名	(上段) 物品の計測結果 [mm]				通路の幅 [mm]	写真
			高さ	奥行	幅	最大長さ		
㊦	7号炉原子炉建屋 地下1階 B系非常用 電気品室	治具ラック	1,100	400	1,200	1,630	5,000 以上	
			(下段) 評価結果					
㊧	7号炉原子炉建屋 地下1階 B系非常用 電気品室	リフター	2,200	1,260	900	2,530	5,000 以上	
			(下段) 評価結果					
相違理由								
【柏崎】記載内容の相違・資機材の配置状況の相違								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足 (15)</p> <p>迂回路における人力による仮置資機材の排除の考え方について</p> <p>屋内の迂回路における人力による仮置資機材の排除の考え方、仮置資機材の軽量物や重量物の選定及び仮置資機材の設置に関する運用について整理し、アクセス性を確保するとともに、運用を社内規程に定める。</p> <p>1. 迂回路における人力による排除可能な重量 屋内の迂回路における仮置資機材の排除の考え方について、人力（2名）で排除可能な軽量物（40kg以下）と排除できない重量物（40kg超過）を定義し社内規程に定める。</p> <p>また、転倒時において通行可能な迂回路幅が確保できないかつ、乗り越え（高さ40cm程度^{*1}）ができない仮置資機材のうち重量物は迂回路周辺に置かないことを社内規程に定める。</p> <p>※1：「建築基準法施行令」第二十三条（階段及びその踊場の幅並びに階段の蹴上げ及び踏面の寸法）を参考に2段分の段差を設定。 【考え方】第1項（四）：蹴上げ（高さ）寸法22cm/段×2段≒40cm</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(15)</p> <p>屋内アクセスルートにおける人力による資機材の排除の考え方について</p> <p>屋内アクセスルートにおける人力による資機材の排除の考え方、資機材の軽量物や重量物の選定及び資機材の設置に関する運用について整理し、アクセス性を確保するとともに、運用を社内規程類に定める。</p> <p>1. 屋内アクセスルートにおける人力による排除可能な重量 屋内アクセスルートにおける資機材の排除の考え方について、人力（1名）で排除可能な資機材を軽量物（20kg以下）、人力で排除できない資機材を重量物（20kg超過）として定義し社内規程類に定める。</p> <p>また、転倒時において通行可能な通路幅が確保できないかつ、乗り越え（高さ100cm以下^{*1}）ができない資機材のうち重量物は、屋内アクセスルート周辺に置かないことを社内規程類に定める。</p> <p>※1：別紙(32)「屋内のアクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について」において示す、転倒資機材の乗り越え高さ検証結果に基づき設定。 【考え方】別紙(32)のとおり、乗り越え可能であること及び当該所要時間が有意な影響を与えないことを確認した高さとして約100cmを設定。</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】評価内容の相違 ・泊は、アクセスルート及び迂回路の両方について、資機材転倒時に人力による排除を考慮したアクセス性の評価を実施している。(柏崎と同様) (島根は、迂回路のみ人力による排除を考慮している。)</p> <p>【島根】評価内容の相違 【島根】記載名称の相違</p> <p>【島根】評価内容の相違 【島根】記載名称の相違 【島根】体制の相違 ・泊は、屋内作業については1名作業を基本としているため、軽量物を20kg以下としている。</p> <p>【島根】運用の相違 ・泊は、「別紙(32) 屋内のアクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について」において実際に乗り越えることを確認した高さとしている。(柏崎と同様)</p> <p>【島根】記載内容の相違 【島根】記載名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

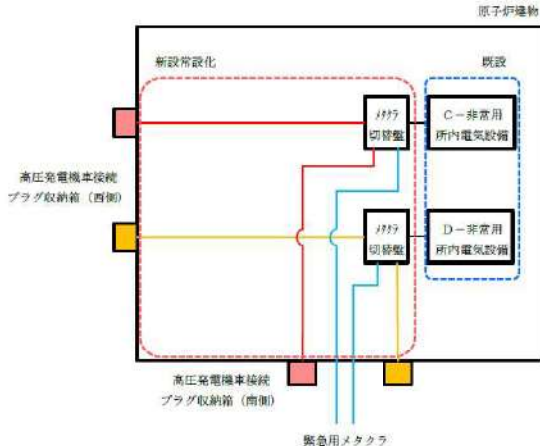
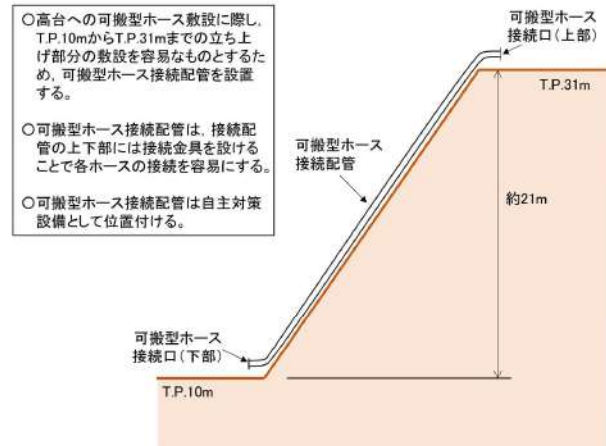

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
	<p style="text-align: center;">第1表 仮置資機材の重量目安</p> <table border="1" data-bbox="723 209 1314 331"> <thead> <tr> <th>仮置資機材 種別</th> <th>仮置資機材 重量目安</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽量物</td> <td>40kg[※]以下</td> <td>人力（2名）で排除可能な仮置資機材</td> </tr> <tr> <td>重量物</td> <td>40kg 超過</td> <td>軽量物を超える重量の仮置資機材であり、人力（2名）による排除ができない仮置資機材</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2：厚生労働省公表の「職場における腰痛予防対策指針」（平成 25 年 6 月 18 日）を参考に設定。</p> <p>【考え方】腰痛予防の目安とされている基準が18歳以上の男子労働者の場合は体重のおおむね 40%以下である。また、「厚生統計要覧」（平成 30 年度 厚生労働省公表）によると18歳以上の男性の平均体重が60kg程度であることから、人力により排除可能な重量は2名作業を想定し、60kg×40%×2名≒40kg以下と設定する。</p>	仮置資機材 種別	仮置資機材 重量目安	考え方	軽量物	40kg [※] 以下	人力（2名）で排除可能な仮置資機材	重量物	40kg 超過	軽量物を超える重量の仮置資機材であり、人力（2名）による排除ができない仮置資機材	<p style="text-align: center;">第1表 資機材の重量目安</p> <table border="1" data-bbox="1350 201 1951 331"> <thead> <tr> <th>資機材 種別</th> <th>資機材 重量目安</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽量物</td> <td>20kg[※]以下</td> <td>人力（1名）による排除可能な資機材</td> </tr> <tr> <td>重量物</td> <td>20kg 超過</td> <td>軽量物を超える重量の資機材であり、人力（1名）による排除ができない資機材</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2：厚生労働省公表の「職場における腰痛予防対策指針」（平成 25 年 6 月 18 日）を参考に設定。</p> <p>【考え方】腰痛予防の目安とされている基準が18歳以上の男子労働者の場合は体重のおおむね 40%以下である。また、「厚生統計要覧」（平成 30 年度 厚生労働省公表）によると18歳以上の男性の平均体重が60kg程度であることから、人力により排除可能な重量は1名作業を想定し、60kg×40%×1名≒20kg以下と設定する。</p>	資機材 種別	資機材 重量目安	考え方	軽量物	20kg [※] 以下	人力（1名）による排除可能な資機材	重量物	20kg 超過	軽量物を超える重量の資機材であり、人力（1名）による排除ができない資機材	<p>【島根】体制の相違による資機材の重量目安の相違</p> <p>【島根】体制の相違</p>
仮置資機材 種別	仮置資機材 重量目安	考え方																			
軽量物	40kg [※] 以下	人力（2名）で排除可能な仮置資機材																			
重量物	40kg 超過	軽量物を超える重量の仮置資機材であり、人力（2名）による排除ができない仮置資機材																			
資機材 種別	資機材 重量目安	考え方																			
軽量物	20kg [※] 以下	人力（1名）による排除可能な資機材																			
重量物	20kg 超過	軽量物を超える重量の資機材であり、人力（1名）による排除ができない資機材																			

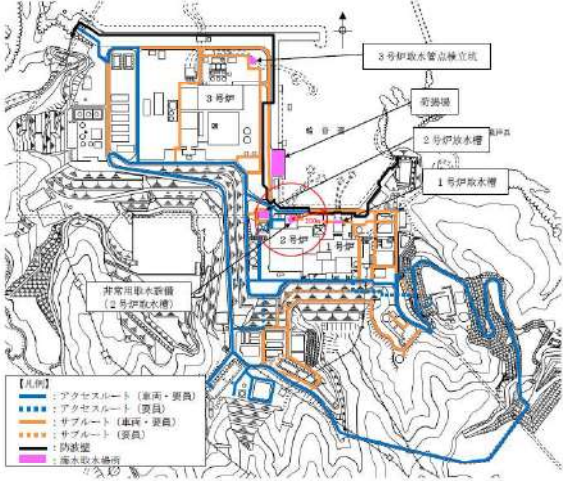
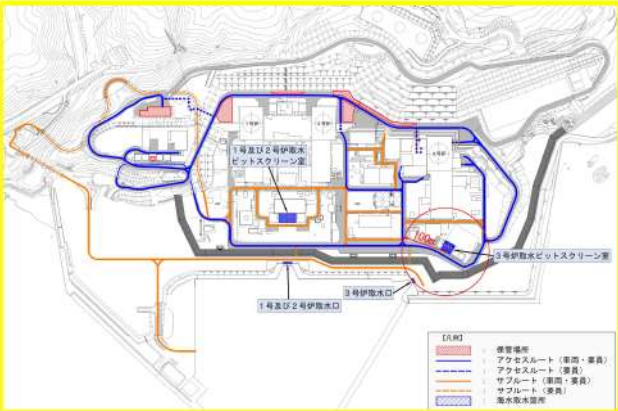
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【伊方3号炉まとめ資料より転載】</p> <p>また、中型ポンプ車等による原子炉格納容器スプレィ及び使用済燃料ピットへの注水、大型ポンプ車による原子炉格納容器等への放水のための海水取水場所（EL. +10m）と注水先又は放水先（EL. +32m）との間の斜面に、海水送水用及び海水放水用の鋼製配管を敷設することとした。</p>	<p>補足(4)</p> <p>作業時間短縮に向けた取り組みについて</p> <p>重大事故等時における可搬型代替交流電源設備からの電源供給を行う際、電源ケーブルを敷設する作業時間を短縮する観点で、第1図に示すあらかじめ建物内にケーブル等を敷設配置することを実施している。</p>  <p>第1図 電源設備の常設化概略図</p>	<p>補足資料(16)</p> <p>作業時間短縮に向けた取り組みについて</p> <p>重大事故等時における可搬型大型送水ポンプ車による注水や可搬型大容量海水送水ポンプ車による建屋への放水等の作業を行う際、可搬型ホースを敷設する作業時間を短縮する観点で、第1図及び第2図に示すとおり、あらかじめT.P. 10mからT.P. 31mの立ち上げ部分に可搬型ホース接続用の配管を設置している。</p>  <p>第1図 可搬型ホース接続配管の概略図</p>  <p>第2図 可搬型ホース接続配管の設置箇所</p>	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う取組み内容の相違。あらかじめ法面に可搬型ホース接続配管を敷設することは伊方と同様。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">補足 (7)</p> <p>海水取水場所での取水ができない場合の代替手段について</p> <p>海水取水については、E.L.8.5mに位置する海水取水場所（非常用取水設備（2号炉取水槽））から取水することとしているが、2号炉の北側（海側）で海水取水ができない場合を想定し検討を行った。</p> <p>海水取水の成立性について、大型航空機落下の影響を受けた場合を想定した原子炉補機代替冷却系の設置及び使用の成立性について、大型航空機が非常用取水設備（2号炉取水槽）へ落下すると仮定し評価を行った。（第1図）</p> <p>評価の結果、非常用取水設備及び2号炉放水槽以外の海水取水場所（1号炉取水槽、荷揚場、3号炉取水管点検立坑）は健全であるため、当該箇所から取水する。万一すべての取水場所が使用不可の場合は、格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の除熱を行う。燃料プールについては燃料損傷までの時間余裕があることから、燃料プールのスプレイ系等による注水に切り替える。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 海水取水場所と原子炉建物の配置図</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(17)</p> <p>海水取水場所での取水ができない場合の代替手段について</p> <p>海水取水については、T.P.10mに位置する海水取水場所（3号炉取水ビットスクリーン室）から取水することとしているが、3号炉の南側（海側）で海水取水ができない場合を想定し検討を行った。</p> <p>海水取水の成立性について、大型航空機落下の影響を受けた場合を想定した原子炉補機冷却水系への通水に係る可搬型設備の設置及び使用の成立性について、大型航空機が3号炉取水ビットスクリーン室へ落下すると仮定し評価を行った。（第1図）</p> <p>評価の結果、3号炉取水ビットスクリーン室及び3号炉取水口以外の海水取水場所（1号及び2号炉取水ビットスクリーン室、1号及び2号炉取水口）は健全であるため、当該箇所から取水する。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 海水取水場所と原子炉建屋の配置図</p>	<p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う海水取水場所及び対応内容の相違。</p> <p>【泊】設備の相違 ・プラント形式の相違に伴う設備の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

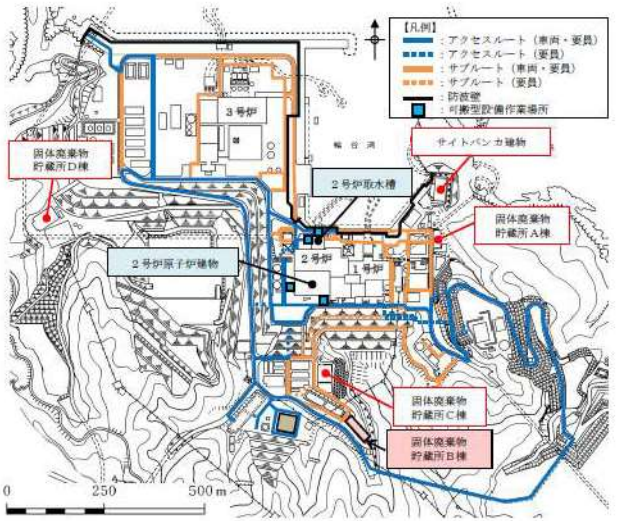
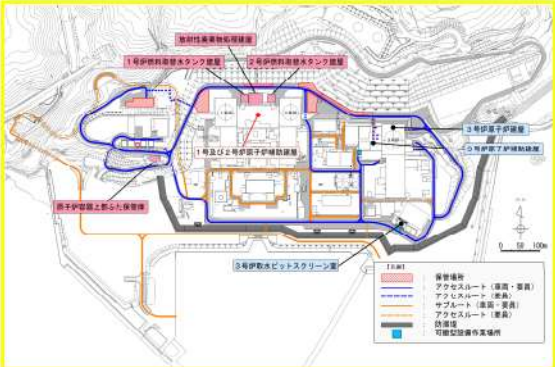
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足 (11)</p> <p>地震時における屋外のアクセスルートへの放射線影響について</p> <p>発電所内の構造物が地震により損壊することを想定した場合のアクセスルートへの放射線影響について検討した。</p> <p>1. 損壊を想定する構造物 防波壁内側に設置される構造物のうち、耐震Sクラス（Ss機能維持含む。）の構造物*を除く全ての構造物が地震により損壊することを想定する。 ※：別紙(28)第5表及び第6表の評価結果により耐震評価に基づき影響がないことを確認した構造物</p> <p>2. 構造物損壊時の放射線影響 1.において損壊を想定する構造物のうち、放射性物質を内包する設備等を含む構造物（以下「構造物」という。）を以下に示す。構造物の配置を第1図に、構造物が地震により損壊した場合の放射線影響を第1表に示す。 ・固体廃棄物貯蔵所B棟</p> <p>なお、上記に示す構造物の他に、サイトバンカ建物、固体廃棄物貯蔵所A棟、固体廃棄物貯蔵所C棟、固体廃棄物貯蔵所D棟に線源となる設備があるが、各建物内にある線源からアクセスルートまでは十分に離れていることから、重大事故等対応に影響を及ぼすものではないと考えている。</p> <p>3. アクセスルートへの放射線影響 2.に示した構造物が地震により損壊した場合のアクセスルートに対する放射線影響について検討した結果、重大事故等対応に影響を及ぼすものはないと考える。 (1) 重大事故等対応において、ポンプ設置作業を実施することにより、作業時間が比較的に長くなる場所となる可搬型設備の作業場所（2号炉原子炉建物周辺、2号炉取水槽周辺）付近に構造物が設置されていない。 (2) 比較的に線量率の高い構造物（固体廃棄物貯蔵所B棟）の周辺にアクセスルートが設定されているが、可搬型設備の通行時に一時的に通過する場所であり、長期間滞在することはないため、放射線影響は小さい。</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(18)</p> <p>地震時における屋外のアクセスルートへの放射線影響について</p> <p>発電所内の構造物が地震により損壊することを想定した場合のアクセスルートへの放射線影響について検討した。</p> <p>1. 損壊を想定する構造物 防潮堤内側に設置される構造物のうち、耐震Sクラス（Ss機能維持含む。）の構造物*を除くすべての構造物が地震により損壊することを想定する。 ※：別紙(9)第2表の評価結果により耐震評価に基づき影響がないことを確認した構造物</p> <p>2. 構造物損壊時の放射線影響 1.において損壊を想定する構造物のうち、放射性物質を内包する設備等を含む構造物（以下「構造物」という。）を以下に示す。構造物の配置を第1図に、構造物が地震により損壊した場合の放射線影響を第1表に示す。 ・原子炉容器上部ふた保管庫 ・1号炉燃料取替用水タンク建屋 ・2号炉燃料取替用水タンク建屋 ・放射性廃棄物処理建屋</p> <p>なお、上記に示す構造物の他に、1号及び2号炉原子炉補助建屋に線源となる設備があるが、建屋内にある線源からアクセスルートまでは十分に離れていることから、重大事故等対応に影響を及ぼすものではないと考えている。</p> <p>3. アクセスルートへの放射線影響 2.に示した構造物が地震により損壊した場合のアクセスルートに対する放射線影響について検討した結果、重大事故等対応に影響を及ぼすものはないと考える。 (1) 重大事故等対応において、ポンプ設置作業を実施することにより、作業時間が比較的に長くなる場所となる可搬型設備の作業場所（3号炉原子炉建屋及び3号炉原子炉補助建屋周辺、3号炉取水ビットスクリーン室周辺）付近に構造物が設置されていない。 (2) 比較的に線量率の高い構造物（原子炉容器上部ふた保管庫）の周辺にアクセスルートが設定されているが、可搬型設備の通行時に一時的に通過する場所であり、長期間滞在することはないため、放射線影響は小さい。</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・損壊を想定する構造物のうち、放射性物質を内包する構造物の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・作業時間が比較的に長くなる場所の相違。 【島根】記載内容の相違 ・損壊を想定する構造物の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																					
	 <p>第1図 地震による損壊を想定する放射性物質を内包する構造物</p> <p>第1表 構造物損壊時の放射線影響</p> <table border="1" data-bbox="728 1013 1303 1098"> <thead> <tr> <th>構造物名称</th> <th>放射性物質を内包する設備等</th> <th>放射線影響(構造物損壊時)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固体廃棄物貯蔵所B棟</td> <td>ドラム缶^{※1}</td> <td>約 2mSv/h^{※2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：雑固体廃棄物（管理区域内の作業によって生じた金属や養生シート等の可燃雑物）、セメントや溶融体等の固化された物、焼却炉で可燃物を燃やした後の灰等を保管 ※2：ドラム缶表面</p>	構造物名称	放射性物質を内包する設備等	放射線影響(構造物損壊時)	固体廃棄物貯蔵所B棟	ドラム缶 ^{※1}	約 2mSv/h ^{※2}	 <p>第1図 地震による損壊を想定する放射性物質を内包する構造物</p> <p>第1表 構造物損壊時の放射線影響</p> <table border="1" data-bbox="1355 1013 1953 1193"> <thead> <tr> <th>構造物名称</th> <th>放射性物質を内包する設備等</th> <th>放射線影響(構造物損壊時)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉容器上部ふた保管庫</td> <td>原子炉容器上部ふた等^{※1}</td> <td>約 1.3mSv/h^{※2}</td> </tr> <tr> <td>1号炉燃料取替用水タンク建屋</td> <td>1号炉燃料取替用水タンク</td> <td>0.1mSv/h 以下^{※3}</td> </tr> <tr> <td>2号炉燃料取替用水タンク建屋</td> <td>2号炉燃料取替用水タンク</td> <td>0.1mSv/h 以下^{※3}</td> </tr> <tr> <td>放射性廃棄物処理建屋</td> <td>放射性廃棄物処理建屋内タンク</td> <td>0.1mSv/h 以下^{※3}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：原子炉容器上部ふたの他、再生熱交換器、制御棒クラスタ案内管、1次冷却材ポンプ電動機固定子を保管している ※2：※1のうち最も表面線量当量率の高い制御棒クラスタ案内管の値を記載 ※3：タンク表面</p>	構造物名称	放射性物質を内包する設備等	放射線影響(構造物損壊時)	原子炉容器上部ふた保管庫	原子炉容器上部ふた等 ^{※1}	約 1.3mSv/h ^{※2}	1号炉燃料取替用水タンク建屋	1号炉燃料取替用水タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}	2号炉燃料取替用水タンク建屋	2号炉燃料取替用水タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}	放射性廃棄物処理建屋	放射性廃棄物処理建屋内タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}	<p>【島根】記載表現の相違・プラントの相違による地震による損壊を想定する放射性物質を内包する構造物の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違・構造物の相違による内容の相違。</p>
構造物名称	放射性物質を内包する設備等	放射線影響(構造物損壊時)																						
固体廃棄物貯蔵所B棟	ドラム缶 ^{※1}	約 2mSv/h ^{※2}																						
構造物名称	放射性物質を内包する設備等	放射線影響(構造物損壊時)																						
原子炉容器上部ふた保管庫	原子炉容器上部ふた等 ^{※1}	約 1.3mSv/h ^{※2}																						
1号炉燃料取替用水タンク建屋	1号炉燃料取替用水タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}																						
2号炉燃料取替用水タンク建屋	2号炉燃料取替用水タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}																						
放射性廃棄物処理建屋	放射性廃棄物処理建屋内タンク	0.1mSv/h 以下 ^{※3}																						

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

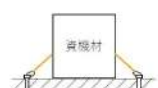
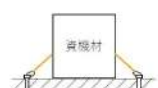
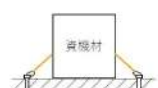
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
	<p style="text-align: right;">補足 (12)</p> <p>飛来物発生防止対策のうち固縛を解除する時間の考慮について</p> <p>1. 飛来物発生防止対策のうち固縛の概要</p> <p>可搬型設備は、外部事象防護対象施設及び外部事象防護対象施設に波及的影響を及ぼす施設に悪影響を及ぼす可能性のある飛来物源として、飛来物発生防止対策の選定フローに従い選定した対策手法により固縛を実施する。</p> <p>第1図に島根原子力発電所2号炉の飛来物発生防止対策の選定フロー、第2図に飛来物発生防止対策の例を示す。</p> <p>可搬型設備は、上記の選定フローに従い、固定、緊張固縛又は余長付き固縛のいずれかの対策手法により保管場所に固縛することとしている。</p> <p>2. 固縛解除作業の想定時間</p> <p>第1表に飛散物発生防止対策エリア内に位置する第3保管エリアにおける可搬型設備の出動準備に係る作業内容と作業時間を示す。</p> <p>飛来物発生防止対策のうち固縛の解除は、重大事故等時における可搬型設備の出動準備約40分のうち、車両等出動前確認の約10分で行うことを想定する。</p> <p>第1表 可搬型設備の出動準備作業時間と固縛解除作業の想定時間</p> <table border="1" data-bbox="759 847 1270 976"> <thead> <tr> <th>作業内容</th> <th>作業時間</th> <th>合計時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時対策所から保管場所までの移動 (第3保管エリアの場合)</td> <td>約30分</td> <td rowspan="2">約40分</td> </tr> <tr> <td>車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む。)</td> <td>約10分</td> </tr> </tbody> </table>	作業内容	作業時間	合計時間	緊急時対策所から保管場所までの移動 (第3保管エリアの場合)	約30分	約40分	車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む。)	約10分	<p style="text-align: right;">補足資料(19)</p> <p>飛来物発生防止対策のうち固縛を解除する時間の考慮について</p> <p>1. 飛来物発生防止対策のうち固縛の概要</p> <p>可搬型設備は、外部事象防護対象施設及び外部事象防護対象施設に波及的影響を及ぼす施設に悪影響を及ぼす可能性のある飛来物源として、飛来物発生防止対策の選定フローに従い選定した対策手法により固縛を実施する。</p> <p>第1図に泊発電所3号炉の飛来物発生防止対策の選定フロー、第2図に飛来物発生防止対策の例を示す。</p> <p>可搬型設備は、上記の選定フローに従い、固定、緊張固縛又は余長付き固縛のいずれかの対策手法により保管場所に固縛することとしている。</p> <p>2. 固縛解除作業の想定時間</p> <p>第1表に有効性評価における可搬型設備設置のクリティカルとなる可搬型大型送水ポンプ車の出動準備に係る作業内容と作業時間を示す。</p> <p>飛来物発生防止対策のうち固縛の解除は、重大事故等時における可搬型設備の出動準備約45分のうち、車両等出動前確認の約15分で行うことを想定する。</p> <p>第1表 可搬型設備の出動準備作業時間と固縛解除作業の想定時間</p> <table border="1" data-bbox="1346 855 1955 935"> <thead> <tr> <th>作業内容</th> <th>作業時間</th> <th>合計時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央制御室又は緊急時対策所から保管場所までの移動</td> <td>約30分</td> <td rowspan="2">約45分</td> </tr> <tr> <td>車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む)</td> <td>約15分</td> </tr> </tbody> </table>	作業内容	作業時間	合計時間	中央制御室又は緊急時対策所から保管場所までの移動	約30分	約45分	車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む)	約15分	<p>【島根】記載名称の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う作業内容及び作業時間の相違。</p>
作業内容	作業時間	合計時間																	
緊急時対策所から保管場所までの移動 (第3保管エリアの場合)	約30分	約40分																	
車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む。)	約10分																		
作業内容	作業時間	合計時間																	
中央制御室又は緊急時対策所から保管場所までの移動	約30分	約45分																	
車両等出動前確認(可搬型設備の固縛解除を含む)	約15分																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第1図 島根原子力発電所2号炉の飛来物発生防止対策の選定フロー</p>	<p>第1図 泊発電所3号炉飛来物発生防止対策選定フロー</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																								
	<p>【飛来物発生防止（固定、固縛）の手法の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛来物発生防止対策のうち、固定及び固縛の手法の例を下図に示す。 <table border="1" data-bbox="728 316 1301 874"> <thead> <tr> <th>手法</th> <th colspan="2">対策の概要図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①固定</td> <td></td> <td>飛来物源に固定金具を取り付けて固定</td> </tr> <tr> <td>②緊張固縛</td> <td></td> <td>飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛</td> </tr> <tr> <td>③余長付き固縛</td> <td></td> <td>飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第2図 飛来物発生防止対策の例</p> <p>3. 固縛解除作業の想定時間の妥当性 車両等出動前確認の作業内容と固縛解除作業の想定時間の妥当性について以下に示す。</p> <p>(1) 車両等出動前確認の作業内容等 飛散物発生防止対策エリア内に位置する第3保管エリアに保管する可搬型設備は、ホイールローダ、大量送水車、中型ホース展張車(150A)、タンクローリ及び予備として保管する大型送水ポンプ車、移動式代替熱交換設備、高圧発電機車がある。その中で、重大事故等時の初動対応として出動が想定される可搬型設備は、アクセスルート確保に使用するホイールローダ、給水確保に使用する大量送水車及びその中型ホース展張車(150A)、燃料補給に使用するタンクローリである。車両等出動前確認においては、これらの可搬型設備について以下の作業を実施する。</p>	手法	対策の概要図		①固定		飛来物源に固定金具を取り付けて固定	②緊張固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛	③余長付き固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】	<p>【飛来物発生防止（固定、固縛）の手法の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛来物発生防止対策のうち、固定及び固縛の手法の例を下図に示す。 <table border="1" data-bbox="1346 300 1946 874"> <thead> <tr> <th>手法</th> <th colspan="2">対策の概要図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①固定</td> <td></td> <td>飛来物源に固定金具を取り付けて固定</td> </tr> <tr> <td>②緊張固縛</td> <td></td> <td>飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛</td> </tr> <tr> <td>③余長付き固縛</td> <td></td> <td>飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第2図 飛来物発生防止対策の例</p> <p>3. 固縛解除作業の想定時間の妥当性 車両等出動前確認の作業内容と固縛解除作業の想定時間の妥当性について以下に示す。</p> <p>(1) 車両等出動前確認の作業内容等 重大事故等時の初動対応として出動が想定される可搬型設備は、アクセスルート確保に使用するホイールローダ、給水確保に使用する可搬型大型送水ポンプ車及びそのホース延長・回収車(送水車用)、燃料補給に使用する可搬型タンクローリである。車両等出動前確認においては、これらの可搬型設備について以下の作業を実施する。</p>	手法	対策の概要図		①固定		飛来物源に固定金具を取り付けて固定	②緊張固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛	③余長付き固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】	<p>【島根】設備の相違 ・泊は保管場所内に配備している可搬型設備は固縛を実施している。</p> <p>【島根】記載名称の相違</p>
手法	対策の概要図																										
①固定		飛来物源に固定金具を取り付けて固定																									
②緊張固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛																									
③余長付き固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】																									
手法	対策の概要図																										
①固定		飛来物源に固定金具を取り付けて固定																									
②緊張固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛																									
③余長付き固縛		飛来物源を連結材（ロープ）を用いて固縛 【動き代がある】																									

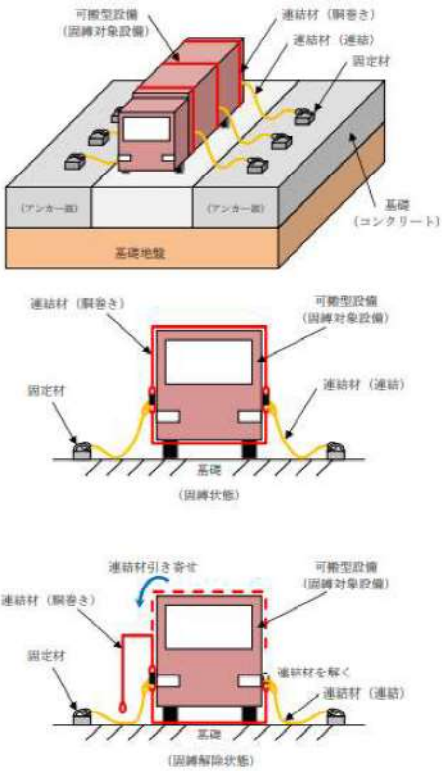
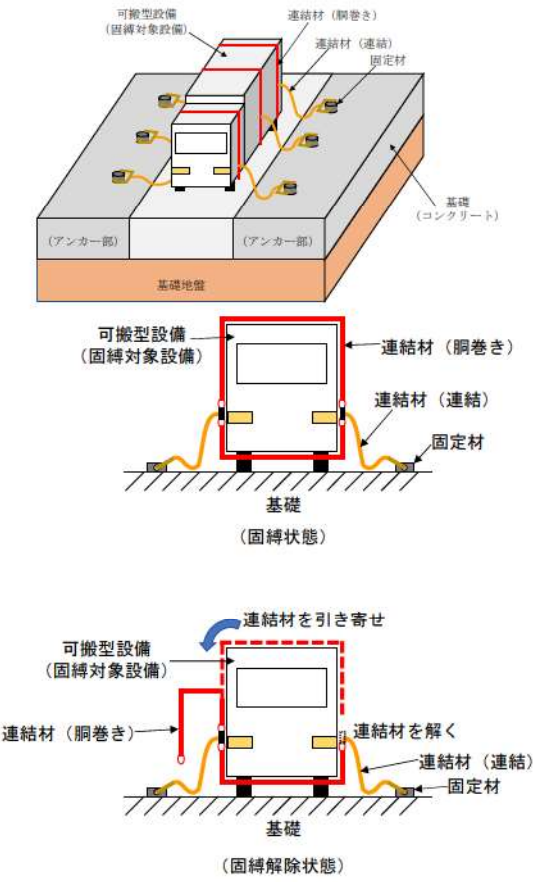
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
	<p>a. 可搬型設備の固縛解除及び輪留め取り外し 第3図に可搬型設備の固縛解除の概要、第2表に重大事故等時の初動対応において固縛解除する箇所数を示す。なお、ホイールローダは、飛散評価により飛来物とならないことから固縛不要である。</p> <p>第2表に示す固縛箇所数に対して、固縛解除は2名1組で対応することとし、固縛箇所1箇所当たりの作業時間については、約1分と設定する。また、固縛解除に併せて輪止めの取り外しを行う。</p> <p>第2表 重大事故等時の初動対応において固縛解除する箇所数*</p> <table border="1" data-bbox="779 544 1270 703"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象設備</th> <th rowspan="2">台数 (台)</th> <th colspan="2">固縛箇所数 (箇所)</th> </tr> <tr> <th>1台あたり</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中型ホース展開車 (150A)</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>大量送水車</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>タンクローリ</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>初動対応で固縛解除する箇所数</td> <td></td> <td></td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※：第3保管エリアにおいて、初動対応として出動が想定される可搬型設備を対象とする。 また、固縛箇所数は今後の検討結果等により変更となる可能性があるが、作業時間に影響がない範囲で行う。</small></p>	対象設備	台数 (台)	固縛箇所数 (箇所)		1台あたり	合計	中型ホース展開車 (150A)	1	3	3	大量送水車	1	3	3	タンクローリ	1	3	3	初動対応で固縛解除する箇所数			9	<p>a. 可搬型設備の固縛解除及び輪留め取り外し 第3図に可搬型設備の固縛解除の概要、第2表に重大事故等時の初動対応において固縛解除する箇所数を示す。</p> <p>第2表に示す固縛箇所数に対して、固縛解除は2名1組で対応することとし、固縛箇所1箇所当たりの作業時間については、約1分と設定する。また、固縛解除に併せて輪止めの取り外しを行う。</p> <p>第2表 重大事故等時の初動対応において固縛解除する箇所数*</p> <table border="1" data-bbox="1350 560 1951 762"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象設備</th> <th rowspan="2">台数 (台)</th> <th colspan="2">固縛箇所数 (箇所)</th> </tr> <tr> <th>1台あたり</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホイールローダ</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>ホース延長・回収車(送水車用)</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>可搬型タンクローリ</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>初動対応で固縛解除する箇所数</td> <td></td> <td></td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：固縛箇所数は今後の検討結果等により変更となる可能性があるが、作業時間に影響がない範囲で行う。</p>	対象設備	台数 (台)	固縛箇所数 (箇所)		1台あたり	合計	ホイールローダ	1	2	2	可搬型大型送水ポンプ車	1	5	5	ホース延長・回収車(送水車用)	1	5	5	可搬型タンクローリ	1	3	3	初動対応で固縛解除する箇所数			15	<p>【島根】設備の相違 ・泊は保管場所内に配備している可搬型設備は固縛を実施している。</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う対象設備の相違。</p>
対象設備	台数 (台)			固縛箇所数 (箇所)																																															
		1台あたり	合計																																																
中型ホース展開車 (150A)	1	3	3																																																
大量送水車	1	3	3																																																
タンクローリ	1	3	3																																																
初動対応で固縛解除する箇所数			9																																																
対象設備	台数 (台)	固縛箇所数 (箇所)																																																	
		1台あたり	合計																																																
ホイールローダ	1	2	2																																																
可搬型大型送水ポンプ車	1	5	5																																																
ホース延長・回収車(送水車用)	1	5	5																																																
可搬型タンクローリ	1	3	3																																																
初動対応で固縛解除する箇所数			15																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>※：今後の検討結果等により変更となる可能性があるが、作業時間に影響がない範囲で行う。</p> <p>第3図 可搬型設備の固縛解除の概要</p>	 <p>第3図 可搬型設備の固縛解除の概要</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>b. 外観点検及びエンジン始動 外観点検及びエンジン始動は2名1組で対応することとし、徒歩による移動速度（4km/h）に余裕を考慮した時間として、可搬型設備1台当たり約1分と設定する。</p> <p>(2) 固縛解除作業の想定時間の妥当性 重大事故等時の初動対応において、固縛対象となる可搬型設備の出動準備は緊急時対策要員9名で実施する。想定時間の妥当性確認に当たっては、保守的に以下の事項を考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホイールローダ、大量送水車、中型ホース展張車（150A）及びタンクローリーの車両等出動前確認は、各2名で実施 <p>上記を踏まえ、固縛解除を含む車両等出動前確認に要する時間について検討した結果、約4分で対応が可能であることより、固縛解除作業の想定時間は妥当であることを確認した。（第3表）</p> <p>現実的には、妥当性確認において考慮していない緊急時対策要員1名の増員による対応も可能であることから、車両等出動前確認時間は短縮するものとする。</p>	<p>b. 外観点検及びエンジン始動 外観点検及びエンジン始動は2名1組で対応することとし、徒歩による移動速度（4km/h）に余裕を考慮した時間として、可搬型設備1台当たり約1分と設定する。</p> <p>(2) 固縛解除作業の想定時間の妥当性 重大事故等時の初動対応において、固縛対象となる可搬型設備の出動準備は以下の要員で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホイールローダは、アクセスルートの状況確認後に災害対策要員2名で実施する。 ・可搬型大型送水ポンプ車及びホース延長・回収車（送水車用）は、屋外作業開始後に災害対策要員2名で実施する。 ・可搬型タンクローリーは、給油活動を行う災害対策要員2名で実施する。 <p>有効性評価における可搬型設備設置のクリティカルとなる可搬型大型送水ポンプ車については、固縛解除を含む車両等出動前確認に要する時間について検討した結果、約15分で対応が可能であることより、固縛解除作業の想定時間は妥当であることを確認した。（第3表）</p> <p>現実的には、妥当性確認において考慮していない災害対策要員1名の増員による対応も可能であることから、車両等出動前確認時間は短縮するものとする。</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う対応要員の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う作業内容及び作業時間の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違 ・プラントの相違に伴う対応要員の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																										
	<p style="text-align: center;">第3表 車両等出動前確認に係る想定時間の妥当性</p> <table border="1" data-bbox="721 165 1317 608"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象設備</th> <th rowspan="2">作業内容</th> <th rowspan="2">対象数^{※1}</th> <th rowspan="2">単位作業時間^{※4}</th> <th rowspan="2">対応要員^{※5}</th> <th colspan="2">作業時間</th> </tr> <tr> <th>作業</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ホイールローダ</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>0箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>0分</td> <td rowspan="2">1分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中型ホース展張車(150A)</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>3箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>3分</td> <td rowspan="2">4分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大量送水車</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>3箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>3分</td> <td rowspan="2">4分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">タンクローリー</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>3箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>3分</td> <td rowspan="2">4分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：可搬型設備の固縛解除及び車輪止め外し ※2：外観点検及びエンジン始動 ※3：各設備の固縛箇所数及び台数は第2表参照 ※4：繫帯固縛又は余長付き固縛を解除する時間 ※5：対応要員1組2名で構成 ※6：1組（2名）で対応するため、固縛解除後に外観点検を実施する場合の作業時間を記載</p>	対象設備	作業内容	対象数 ^{※1}	単位作業時間 ^{※4}	対応要員 ^{※5}	作業時間		作業	合計	ホイールローダ	固縛解除 ^{※1}	0箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	0分	1分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	中型ホース展張車(150A)	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	大量送水車	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	タンクローリー	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	<p style="text-align: center;">第3表 車両等出動前確認に係る想定時間の妥当性</p> <table border="1" data-bbox="1348 165 1953 603"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象設備</th> <th rowspan="2">作業内容</th> <th rowspan="2">対象数^{※1}</th> <th rowspan="2">単位作業時間^{※4}</th> <th rowspan="2">対応要員^{※5}</th> <th colspan="2">作業時間</th> </tr> <tr> <th>作業</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ホイールローダ</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>2箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>2分</td> <td rowspan="2">3分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>5箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>5分</td> <td rowspan="2">6分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ホース延長・回収車(送水車用)</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>5箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>5分</td> <td rowspan="2">6分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型タンクローリー</td> <td>固縛解除^{※1}</td> <td>3箇所</td> <td>1分/箇所^{※4}</td> <td rowspan="2">1組</td> <td>3分</td> <td rowspan="2">4分^{※6}</td> </tr> <tr> <td>外観点検^{※2}</td> <td>1台</td> <td>1分/台</td> <td>1分</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：可搬型設備の固縛解除及び車輪止め外し ※2：外観点検及びエンジン始動 ※3：各設備の固縛箇所数及び台数は第2表参照 ※4：余長付き固縛を解除する時間 ※5：対応要員1組2名で構成 ※6：1組（2名）で対応するため、固縛解除後に外観点検を実施する場合の作業時間を記載</p>	対象設備	作業内容	対象数 ^{※1}	単位作業時間 ^{※4}	対応要員 ^{※5}	作業時間		作業	合計	ホイールローダ	固縛解除 ^{※1}	2箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	2分	3分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	可搬型大型送水ポンプ車	固縛解除 ^{※1}	5箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	5分	6分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	ホース延長・回収車(送水車用)	固縛解除 ^{※1}	5箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	5分	6分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	可搬型タンクローリー	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台	1分	<p>【島根】記載内容の相違・ブランドの相違に伴う対象車両及び作業時間の相違。</p>
対象設備	作業内容						対象数 ^{※1}	単位作業時間 ^{※4}	対応要員 ^{※5}	作業時間																																																																																																			
		作業	合計																																																																																																										
ホイールローダ	固縛解除 ^{※1}	0箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	0分	1分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
中型ホース展張車(150A)	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
大量送水車	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
タンクローリー	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
対象設備	作業内容	対象数 ^{※1}	単位作業時間 ^{※4}	対応要員 ^{※5}	作業時間																																																																																																								
					作業	合計																																																																																																							
ホイールローダ	固縛解除 ^{※1}	2箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	2分	3分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
可搬型大型送水ポンプ車	固縛解除 ^{※1}	5箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	5分	6分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
ホース延長・回収車(送水車用)	固縛解除 ^{※1}	5箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	5分	6分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								
可搬型タンクローリー	固縛解除 ^{※1}	3箇所	1分/箇所 ^{※4}	1組	3分	4分 ^{※6}																																																																																																							
	外観点検 ^{※2}	1台	1分/台		1分																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																		
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足 (14)</p> <p style="text-align: center;">アクセスルートの用語の定義</p> <p>アクセスルートの用語の定義を以下に整理する。整理結果を第1表に示す。</p> <p>1. 屋外アクセスルート 屋外アクセスルートは、緊急時対策所及び可搬型設備の保管場所から設置場所及び接続場所までのルートであり、「アクセスルート」と「サブルート」で定義する。</p> <p>2. 屋内アクセスルート 屋内アクセスルートは、外部からの衝撃による損傷の防止が図られた建物内における各設備の操作場所までのルートであり、「アクセスルート」と「迂回路」で定義する。</p> <p style="text-align: center;">第1表 アクセスルートの用語の定義</p> <table border="1" data-bbox="723 691 1312 1147"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>大分類</th> <th>小分類</th> <th>概要説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">屋外</td> <td rowspan="2">屋外アクセ ルート</td> <td>アクセスルート</td> <td>・地震及び地震に随伴する津波を考慮しても使用が可能である。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。</td> </tr> <tr> <td>サブルート</td> <td>・地震及び津波時に期待しないルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋内</td> <td rowspan="2">屋内アクセ ルート</td> <td>アクセスルート</td> <td>・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。</td> </tr> <tr> <td>迂回路</td> <td>・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・転倒した常置品及び仮置資機材の人力による排除や乗り越え等により通行が可能である。 ・アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。</td> </tr> </tbody> </table>	場所	大分類	小分類	概要説明	屋外	屋外アクセ ルート	アクセスルート	・地震及び地震に随伴する津波を考慮しても使用が可能である。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。	サブルート	・地震及び津波時に期待しないルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。	屋内	屋内アクセ ルート	アクセスルート	・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。	迂回路	・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・転倒した常置品及び仮置資機材の人力による排除や乗り越え等により通行が可能である。 ・アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。	<p style="text-align: right;">補足資料(20)</p> <p style="text-align: center;">アクセスルートの用語の定義</p> <p>アクセスルートの用語の定義を以下に整理する。整理結果を第1表に示す。</p> <p>1. 屋外アクセスルート 屋外アクセスルートは、緊急時対策所及び可搬型設備の保管場所から設置場所及び接続場所までのルートであり、「アクセスルート」、「サブルート」、「自主整備ルート」で定義する。</p> <p>2. 屋内アクセスルート 屋内アクセスルートは、外部からの衝撃による損傷の防止が図られた建屋内における各設備の操作場所までのルートであり、「アクセスルート」と「迂回路」で定義する。</p> <p style="text-align: center;">第1表 アクセスルートの用語の定義</p> <table border="1" data-bbox="1366 700 1942 1200"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>大分類</th> <th>小分類</th> <th>概要説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">屋外</td> <td rowspan="3">屋外アクセ ルート</td> <td>アクセスルート</td> <td>・地震及び地震に随伴する津波を考慮しても使用が可能である。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。</td> </tr> <tr> <td>サブルート</td> <td>・地震及び津波時に期待しないルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。</td> </tr> <tr> <td>自主整備ルート</td> <td>・使用可能な場合に活用するルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋内</td> <td rowspan="2">屋内アクセ ルート</td> <td>アクセスルート</td> <td>・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。</td> </tr> <tr> <td>迂回路</td> <td>・地震、地震随伴火災及び地震による内部溢水の影響を受けない。 ・アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。</td> </tr> </tbody> </table>	場所	大分類	小分類	概要説明	屋外	屋外アクセ ルート	アクセスルート	・地震及び地震に随伴する津波を考慮しても使用が可能である。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。	サブルート	・地震及び津波時に期待しないルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。	自主整備ルート	・使用可能な場合に活用するルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。	屋内	屋内アクセ ルート	アクセスルート	・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。	迂回路	・地震、地震随伴火災及び地震による内部溢水の影響を受けない。 ・アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。	<p>【島根】方針の相違 ・泊は、自主整備ルートを設定している。(柏崎と同様)</p> <p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】方針の相違 ・「自主整備ルート」を使用可能な場合に活用するルートとして設定している。 ・島根は、屋内アクセスルートについて迂回路のみ排除や乗り越え等による通行を考慮していることから、アクセスルートとの評価の違いを説明するために記載していると考えられる。一方、泊は、アクセスルート及び迂回路のいずれも、転倒した資機材の排除や乗り越えによる通行を考慮した評価を実施し、両者に差異が無いことから記載していない。</p>
場所	大分類	小分類	概要説明																																		
屋外	屋外アクセ ルート	アクセスルート	・地震及び地震に随伴する津波を考慮しても使用が可能である。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。																																		
		サブルート	・地震及び津波時に期待しないルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。																																		
屋内	屋内アクセ ルート	アクセスルート	・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。																																		
		迂回路	・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・転倒した常置品及び仮置資機材の人力による排除や乗り越え等により通行が可能である。 ・アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。																																		
場所	大分類	小分類	概要説明																																		
屋外	屋外アクセ ルート	アクセスルート	・地震及び地震に随伴する津波を考慮しても使用が可能である。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。																																		
		サブルート	・地震及び津波時に期待しないルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。																																		
		自主整備ルート	・使用可能な場合に活用するルート。 ・地震、津波その他の自然現象の影響評価対象外とする。																																		
屋内	屋内アクセ ルート	アクセスルート	・地震、地震随伴火災及び地震随伴内部溢水の影響を受けない。 ・有効性評価及び技術的能力手順において時間評価に用いた経路とする。																																		
		迂回路	・地震、地震随伴火災及び地震による内部溢水の影響を受けない。 ・アクセスルートを使用できない場合に使用可能な経路。																																		

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足 (10)</p> <p style="text-align: center;">大量送水車等使用時におけるホースの配備長さ並びに ホースコンテナ及びホース展張車の配備イメージについて</p> <p style="text-align: center;">島根原子力発電所における大量送水車及び大型送水ポンプ車とともに使用するホースの配備長さ、ホースコンテナ、ホース展張車等の配備イメージについて、以下に示す。</p> <p>1. ホースの配備長さ ホースの配備長さは、以下の考え方で設定した。 ①用途ごとに算出したホース敷設距離（自主設備の使用を含む。）をもとに、敷設数及び同時使用を考慮して必要長さを設定 ②ホースコンテナ及びホース展張車に搭載可能なホース長さをもとに、ホース必要長さを満足するコンテナ数及びホース展張車台数を設定 ③ホースコンテナ数及びホース展張車台数とホースコンテナ及びホース展張車に搭載可能なホース長さからホースの配備長さを設定</p> <p style="text-align: center;">ホース展張車数は用途ごとの同時使用を考慮して設定した。 用途ごとのホース配備長さ、ホース展張車配備数を第1表に示す。また、用途ごとのホース敷設ルートを第1図～第7図に、用途ごとのホース必要長さを第2表～第8表に示す。</p> <p>2. ホースコンテナ及び展張車の配備イメージ ホースコンテナ及び展張車の配備イメージについて、第9表に示す。</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(21)</p> <p style="text-align: center;">可搬型大型送水ポンプ車等使用時におけるホースの配備長さ並びに ホースコンテナ及びホース延長・回収車の配備イメージについて</p> <p style="text-align: center;">泊発電所における可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型大容量海水送水ポンプ車とともに使用するホースの配備長さ、ホースコンテナ、ホース延長・回収車等の配備イメージについて、以下に示す。</p> <p>1. ホースの配備長さ ホースの配備長さは、以下の考え方で設定した。 ①用途ごとに算出したホース敷設距離（自主対策設備の使用を含む。）を基に、敷設数及び同時使用を考慮して必要長さを設定 ②ホースコンテナ及びホース延長・回収車に搭載可能なホース長さを基に、ホース必要長さを満足するコンテナ数及びホース延長・回収車台数を設定 ③ホースコンテナ数及びホース延長・回収車台数とホースコンテナ及びホース延長・回収車に搭載可能なホース長さからホースの配備長さを設定</p> <p style="text-align: center;">ホース延長・回収車数は用途ごとの同時使用を考慮して設定した。 用途ごとのホース配備長さ、ホース延長・回収車配備数を第1表に示す。また、用途ごとのホース敷設ルートを第1図～第6図に、用途ごとのホース必要長さを第2表～第7表に示す。</p> <p>2. ホースコンテナ及びホース延長・回収車の配備イメージ ホースコンテナ及びホース延長・回収車の配備イメージについて、第8表に示す。</p>	<p>【島根】設備名称の相違</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第1表 用途ごとのホース配備長さ及びホース出張車配備数(1/2)

用途	必要長さ	配備するホース出張車数 [※]	補足
輪谷貯水槽(西1/西2)を水源とした低圧代替注水作業及び補給作業			
低圧代替注水(淡水・海水)	756m (第1図 ルート②、④)	中型ホース出張車(150A) 950m 【ホース(150A) 750m、ホース(100A) 200m 積載可】 1台 大型ホース出張車(150A) 1,050m 【ホース(150A) 1,050m 積載可】 2台	・低圧代替注水と水源補給は、同時駆設となるため、合算する。 ・左記の4ヶ所は同時に行われる作業ではなく、それぞれ状況に応じて対応が選ばれるものであるため、配備するホースは2,776mと設定する。
水源補給(淡水・海水)	2,010m (第3図 ルート⑤)		
低圧原子炉代替注水槽への水源補給作業	1,728m (第4図 ルート③)		
海水貯蔵タンクへの水源補給作業			
水源補給(淡水・海水)	1,760m (第5図 ルート⑧)		
海を水源とした低圧代替注水作業			
低圧代替注水(海水)	1,781m (第2図 ルート⑥)		

※：1セット分の配備数

第1表 用途ごとのホース配備長さ及びホース延長・回収車配備数(1/2)

ホース径	用途	必要長さ	配備するホース延長・回収車数 [※]	補足
150A	代替中心注水、補助給水ピット補給、燃料取扱用ホース補給、使用済燃料ピット注水(SA手順)			・代替中心注水/補助給水ピット補給/燃料取扱用ホース補給は赤の切替えによる逆水先の変更にて対応 ・代替中心注水/補助給水ピット補給/燃料取扱用ホース補給と使用済燃料ピット注水は、同時駆設となるため、合算する。
	・3号炉原子炉建屋西側を經由したルート	950m (第1図(1/3) ルート①)	ホース延長・回収車(送水車用) 1,800m 【ホース(150A) 1,800m 積載可】 1台	
	・3号炉原子炉建屋西側を經由したルート	1,700m (第1図(1/3) ルート②)		
150A	原子炉建屋西側を經由したルート	400m (第2図(1/2) ルート①)	ホース延長・回収車(送水車用) 1,800m 【ホース(150A) 1,800m 積載可】 1台	・代替格納容器スプレイ(自主手順)は、代替中心注水/補助給水ピット補給/燃料取扱用ホース補給の配管経路の切替えによる送水先の変更、又は余剰設備にて対応 ・蒸気発生器注水(自主手順)は余剰設備にて対応
	・3号炉原子炉建屋西側を經由したルート	550m (第2図(1/2) ルート②)		
	代替格納容器スプレイ(自主手順)	950m (第3図(1/3) ルート②)		
150A	蒸気発生器注水(自主手順)	750m (第4図 ルート②、④)		

※：1セット分の配備数

【島根】記載内容の相違
 ・使用する水源、可搬型設備、手順の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第1表 用途ごとのホース配備長さ及びホース展開車配備数(2/2)

用途	必要長さ	配備するコンテナ数*	配備するホース展開車数*	補足
放射性物質拡散抑制	755m (第6図 ルート①)	コンテナ1基 (820m/1基)	大型ホース展開車(300A) 1台	・航空機燃料火災消火も同様のルートを使用
最終ヒートシンク(海)への代替軟輸送	1,575m (第7図 ルート⑤)	コンテナ2基 (820m/1基)	大型ホース展開車(300A) 1台	—
初期対応における延焼防止措置	1,084m	1,100m	1台	・使用するホースは初期消火に使用する化学消防自動車, 小型動力ポンプ付水罐車及び泡消火薬剤運搬車に車載し運搬する

※：1セット分の配備数

第1表 用途ごとのホース配備長さ及びホース延長・回収車配備数(2/2)

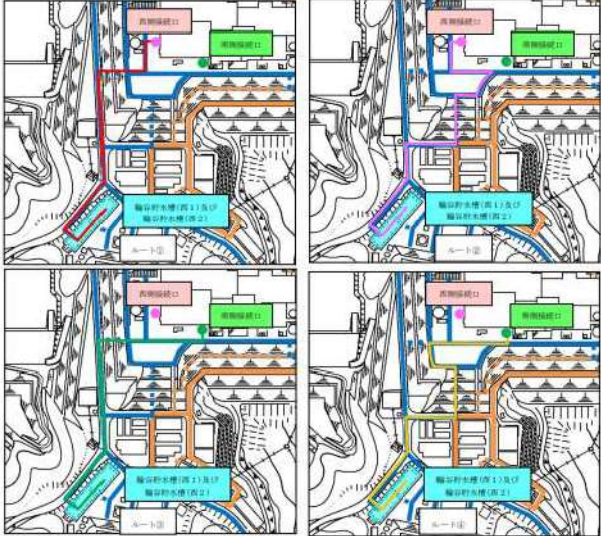
ホース径	用途	必要長さ		配備するコンテナ数*	配備するホース延長・回収車数*	補足
		800m (第5図(1/2) ルート①)	700m (第5図(1/2) ルート③)			
300A	放射性物質拡散抑制(SA手順) ・3号炉原子炉建屋東側を経由したルート ・3号炉原子炉建屋西側を経由したルート	800m (第5図(1/2) ルート①)	800m	コンテナ2基 【ホース(300A) 400m/1基】	ホース延長・回収車(放水砲用) 1台	
		1,200m (第6図 ルート②)	—	—	—	・原子炉補機冷却海水系通水(自主手順)は余剰設備にて対応 ・使用するホースは初期消火に使用する化学消防自動車, 水罐付消防ポンプ自動車及び大規模火災用消防自動車に車載し運搬する。
300A	原子炉補機冷却海水系通水(自主手順)	—	—	—	—	
65A	初期対応における延焼防止措置(自主手順)	—	—	1,180m	—	

※：1セット分の配備数

【島根】記載内容の相違
 ・使用する水源, 可搬型設備, 手順の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																											
	 <p data-bbox="904 722 1133 746">第1図 ホース敷設ルート （輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を水源とした 低圧代替注水）</p> <p data-bbox="913 868 1124 892">第2表 ホース敷設距離 （輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を水源とした 低圧代替注水）</p> <table border="1" data-bbox="719 991 1294 1174"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td rowspan="4">輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）</td> <td>西側接続口</td> <td>602m</td> <td>626m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>西側接続口</td> <td>702m</td> <td>766m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>南側接続口</td> <td>649m</td> <td>676m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>南側接続口</td> <td>726m</td> <td>766m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）	西側接続口	602m	626m	—	ルート②	西側接続口	702m	766m	—	ルート③	南側接続口	649m	676m	—	ルート④	南側接続口	726m	766m		<p data-bbox="2024 113 2107 137">相違理由</p> <p data-bbox="1980 145 2163 225">【島根】記載内容の相違 ・使用する水源、可搬型 設備、手順の相違。</p>
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																									
—	ルート①	輪谷貯水槽（西1）及び 輪谷貯水槽（西2）	西側接続口	602m	626m																									
—	ルート②		西側接続口	702m	766m																									
—	ルート③		南側接続口	649m	676m																									
—	ルート④		南側接続口	726m	766m																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

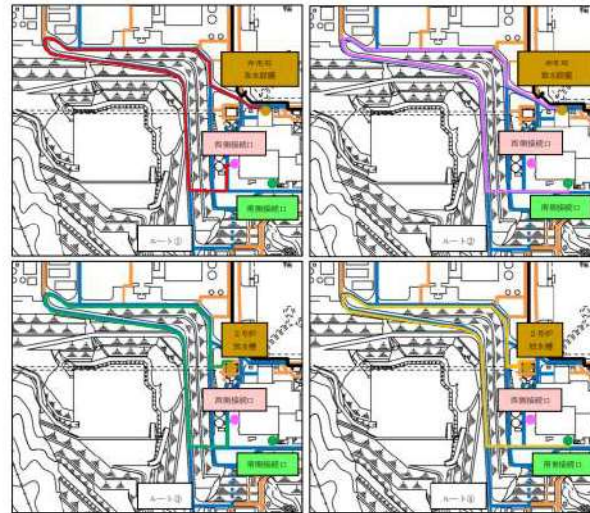
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

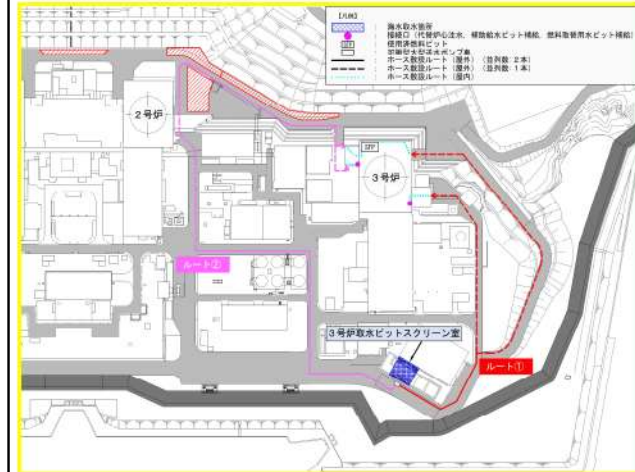
相違理由



第2図 ホース敷設ルート（海を水源とした低圧代替注水）（1/3）

第3表 ホース敷設距離（海を水源とした低圧代替注水）（1/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート①	非常用取水設備	西側接続口	1,322m	1,531m
—	ルート②		南側接続口	1,370m	
—	ルート③	2号炉放水槽	西側接続口	1,307m	1,531m
—	ルート④		南側接続口	1,354m	



第1図 ホース敷設ルート（代替炉心注水、補助給水ビット補給、燃料取替用水ビット補給、使用済燃料ビット注水）（1/3）

第2表 ホース敷設距離（代替炉心注水、補助給水ビット補給、燃料取替用水ビット補給、使用済燃料ビット注水）（1/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート①	3号炉取水ビット	東側接続口、使用済燃料ビット	555m	650m	1	950m
—			西側接続口、使用済燃料ビット	135m	150m	2	
—	ルート②	3号炉取水ビットスクリーン室	西側接続口、使用済燃料ビット	235m	300m	1	
—			610m	700m	2		

※1：SA手順、※2：自主手順

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

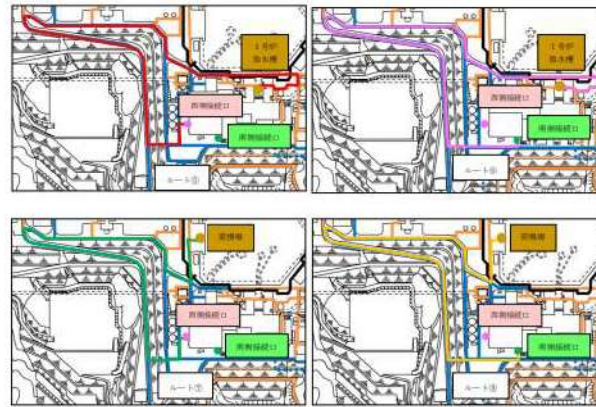
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由



第2図 ホース敷設ルート（海を水源とした低圧代替注水）（2/3）

第3表 ホース敷設距離（海を水源とした低圧代替注水）（2/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート⑤	1号炉取水槽	西側接続口	1,687n	1,731m
—	ルート⑥		南側接続口	1,735n	1,781m
—	ルート⑦	荷揚場	西側接続口	1,405n	1,431m
—	ルート⑧		南側接続口	1,452n	1,481m



第1図 ホース敷設ルート（代替炉心注水、補助給水ビット補給、燃料取替用水ビット補給、使用済燃料ビット注水）（2/3）

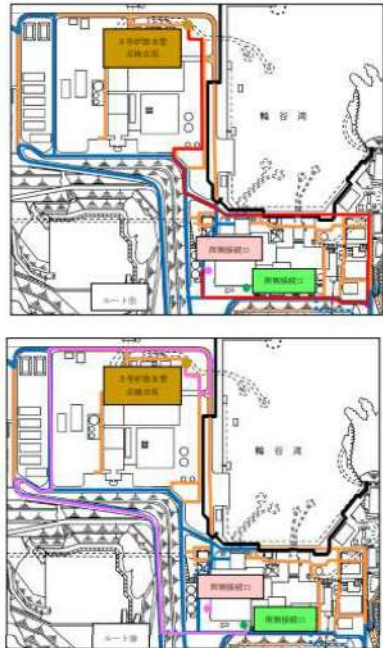
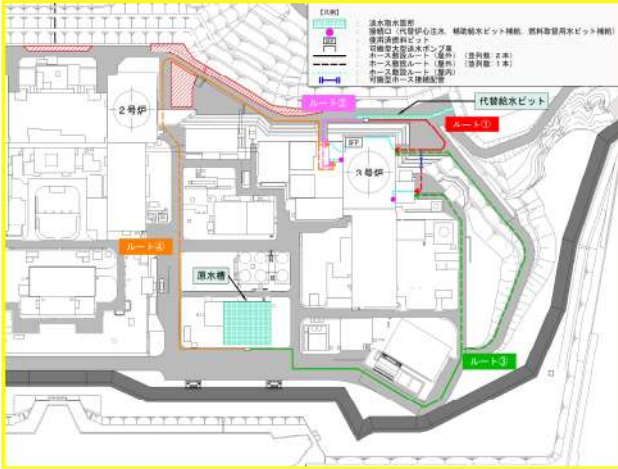
第2表 ホース敷設距離（代替炉心注水、補助給水ビット補給、燃料取替用水ビット補給、使用済燃料ビット注水）（2/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート① ^{※2}	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	西側接続口、使用済燃料ビット	235m	300m	1	1,300m
				450m	500m	2	
—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口	東側接続口、使用済燃料ビット	555m	650m	1	1,450m
				320m	400m	2	
—	ルート③ ^{※2}	1号及び2号炉取水口	西側接続口、使用済燃料ビット	235m	300m	1	1,500m
				545m	600m	2	

※1：SA手順、※2：自主手順

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																									
	 <p data-bbox="712 837 1317 865">第2図 ホース敷設ルート（海を水源とした低圧代替注水）（3/3）</p> <p data-bbox="712 954 1317 981">第3表 ホース敷設距離（海を水源とした低圧代替注水）（3/3）</p> <table border="1" data-bbox="712 1053 1317 1173"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td rowspan="2">3号伊取水管 点検立坑</td> <td>西側接続口</td> <td>1,556m</td> <td>1,567m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>南側接続口</td> <td>1,694m</td> <td>1,728m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	3号伊取水管 点検立坑	西側接続口	1,556m	1,567m	—	ルート②	南側接続口	1,694m	1,728m	 <p data-bbox="1355 837 1937 893">第1図 ホース敷設ルート（代替炉心注水，補助給水ビット補給，燃料取替用水ビット補給，使用済燃料ビット注水）（3/3）</p> <p data-bbox="1355 954 1937 1010">第2表 ホース敷設距離（代替炉心注水，補助給水ビット補給，燃料取替用水ビット補給，使用済燃料ビット注水）（3/3）</p> <table border="1" data-bbox="1344 1053 1960 1308"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">ルート①②</td> <td rowspan="2">代替給水ビット</td> <td>東側接続口， 使用済燃料ビット</td> <td>70m</td> <td>100m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">400m</td> </tr> <tr> <td>西側接続口， 使用済燃料ビット</td> <td>130m</td> <td>150m</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">ルート③④</td> <td rowspan="2">原水槽</td> <td>東側接続口， 使用済燃料ビット</td> <td>50m</td> <td>100m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">300m</td> </tr> <tr> <td>西側接続口， 使用済燃料ビット</td> <td>70m</td> <td>100m</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">ルート③④</td> <td rowspan="2">原水槽</td> <td>東側接続口， 使用済燃料ビット</td> <td>550m</td> <td>650m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">1,350m</td> </tr> <tr> <td>西側接続口， 使用済燃料ビット</td> <td>310m</td> <td>350m</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">ルート④</td> <td rowspan="2">原水槽</td> <td>東側接続口， 使用済燃料ビット</td> <td>235m</td> <td>300m</td> <td>1</td> <td rowspan="2">1,300m</td> </tr> <tr> <td>西側接続口， 使用済燃料ビット</td> <td>435m</td> <td>500m</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1344 1308 1568 1332">※1：SA手順，※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート①②	代替給水ビット	東側接続口， 使用済燃料ビット	70m	100m	1	400m	西側接続口， 使用済燃料ビット	130m	150m	2	—	ルート③④	原水槽	東側接続口， 使用済燃料ビット	50m	100m	1	300m	西側接続口， 使用済燃料ビット	70m	100m	2	—	ルート③④	原水槽	東側接続口， 使用済燃料ビット	550m	650m	1	1,350m	西側接続口， 使用済燃料ビット	310m	350m	2	—	ルート④	原水槽	東側接続口， 使用済燃料ビット	235m	300m	1	1,300m	西側接続口， 使用済燃料ビット	435m	500m	2	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																																							
—	ルート①	3号伊取水管 点検立坑	西側接続口	1,556m	1,567m																																																																							
—	ルート②		南側接続口	1,694m	1,728m																																																																							
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																																					
—	ルート①②	代替給水ビット	東側接続口， 使用済燃料ビット	70m	100m	1	400m																																																																					
			西側接続口， 使用済燃料ビット	130m	150m	2																																																																						
—	ルート③④	原水槽	東側接続口， 使用済燃料ビット	50m	100m	1	300m																																																																					
			西側接続口， 使用済燃料ビット	70m	100m	2																																																																						
—	ルート③④	原水槽	東側接続口， 使用済燃料ビット	550m	650m	1	1,350m																																																																					
			西側接続口， 使用済燃料ビット	310m	350m	2																																																																						
—	ルート④	原水槽	東側接続口， 使用済燃料ビット	235m	300m	1	1,300m																																																																					
			西側接続口， 使用済燃料ビット	435m	500m	2																																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

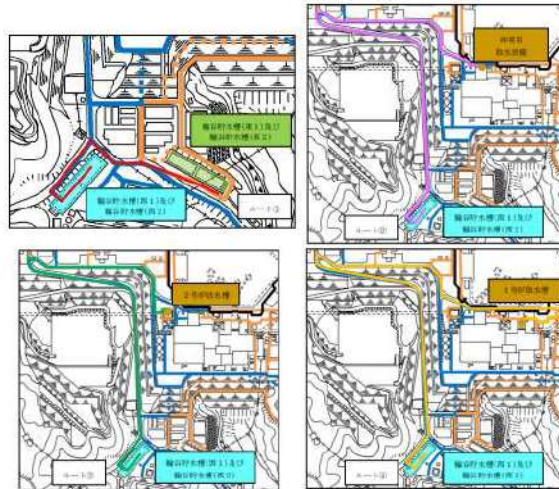
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

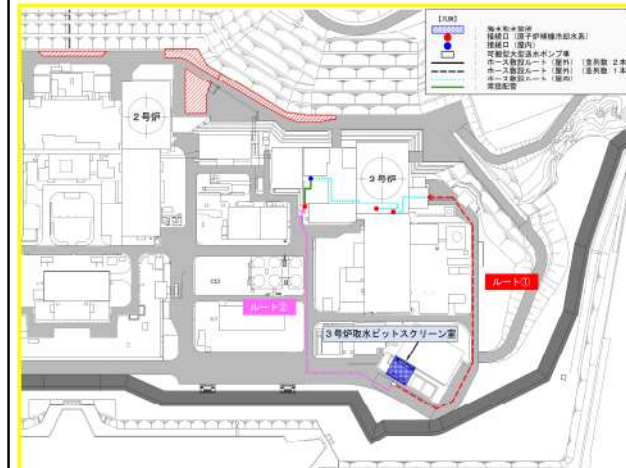
相違理由



第3図 ホース敷設ルート
 (輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)への補給)(1/2)

第4表 ホース敷設距離
 (輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)への補給)(1/2)

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート①	輪谷貯水槽(東1)及び輪谷貯水槽(東2)	輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)	434m	455m
—	ルート②	非常用取水設備		1,589m	1,610m
—	ルート③	2号炉放水槽		1,574m	1,610m
—	ルート④	1号炉取水槽		1,954m	1,960m



第2図 ホース敷設ルート(原子炉補機冷却水系通水)(1/2)

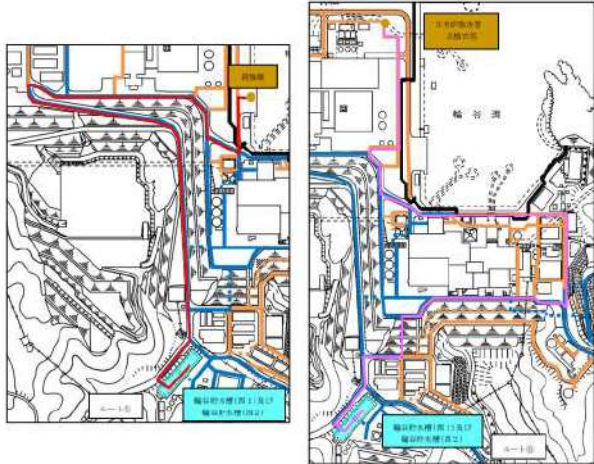

第3表 ホース敷設距離(原子炉補機冷却水系通水)(1/2)

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート① ^{※1}	3号炉取水ビットスクリーン室	東側接続口	340m	400m	1	400m
—	ルート② ^{※1}		西側接続口	130m	150m	1	550m
				165m	200m	2	

※1：SA手順、※2：自主手順

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																									
	 <p>第3図 ホース敷設ルート (輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)への補給)(2/2)</p> <p>第4表 ホース敷設距離 (輪谷貯水槽(西1)及び輪谷貯水槽(西2)への補給)(2/2)</p> <table border="1" data-bbox="712 815 1321 943"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑤</td> <td>荷揚場</td> <td>輪谷貯水槽(西1)及び 輪谷貯水槽(西2)</td> <td>1,672m</td> <td>1,710m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑥</td> <td>3号炉取水 点検立坑</td> <td>輪谷貯水槽(西2)</td> <td>1,966m</td> <td>2,010m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート⑤	荷揚場	輪谷貯水槽(西1)及び 輪谷貯水槽(西2)	1,672m	1,710m	—	ルート⑥	3号炉取水 点検立坑	輪谷貯水槽(西2)	1,966m	2,010m	 <p>第2図 ホース敷設ルート(原子炉補機冷却水系通水)(2/2)</p> <p>第3表 ホース敷設距離(原子炉補機冷却水系通水)(2/2)</p> <table border="1" data-bbox="1346 794 1955 1061"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①②</td> <td>1号及び2号炉 取水ビット スクリーン室</td> <td>西側接続口</td> <td>395m</td> <td>450m</td> <td>2</td> <td>900m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②③</td> <td rowspan="2">3号炉 取水口</td> <td>東側接続口</td> <td>525m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③④</td> <td>西側接続口</td> <td>270m</td> <td>300m</td> <td>2</td> <td>600m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④⑤</td> <td>1号及び2号炉 取水口</td> <td>西側接続口</td> <td>475m</td> <td>550m</td> <td>2</td> <td>1,100m</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：SA手順、※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート①②	1号及び2号炉 取水ビット スクリーン室	西側接続口	395m	450m	2	900m	—	ルート②③	3号炉 取水口	東側接続口	525m	600m	2	1,200m	—	ルート③④	西側接続口	270m	300m	2	600m	—	ルート④⑤	1号及び2号炉 取水口	西側接続口	475m	550m	2	1,100m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																							
—	ルート⑤	荷揚場	輪谷貯水槽(西1)及び 輪谷貯水槽(西2)	1,672m	1,710m																																																							
—	ルート⑥	3号炉取水 点検立坑	輪谷貯水槽(西2)	1,966m	2,010m																																																							
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																					
—	ルート①②	1号及び2号炉 取水ビット スクリーン室	西側接続口	395m	450m	2	900m																																																					
—	ルート②③	3号炉 取水口	東側接続口	525m	600m	2	1,200m																																																					
—	ルート③④		西側接続口	270m	300m	2	600m																																																					
—	ルート④⑤	1号及び2号炉 取水口	西側接続口	475m	550m	2	1,100m																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

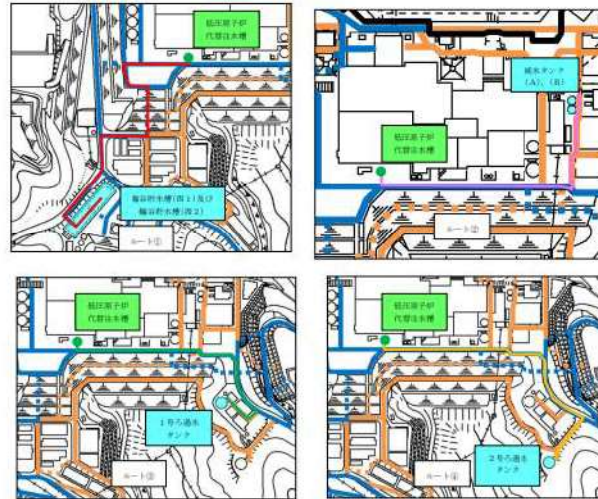
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

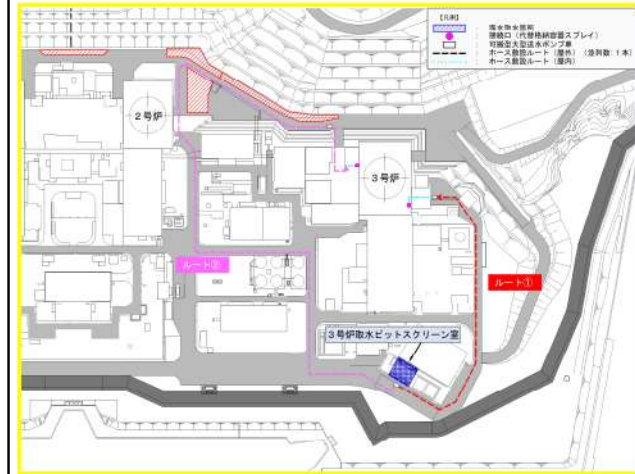
相違理由



第4図 ホース敷設ルート（低圧原子炉代替注水槽への補給）（1/3）

第5表 ホース敷設距離（低圧原子炉代替注水槽への補給）（1/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート①	輸谷貯水槽（西1）及び輸谷貯水槽（西2）	低圧原子炉代替注水槽	726m	796m
—	ルート②	純水タンク（A）、（B）		318m	355m
—	ルート③	1号ろ過水タンク		483m	505m
—	ルート④	3号ろ過水タンク		530m	555m



第3図 ホース敷設ルート（代替格納容器スプレィ）（1/3）

第4表 ホース敷設距離（代替格納容器スプレィ）（1/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート① ^{※1}	3号炉取水ビットスクリーン室	東側接続口	340m	400m	1	400m
—	ルート② ^{※2}		西側接続口	835m	950m	1	950m

※1：SA手順，※2：自主手順

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

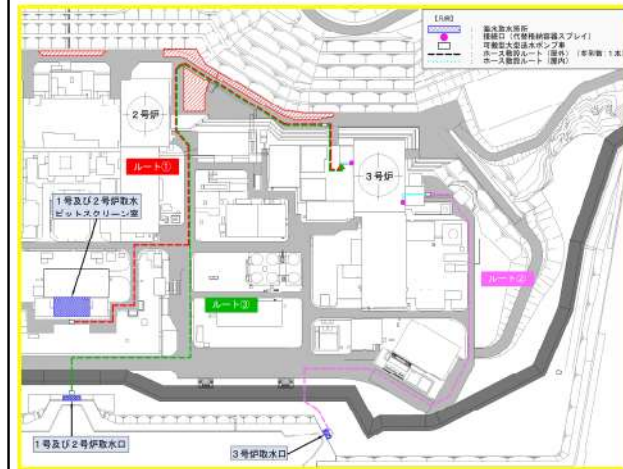
相違理由



第4図 ホース敷設ルート（低圧原子炉代替注水槽への補給）（2/3）

第5表 ホース敷設距離（低圧原子炉代替注水槽への補給）（2/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート①	非常用ろ過水タンク	低圧原子炉代替注水槽	907m	913m
—	ルート②	非常用取水設備		1,370m	1,381m
—	ルート③	2号炉放水槽		1,354m	1,381m
—	ルート④	荷揚場		1,452m	1,481m



第3図 ホース敷設ルート（代替格納容器スプレイ）（2/3）

第4表 ホース敷設距離（代替格納容器スプレイ）（2/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート① ^{※2}	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	西側接続口	680m	750m	1	750m
—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口	東側接続口	525m	600m	1	600m
—	ルート③ ^{※2}	1号及び2号炉取水口	西側接続口	765m	850m	1	850m

※1：SA手順，※2：自主手順

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

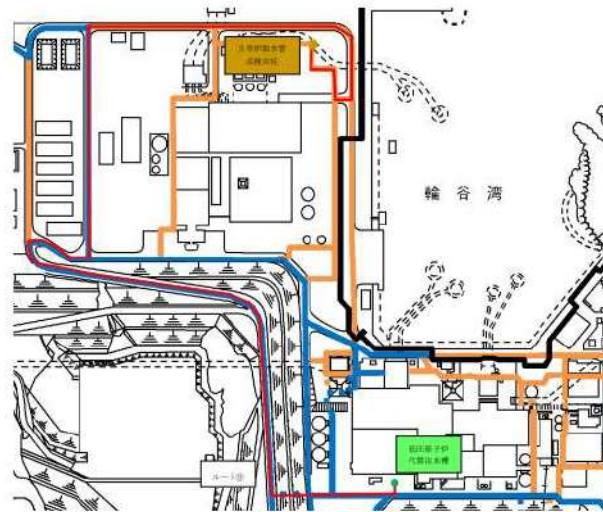
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

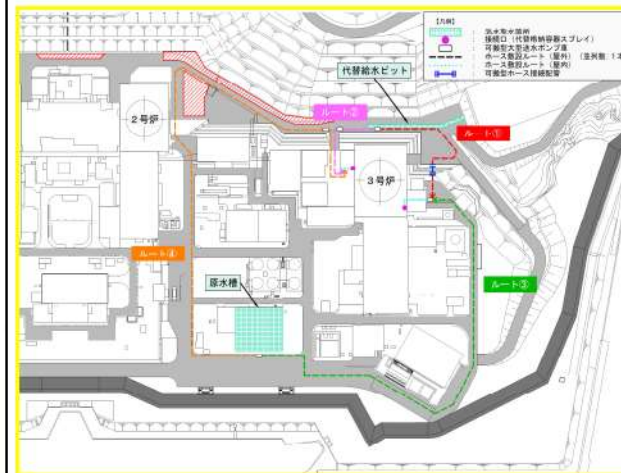
相違理由



第4図 ホース敷設ルート（低圧原子炉代替注水槽への補給）（3/3）

第5表 ホース敷設距離（低圧原子炉代替注水槽への補給）（3/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート⑤	3号炉取水管 点検立坑	低圧原子炉代替 注水槽	1,694m	1,728m



第3図 ホース敷設ルート（代替格納容器スプレイ）（3/3）

第4表 ホース敷設距離（代替格納容器スプレイ）（3/3）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート①②	代替給水ピット	東側接続口	170m	200m	1	200m
—	ルート②③		西側接続口	110m	150m	1	150m
—	ルート③④	原水槽	東側接続口	515m	600m	1	600m
—	ルート④⑤		西側接続口	665m	750m	1	750m

※1：SA手順、※2：自主手順

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																
	<div data-bbox="721 172 1308 683" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="728 692 1301 719" data-label="Caption"> <p>第5図 ホース敷設ルート（復水貯蔵タンクへの補給）（1/3）</p> </div> <div data-bbox="736 777 1292 804" data-label="Caption"> <p>第6表 ホース敷設距離（復水貯蔵タンクへの補給）（1/3）</p> </div> <div data-bbox="707 813 1308 1027" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）</td> <td rowspan="4">復水貯蔵タンク</td> <td>712m</td> <td>786m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>純水タンク（A）、（B）</td> <td>491m</td> <td>535m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>1号ろ過水タンク</td> <td>655m</td> <td>685m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>2号ろ過水タンク</td> <td>703m</td> <td>735m</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="882 1070 1312 1098" data-label="Text"> <p>※資料のうち、特記の内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div> </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）	復水貯蔵タンク	712m	786m	—	ルート②	純水タンク（A）、（B）	491m	535m	—	ルート③	1号ろ過水タンク	655m	685m	—	ルート④	2号ろ過水タンク	703m	735m	<div data-bbox="1339 209 1962 683" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="1435 692 1845 719" data-label="Caption"> <p>第4図 ホース敷設ルート（蒸気発生器注水）</p> </div> <div data-bbox="1444 777 1836 804" data-label="Caption"> <p>第5表 ホース敷設距離（蒸気発生器注水）</p> </div> <div data-bbox="1339 813 1948 1088" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①^{※2}</td> <td>3号炉取水ビットスクリーン室</td> <td rowspan="4">可搬型大型送水ポンプ車代替給水ライン接続口</td> <td>480m</td> <td>550m</td> <td>1</td> <td>550m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②^{※2}</td> <td>3号炉取水口</td> <td>675m</td> <td>750m</td> <td>1</td> <td>750m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③^{※2}</td> <td>代替給水ビット</td> <td>160m</td> <td>200m</td> <td>1</td> <td>200m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④^{※2}</td> <td>原水槽</td> <td>655m</td> <td>750m</td> <td>1</td> <td>750m</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="1344 1091 1563 1112" data-label="Text"> <p>※1：SA手順、※2：自主手順</p> </div> </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート① ^{※2}	3号炉取水ビットスクリーン室	可搬型大型送水ポンプ車代替給水ライン接続口	480m	550m	1	550m	—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口	675m	750m	1	750m	—	ルート③ ^{※2}	代替給水ビット	160m	200m	1	200m	—	ルート④ ^{※2}	原水槽	655m	750m	1	750m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																														
—	ルート①	輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）	復水貯蔵タンク	712m	786m																																																														
—	ルート②	純水タンク（A）、（B）		491m	535m																																																														
—	ルート③	1号ろ過水タンク		655m	685m																																																														
—	ルート④	2号ろ過水タンク		703m	735m																																																														
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																												
—	ルート① ^{※2}	3号炉取水ビットスクリーン室	可搬型大型送水ポンプ車代替給水ライン接続口	480m	550m	1	550m																																																												
—	ルート② ^{※2}	3号炉取水口		675m	750m	1	750m																																																												
—	ルート③ ^{※2}	代替給水ビット		160m	200m	1	200m																																																												
—	ルート④ ^{※2}	原水槽		655m	750m	1	750m																																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																											
	<div data-bbox="725 181 1312 679" style="border: 1px solid black; height: 312px; width: 262px; margin-bottom: 10px;"></div> <div data-bbox="725 692 1301 718" style="color: blue;">第5図 ホース敷設ルート（復水貯蔵タンクへの補給）（2/3）</div> <div data-bbox="736 778 1290 804" style="color: blue;">第6表 ホース敷設距離（復水貯蔵タンクへの補給）（2/3）</div> <table border="1" data-bbox="716 805 1317 1007"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート⑤</td> <td>非常用ろ過水タンク</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">復水貯蔵タンク</td> <td style="text-align: center;">1,086m</td> <td style="text-align: center;">1,085m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート⑥</td> <td>非常用取水設備</td> <td style="text-align: center;">1,332m</td> <td style="text-align: center;">1,360m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート⑦</td> <td>2号炉放水槽</td> <td style="text-align: center;">1,316m</td> <td style="text-align: center;">1,360m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート⑧</td> <td>1号炉取水槽</td> <td style="text-align: center;">1,697m</td> <td style="text-align: center;">1,760m</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="882 1038 1312 1066" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 本資料のうち、特図みの内容は機密に係る事項のため公開できません。 </div>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート⑤	非常用ろ過水タンク	復水貯蔵タンク	1,086m	1,085m	—	ルート⑥	非常用取水設備	1,332m	1,360m	—	ルート⑦	2号炉放水槽	1,316m	1,360m	—	ルート⑧	1号炉取水槽	1,697m	1,760m		
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																									
—	ルート⑤	非常用ろ過水タンク	復水貯蔵タンク	1,086m	1,085m																									
—	ルート⑥	非常用取水設備		1,332m	1,360m																									
—	ルート⑦	2号炉放水槽		1,316m	1,360m																									
—	ルート⑧	1号炉取水槽		1,697m	1,760m																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																	
	<div data-bbox="728 167 1310 726" style="border: 1px solid black; height: 350px; width: 100%;"></div> <p data-bbox="728 750 1310 774">第5図 ホース敷設ルート（復水貯蔵タンクへの補給）（3/3）</p> <p data-bbox="728 837 1310 861">第6表 ホース敷設距離（復水貯蔵タンクへの補給）（3/3）</p> <table border="1" data-bbox="728 877 1310 997"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>逆水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート㊸</td> <td>荷揚場</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">復水貯蔵 タンク</td> <td style="text-align: center;">1,415m</td> <td style="text-align: center;">1,460m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td>ルート㊹</td> <td>3号炉取水管 点検立坑</td> <td style="text-align: center;">1,560m</td> <td style="text-align: center;">1,590m</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="891 1029 1317 1061" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; font-size: small;"> 本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。 </div>	凡例	ルート	水源	逆水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート㊸	荷揚場	復水貯蔵 タンク	1,415m	1,460m	—	ルート㊹	3号炉取水管 点検立坑	1,560m	1,590m		
凡例	ルート	水源	逆水先	敷設距離	必要長さ															
—	ルート㊸	荷揚場	復水貯蔵 タンク	1,415m	1,460m															
—	ルート㊹	3号炉取水管 点検立坑		1,560m	1,590m															

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

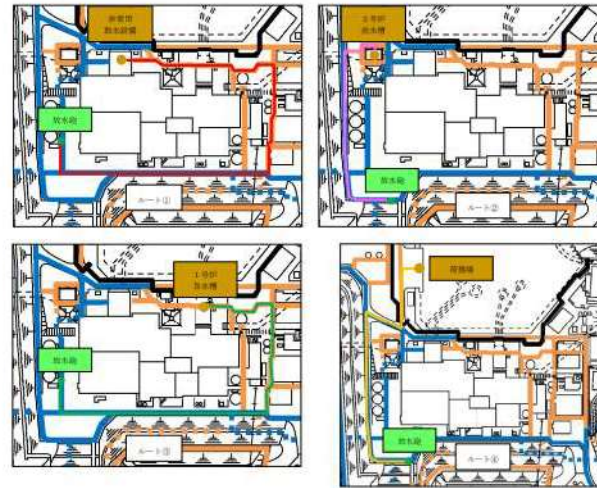
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

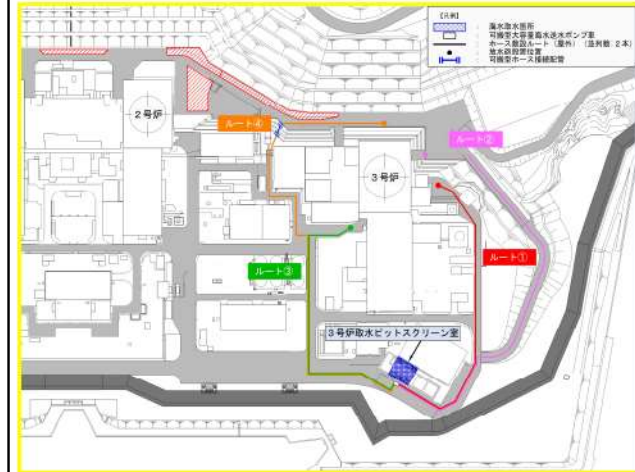
相違理由



第6図 ホース敷設ルート（放射性物質拡散抑制）

第7表 ホース敷設距離（放射性物質拡散抑制）

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ
—	ルート①	非常用取水設備	放水砲	747m	755m
—	ルート②	2号炉放水槽		330m	365m
—	ルート③	1号炉取水槽		643m	650m
—	ルート④	荷揚場		545m	550m



第5図 ホース敷設ルート（放射性物質拡散抑制）(1/2)

第6表 ホース敷設距離（放射性物質拡散抑制）(1/2)

凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ
—	ルート① ^{※1}	3号炉 取水ビット スクリーン室	放水砲	335m	400m	2	800m
—	ルート② ^{※2}			470m	550m	2	1,100m
—	ルート③ ^{※1}			305m	350m	2	700m
—	ルート④ ^{※2}			530m	600m	2	1,200m

※1：SA手順。 ※2：自主手順

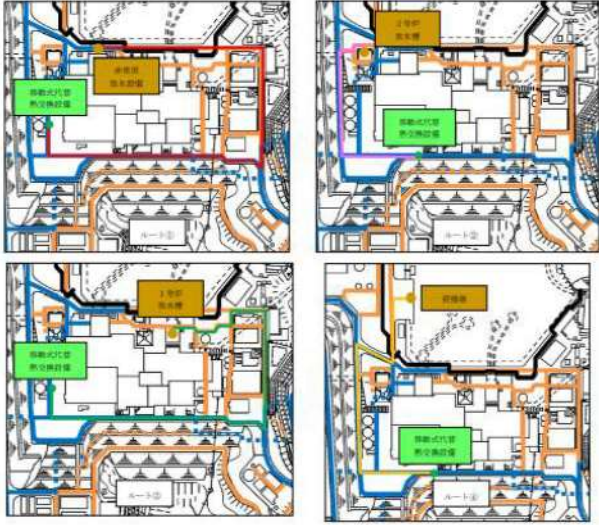
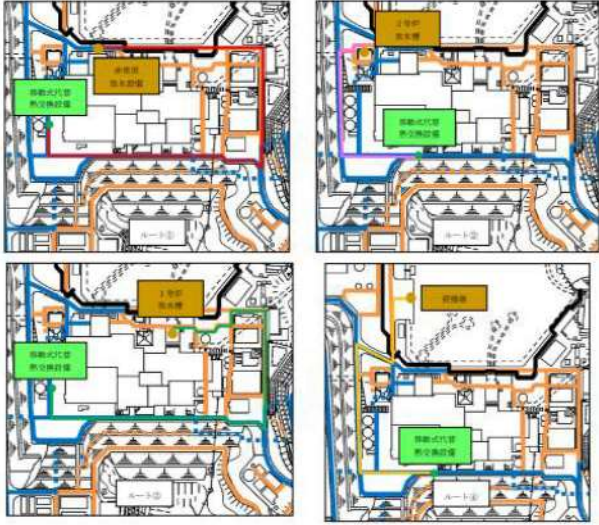
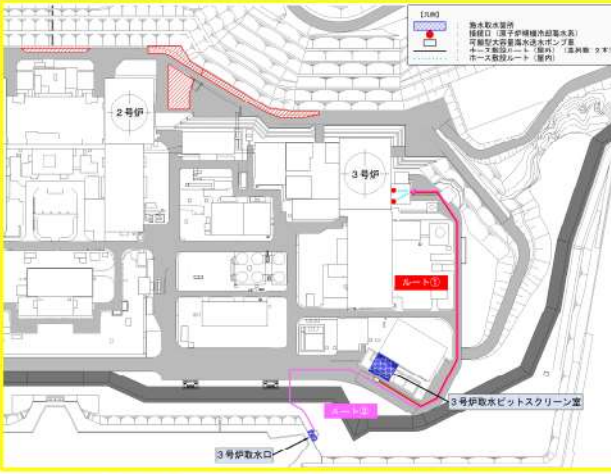
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
		<p>第5図 ホース敷設ルート（放射性物質拡散抑制）(2/2)</p> <p>第6表 ホース敷設距離（放射性物質拡散抑制）(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①※2</td> <td rowspan="2">1号及び2号炉取水ビットスクリーン室</td> <td rowspan="5">放水砲</td> <td>410m</td> <td>500m</td> <td>2</td> <td>1,000m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②※2</td> <td>540m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③※2</td> <td rowspan="2">3号炉取水口</td> <td>520m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④※2</td> <td>285m</td> <td>350m</td> <td>2</td> <td>700m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑤※2</td> <td>1号及び2号炉取水口</td> <td>490m</td> <td>550m</td> <td>2</td> <td>1,100m</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：SA手順、※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート①※2	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	放水砲	410m	500m	2	1,000m	—	ルート②※2	540m	600m	2	1,200m	—	ルート③※2	3号炉取水口	520m	600m	2	1,200m	—	ルート④※2	285m	350m	2	700m	—	ルート⑤※2	1号及び2号炉取水口	490m	550m	2	1,100m	
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																						
—	ルート①※2	1号及び2号炉取水ビットスクリーン室	放水砲	410m	500m	2	1,000m																																						
—	ルート②※2			540m	600m	2	1,200m																																						
—	ルート③※2	3号炉取水口		520m	600m	2	1,200m																																						
—	ルート④※2			285m	350m	2	700m																																						
—	ルート⑤※2	1号及び2号炉取水口		490m	550m	2	1,100m																																						

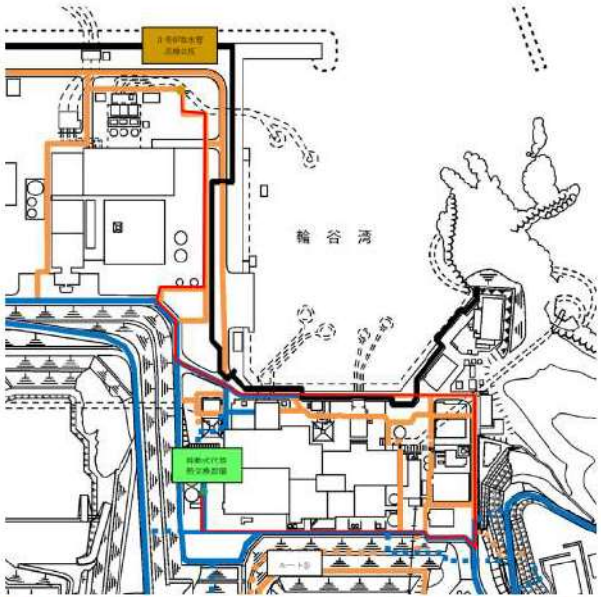
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																														
<p data-bbox="271 110 499 135">女川原子力発電所2号炉</p>  <p data-bbox="712 722 1326 778">第7図 ホース敷設ルート（最終ヒートシンク（海）への代替熱輸送）（1/2）</p> <p data-bbox="712 810 1326 866">第8表 ホース敷設距離（最終ヒートシンク（海）への代替熱輸送）（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="721 874 1317 1066"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>非常用取水設備</td> <td rowspan="4">移動式代替熱交換設備</td> <td>908m</td> <td>925m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>2号炉放水槽</td> <td>388m</td> <td>425m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>1号炉取水槽</td> <td>816m</td> <td>825m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>荷揚場</td> <td>603m</td> <td>625m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	非常用取水設備	移動式代替熱交換設備	908m	925m	—	ルート②	2号炉放水槽	388m	425m	—	ルート③	1号炉取水槽	816m	825m	—	ルート④	荷揚場	603m	625m	<p data-bbox="907 110 1135 135">島根原子力発電所2号炉</p>  <p data-bbox="712 722 1326 778">第7図 ホース敷設ルート（最終ヒートシンク（海）への代替熱輸送）（1/2）</p> <p data-bbox="712 810 1326 866">第8表 ホース敷設距離（最終ヒートシンク（海）への代替熱輸送）（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="721 874 1317 1066"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①</td> <td>非常用取水設備</td> <td rowspan="4">移動式代替熱交換設備</td> <td>908m</td> <td>925m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②</td> <td>2号炉放水槽</td> <td>388m</td> <td>425m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート③</td> <td>1号炉取水槽</td> <td>816m</td> <td>825m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート④</td> <td>荷揚場</td> <td>603m</td> <td>625m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート①	非常用取水設備	移動式代替熱交換設備	908m	925m	—	ルート②	2号炉放水槽	388m	425m	—	ルート③	1号炉取水槽	816m	825m	—	ルート④	荷揚場	603m	625m	<p data-bbox="1579 110 1727 135">泊発電所3号炉</p>  <p data-bbox="1397 722 1899 748">第6図 ホース敷設ルート（原子炉補機冷却海水系通水）</p> <p data-bbox="1397 810 1899 836">第7表 ホース敷設距離（原子炉補機冷却海水系通水）</p> <table border="1" data-bbox="1346 879 1955 1054"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>評価用距離</th> <th>並列数</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート①※2</td> <td>3号炉取水ピットスクリーン室</td> <td>可搬型大容量海水送水ポンプ重</td> <td>345m</td> <td>400m</td> <td>2</td> <td>800m</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>ルート②※1</td> <td>3号炉取水口</td> <td>A母管接続口又はB母管接続口</td> <td>535m</td> <td>600m</td> <td>2</td> <td>1,200m</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1346 1058 1568 1075">※1：SA手順。 ※2：自主手順</p>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ	—	ルート①※2	3号炉取水ピットスクリーン室	可搬型大容量海水送水ポンプ重	345m	400m	2	800m	—	ルート②※1	3号炉取水口	A母管接続口又はB母管接続口	535m	600m	2	1,200m	<p data-bbox="2027 110 2107 135">相違理由</p>
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																																												
—	ルート①	非常用取水設備	移動式代替熱交換設備	908m	925m																																																																												
—	ルート②	2号炉放水槽		388m	425m																																																																												
—	ルート③	1号炉取水槽		816m	825m																																																																												
—	ルート④	荷揚場		603m	625m																																																																												
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ																																																																												
—	ルート①	非常用取水設備	移動式代替熱交換設備	908m	925m																																																																												
—	ルート②	2号炉放水槽		388m	425m																																																																												
—	ルート③	1号炉取水槽		816m	825m																																																																												
—	ルート④	荷揚場		603m	625m																																																																												
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	評価用距離	並列数	必要長さ																																																																										
—	ルート①※2	3号炉取水ピットスクリーン室	可搬型大容量海水送水ポンプ重	345m	400m	2	800m																																																																										
—	ルート②※1	3号炉取水口	A母管接続口又はB母管接続口	535m	600m	2	1,200m																																																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
	 <p data-bbox="712 810 1323 863">第7図 ホース敷設ルート (最終ヒートシンク (海) への代替熱輸送) (2/2)</p> <p data-bbox="712 927 1323 979">第8表 ホース敷設距離 (最終ヒートシンク (海) への代替熱輸送) (2/2)</p> <table border="1" data-bbox="719 994 1317 1075"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>ルート</th> <th>水源</th> <th>送水先</th> <th>敷設距離</th> <th>必要長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>ルート⑤</td> <td>3号炉取水管 点検立坑</td> <td>移動式代替 熱交換設備</td> <td>1,529m</td> <td>1,576m</td> </tr> </tbody> </table>	凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ	—	ルート⑤	3号炉取水管 点検立坑	移動式代替 熱交換設備	1,529m	1,576m		
凡例	ルート	水源	送水先	敷設距離	必要長さ										
—	ルート⑤	3号炉取水管 点検立坑	移動式代替 熱交換設備	1,529m	1,576m										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

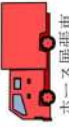
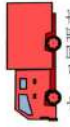
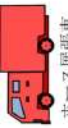

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第9表 ホースコンテナ及び拡張車の配備イメージ

用途	ホース長さ	コンテナ数	拡張車数	配備イメージ
駆圧代替注水 及び水源補給	2,776m	—	中型ホース拡張車(150A) 【ホース950m】 1台	第2・第3保管エリアに同数配備  注水：766m ホース拡張車
			大型ホース拡張車(150A) 【ホース1,050m】 2台	第1・第4保管エリアに同数配備  補給：2,010m ホース拡張車
放射性物質拡散 抑制	755m	コンテナ1基 (820m/1基)	大型ホース拡張車(300A) 1台	第4保管エリアに同数配備  コンテナ
			大型ホース拡張車(300A) 1台	第1・第4保管エリアに同数配備  コンテナ
最終ヒートシンク(海)への 代替熱輸送	1,575m	コンテナ2基 (820m/1基)	大型ホース拡張車(300A) 1台	

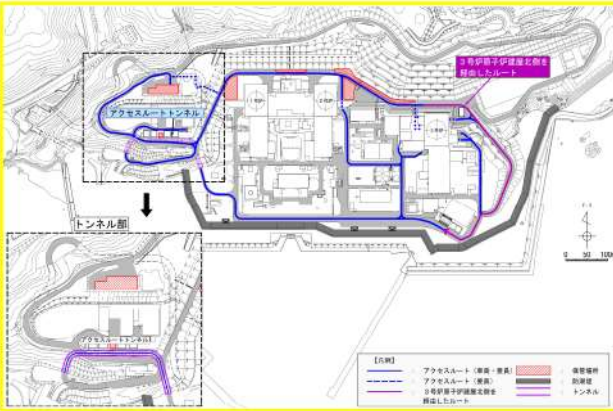
第8表 ホースコンテナ及びホース延長・回収車の配備イメージ

用途	ホース長さ	コンテナ数	ホース延長・回収車	配備イメージ
代替炉心注水、補助給水ピット 補給、燃料取扱用水ピット 補給、使用済燃料ピット注水	1,700m	—	ホース延長・回収車(送水車用) 【ホース(150A)1,800m】 1台	2号炉東側31mエリア(a)、51m 倉庫・車庫エリアに同数配備  1,800m ホース延長・回収車(送水車用)
			ホース延長・回収車(送水車用) 【ホース(150A)1,800m】 1台	2号炉東側31mエリア(a)、51m 倉庫・車庫エリアに同数配備  1,800m ホース延長・回収車(送水車用)
原子炉補機冷却水系通水	550m	—	ホース延長・回収車(放水車用) 【ホース(150A)1,800m】 1台	2号炉北側31mエリア、51m倉庫・ 車庫エリアに同数配備  1,800m ホース延長・回収車(放水車用)
放射性物質拡散抑制	800m	コンテナ2基 【ホース(300A) 400m/1基】	ホース延長・回収車(放水車用) 1台	1, 2号炉北側31mエリア、51m倉庫・ 車庫エリアに同数配備  コンテナ

【島根】記載内容の相違・用途に応じた使用するホース長さ、コンテナ基数、車両台数の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(22)</p> <p style="text-align: center;">アクセスルートトンネルの運用について</p> <p>アクセスルートトンネルは、重大事故等時の活動における屋外のアクセスルートとして設定しており、耐震性を確保する設計としていことから、高台から10m 盤への可搬型設備の通行経路として期待する。</p> <p>このため、重大事故等に備えたルートとして常時確保する必要性から、通常の発電所の運用には使用しないため、現場にその旨の注意表示を掲示し識別する。ただし、発電所構内での傷病者、火災発生等の緊急時、訓練、巡視及び保守・点検時には、一時的に使用するものであり通行状況を把握できることから制限しない。</p> <p>また、アクセスルートトンネルに障害物等がなく通行可能であることを確認するため1回/日の巡視を実施することに加え、1回/年の点検を実施し、当該トンネルの健全性を確認するとともに、必要に応じて補修作業を実施する。</p> <p>なお、アクセスルートとして必要な道路幅(4.0m)を確保できていない状況であることを確認した場合は、速やかに復旧を行うと同時に、3号炉原子炉建屋北側を経由したルートが通行可能であることを確認する。</p> <p>以上のアクセスルートトンネルの運用については、保安規定に基づく社内規程類に規定するものとする。 アクセスルートトンネルの配置図を第1図に示す。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 アクセスルートトンネルの配置図</p>	<p>【女川及び島根】 記載方針の相違 ・泊固有の補足資料。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

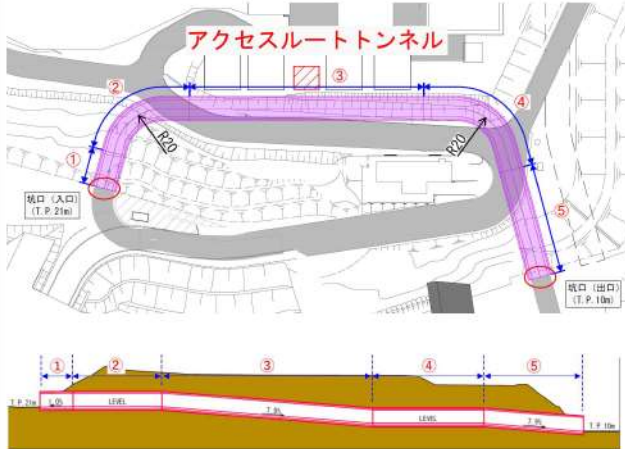
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
該当箇所無し	該当箇所無し	<p style="text-align: right;">補足資料(23)</p> <p>アクセスルートトンネルの可搬型設備及び重機の通行性について</p> <p>アクセスルートトンネルの仕様は第1表のとおりであり、勾配、幅員、曲線部における設計の考慮事項を以下に示す。</p> <p style="text-align: center;">第1表 アクセスルートトンネルの仕様</p> <table border="1" data-bbox="1346 384 1955 791"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構造及び形状</td> <td>鉄筋コンクリート造、馬蹄形トンネル</td> </tr> <tr> <td>トンネル長</td> <td>約250m</td> </tr> <tr> <td>断面形状 (内空)</td> <td>幅：約8.7m 高さ：約6.2m 曲線半径：R20m（第1図の②、④部）</td> </tr> <tr> <td>縦断勾配</td> <td>1.0%、7.9%</td> </tr> <tr> <td>設計速度*</td> <td>15km/h</td> </tr> <tr> <td>通行する車両 (最大となる 可搬型設備 ・重機)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替電源車 幅：2,980mm、高さ：4,992mm、全長：16,606mm ・ホイールローダ 幅：3,370mm、高さ：3,370mm、全長：7,130mm ・バックホウ 幅：3,150mm、高さ：3,160mm、全長：9,530mm </td> </tr> </tbody> </table> <p>※：設定根拠については添付資料-1参照</p>	項目	仕様	構造及び形状	鉄筋コンクリート造、馬蹄形トンネル	トンネル長	約250m	断面形状 (内空)	幅：約8.7m 高さ：約6.2m 曲線半径：R20m（第1図の②、④部）	縦断勾配	1.0%、7.9%	設計速度*	15km/h	通行する車両 (最大となる 可搬型設備 ・重機)	<ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替電源車 幅：2,980mm、高さ：4,992mm、全長：16,606mm ・ホイールローダ 幅：3,370mm、高さ：3,370mm、全長：7,130mm ・バックホウ 幅：3,150mm、高さ：3,160mm、全長：9,530mm 	<p>【女川及び島根】 記載方針の相違</p> <p>・泊固有の補足資料。</p>
項目	仕様																
構造及び形状	鉄筋コンクリート造、馬蹄形トンネル																
トンネル長	約250m																
断面形状 (内空)	幅：約8.7m 高さ：約6.2m 曲線半径：R20m（第1図の②、④部）																
縦断勾配	1.0%、7.9%																
設計速度*	15km/h																
通行する車両 (最大となる 可搬型設備 ・重機)	<ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替電源車 幅：2,980mm、高さ：4,992mm、全長：16,606mm ・ホイールローダ 幅：3,370mm、高さ：3,370mm、全長：7,130mm ・バックホウ 幅：3,150mm、高さ：3,160mm、全長：9,530mm 																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

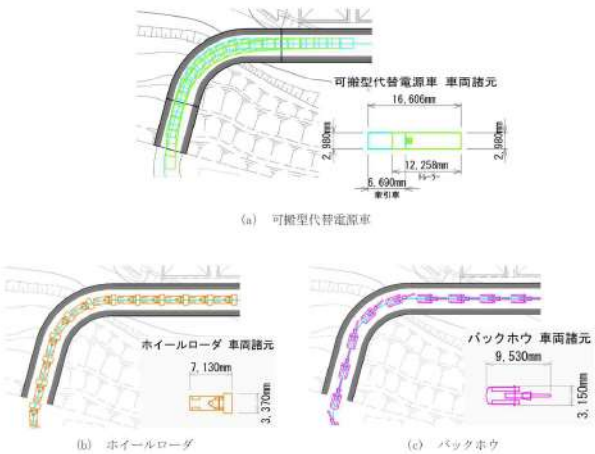
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>1. トンネルの勾配 アクセスルートトンネルの勾配は、最大7.9%であるため、車両が登坂可能な勾配である12%*を下回る（第1図参照）。 ※：車両重量が最も大きい可搬型代替電源車の登坂可能な勾配は12%である。</p>  <p>断面図</p> <p>第1図 アクセスルートトンネルの平面図及び断面図</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>2. トンネルの内空</p> <p>アクセスルートトンネルの内空は、重機を含めた通行車両に対し余裕のある幅員、高さを確保している（第2図参照）。</p> <p>なお、トンネルの入城及び退城の際は、緊急時対策所又は中央制御室へ連絡する運用とすることから、トンネル内での車両のすれ違いは発生しない。</p> <p>なお、緊急時対策所又は中央制御室への連絡に要する時間及びトンネルを交互通行することになった場合に要する時間については、屋外作業の所要時間に見込んでいる。</p> <p>上記の運用については、保安規定に基づく社内規程類に規定するとともに、トンネル設置後に実施する訓練を通じて事故対応が円滑にできるよう改善を図っていく。</p> <p>重大事故等時における車両の通行量について別紙(26)に、屋外での通信機器通話状況の確認結果について補足資料(6)に示す。</p> <div style="text-align: center;"> <p>(a) 可搬型代替電源車</p> <p>(b) ホイールローダ</p> <p>(c) バックホウ</p> <p>第2図 アクセスルートトンネルの断面図</p> </div>	

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>3. トンネルの曲線部 アクセスルートトンネルの曲線部は、可搬型設備のうち車幅・延長が最大となる可搬型代替電源車及び重機（ホイールローダ及びバックホウ）の通行性を考慮している（第3図参照）。</p>  <p>(a) 可搬型代替電源車 (b) ホイールローダ (c) バックホウ</p> <p>第3図 トンネル曲線部における車両の軌跡図（第1図の②部）</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
		<p style="text-align: right;">添付資料-1</p> <p style="text-align: center;">アクセスルートトンネルの設計速度の設定根拠</p> <p>アクセスルートトンネルの設計速度は、R20の曲線部に片勾配を設けない条件下において走行可能な車両速度とする。なお、曲線部を走行可能な車両速度は、「道路構造令の解説と運用（令和3年3月）」に基づき、下式より算出する。</p> $V = \sqrt{127R(i+f)}$ <p>ここで、</p> <p>V : 曲線部を走行する車両の速度 (km/h)</p> <p>R : 曲線半径 (m) (20m)</p> <p>i : 片勾配 (%) (0%)</p> <p>f : 路面の横すべり摩擦係数 (0.15) (下表参照)</p> <p style="text-align: center;">第1表 設計に用いる横すべり摩擦係数</p> <table border="1" data-bbox="1350 699 1951 770"> <thead> <tr> <th>設計速度 V (km/h)</th> <th>120</th> <th>100</th> <th>80</th> <th>60</th> <th>50</th> <th>40以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計上の横すべり摩擦係数 f</td> <td>0.10</td> <td>0.11</td> <td>0.12</td> <td>0.13</td> <td>0.14</td> <td>0.15</td> </tr> </tbody> </table> $V = \sqrt{127 \times 20(0 + 0.15)}$ $= 19.5 \text{ km/h}$ <p>よって、アクセスルートトンネルを安全に走行可能な速度は19km/h以下であることから、設計速度を15km/hと設定した。</p>	設計速度 V (km/h)	120	100	80	60	50	40以下	設計上の横すべり摩擦係数 f	0.10	0.11	0.12	0.13	0.14	0.15	
設計速度 V (km/h)	120	100	80	60	50	40以下											
設計上の横すべり摩擦係数 f	0.10	0.11	0.12	0.13	0.14	0.15											

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【高浜1,2号炉のまとめ資料より転載】</p> <p>(参考)：重大事故等発生時における車両の通行性の評価</p> <p>使用する可搬型重大事故等対処設備が最も多く、時間的制約が最も厳しい「格納容器過圧破損」の事故シナリオの4基同時発災を想定した場合においても、新設するアクセスルートを通行する必要のある車両は下記①～④に限定されており、アクセスルートの通行性が事故対応の支障となることはない。</p> <p>① アクセスルート復旧後、下記2台の車両が、1,2号炉背面道路の保管場所から取水場所付近まで移動する(事故発生～約2時間後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1号炉送水車 ・2号炉送水車 <p>② 原子炉格納容器の長期的な冷却のため、下記1台の車両が1,2号炉背面道路の保管場所から取水場所まで移動する(事故発生約12時間後以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大容量ポンプ <p>③ 事象発生後、6日目までにホース敷設のため、下記2台の車両が1,2号炉背面道路-取水場所間を1往復する(事故発生約40時間後以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1号炉ホース運搬車 ・2号炉ホース運搬車 <p>④ 燃料補給用のため、送水車については事象発生2時間後以降2時間毎に、大容量ポンプについては事象発生12時間後以降4.5時間毎に、1,2号炉背面道路-取水場所間をトラックまたはタンクローリーが1往復する</p> <p>大規模損壊発生時等、緊急で使用済燃料ピットへのスプレイが必要となる場合は、事故発生後2時間以内に上記①および③の車両の通行が発生するが、現場調整者が車両の調整を行うことにより、アクセスルートの通行性を確保できる。</p>	<p>添付資料-2</p> <p>重大事故等時におけるアクセスルートトンネルの可搬型設備の通行性の評価</p> <p>使用する可搬型設備が最も多く、時間的制約が最も厳しい「全交流動力電源喪失(外部電源喪失時に非常用所内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールLOCAが発生する事故)」の事故シナリオを想定した場合においても、アクセスルートトンネルを通行する必要のある可搬型設備は下記①～③に限定されており、アクセスルートトンネルの通行性が事故対応の支障となることはない(第1図参照)。</p> <p>① 蒸気発生器への注水確保(海水)及び使用済燃料ピットへの注水確保(海水)のため、下記2台の車両が保管場所からT.P.10m作業場所まで移動する(事故発生～約7時間後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・ホース延長・回収車(送水車用) <p>② 原子炉補機冷却水系への通水確保(海水)のため、下記2台の車両が保管場所からT.P.10m作業場所まで移動する(約7時間後～約11時間後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・ホース延長・回収車(送水車用) <p>③ 燃料補給用のため、代替非常用発電機については事象発生約5時間後以降4時間ごとに、緊急時対策所用発電機については事象発生約10時間後以降8時間ごとに、T.P.31m以上の高台エリア-燃料油貯油槽間を可搬型タンクローリーが1往復する</p> <p>大規模損壊発生時等、緊急で使用済燃料ピットへのスプレイが必要となる場合は、事故発生後2時間以内に上記①の車両の通行が発生するが、トンネルの入域及び退域の際に緊急時対策所又は中央制御室へ連絡することにより、アクセスルートトンネルの通行性を確保できる。</p>	<p>高浜1,2号炉アクセスルートまとめ資料添付資料(14)「新設するアクセスルートの通行性について」において、車両の通行性の評価を行っていることから、本資料を参考とし、アクセスルートトンネルの通行性の評価を行った。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

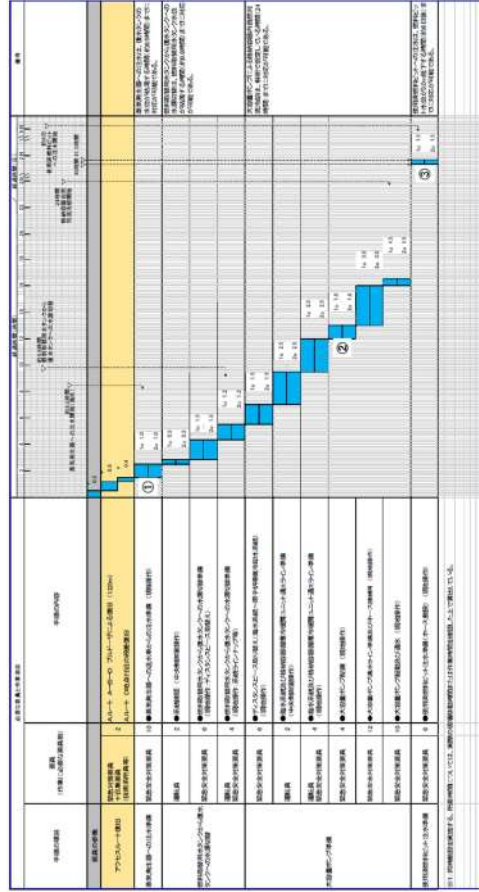
女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

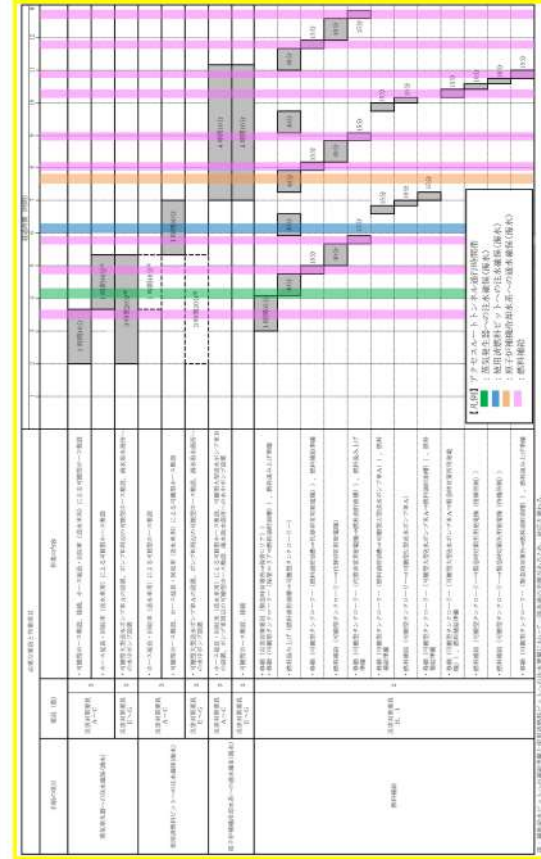
泊発電所3号炉

相違理由

【高浜1,2号炉のまとめ資料より転載】

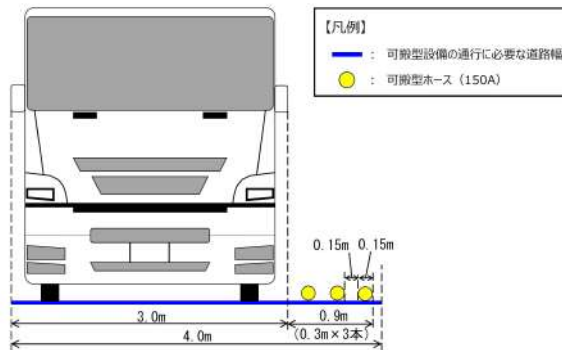


「格納容器過圧破損」シナリオにおける対応手順と所要時間



第1図 「全交流動力電源喪失」(外部電源喪失時に非常用所内交流電源が喪失し、原子炉補機冷却機能の喪失及びRCPシールLOCAが発生する事故)シナリオにおける対応手順と想定時間

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所無し</p>	<p>該当箇所無し</p>	<p style="text-align: right;">補足資料(24)</p> <p style="text-align: center;">可搬型設備の通行に必要な道路幅の考え方について</p> <p>可搬型設備の通行に必要な道路幅 4.0m は、可搬型設備のうち最大車幅の可搬型代替電源車約 3.0m 及び可搬型ホースの敷設幅 0.9m（150A ホース計 3 本敷設した場合の占有幅 0.45m に余裕を考慮）から設定する。可搬型設備の通行に必要な道路幅の設定の考え方について以下に示す。</p> <p>1. 道路幅の設定の考え方</p> <p>可搬型設備のうち最大車幅となるのは、可搬型代替電源車（2,980mm）である。</p> <p>可搬型ホースの敷設幅は、有効性評価のうち可搬型ホースの敷設幅が最も広がるシナリオ*を想定した場合において 0.9m（150A ホース計 3 本敷設した場合の占有幅 0.45m に余裕を考慮）である。</p> <p>上記を踏まえ、可搬型設備の通行に必要な道路幅は、可搬型設備のうち最大車幅の可搬型代替電源車約 3.0m 及び可搬型ホースの敷設幅 0.9m を考慮して 4.0m と設定する（第1図参照）。</p> <p>可搬型代替電源車の移動ルートと可搬型ホースの敷設状況を第2図に示す。</p> <p>※：全交流動力電源喪失、原子炉補機冷却機能喪失、雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）</p> <div style="text-align: center;">  <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> — : 可搬型設備の通行に必要な道路幅 ● : 可搬型ホース（150A） </div> <p>第1図 可搬型設備の通行に必要な道路幅の考え方 （可搬型代替電源車通行幅及び可搬型ホース敷設幅を考慮）</p>	<p style="text-align: center;">相違理由</p> <p>【女川及び島根】 記載方針の相違</p> <p>・泊は可搬型設備の通行に必要な道路幅の考え方を明確化している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保管場所 可搬型大型送水ポンプ車 可搬型代替電源車 可搬型代替電源車移動ルート ケーブル 補助給水ピット又は燃料取扱替用ピットへの補給、使用済燃料ピット注水に係るホース敷設ルート（並列数：2本） 補助給水ピット又は燃料取扱替用ピットへの補給、使用済燃料ピット注水に係るホース敷設ルート（並列数：1本） 原子炉排熱冷却水系への連水に係るホース敷設ルート（並列数：2本） 原子炉排熱冷却水系への連水に係るホース敷設ルート（並列数：1本） ホースマガジン <p>3号炉原子炉建屋西側を經由したルートにホースを敷設した場合</p> <p>3号炉原子炉建屋東側を經由したルートにホースを敷設した場合</p> <p>車両+ホースの占有幅が広がる範囲</p> <p>車両+ホースの占有幅が広がる範囲</p>	<p>相違理由</p> <p>第2図 可搬型代替電源車の移動ルート及び可搬型ホースの敷設状況</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料 1.0.3</p> <p>予備品等の確保及び保管場所について</p>	<p>添付資料 1.0.3</p> <p>予備品等の確保及び保管場所について</p> <p style="text-align: center;">＜ 目 次 ＞</p> <p>1. 重要安全施設.....1.0.3-1</p> <p>2. 予備品等の確保.....1.0.3-1</p> <p>3. 予備品等の保管場所.....1.0.3-2</p> <p>第1表 重要安全施設一覧.....1.0.3-3</p> <p>第2表 予備品及び予備品への取替のために必要な機材.....1.0.3-5</p> <p>第1図 予備品等の保管場所及びアクセスルート.....1.0.3-6</p>	<p>添付資料 1.0.3</p> <p>予備品等の確保及び保管場所について</p> <p style="text-align: center;">＜ 目 次 ＞</p> <p>1. 重要安全施設.....1.0.3-1</p> <p>2. 予備品等の確保.....1.0.3-1</p> <p>3. 予備品等の保管場所.....1.0.3-2</p> <p>表1 重要安全施設一覧.....1.0.3-3</p> <p>表2 予備品及び予備品への取替のために必要な機材...1.0.3-5</p> <p>図1 予備品等の保管場所及びアクセスルート.....1.0.3-6</p>	<p>女川との比較において、BWR固有の設備や対応手段であり、泊と比較対象とならない記載内容については、マーキング()を施している。</p> <p>目次では相違箇所の着色及び相違理由の記載をせず、1.0.3-2ページ以降の具体的な内容にて記載する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」のうち、「1.0 共通事項 (2) 復旧作業に係る要求事項①予備品等の確保」において、重要安全施設の適切な予備品等を確保することが規定されている。</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」(以下、「設置許可基準規則」という。)第二条において、「重要安全施設とは、安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものをいう。」とされている。</p> <p>また、設置許可基準規則第十二条の解釈において「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」の機能が示されている。</p> <p>ここでは、これらの重要安全施設のうち、重要安全施設の取替え可能な機器及び部品等に対する予備品及び予備品への取替えのために必要な機材等の選定及び保管場所について記載する。</p> <p>1. 重要安全施設 上記の設置許可基準規則第十二条の解釈の表に規定された安全機能の重要度が特に高い安全機能に対応する具体的な系統・設備を表1に示す。</p> <p>2. 予備品の確保 重大事故等発生後の事故対応については、重大事故等対処設備にて実施することにより、事故収束を行う。</p> <p>事故収束を継続させるためには、機能喪失した重要安全施設の機能を回復することが有効な手段であるため、以下の方針に基づき重要安全施設の取替え可能な機器、部品等の復旧作業を優先的に実施することとし、そのために必要な予備品を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期的には重大事故等対処設備で対応を行い、その後の事故収束対応の信頼性向上のため長期的に使用する設備を復旧する。 単一の重要安全施設の機能を回復することによって、重要安全施設の多数の設備の機能を回復することができ、事故収束を実施する上で最も効果が大きいサポート系設備を復旧する。 復旧作業の実施に当たっては、復旧が困難な設備についても、復旧するための対策を検討し実施することとするが、放射線の影響、その他の作業環境条件の観点^をを踏まえ、復旧作業の成立性が高い設備を復旧する。 	<p>「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」のうち、「1.0 共通事項 (2) 復旧作業に係る要求事項①予備品等の確保」において、重要安全施設の適切な予備品等を確保することが規定されている。</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」(以下、「設置許可基準規則」という。)第二条において、「重要安全施設とは、安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものをいう。」とされている。</p> <p>また、設置許可基準規則第十二条の解釈において「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」の機能が示されている。</p> <p>ここでは、これら重要安全施設のうち、重要安全施設の取替え可能な機器、部品等に対する予備品及び予備品への取替えのために必要な機材等の確保及び保管場所について記載する。</p> <p>1. 重要安全施設 上記の設置許可基準規則第十二条の解釈の表に規定された安全機能の重要度が特に高い安全機能に対応する具体的な系統・設備を表1に示す。</p> <p>2. 予備品等の確保 重大事故等時の事故対応については、重大事故等対処設備にて実施することにより、事故収束を行う。</p> <p>事故収束を継続させるためには、機能喪失した重要安全施設の機能を回復することが有効な手段であるため、以下の方針に基づき重要安全施設の取替え可能な機器、部品等の復旧作業を優先的に実施することとし、そのために必要な予備品を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期的には重大事故等対処設備で対応を行い、その後の事故収束対応の信頼性向上のため長期的に使用する設備を復旧する。 単一の重要安全施設の機能を回復することによって、重要安全施設の多数の設備の機能を回復することができ、事故収束を実施する上で最も効果が大きいサポート系設備を復旧する。 復旧作業の実施に当たっては、復旧が困難な設備についても、復旧するための対策を検討し実施することとするが、放射線の影響、その他作業環境条件を踏まえ、復旧作業の成立性が高い設備を復旧する。 <p>上記の方針に適合する系統として、海水ポンプ室に設置している原子炉補機冷却海水系ポンプ及び原子炉建屋に設置している原子炉補機冷却水系統を対象機器として選定し、予備品として保有することで復旧までの時間が短縮でき、成立性の高い作業で機能回復できる機器であり、機械的故障と電気的故障の要因が考えられる原子炉補機冷却海水ポンプ及び原子炉補機冷却水ポンプの電動機及びポンプ部品を予備品として確保する。</p> <p>残留熱除去系については、機能喪失の原因によっては大型機器の</p>	<p>「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」のうち、「1.0 共通事項 (2) 復旧作業に係る要求事項①予備品等の確保」において、重要安全施設の適切な予備品等を確保することが規定されている。</p> <p>「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」(以下、「設置許可基準規則」という。)第二条において、「重要安全施設とは、安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものをいう。」とされている。</p> <p>また、設置許可基準規則第十二条の解釈において「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」の機能が示されている。</p> <p>ここでは、これら重要安全施設のうち、重要安全施設の取替え可能な機器、部品等に対する予備品及び予備品への取替えのために必要な機材等の選定及び保管場所について記載する。</p> <p>1. 重要安全施設 上記の設置許可基準規則第十二条の解釈の表に規定された安全機能の重要度が特に高い安全機能に対応する具体的な系統・設備を表1に示す。</p> <p>2. 予備品等の確保 重大事故等時の事故対応については、重大事故等対処設備にて実施することにより、事故収束を行う。</p> <p>事故収束を継続させるためには、機能喪失した重要安全施設の機能を回復することが有効な手段であるため、以下の方針に基づき重要安全施設の取替え可能な機器、部品等の復旧作業を優先的に実施することとし、そのために必要な予備品を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期的には重大事故等対処設備で対応を行い、その後の事故収束対応の信頼性向上のため長期的に使用する設備を復旧する。 単一の重要安全施設の機能を回復することによって、重要安全施設の多数の設備の機能を回復することができ、事故収束を実施する上で最も効果が大きいサポート系設備を復旧する。 復旧作業の実施に当たっては、復旧が困難な設備についても、復旧するための対策を検討し実施することとするが、放射線の影響、その他作業環境条件を踏まえ、復旧作業の成立性が高い設備を復旧する。 <p>上記の方針に適合する設備として、循環水ポンプ建屋に設置している原子炉補機冷却海水ポンプを対象機器として選定し、予備品として保有することで復旧までの時間が短縮でき、成立性の高い作業で機能回復できる機器であり、機械的故障と電気的故障の要因が考えられる原子炉補機冷却海水ポンプの電動機を予備品として確保する。</p>	<p>記載表現の相違 (女川実績の反映)</p> <p>【大飯】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【大飯】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【女川】名称の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>なお、今後も多様な復旧手段の確保、復旧を想定する機器の拡大、その他の有効な復旧対策について継続的な検討を行うとともに、そのために必要な予備品等の確保に努める。</p> <p>また、予備品の取替え作業に必要な資機材等として、ガレキ除去等のためのブルドーザ、夜間の対応を想定した照明機器等及びその他の作業環境を想定した資機材を確保する。</p>	<p>交換が必要となり、復旧に時間がかかる場合も想定されるため、残留熱除去系ポンプについても、電動機及びポンプ部品を予備品として確保する。</p> <p>なお、今後も多様な復旧手段の確保、復旧を想定する機器の拡大、その他の有効な復旧対策について継続的な検討を行うとともに、そのために必要な予備品の確保に努める。</p> <p>また、予備品への取替え作業に必要な資機材等として、がれき撤去等のためのブルドーザ等の重機、夜間の対応を想定した照明機器その他作業環境を想定した資機材を確保する。</p>	<p>なお、今後も多様な復旧手段の確保、復旧を想定する機器の拡大、その他の有効な復旧対策について継続的な検討を行うとともに、そのために必要な予備品の確保に努める。</p> <p>また、予備品への取替え作業に必要な資機材等として、がれき撤去等のためのホイールローダ等の重機、夜間の対応を想定した照明機器、その他作業環境を想定した資機材をあらかじめ確保する。</p>	<p>【大飯】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【大飯・女川】設備の相違</p> <p>・泊は、段差緩和対策やアクセスルート拡幅等の事前対策により、アクセスルート復旧作業が想定されないが、万一のがれき、土砂、段差等の発生に備え、ホイールローダ及びバックホウを配備する。(島根と同様)</p> <p>【大飯・女川】記載表現の相違</p> <p>泊は、技術的能力1.0まとめ資料1.0.1(2)a.項及び1.0.2(2)a.項と同様に「その他作業環境を想定した資機材をあらかじめ確保する」との表現とした。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 予備品等の保管場所</p> <p>予備品等については、地震による周辺斜面の崩落、敷地下斜面のすべり、津波による浸水等の外部事象の影響を受けにくい場所に当該重要安全施設との位置的分散を考慮し保管する。</p>	<p>3. 予備品等の保管場所</p> <p>予備品等については、地震による周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべり、津波による浸水の外部事象の影響を受けにくい場所に重要安全施設との位置的分散を考慮し保管する。</p> <p>保管場所については、可搬型重大事故等対処設備と同じであり、保管場所及び屋外アクセスルートの対策概要については、添付資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」の「3. 保管場所及びアクセスルートに係る方針(1)保管場所及びアクセスルートの設定方針」に記載する。</p> <p>なお、設備の復旧作業場所へのアクセスルートについては、第1図に示す複数ルートのうち少なくとも1ルート確保されたアクセスルートを使用して、予備品の保管場所から復旧作業場所へ予備品を移動させて復旧する。</p> <p>また、保管場所及びアクセスルートの点検管理については、添付資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」に記載している「10. 補足資料(9)保管場所及び屋外アクセスルートの点検状況について」と同じ点検管理を実施する。</p>	<p>3. 予備品等の保管場所</p> <p>予備品等については、地震による周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべり、津波による浸水等の外部事象の影響を受けにくい場所に当該重要安全施設との位置的分散を考慮し保管する。</p> <p>保管場所については、可搬型重大事故等対処設備と同じであり、保管場所及び屋外アクセスルートの対策概要については、添付資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」の「3. 保管場所及びアクセスルートに係る方針」に記載する。</p> <p>なお、設備の復旧作業場所へのアクセスルートについては、図1に示す複数ルートのうち少なくとも1ルート確保されたアクセスルートを使用して、予備品の保管場所から復旧作業場所へ予備品を移動させて復旧する。</p> <p>また、保管場所及びアクセスルートの点検管理については、添付資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」に記載している「10. 補足資料(8)保管場所及び屋外のアクセスルート等の点検状況」と同じ点検管理を実施する。</p>	<p>【大飯】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】飛び先名称の相違</p> <p>【女川】飛び先名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表1 重要安全施設一覧		第1表 重要安全施設一覧		表1 重要安全施設一覧(1/2)		
安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備	安全機能 (設置許可基準規則第十二条)	系統・設備	安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備	<p>【大飯】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【女川】設計の相違 詳細は引用元にて整理 引用元 ・DB12条 安全施設まとめ資料 別紙1-2</p>
原子炉の緊急停止機能	制御棒・制御棒駆動装置 化学体積制御設備 非常用炉心冷却設備(高圧注入系)	原子炉の緊急停止機能 本臨界維持機能	・制御棒・制御棒駆動水圧系 ・制御棒・制御棒駆動水圧系 ・注う酸水注入系	原子炉の緊急停止機能 末臨界維持機能	・制御棒・制御棒駆動装置 ・制御棒・制御棒駆動装置 ・化学体積制御設備(ほう酸注入機能) ・非常用炉心冷却設備(ほう酸注入機能)	
末臨界維持機能	制御棒・制御棒駆動装置 化学体積制御設備 非常用炉心冷却設備(高圧注入系) 燃料取替用水設備	原子炉冷却材圧力バウンダリの過圧防止機能	・主蒸気逃がし安全弁(安全弁機能)	原子炉冷却材圧力バウンダリの過圧防止機能	・加圧器安全弁(開機記)	
原子炉冷却材圧力バウンダリの過圧防止機能	1次冷却材設備(加圧器安全弁)	原子炉停止後における除熱のための残留熱除去機能	・残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)* ・高圧炉心スプレイ系 ・主蒸気逃がし安全弁(手動逃がし機能) ・原子炉隔離時冷却系 ・残留熱除去系(サブプレッションプール水冷却モード)* ・自動減圧系(手動逃がし機能)	原子炉停止後における除熱のための残留熱除去機能	・余熱除去設備	
原子炉停止後における除熱のための残留熱除去機能	余熱除去設備	原子炉停止後における除熱のための原子炉が隔離された場合の注水機能	・原子炉隔離時冷却系 ・高圧炉心スプレイ系	原子炉停止後における除熱のための二次系からの補給水機能	・主蒸気設備(蒸気発生器、主蒸気隔離弁、主蒸気安全弁、主蒸気逃がし弁) ・給水設備(蒸気発生器、主給水隔離弁) ・補助給水設備	
原子炉停止後における除熱のための二次系からの補給水機能	主蒸気設備(蒸気発生器から2次側隔離弁・主蒸気逃がし弁まで) 給水設備(蒸気発生器から2次側隔離弁まで)	原子炉停止後における除熱のための原子炉が隔離された場合の注水機能	・主蒸気逃がし安全弁(手動逃がし機能) ・自動減圧系(手動逃がし機能)	事故時の原子炉の状態に応じた炉心冷却のための原子炉内高圧時における注水機能	・非常用炉心冷却設備(高圧注入系)	
原子炉停止後における除熱のための二次系への補給水機能	補助給水設備	事故時の原子炉の状態に応じた炉心冷却のための原子炉内高圧時における注水機能	・高圧炉心スプレイ系 ・主蒸気逃がし安全弁(自動減圧系) ・低圧炉心スプレイ系 ・残留熱除去系(高圧注水モード)*	原子炉停止後における除熱のための二次系への補給水機能	・非常用炉心冷却設備(高圧注入系)	
事故時の原子炉の状態に応じた炉心冷却のための原子炉内高圧時における注水機能	非常用炉心冷却設備(高圧注入系) 燃料取替用水設備 再循環サンブ設備	事故時の原子炉の状態に応じた炉心冷却のための原子炉内低圧時における注水機能	・低圧炉心スプレイ系 ・高圧炉心スプレイ系 ・残留熱除去系(低圧注水モード)*	事故時の原子炉の状態に応じた炉心冷却のための原子炉内高圧時における注水機能	・非常用炉心冷却設備(高圧注入系) ・非常用炉心冷却設備(低圧注入系)	
事故時の原子炉の状態に応じた炉心冷却のための原子炉内低圧時における注水機能	非常用炉心冷却設備(蓄圧注入系) 燃料取替用水設備 余熱除去設備 再循環サンブ設備	事故時の原子炉の状態に応じた炉心冷却のための原子炉内低圧時における注水機能	・低圧炉心スプレイ系 ・高圧炉心スプレイ系 ・残留熱除去系(低圧注水モード)*	事故時の原子炉の状態に応じた炉心冷却のための原子炉内低圧時における注水機能	・非常用炉心冷却設備(蓄圧注入系) ・非常用炉心冷却設備(低圧注入系)	
格納容器内又は放射性物質が格納容器内から漏れ出た場所の雰囲気中の放射性物質の濃度低減機能	格納容器スプレイ設備 アンユラス空気再循環設備	格納容器内の可溶性ガス制御機能	・自動減圧系(主蒸気逃がし安全弁)	格納容器内又は放射性物質が格納容器内から漏れ出た場所の雰囲気中の放射性物質の濃度低減機能	・アンユラス空気浄化設備	
格納容器の冷却機能	格納容器スプレイ設備	格納容器内の可溶性ガス制御機能	・可溶性ガス濃度制御系	格納容器内の可溶性ガス制御機能	・原子炉格納容器スプレイ設備	
格納容器内の可溶性ガス制御機能	-	格納容器内の可溶性ガス制御機能	・可溶性ガス濃度制御系	非常用交流電源から非常用の負荷に対し電力を供給する機能	・非常用交流電源設備	
非常用交流電源から非常用の負荷に対し電力を供給する機能	非常用内電源系	非常用交流電源から非常用の負荷に対し電力を供給する機能	・非常用交流電源設備	非常用直流電源から非常用の負荷に対し電力を供給する機能	・非常用直流電源設備	
非常用直流電源から非常用の負荷に対し電力を供給する機能	直流電源設備(直流コントロールセンター)	非常用の交流電源機能	・非常用交流電源設備	非常用の交流電源機能	・ディーゼル発電機	
非常用の交流電源機能	ディーゼル発電機	非常用の直流電源機能	・非常用ディーゼル発電機(高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機を含む) ・蓄電池(非常用)	非常用の直流電源機能	・蓄電池(非常用)	
非常用の直流電源機能	直流電源設備(蓄電池設備)					

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>安全機能 (設置許可基準規則第12条)</th> <th>系統・設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常用の交流電源機能</td> <td>ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>非常用の直流電源機能</td> <td>直流電源設備(蓄電池設備)</td> </tr> <tr> <td>非常用の計測制御用直流電源機能</td> <td>計測制御用電源設備</td> </tr> <tr> <td>補機冷却機能</td> <td>原子炉補機冷却設備</td> </tr> <tr> <td>冷却用海水供給機能</td> <td>原子炉補機冷却海水設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉制御室非常用換気空調機能</td> <td>換気空調設備(中央制御室非常用循環系統)</td> </tr> <tr> <td>圧縮空気供給機能</td> <td>制御用空気圧縮設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>原子炉圧力バウンダリ隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>原子炉格納容器バウンダリ隔離弁等</td> </tr> <tr> <td>原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能</td> <td>安全保護系(原子炉保護系設備)</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能</td> <td>安全保護系(工学的安全施設等作動設備)</td> </tr> <tr> <td>事故時の原子炉の停止状態の把握機能</td> <td>中性子源領域中性子束 ほう素濃度サンプリング分析 原子炉トリップしゃ断器の状態</td> </tr> <tr> <td>事故時の炉心冷却状態の把握機能</td> <td>1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位</td> </tr> <tr> <td>事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能</td> <td>格納容器圧力 格納容器高レンジエリアモニタ</td> </tr> <tr> <td>事故時のプラント操作のための情報の把握機能</td> <td>1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位 蒸気発生器水位(狭域、広域) 蒸気ライン圧力 ほう酸タンク水位 燃料取替用水ピット水位 復水ピット水位 格納容器再循環サンプ水位(狭域、広域) 補助給水流量</td> </tr> </tbody> </table>	安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備	非常用の交流電源機能	ディーゼル発電機	非常用の直流電源機能	直流電源設備(蓄電池設備)	非常用の計測制御用直流電源機能	計測制御用電源設備	補機冷却機能	原子炉補機冷却設備	冷却用海水供給機能	原子炉補機冷却海水設備	原子炉制御室非常用換気空調機能	換気空調設備(中央制御室非常用循環系統)	圧縮空気供給機能	制御用空気圧縮設備	原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	原子炉圧力バウンダリ隔離弁	原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	原子炉格納容器バウンダリ隔離弁等	原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	安全保護系(原子炉保護系設備)	工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	安全保護系(工学的安全施設等作動設備)	事故時の原子炉の停止状態の把握機能	中性子源領域中性子束 ほう素濃度サンプリング分析 原子炉トリップしゃ断器の状態	事故時の炉心冷却状態の把握機能	1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位	事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	格納容器圧力 格納容器高レンジエリアモニタ	事故時のプラント操作のための情報の把握機能	1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位 蒸気発生器水位(狭域、広域) 蒸気ライン圧力 ほう酸タンク水位 燃料取替用水ピット水位 復水ピット水位 格納容器再循環サンプ水位(狭域、広域) 補助給水流量	<table border="1"> <thead> <tr> <th>安全機能 (設置許可基準規則第十二条)</th> <th>系統・設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常用の計測制御用直流電源機能</td> <td>・計測制御用電源設備</td> </tr> <tr> <td>補機冷却機能</td> <td>・原子炉補機冷却水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却水系</td> </tr> <tr> <td>冷却用海水供給機能</td> <td>・原子炉補機冷却海水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却海水系</td> </tr> <tr> <td>原子炉制御室非常用換気空調機能</td> <td>・中央制御室換気空調系</td> </tr> <tr> <td>圧縮空気供給機能</td> <td>・主蒸気逃がし安全弁の駆動用空素源 ・主蒸気隔離弁の駆動用空素源又は駆動用圧縮空気源</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>・原子炉格納容器隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能</td> <td>・原子炉保護系の安全保護回路</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能</td> <td>・非常用炉心冷却系作動の安全保護回路 ・主蒸気隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路 ・非常用ガス処理系作動の安全保護回路</td> </tr> <tr> <td>事故時の原子炉の停止状態の把握機能</td> <td>・中性子束(差動領域モニタ) ・原子炉スクラム用電磁接触器の状態及び制御棒位置</td> </tr> <tr> <td>事故時の炉心冷却状態の把握機能</td> <td>・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力</td> </tr> <tr> <td>事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能</td> <td>・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内常開気放射線モニタ</td> </tr> <tr> <td>事故時のプラント操作のための情報の把握機能</td> <td>・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力 ・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内常開気水素濃度 ・格納容器内常開気酸素濃度 ・気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 予備品(第2表 1. 予備品)を保管する系統</p>	安全機能 (設置許可基準規則第十二条)	系統・設備	非常用の計測制御用直流電源機能	・計測制御用電源設備	補機冷却機能	・原子炉補機冷却水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却水系	冷却用海水供給機能	・原子炉補機冷却海水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却海水系	原子炉制御室非常用換気空調機能	・中央制御室換気空調系	圧縮空気供給機能	・主蒸気逃がし安全弁の駆動用空素源 ・主蒸気隔離弁の駆動用空素源又は駆動用圧縮空気源	原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁	原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉格納容器隔離弁	原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	・原子炉保護系の安全保護回路	工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	・非常用炉心冷却系作動の安全保護回路 ・主蒸気隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路 ・非常用ガス処理系作動の安全保護回路	事故時の原子炉の停止状態の把握機能	・中性子束(差動領域モニタ) ・原子炉スクラム用電磁接触器の状態及び制御棒位置	事故時の炉心冷却状態の把握機能	・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力	事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内常開気放射線モニタ	事故時のプラント操作のための情報の把握機能	・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力 ・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内常開気水素濃度 ・格納容器内常開気酸素濃度 ・気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ	<p>表1 重要安全施設一覧(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>安全機能 (設置許可基準規則第12条)</th> <th>系統・設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常用の計測制御用直流電源機能</td> <td>・計測制御用電源設備</td> </tr> <tr> <td>補機冷却機能</td> <td>・原子炉補機冷却水設備</td> </tr> <tr> <td>冷却用海水供給機能</td> <td>・原子炉補機冷却海水設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉制御室非常用換気空調機能</td> <td>・換気空調設備(中央制御室非常用循環系)</td> </tr> <tr> <td>圧縮空気供給機能</td> <td>・制御用圧縮空気設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能</td> <td>・原子炉格納容器隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能</td> <td>・原子炉保護系の安全保護回路</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能</td> <td>・非常用炉心冷却設備作動の安全保護回路 ・原子炉格納容器スプレィ作動の安全保護回路 ・主蒸気ライン隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路</td> </tr> <tr> <td>事故時の原子炉の停止状態の把握機能</td> <td>・中性子源領域中性子束 ・ほう素濃度(サンプリング分析) ・原子炉トリップ遮断器の状態</td> </tr> <tr> <td>事故時の炉心冷却状態の把握機能</td> <td>・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位</td> </tr> <tr> <td>事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能</td> <td>・格納容器圧力 ・格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ) ・格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)</td> </tr> <tr> <td>事故時のプラント操作のための情報の把握機能</td> <td>・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位 ・蒸気発生器水位(広域) ・蒸気発生器水位(狭域) ・主蒸気ライン圧力 ・ほう酸タンク水位 ・燃料取替用水ピット水位 ・補機給水ピット水位 ・格納容器再循環サンプ水位(広域) ・格納容器再循環サンプ水位(狭域) ・補機給水ライン流量</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 予備品(表2 1. 予備品)を保管する設備</p>	安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備	非常用の計測制御用直流電源機能	・計測制御用電源設備	補機冷却機能	・原子炉補機冷却水設備	冷却用海水供給機能	・原子炉補機冷却海水設備	原子炉制御室非常用換気空調機能	・換気空調設備(中央制御室非常用循環系)	圧縮空気供給機能	・制御用圧縮空気設備	原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁	原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉格納容器隔離弁	原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	・原子炉保護系の安全保護回路	工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	・非常用炉心冷却設備作動の安全保護回路 ・原子炉格納容器スプレィ作動の安全保護回路 ・主蒸気ライン隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路	事故時の原子炉の停止状態の把握機能	・中性子源領域中性子束 ・ほう素濃度(サンプリング分析) ・原子炉トリップ遮断器の状態	事故時の炉心冷却状態の把握機能	・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位	事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	・格納容器圧力 ・格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ) ・格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)	事故時のプラント操作のための情報の把握機能	・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位 ・蒸気発生器水位(広域) ・蒸気発生器水位(狭域) ・主蒸気ライン圧力 ・ほう酸タンク水位 ・燃料取替用水ピット水位 ・補機給水ピット水位 ・格納容器再循環サンプ水位(広域) ・格納容器再循環サンプ水位(狭域) ・補機給水ライン流量	<p>【大飯】記載表現の相違(女川実績の反映)</p> <p>【女川】設計の相違詳細は引用元にて整理 引用元 ・DB12条 安全施設まとめ資料 別紙1-2</p>
安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備																																																																																										
非常用の交流電源機能	ディーゼル発電機																																																																																										
非常用の直流電源機能	直流電源設備(蓄電池設備)																																																																																										
非常用の計測制御用直流電源機能	計測制御用電源設備																																																																																										
補機冷却機能	原子炉補機冷却設備																																																																																										
冷却用海水供給機能	原子炉補機冷却海水設備																																																																																										
原子炉制御室非常用換気空調機能	換気空調設備(中央制御室非常用循環系統)																																																																																										
圧縮空気供給機能	制御用空気圧縮設備																																																																																										
原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	原子炉圧力バウンダリ隔離弁																																																																																										
原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	原子炉格納容器バウンダリ隔離弁等																																																																																										
原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	安全保護系(原子炉保護系設備)																																																																																										
工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	安全保護系(工学的安全施設等作動設備)																																																																																										
事故時の原子炉の停止状態の把握機能	中性子源領域中性子束 ほう素濃度サンプリング分析 原子炉トリップしゃ断器の状態																																																																																										
事故時の炉心冷却状態の把握機能	1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位																																																																																										
事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	格納容器圧力 格納容器高レンジエリアモニタ																																																																																										
事故時のプラント操作のための情報の把握機能	1次冷却材温度(広域) 1次冷却材圧力 加圧器水位 蒸気発生器水位(狭域、広域) 蒸気ライン圧力 ほう酸タンク水位 燃料取替用水ピット水位 復水ピット水位 格納容器再循環サンプ水位(狭域、広域) 補助給水流量																																																																																										
安全機能 (設置許可基準規則第十二条)	系統・設備																																																																																										
非常用の計測制御用直流電源機能	・計測制御用電源設備																																																																																										
補機冷却機能	・原子炉補機冷却水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却水系																																																																																										
冷却用海水供給機能	・原子炉補機冷却海水系* ・高圧炉心スプレィ補機冷却海水系																																																																																										
原子炉制御室非常用換気空調機能	・中央制御室換気空調系																																																																																										
圧縮空気供給機能	・主蒸気逃がし安全弁の駆動用空素源 ・主蒸気隔離弁の駆動用空素源又は駆動用圧縮空気源																																																																																										
原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁																																																																																										
原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉格納容器隔離弁																																																																																										
原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	・原子炉保護系の安全保護回路																																																																																										
工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	・非常用炉心冷却系作動の安全保護回路 ・主蒸気隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路 ・非常用ガス処理系作動の安全保護回路																																																																																										
事故時の原子炉の停止状態の把握機能	・中性子束(差動領域モニタ) ・原子炉スクラム用電磁接触器の状態及び制御棒位置																																																																																										
事故時の炉心冷却状態の把握機能	・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力																																																																																										
事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内常開気放射線モニタ																																																																																										
事故時のプラント操作のための情報の把握機能	・原子炉水位(広帯域) ・原子炉水位(燃料域) ・原子炉圧力 ・ドライウェル圧力 ・圧力抑制室圧力 ・サブプレッションプール水温度 ・格納容器内常開気水素濃度 ・格納容器内常開気酸素濃度 ・気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ																																																																																										
安全機能 (設置許可基準規則第12条)	系統・設備																																																																																										
非常用の計測制御用直流電源機能	・計測制御用電源設備																																																																																										
補機冷却機能	・原子炉補機冷却水設備																																																																																										
冷却用海水供給機能	・原子炉補機冷却海水設備																																																																																										
原子炉制御室非常用換気空調機能	・換気空調設備(中央制御室非常用循環系)																																																																																										
圧縮空気供給機能	・制御用圧縮空気設備																																																																																										
原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉冷却材圧力バウンダリ隔離弁																																																																																										
原子炉格納容器バウンダリを構成する配管の隔離機能	・原子炉格納容器隔離弁																																																																																										
原子炉停止系に対する作動信号(常用系として作動させるものを除く)の発生機能	・原子炉保護系の安全保護回路																																																																																										
工学的安全施設に分類される機器若しくは系統に対する作動信号の発生機能	・非常用炉心冷却設備作動の安全保護回路 ・原子炉格納容器スプレィ作動の安全保護回路 ・主蒸気ライン隔離の安全保護回路 ・原子炉格納容器隔離の安全保護回路																																																																																										
事故時の原子炉の停止状態の把握機能	・中性子源領域中性子束 ・ほう素濃度(サンプリング分析) ・原子炉トリップ遮断器の状態																																																																																										
事故時の炉心冷却状態の把握機能	・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位																																																																																										
事故時の放射能閉じ込め状態の把握機能	・格納容器圧力 ・格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ) ・格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)																																																																																										
事故時のプラント操作のための情報の把握機能	・1次冷却材高温側温度(広域) ・1次冷却材低温側温度(広域) ・1次冷却材圧力 ・加圧器水位 ・蒸気発生器水位(広域) ・蒸気発生器水位(狭域) ・主蒸気ライン圧力 ・ほう酸タンク水位 ・燃料取替用水ピット水位 ・補機給水ピット水位 ・格納容器再循環サンプ水位(広域) ・格納容器再循環サンプ水位(狭域) ・補機給水ライン流量																																																																																										

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

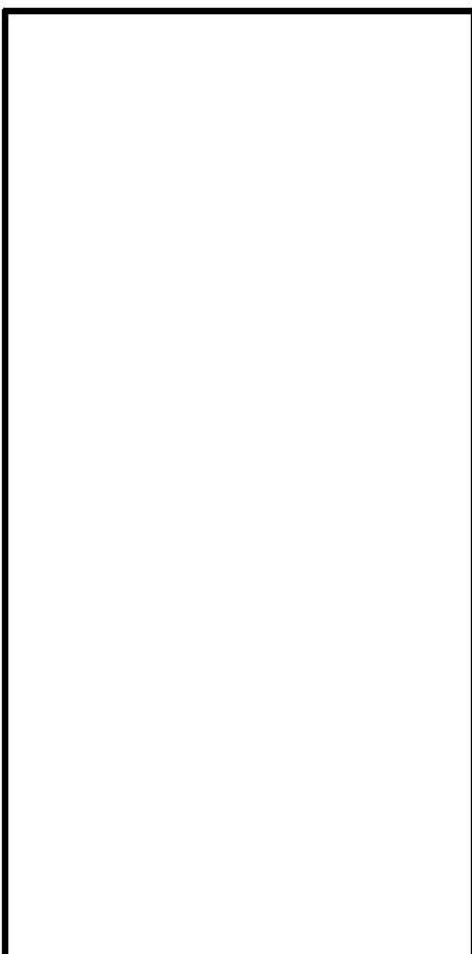

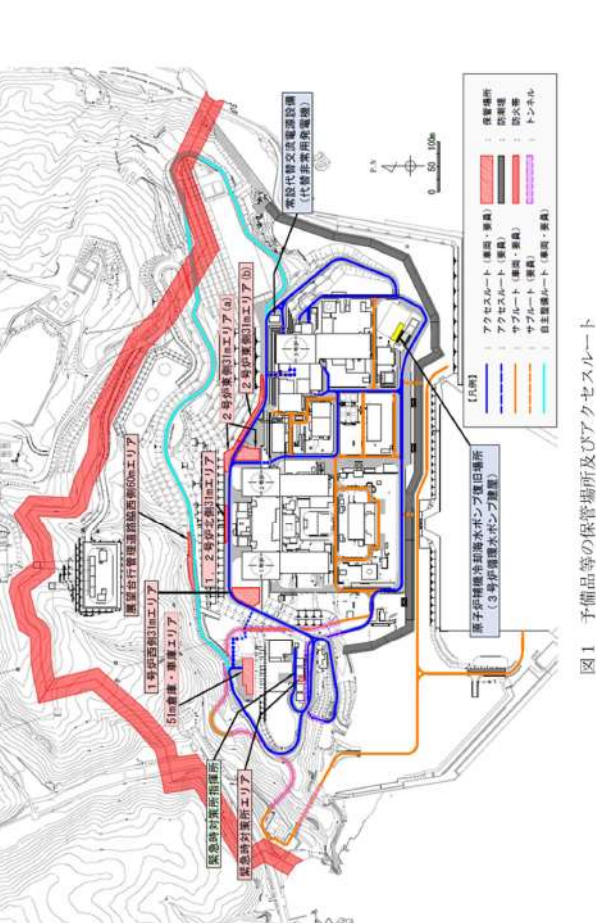
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																				
<p>表2 予備品及び予備品への取替のために必要な機材</p> <p>1. 予備品</p> <table border="1" data-bbox="100 303 712 391"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海水ポンプモータ</td> <td>全閉外扇形、980kW、10極、6,600V</td> <td>2台</td> <td>E.L. 十約 33m</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. ガレキ撤去用重機</p> <table border="1" data-bbox="100 446 712 534"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブルドーザ</td> <td>D275AX-5 ブレード幅 4.3m ブレード高さ 1.96m</td> <td>1台</td> <td>E.L. 十約 31m</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 作業用照明</p> <table border="1" data-bbox="100 598 712 869"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬式照明灯</td> <td>バッテリー式</td> <td>9個</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td>ヘッドライト</td> <td>乾電池式</td> <td>70個</td> <td>第1サービスビル</td> </tr> <tr> <td>LED懐中電灯</td> <td>乾電池式</td> <td>70個</td> <td>第1サービスビル</td> </tr> </tbody> </table>	名称	仕様	数量	保管場所	海水ポンプモータ	全閉外扇形、980kW、10極、6,600V	2台	E.L. 十約 33m	名称	仕様	数量	保管場所	ブルドーザ	D275AX-5 ブレード幅 4.3m ブレード高さ 1.96m	1台	E.L. 十約 31m	名称	仕様	数量	保管場所	可搬式照明灯	バッテリー式	9個	中央制御室	ヘッドライト	乾電池式	70個	第1サービスビル	LED懐中電灯	乾電池式	70個	第1サービスビル	<p>第2表 予備品及び予備品への取替のために必要な機材</p> <p>1. 予備品</p> <table border="1" data-bbox="761 279 1339 582"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量*</th> <th>保管場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉補機冷却水ポンプ用電動機</td> <td>三相誘導電動機</td> <td>1台</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却水ポンプポンプ部品</td> <td>—</td> <td>1式</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却海水ポンプ用電動機</td> <td>三相誘導電動機</td> <td>1台</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却海水ポンプポンプ部品</td> <td>—</td> <td>1式</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ用電動機</td> <td>三相誘導電動機</td> <td>1台</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプポンプ部品</td> <td>—</td> <td>1式</td> <td>緊急時対策建屋</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. がれき撤去用重機</p> <table border="1" data-bbox="761 630 1339 702"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様*</th> <th>数量*</th> <th>保管場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブルドーザ</td> <td>D85EX-15</td> <td>2台</td> <td>第1、第4保管エリア</td> </tr> <tr> <td>バックホウ</td> <td>SK-200</td> <td>2台</td> <td>第1、第4保管エリア</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 可搬型照明</p> <table border="1" data-bbox="761 742 1339 933"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>電源種別</th> <th>数量*</th> <th>保管場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型照明 (SA)</td> <td>常設代替交流電源設備</td> <td>7個</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td>可搬型照明 (ヘッドライト)</td> <td>乾電池</td> <td>10個</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>100個</td> <td>緊急時対策所</td> </tr> <tr> <td>可搬型照明 (ランタン)</td> <td>乾電池</td> <td>4個</td> <td>中央制御室</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>60個</td> <td>緊急時対策所</td> </tr> <tr> <td>可搬型照明 (懐中電灯)</td> <td>乾電池</td> <td>10個</td> <td>中央制御室</td> </tr> </tbody> </table> <p>※仕様、数量、保管場所については、今後の検討により変更となる可能性がある。</p>	名称	仕様	数量*	保管場所*	原子炉補機冷却水ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋	原子炉補機冷却水ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋	原子炉補機冷却海水ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋	原子炉補機冷却海水ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋	残留熱除去系ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋	残留熱除去系ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋	名称	仕様*	数量*	保管場所*	ブルドーザ	D85EX-15	2台	第1、第4保管エリア	バックホウ	SK-200	2台	第1、第4保管エリア	名称	電源種別	数量*	保管場所*	可搬型照明 (SA)	常設代替交流電源設備	7個	中央制御室	可搬型照明 (ヘッドライト)	乾電池	10個	中央制御室			100個	緊急時対策所	可搬型照明 (ランタン)	乾電池	4個	中央制御室			60個	緊急時対策所	可搬型照明 (懐中電灯)	乾電池	10個	中央制御室	<p>表2 予備品及び予備品への取替のために必要な機材</p> <p>1. 予備品</p> <table border="1" data-bbox="1377 279 1982 359"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉補機冷却海水ポンプ予備電動機</td> <td>三相誘導電動機、約 310kW(1台当たり)</td> <td>2台</td> <td>51m倉庫・車庫エリア</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. がれき撤去及び段差解消用重機</p> <table border="1" data-bbox="1377 406 1982 534"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホイールローダ</td> <td>55D7-2 バケット 1.8m²</td> <td>2台</td> <td>1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)</td> </tr> <tr> <td>バックホウ</td> <td>320E GLC-T6SC バケット 0.8m²</td> <td>2台</td> <td>1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 可搬型照明</p> <table border="1" data-bbox="1377 582 1982 758"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>電源種別</th> <th>数量</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型照明 (SA)</td> <td>バッテリー</td> <td>4個</td> <td>3号炉中央制御室</td> </tr> <tr> <td>ヘッドライト</td> <td>乾電池</td> <td>12個</td> <td>3号炉中央制御室</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>80個</td> <td>緊急時対策所指揮所</td> </tr> <tr> <td>ワークライト</td> <td>乾電池</td> <td>10個</td> <td>3号炉中央制御室</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>80個</td> <td>緊急時対策所指揮所</td> </tr> <tr> <td>懐中電灯</td> <td>乾電池</td> <td>12個</td> <td>3号炉中央制御室</td> </tr> </tbody> </table> <p>※仕様、数量、保管場所については、今後の検討により変更となる可能性がある。</p>	名称	仕様	数量	保管場所	原子炉補機冷却海水ポンプ予備電動機	三相誘導電動機、約 310kW(1台当たり)	2台	51m倉庫・車庫エリア	名称	仕様	数量	保管場所	ホイールローダ	55D7-2 バケット 1.8m ²	2台	1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)	バックホウ	320E GLC-T6SC バケット 0.8m ²	2台	1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)	名称	電源種別	数量	保管場所	可搬型照明 (SA)	バッテリー	4個	3号炉中央制御室	ヘッドライト	乾電池	12個	3号炉中央制御室			80個	緊急時対策所指揮所	ワークライト	乾電池	10個	3号炉中央制御室			80個	緊急時対策所指揮所	懐中電灯	乾電池	12個	3号炉中央制御室	<p>【大飯・女川】設備の相違</p> <p>・泊は、段差緩和対策やアクセスルート拡幅等の事前対策により、アクセスルート復旧作業が想定されないが、万が一のがれき、土砂、段差等の発生に備え、ホイールローダ及びバックホウを配備する。(島根と同様)</p>
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																																				
海水ポンプモータ	全閉外扇形、980kW、10極、6,600V	2台	E.L. 十約 33m																																																																																																																																																				
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																																				
ブルドーザ	D275AX-5 ブレード幅 4.3m ブレード高さ 1.96m	1台	E.L. 十約 31m																																																																																																																																																				
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																																				
可搬式照明灯	バッテリー式	9個	中央制御室																																																																																																																																																				
ヘッドライト	乾電池式	70個	第1サービスビル																																																																																																																																																				
LED懐中電灯	乾電池式	70個	第1サービスビル																																																																																																																																																				
名称	仕様	数量*	保管場所*																																																																																																																																																				
原子炉補機冷却水ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋																																																																																																																																																				
原子炉補機冷却水ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋																																																																																																																																																				
原子炉補機冷却海水ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋																																																																																																																																																				
原子炉補機冷却海水ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋																																																																																																																																																				
残留熱除去系ポンプ用電動機	三相誘導電動機	1台	緊急時対策建屋																																																																																																																																																				
残留熱除去系ポンプポンプ部品	—	1式	緊急時対策建屋																																																																																																																																																				
名称	仕様*	数量*	保管場所*																																																																																																																																																				
ブルドーザ	D85EX-15	2台	第1、第4保管エリア																																																																																																																																																				
バックホウ	SK-200	2台	第1、第4保管エリア																																																																																																																																																				
名称	電源種別	数量*	保管場所*																																																																																																																																																				
可搬型照明 (SA)	常設代替交流電源設備	7個	中央制御室																																																																																																																																																				
可搬型照明 (ヘッドライト)	乾電池	10個	中央制御室																																																																																																																																																				
		100個	緊急時対策所																																																																																																																																																				
可搬型照明 (ランタン)	乾電池	4個	中央制御室																																																																																																																																																				
		60個	緊急時対策所																																																																																																																																																				
可搬型照明 (懐中電灯)	乾電池	10個	中央制御室																																																																																																																																																				
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																																				
原子炉補機冷却海水ポンプ予備電動機	三相誘導電動機、約 310kW(1台当たり)	2台	51m倉庫・車庫エリア																																																																																																																																																				
名称	仕様	数量	保管場所																																																																																																																																																				
ホイールローダ	55D7-2 バケット 1.8m ²	2台	1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)																																																																																																																																																				
バックホウ	320E GLC-T6SC バケット 0.8m ²	2台	1号炉西側 31m エリア、 2号炉東側 31m エリア(b)																																																																																																																																																				
名称	電源種別	数量	保管場所																																																																																																																																																				
可搬型照明 (SA)	バッテリー	4個	3号炉中央制御室																																																																																																																																																				
ヘッドライト	乾電池	12個	3号炉中央制御室																																																																																																																																																				
		80個	緊急時対策所指揮所																																																																																																																																																				
ワークライト	乾電池	10個	3号炉中央制御室																																																																																																																																																				
		80個	緊急時対策所指揮所																																																																																																																																																				
懐中電灯	乾電池	12個	3号炉中央制御室																																																																																																																																																				

1.0.3 予備品等の確保及び保管場所について

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第1図 予備品等の保管場所及びアクセスルート</p>	 <p>第1図 予備品等の保管場所及びアクセスルート</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、
泊3号炉と比較対象とならない
記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料 1.0.4</p> <p>外部からの支援について</p>	<p>添付資料 1.0.4</p> <p>外部からの支援について</p> <p>< 目次 ></p> <p>1. 事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材...1.0.4-1</p> <p>(1)重大事故等発生後7日間の対応.....1.0.4-1</p> <p>(2)重大事故等発生後8日目以降の対応.....1.0.4-1</p> <p>2. プラントメーカー及び協力会社による支援.....1.0.4-2</p> <p>(1)プラントメーカーによる支援.....1.0.4-2</p> <p>(2)協力会社による支援.....1.0.4-3</p> <p>3. 原子力事業者による支援.....1.0.4-4</p> <p>4. その他組織による支援.....1.0.4-5</p> <p>5. 原子力事業所災害対策支援拠点.....1.0.4-7</p> <p>第1表 発電所構内に確保している燃料 (事象発生後7日間の対応).....1.0.4-8</p> <p>第2表 放射線管理用資機材等.....1.0.4-9</p> <p>第3表 チェンジングエリア用資機材.....1.0.4-12</p> <p>第4表 その他資機材等(緊急時対策所).....1.0.4-14</p> <p>第5表 原子力災害対策活動で使用する資料 (緊急時対策所).....1.0.4-15</p> <p>第6表 原子力事業者間協力協定に基づき貸与される 原子力防災資機材.....1.0.4-16</p> <p>第7表 原子力事業所災害対策支援拠点における必要な資機材, 通信連絡設備の整備状況等.....1.0.4-17</p> <p>第1図 重大事故等時における発電所外からの支援体制..1.0.4-18</p> <p>第2図 防災組織全体図.....1.0.4-19</p> <p>第3図 原子力事業所災害対策支援拠点 体制図.....1.0.4-20</p> <p>別紙1 プラントメーカー及び協力会社からの支援に関する 合意文書.....1.0.4-別紙1-1</p> <p>別紙2 原子力事業所災害対策支援拠点について....1.0.4-別紙2-1</p>	<p>添付資料 1.0.4</p> <p>外部からの支援について</p> <p>< 目次 ></p> <p>1. 事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材...1.0.4-1</p> <p>(1)重大事故等発生後7日間の対応.....1.0.4-1</p> <p>(2)重大事故等発生後8日目以降の対応.....1.0.4-1</p> <p>2. 外部からの支援について.....1.0.4-2</p> <p>(1)プラントメーカー及び協力会社による支援.....1.0.4-2</p> <p>(2)原子力事業者による支援.....1.0.4-4</p> <p>(3)その他組織による支援.....1.0.4-5</p> <p>3. 原子力事業所災害対策支援拠点.....1.0.4-7</p> <p>表1 発電所構内に確保している燃料 (事象発生後7日間の対応).....1.0.4-8</p> <p>表2 放射線管理用資機材等.....1.0.4-9</p> <p>表3 チェンジングエリア用資機材.....1.0.4-12</p> <p>表4 その他資機材等(緊急時対策所指揮所又は 緊急時対策所待機所).....1.0.4-14</p> <p>表5 原子力災害対策活動で使用する資料 (緊急時対策所指揮所).....1.0.4-15</p> <p>表6 原子力事業者間協力協定に基づき貸与される 原子力防災資機材.....1.0.4-16</p> <p>表7 原子力事業所災害対策支援拠点における 必要な資機材、通信連絡設備の整備状況等.....1.0.4-17</p> <p>図1 重大事故等時における発電所外からの支援体制...1.0.4-18</p> <p>図2 防災組織全体図.....1.0.4-19</p> <p>図3 原子力事業所災害対策支援拠点 体制図.....1.0.4-20</p> <p>別紙1 原子力事業所災害対策支援拠点について....1.0.4-別紙1-1</p>	<p>目次では相違箇所の着色及び相違理由の記載をせず、1.0.4-2ページ以降の具体的な内容にて記載する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1. 事故収束に必要な資機材について</p> <p>復旧作業に必要な燃料は、図1に示すとおり事故発生後7日間までは発電所内に確保しており、それ以降については輸送手段も含め優先的に燃料供給を受けることができる体制とすることとしている。</p> <p>なお、事故発生後7日間の活動に必要な資機材等については、表1～表4に示すとおり緊急時対策所等に配備している。</p>	<p>1. 事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材</p> <p>(1) 重大事故等発生後7日間の対応</p> <p>女川原子力発電所では、重大事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するためにあらかじめ用意された手段(重大事故等対処設備、予備品、燃料等)により、重大事故等発生後7日間における事故収束対応を実施する。あらかじめ用意された手段のうち、重大事故等対処設備については、技術的能力1.1「緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」から1.19「通信連絡に関する手順等」にて示す。</p> <p>重大事故等に対処するために必要な燃料とその考え方については、第1表に示すとおり、外部からの支援なしに重大事故等発生後7日間における必要燃料を上回る数量を発電所内に保有している。必要燃料の数量は、重大事故等対処に必要な設備を重大事故等発生後7日間連続して運用する条件で算出している。女川原子力発電所では、第1表に示す必要燃料合計を上回る保有量を、今後も継続して確保する。</p> <p>放射線管理用資機材及びチェンジングエリア用資機材、その他資機材、原子力災害対策活動で使用する資料の数量とその考え方については、第2～5表に示すとおり、外部からの支援なしに重大事故等発生後7日間の活動に必要な資機材等を緊急時対策所等に配備している。重大事故等発生時において、現場作業では作業環境が悪化していることが予想され、重大事故等に対処する要員は環境に応じた放射線防護具を着用する必要がある。このため作業員は、添付資料1.0.13「重大事故等に対処する要員の作業時における装備について」に示す着用基準に従い、これらの資機材の中から必要なものを装備し、作業を実施する。女川原子力発電所では、第2～5表に示す緊急時対策建屋内緊急時対策所及び中央制御室の資機材等を、今後も継続して配備する。</p> <p>重大事故等の対応に必要な水源については、淡水貯水槽等の淡水源に加え、最終的に海水に切り替えることにより水源が枯渇することがないように手順を整備することとしている。具体的には、技術的能力1.13「重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて示す。</p>	<p>1. 事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材</p> <p>(1) 重大事故等発生後7日間の対応</p> <p>泊発電所では、重大事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するためにあらかじめ用意された手段(重大事故等対処設備、予備品、燃料等)により、重大事故等発生後7日間における事故収束対応を実施する。あらかじめ用意された手段のうち、重大事故等対処設備については、技術的能力1.1「緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」から1.19「通信連絡に関する手順等」にて示す。</p> <p>重大事故等に対処するために必要な燃料とその考え方については、表1に示すとおり、外部からの支援なしに重大事故等発生後7日間における必要燃料を上回る数量を発電所内に保有している。必要燃料の数量は、重大事故等対処に必要な設備を重大事故等発生後7日間連続して運用する条件で算出している。泊発電所では、表1に示す必要燃料合計を上回る保有量を今後も継続して確保する。</p> <p>放射線管理用資機材及びチェンジングエリア用資機材、その他資機材、原子力災害対策活動で使用する資料の数量とその考え方については、表2～5に示すとおり、外部からの支援なしに重大事故等発生後7日間の活動に必要な資機材等を緊急時対策所等に配備している。重大事故等発生時において、現場作業では作業環境が悪化していることが予想され、重大事故等に対処する要員は環境に応じた放射線防護具を着用する必要がある。このため作業員は、添付資料1.0.13「重大事故等に対処する要員の作業時における装備について」に示す着用基準に従い、これらの資機材の中から必要なものを装備し、作業を実施する。泊発電所では、表2～5に示す緊急時対策所及び中央制御室の資機材等を今後も継続して配備する。</p> <p>重大事故等の対応に必要な水源については、補助給水ビット等の淡水源に加え、最終的に海水に切り替えることにより水源が枯渇することがないように手順を整備することとしている。具体的には、技術的能力1.13「重大事故等時に必要となる水の供給手順等」にて示す。</p>	<p>外部からの支援については、炉型に関係なく共通的な事項であることから、最新審査実績である女川と比較する。大飯とは資料構成が大きく異なることから比較せず、マーキング()を施している。</p> <p>名称の相違(以降、相違理由を省略)</p> <p>記載表現の相違(以降、相違理由を省略)</p> <p>施設名称の相違 記載表現の相違 記載表現の相違</p> <p>・代表的な淡水源を記載しており実質的な差異なし。 ・審査基準改正に伴う修正</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="91 140 434 165">伊方発電所3号炉まとめ資料より引用</p> <p data-bbox="91 197 716 309">(2) 重大事故等発生後7日間以降の対応 (1) に示す手段により事故発生後7日間は重大事故等に対処し、7日間以降については、以下に示すとおり、発電所外から継続的に支援を受けることができる体制を整備している。</p> <p data-bbox="91 400 716 571">発電所外に保有している重大事故等対処設備と同種の設備(電源車、通信連絡設備)、主要な設備の取替部品及び燃料等について支援を受けることにより、発電所内に配備する重大事故等対処設備に不具合があった場合の代替手段及び燃料の確保を行い、継続的な重大事故等対策を実施できるよう事故発生後6日間までに支援を受けられる体制を整備する。</p> <p data-bbox="91 635 434 660">島根発電所2号炉まとめ資料より引用</p> <p data-bbox="91 665 716 777">さらに、現在、他の原子力事業者と、原子力災害発生時における設備及び資機材の融通に向けた検討を進めており、各社が保有する主な設備及び資機材のデータベースを整備し、事業者間でそのリストを共有するとともに、随時、更新を図っている。</p> <p data-bbox="91 1042 353 1067">2. 外部からの支援について</p> <p data-bbox="91 1072 535 1098">(1) プラントメーカー及び協力会社等による支援</p> <p data-bbox="91 1102 716 1358">重大事故等発生時における外部からの支援については、プラントメーカー及び協力会社等から重大事故等発生後に現場操作対応等を実施する要員(重大事故等対策要員含む)派遣や事故収束に向けた対策立案等の技術支援や設備の補修に必要な予備品等の供給及び要員の派遣等について、数社と協議・合意の上、支援計画を定め、「大飯発電所の原子力発電所における原子力防災組織の発足時の事態取捨活動への協力」に係る協定を締結する等により、事故発生後に必要な支援を受けられる体制を確立する。</p>	<p data-bbox="741 197 1344 223">(2) 重大事故等発生後8日目以降の対応</p> <p data-bbox="741 228 1344 571">重大事故等発生後8日目以降の事故収束対応を維持するため、重大事故等発生後6日後までに、あらかじめ選定している候補施設の中から原子力事業所災害対策支援拠点(以下「支援拠点」という。)を選定し、発電所の事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材等を支援できる体制を整備している。また、発電所内に配備している重大事故等対処設備に不具合があった場合の代替手段、資機材及び燃料を支援できるよう、社内で発電所外に保有している重大事故等対処設備と同種の設備(消防車、電源車等)、主要な設備の取替部品、食料その他の消耗品も含めた資機材、予備品、燃料等について、継続的な重大事故等対策を実施できるよう重大事故等発生後6日後までに支援できる体制を整備する。</p> <p data-bbox="741 665 1344 745">さらに現在、他の原子力事業者と、原子力災害発生時における設備及び資機材の融通に向けた検討を進めており、各社が保有する主な設備及び資機材のデータベースを整備中である。</p> <p data-bbox="741 1042 1133 1067">2. プラントメーカー及び協力会社による支援</p> <p data-bbox="741 1072 1344 1272">重大事故等時における外部からの支援については、プラントメーカー、協力会社等から重大事故等時に現場操作対応等を実施する要員の派遣や事故収束に向けた対策立案等の技術支援や設備の補修に必要な予備品等の供給及び要員の派遣等について、協議・合意の上、支援計画を定め、災害発生時の技術支援に係る協定を締結し、重大事故等時に必要な支援を受けられる体制を整備する。</p> <p data-bbox="741 1335 1344 1473">また、重大事故等時に放射性物質を含んだ汚染水が発生した場合においても、東京電力株式会社福島第一原子力発電所における経験や知見を踏まえ、これらを活用した汚染水処理装置の設置等の対策を行うとともに、プラントメーカーの協力を得ながら対応する。</p>	<p data-bbox="1384 197 1986 223">(2) 重大事故等発生後8日目以降の対応</p> <p data-bbox="1384 228 1986 571">重大事故等発生後8日目以降の事故収束対応を維持するため、重大事故等発生後6日後までに、あらかじめ選定している候補施設の中から原子力事業所災害対策支援拠点(以下「支援拠点」という。)を選定し、発電所の事故収束対応を維持するために必要な燃料、資機材等を支援できる体制を整備している。また、発電所内に配備している重大事故等対処設備に不具合があった場合の代替手段、資機材及び燃料を支援できるよう、社内で発電所外に保有している重大事故等対処設備と同種の設備(通信連絡設備、電源車等)、主要な設備の取替部品、食料その他の消耗品も含めた資機材、予備品、燃料等について、継続的な重大事故等対策を実施できるよう重大事故等発生後6日後までに支援できる体制を整備する。</p> <p data-bbox="1384 665 1986 777">さらに現在、他の原子力事業者と、原子力災害発生時における設備及び資機材の融通に向けた検討を進めており、各社が保有する主な設備及び資機材のデータベースを整備し、事業者間でそのリストを共有するとともに、随時、更新を図っている。</p> <p data-bbox="1384 1042 1635 1067">2. 外部からの支援について</p> <p data-bbox="1384 1072 1794 1098">(1) プラントメーカー及び協力会社による支援</p> <p data-bbox="1384 1102 1986 1302">重大事故等時における外部からの支援については、プラントメーカー、協力会社等から重大事故等時に現場操作対応等を実施する要員の派遣や事故収束に向けた対策立案等の技術支援や設備の補修に必要な予備品等の供給及び要員の派遣等について、協議・合意の上、支援計画を定め、災害発生時の技術支援に係る協定を締結し、重大事故等時に必要な支援を受けられる体制を整備する。</p> <p data-bbox="1384 1335 1986 1473">また、重大事故等時に放射性物質を含んだ汚染水が発生した場合においても、東京電力株式会社福島第一原子力発電所における経験や知見を踏まえ、これらを活用した汚染水処理装置の設置等の対策を行うとともに、プラントメーカーの協力を得ながら対応する。</p>	<p data-bbox="2013 432 2168 571">記載内容の相違 ・泊は、通信連絡設備、電源車を選定している。(伊方、島根と同様)</p> <p data-bbox="2013 724 2168 1067">記載表現の相違(島根と同様) 既に、2021年3月より他の原子力事業者が保有する主な設備及び資機材のデータベースの整備並びに事業者間でのリストの共有を実施していることから、記載表現が相違している。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>① プラントメーカーによる支援</p> <p>原子力災害発生時において、当社が実施する事態収束活動を円滑に実施するため、設備の設計根拠や機器の詳細な情報、事故収束手段及び復旧対策を迅速に得られるようプラントメーカー(三菱重工工業株式会社、三菱電機株式会社)との間で支援体制を整備している。</p> <p>a. 支援体制</p> <p>(a) 災害発生時にプラントメーカー幹部をトップとした、即決できる緊急時対応体制として、三菱緊急時原子力安全対策センターを設置。 (所在地:兵庫県神戸市)</p> <p>(b) プラントメーカーの総力を結集した技術者 400~500 人規模の体制を整備。</p> <p>b. 役割</p> <p>(a) 緊急時の大飯発電所の安全確保のため、プラントメーカー総指令本部として発電所の事故対応を支援</p> <p>(b) 緊急時に、設計根拠や機器の詳細な情報提供するとともにプラント状況に応じた事故収束手段、復旧対策の早急な検討・技術支援を実施。</p> <p>② (株)原子力安全システム研究所(以下、INSSという。)による支援</p> <p>原子力防災体制が発令された場合に実施する事象進展予測に係る協力が得られるよう、INSSとの間で支援体制を整備している。</p> <p>a. 支援体制</p> <p>原子力防災体制を発令した場合における連絡責任者を定め、協力要員の派遣、資機材の貸与等必要な支援が得られる体制と</p>	<p>なお、プラントメーカー、協力的会社、燃料供給会社等から支援を受ける場合に必要となる資機材については、あらかじめ緊急時対策所に確保している資機材の余裕分を活用するのと合わせ、必要に応じて資機材の追加調達を本店対策本部に要請して調達する。</p> <p>(1) プラントメーカーによる支援</p> <p>重大事故等時における当社が実施する事故収束活動を円滑に実施するため、プラントの状況に応じた事故収束手段及び復旧対策に関する技術支援を迅速に得られるよう、プラントメーカー(東芝エネルギーシステムズ株式会社、日立 GE ニュークリア・エナジー株式会社)との間で支援体制を整備するとともに、平常時から必要な連絡体制を整備している。</p> <p>また、事故対応が長期に及んだ場合においても交替要員等の継続的に支援が得られる体制としている。本支援に関するプラントメーカーとの合意文書を別紙1に示す。</p> <p>a. 支援体制</p> <p>(平時体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の技術支援のため、本店とプラントメーカー社員と平時より連絡体制を構築。 <p>(緊急時体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害対策特別措置法(以下「原災法」という。)第10条第1項又は第15条第1項に定める事象が発生した場合に技術支援を要請。 緊急時の状況評価及び復旧対策に関する助言、電気・機械・計装設備、その他の技術的情報を提供等により当社を支援。 中長期対応として、プラントメーカー本社等における1,200名規模の技術支援体制を構築。 技術支援については、本店対策本部のみならず、必要に応じて発電所対策本部でも実施可能。 	<p>なお、プラントメーカー、協力的会社、燃料供給会社等から支援を受ける場合に必要となる資機材については、あらかじめ緊急時対策所に確保している資機材の余裕分を活用するのと合わせ、必要に応じて資機材の追加調達を本店対策本部に要請して調達する。</p> <p>① プラントメーカーによる支援</p> <p>重大事故等時における当社が実施する事故収束活動を円滑に実施するため、プラントの状況に応じた事故収束手段及び復旧対策に関する技術支援を迅速に得られるよう、プラントメーカー(三菱重工工業株式会社、三菱電機株式会社)との間で支援体制を整備するとともに、平常時から必要な連絡体制を整備している。</p> <p>また、事故対応が長期に及んだ場合においても交代要員等の継続的に支援が得られる体制としている。</p> <p>a. 支援体制</p> <p>(平時体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の技術支援のため、本店とプラントメーカー社員と平時より連絡体制を構築。 <p>(緊急時体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害対策特別措置法(以下「原災法」という。)第10条第1項又は第15条第1項に定める事象が発生した場合に技術支援を要請。 緊急時の状況評価及び復旧対策に関する助言、電気・機械・計装設備、その他の技術的情報を提供等により当社を支援。 中長期対応として、プラントメーカー本社等における400~500名規模の技術支援体制を構築。 技術支援については、本店対策本部のみならず、必要に応じて発電所対策本部でも実施可能。 	<p>相違理由</p> <p>プラントメーカーの相違</p> <p>用語の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は法令用語とした。(以降、相違理由を省略) <p>記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は、プラントメーカーとの合意文章について記載しない事とした。(大飯、島根と同様) <p>支援人数の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>している。</p> <p>b. 役割</p> <p>以下に係る協力活動を実施する。</p> <p>(a)放射性物質の放出の見通しに関する事項</p> <p>(b)事態の今後の見通しに関する事項</p> <p>(c)その他事象進展予測を実施する上で必要な事項</p> <p>具体的には、当社との協定に基づき、美浜町の原子力事業本部に設置される本店対策本部へ技術者2名程度を派遣する。これらの技術者は、MAAPコードをベースとする事象進展予測ツール、発電所構内の線量率を評価する解析ツール等を用いて、本店対策本部(原子力事業本部)に安全支援係を通じて事象進展予測、放射線影響予測等の評価結果の情報を提供する。</p> <p>なお、INSは、当社の原子力総合防災訓練に毎年参加し、訓練での事故シナリオについて事象進展予測と線量評価を実際に行い、連携強化を図っている。原子力事業本部は、発電所、本店(中之島)等と接続されるTV会議等のなかでこれらの情報を適宜提供する。</p> <p>③ 協力会社による支援</p> <p>協力会社とは、原子力災害発生時において、事故収束及び復旧対策活動の協力が得られるよう支援体制を整備している。当社が実施する事態収拾活動を円滑に実施するため、平常時より必要な連絡体制を整備している。</p> <p>協力会社の支援体制については、高線量下においても支援を要請できる体制を整えている。なお、協力会社の支援については、要員の人命及び身体の安全を最優先にした放射線管理を行う。</p> <p>また、事故発生後6日間以降の事故収束対応に対する支援に関しては、事故対応が長期に及んだ場合においても交代要員等の継続的な派遣を得られる体制とする。</p>	<p>(2) 協力会社による支援</p> <p>重大事故等時における当社が実施する事故収束活動を円滑に実施するため、事故収束及び復旧対策活動の協力が得られるよう、協力会社と支援内容に関する覚書等を締結し、支援体制を整備するとともに、平常時より必要な連絡体制を整備する。</p> <p>協力会社の支援については、重大事故等時においても支援を要請できる体制とし、協力会社要員の人命及び身体の安全を最優先にした放射線管理を行う。</p> <p>また、事故対応が中長期に及んだ場合においても交替要員等の継続的な派遣を得られる体制とする。本支援に関する協力会社との合意文書を別紙1に示す。</p> <p>a. 放射線測定、管理業務等の支援体制</p> <p>重大事故等時における放射線測定、管理業務の実施について、協力会社と合意文書を締結している。</p> <p>b. 緊急時に係る設備の修理・復旧等の支援体制</p> <p>重大事故等時における、以下に示す設備の修理・復旧等の作業に関する支援協力について協力会社と合意文書を締結している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等による原子力災害等の事象発生防止及び発生後の応急復旧対応支援 ・資機材輸送対応 ・放射線測定及び管理対応 ・環境モニタリング対応 ・化学分析対応 ・放射線計測器類保守対応 ・アクセス道路における除雪 	<p>② 協力会社による支援</p> <p>重大事故等時における当社が実施する事故収束活動を円滑に実施するため、事故収束及び復旧対策活動の協力が得られるよう、協力会社と支援内容に関する覚書等を締結し、支援体制を整備するとともに、平常時より必要な連絡体制を整備する。</p> <p>協力会社の支援については、重大事故等時においても支援を要請できる体制とし、協力会社要員の人命及び身体の安全を最優先にした放射線管理を行う。</p> <p>また、事故対応が中長期に及んだ場合においても交代要員等の継続的な派遣を得られる体制とする。</p> <p>a. 放射線測定、管理業務等の支援体制</p> <p>重大事故等時における放射線測定、管理業務の実施について、協力会社と合意文書を締結している。</p> <p>b. 緊急時に係る設備の修理・復旧等の支援体制</p> <p>重大事故等時における、以下に示す設備の修理・復旧等の作業に関する支援協力について協力会社と合意文書を締結している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等による原子力災害等の事象発生防止及び発生後の応急復旧対応支援 ・資機材輸送対応 ・放射線測定及び管理対応 ・環境モニタリング対応 ・化学分析対応 ・放射線計測器類保守対応 ・アクセス道路における除雪 	<p>記載内容の相違</p> <p>・泊は、協力会社との合意文章について記載しない事とした。(大飯、島根と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>伊方発電所3号炉まとめ資料より引用</p> <p>ヘリコプターによる空輸を実施する場合は、高松空港(香川県高松市)に常駐のヘリコプターを優先して使用し、松山臨時ヘリポート(愛媛県松山市の当社所有敷地)と伊方発電所構内臨時ヘリポート間を往復する。</p> <p>(2) 原子力事業者による支援 上記の協力会社やメーカー等からの支援のほか、「原子力事業者間協力協定」に基づき、他の原子力事業者による発電所周辺地域の環境放射線モニタリング及び汚染検査・汚染除去に関する事項について、協力要員の派遣や資機材の貸与等の支援を受けることができる。</p>	<p>・アクセス道路におけるがれき、土砂等の撤去 ・アクセス道路における損壊箇所の応急復旧措置 ・給水設備の復旧 ・所内用水の補給</p> <p>c. 資機材及び要員輸送に係る支援体制 女川原子力発電所で重大事故が発生した場合又は発生のおそれがある場合の陸路による資機材の輸送、空路による資機材及び要員の輸送について、それぞれ協力会社から支援協力が可能な体制を整備する。資機材の輸送に当たっては、陸路による輸送を基本とするが、女川原子力発電所又は重大事故等時に設置される支援拠点へのアクセス道路の寸断等により陸路での資機材、要員の輸送が困難な場合には、空路での輸送も実施する。</p> <p>なお、ヘリコプターによる空輸を実施する場合には、仙台空港(宮城県岩沼市)に常駐のヘリコプターを優先して使用し、発電所構内のヘリポート間を往復する。</p> <p>発電所近隣のヘリポートとしては、災害時の飛行場外離着陸場として石巻市内の1か所について、発電所構内のヘリポートとともに協力会社から東京航空局へ飛行場外離着陸許可申請書を提出し、許可を得ている。</p> <p>d. 燃料調達に係る支援体制 女川原子力発電所に重大事故等が発生した場合又は発生のおそれがある場合における燃料調達手段として、当社と取引のある燃料供給会社の油槽所等から燃料調達が可能な体制を整備する。</p> <p>また、女川原子力発電所の備蓄を強化しており、今後、調達を強化していく。</p> <p>e. 消火、注水活動に係る支援体制 女川原子力発電所の構内(建物内含む。)で火災が発生した場合の消火、発電用原子炉や使用済燃料プール注水活動、復水貯蔵タンク等への水補給に関する活動の支援について協力会社と契約を締結する。</p> <p>なお、消火活動としては平時から、女川原子力発電所内で訓練を実施するとともに、24時間交替勤務体制が取られているため、迅速な初動活動が可能である。</p> <p>3. 原子力事業者による支援 上記のプラントメーカーや協力会社等からの支援のほか、原子力事業者で「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」を締結し、他の原子力事業者による支援を受けられる体制を整備している。</p> <p>「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」の内容は以</p>	<p>・アクセス道路におけるがれき、土砂等の撤去 ・アクセス道路における損壊箇所の応急復旧措置 ・給水設備の復旧 ・所内用水の補給</p> <p>c. 資機材及び要員輸送に係る支援体制 泊発電所で重大事故が発生した場合又は発生のおそれがある場合の陸路による資機材の輸送、空路による資機材及び要員の輸送について、それぞれ協力会社から支援協力が可能な体制を整備する。資機材の輸送に当たっては、陸路による輸送を基本とするが、泊発電所又は重大事故等時に設置される支援拠点へのアクセス道路の寸断等により陸路での資機材、要員の輸送が困難な場合には、空路での輸送も実施する。</p> <p>なお、ヘリコプターによる空輸を実施する場合には、丘珠空港(北海道札幌市)に常駐のヘリコプターを優先して使用し、発電所構内のヘリポートと発電所近隣のヘリポート間を往復する。</p> <p>発電所近隣のヘリポートとしては、災害時の飛行場外離着陸場として共和町宮丘地区の1箇所について、発電所構内のヘリポートとともに協力会社から東京航空局へ飛行場外離着陸許可申請書を提出し、許可を得ている。</p> <p>d. 燃料調達に係る支援体制 泊発電所に重大事故等が発生した場合又は発生のおそれがある場合における燃料調達手段として、当社と取引のある燃料供給会社の油槽所等から燃料調達が可能な体制を整備する。</p> <p>また、泊発電所の備蓄を強化しており、今後、調達を強化していく。</p> <p>e. 消火、注水活動に係る支援体制 泊発電所の構内(建屋内含む。)で火災が発生した場合の消火、発電用原子炉や原子炉格納容器、使用済燃料ビット注水活動、タンク等への水補給に関する活動の支援について協力会社と契約を締結する。</p> <p>なお、消火活動としては平時から、泊発電所内で訓練を実施するとともに、24時間交代勤務体制が取られているため、迅速な初動活動が可能である。</p> <p>(2) 原子力事業者による支援 上記のプラントメーカーや協力会社等からの支援のほか、原子力事業者で「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」を締結し、他の原子力事業者による支援を受けられる体制を整備している。</p> <p>「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」の内容は以</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>名称の相違 記載内容の相違 ・ヘリポート位置の相違(伊方同様)</p> <p>名称の相違 記載表現の相違 (以降、相違理由を省略)</p> <p>名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>下のとおり。</p> <p>(目的) 国内原子力事業所(事業所外運搬を含む。)において、原子力災害が発生した場合、協力事業者が発災事業者に対し、協力要員の派遣、資機材の貸与その他当該緊急事態応急対策の実施に必要な協力を円滑に実施し、原子力災害の拡大防止及び復旧対策に努める。</p> <p>(情報連絡) ・各社の原子力事業者防災業務計画に定める警戒事象が発生した場合、速やかにその情報を他の原子力事業者に連絡する。</p> <p>(協力要請) ・原災法第10条に基づく通報を実施した場合、直ちに他の協定事業者に協力要員の派遣及び資機材の貸与に係る協力要請を行う。</p> <p>(協力の内容) 協力事業者は、発災事業者からの協力要請に基づき、原子力事業所災害対策が的確かつ円滑に行われるようにするため、以下の措置を講ずる。 ・環境放射線モニタリングに関する協力要員の派遣 ・周辺地域の汚染検査及び汚染除去に関する協力要員の派遣 ・第6表に示す資機材の貸与他</p> <p>(支援本部の活動) ・幹事事業者 発災事業所の場所ごとに、あらかじめ支援本部幹事事業者、支援本部副幹事事業者を設定している(当社女川原子力発電所が発災した場合は、それぞれ東京電力ホールディングス株式会社、日本原燃株式会社としている。) 幹事事業者は副幹事事業者と協力し、協力要員及び貸与された資機材の受入れと協力に係る業務の基地となる原子力事業所支援本部(以下「支援本部」という。)を設置し、運営する。なお、幹事事業者が被災する等、業務の遂行が困難な場合は、副幹事事業者が幹事事業者の任にあたり、幹事事業者以外の事業者の中から副幹事事業者を選出することとしている。また、支援期間が長期化する場合は、幹事事業者、副幹事事業者を交替することができる。 ・支援本部の設置について 当社は、あらかじめ支援本部候補地を3か所程度設定している。発災事業者は、協力を要請する際に、候補地の中から支援本部の設置場所を決定し伝える。 支援本部設置後は、緊急事態応急対策等拠点施設(オフサイトセンター)に設置される原子力災害合同対策協議会と連携を取り</p>	<p>下のとおり。</p> <p>(目的) 国内原子力事業所(事業所外運搬を含む。)において、原子力災害が発生した場合、協力事業者が発災事業者に対し、協力要員の派遣、資機材の貸与その他当該緊急事態応急対策の実施に必要な協力を円滑に実施し、原子力災害の拡大防止及び復旧対策に努める。</p> <p>(情報連絡) ・各社の原子力事業者防災業務計画に定める警戒事象が発生した場合、速やかにその情報を他の原子力事業者に連絡する。</p> <p>(協力要請) ・原災法第10条に基づく通報を実施した場合、直ちに他の協定事業者に協力要員の派遣及び資機材の貸与に係る協力要請を行う。</p> <p>(協力の内容) 協力事業者は、発災事業者からの協力要請に基づき、原子力事業所災害対策が的確かつ円滑に行われるようにするため、以下の措置を講ずる。 ・環境放射線モニタリングに関する協力要員の派遣 ・周辺地域の汚染検査及び汚染除去に関する協力要員の派遣 ・表6に示す資機材の貸与他</p> <p>(支援本部の活動) ・幹事事業者 発災事業所の場所ごとに、あらかじめ支援本部幹事事業者、支援本部副幹事事業者を設定している(当社泊発電所が発災した場合は、それぞれ日本原燃株式会社、電源開発株式会社としている。) 幹事事業者は副幹事事業者と協力し、協力要員及び貸与された資機材の受入れと協力に係る業務の基地となる原子力事業所支援本部(以下「支援本部」という。)を設置し、運営する。なお、幹事事業者が被災する等、業務の遂行が困難な場合は、副幹事事業者が幹事事業者の任にあたり、幹事事業者以外の事業者の中から副幹事事業者を選出することとしている。また、支援期間が長期化する場合は、幹事事業者、副幹事事業者を交代することができる。 ・支援本部の設置について 当社は、あらかじめ支援本部候補地を3箇所程度設定している。発災事業者は、協力を要請する際に、候補地の中から支援本部の設置場所を決定し伝える。 支援本部設置後は、緊急事態応急対策等拠点施設(オフサイトセンター)に設置される原子力災害合同対策協議会と連携を取り</p>	<p>名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) その他組織による支援</p> <p>東京電力福島第一原子力発電所の事故対応の教訓を踏まえ、万一原子力災害が発生した場合に、多様かつ高度な災害対応を行うため、2013年1月に日本原子力発電(株)内組織として原子力緊急事態支援センターを設置している。さらに、支援組織の更なる強化を図るため、2016年3月には原子力緊急事態支援組織を設立し、整備が完了した資機材、施設から順次使用を開始している。全ての施設が完成し、本格運用を開始するのは2016年12月の予定である。</p> <p>なお、原子力緊急事態支援組織への支援要請については、原災法第10条に基づく通報を実施した場合、その情報を原子力緊急事態支援組織に連絡し、事態に応じて資機材の提供等の支援要請を行う。</p> <p>① 原子力緊急事態支援センター</p> <p>役割 : 原子力緊急事態支援組織の本格運用までの期間において、資機材の調達・管理・輸送や操作要員養成訓練の計画・実施を担う。</p> <p>要員 : 9名</p> <p>資機材 : 現場の偵察用ロボット4台、障害物の除去用ロボット1台除染用資機材一式(2016年3月末現在)</p> <p>② 原子力緊急事態支援組織</p> <p>役割 : 原子力緊急事態支援組織の本格運用開始以降、原子力災害発生時において、高放射線量下での作業員の被ばくを可能な限り低減するため、遠隔操作可能なロボット等の資機材を集中的に管理・運用し、高度な災害対応を実施することにより、事故が発生した事業者の収束活動を支援する。</p> <p>要員 : 21名</p> <p>資機材 : 遠隔操作資機材(小型・中型ロボット、小型・大型無線重機、無線ヘリ)、現地活動用資機材(放射線防護用資機材、除染用資機材等)、搬送用車両</p>	<p>ながら、発災事業者との協議の上、各協力事業者に対して具体的な業務の依頼を実施する。</p> <p>4. その他組織による支援</p> <p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故対応の教訓を踏まえ、重大事故等時に多様かつ高度な災害対応を行うため、平成25年1月に日本原子力発電株式会社内の組織として「原子力緊急事態支援センター」を原子力事業者共同で設置した。</p> <p>原子力緊急事態支援センターでは、平時から遠隔操作が可能なロボットの操作訓練等を実施しており、当社要員も参加しロボット操作技術等を習得させる等、原子力災害対策活動能力の向上を図っている。</p> <p>その後、更に原子力緊急事態支援センターの強化を図るため、当社を含む原子力事業者と日本原子力発電株式会社との間で「原子力緊急事態支援組織の運営に関する基本協定」を締結し、平成28年3月に「原子力緊急事態支援組織」が設立された。なお、平成28年12月には活動拠点を福井県美浜町の「美浜原子力緊急事態支援センター」に移し、本格運用が開始されている(「原子力緊急事態支援センター」は廃止)。</p> <p>原子力緊急事態支援組織の支援に関する事項は以下のとおり。</p> <p>(支援要請)</p> <p>発災事業者は、原災法第10条に基づく通報後、速やかにその情報を原子力緊急事態支援組織に連絡するとともに、事態に応じて資機材の提供などの支援要請を行う。</p> <p>(美浜原子力緊急事態支援センターによる支援の内容)</p> <p>美浜原子力緊急事態支援センターは、発災事業者からの支援要請に基づき、美浜原子力緊急事態支援センター要員の安全が確保される範囲において以下の業務を実施することで、発災事業者の事故収束活動を積極的に支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美浜原子力緊急事態支援センターから支援拠点までの、美浜原子力緊急事態支援センター要員の派遣や資機材の搬送。 ・支援拠点から発災事業所の災害現場までの資機材の搬送。 ・発災事業者の災害現場における放射線量をはじめとする環境情報収集の支援活動。 ・発災事業者の災害現場における作業を行う上で必要となるアクセスルートの確保作業の支援活動。 ・支援組織の活動に必要な範囲での、放射性物質の除去等の除染作業の支援活動。 <p>美浜原子力緊急事態支援センターの支援体制は以下のとおり。</p>	<p>ながら、発災事業者との協議の上、各協力事業者に対して具体的な業務の依頼を実施する。</p> <p>(3) その他組織による支援</p> <p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故対応の教訓を踏まえ、重大事故等時に多様かつ高度な災害対応を行うため、2013年1月に日本原子力発電株式会社内の組織として「原子力緊急事態支援センター」を原子力事業者共同で設置した。</p> <p>原子力緊急事態支援センターでは、平時から遠隔操作が可能なロボットの操作訓練等を実施しており、当社要員も参加しロボット操作技術等を習得させる等、原子力災害対策活動能力の向上を図っている。</p> <p>その後、さらに、原子力緊急事態支援センターの強化を図るため、当社を含む原子力事業者と日本原子力発電株式会社との間で「原子力緊急事態支援組織の運営に関する基本協定」を締結し、2016年3月に「原子力緊急事態支援組織」が設立された。なお、2016年12月には活動拠点を福井県美浜町の「美浜原子力緊急事態支援センター」に移し、本格運用が開始されている(「原子力緊急事態支援センター」は廃止)。</p> <p>原子力緊急事態支援組織の支援に関する事項は以下のとおり。</p> <p>a. 支援要請</p> <p>発災事業者は、原災法第10条に基づく通報後、速やかにその情報を原子力緊急事態支援組織に連絡するとともに、事態に応じて資機材の提供等の支援要請を行う。</p> <p>b. 美浜原子力緊急事態支援センターによる支援の内容</p> <p>美浜原子力緊急事態支援センターは、発災事業者からの支援要請に基づき、美浜原子力緊急事態支援センター要員の安全が確保される範囲において以下の業務を実施することで、発災事業者の事故収束活動を積極的に支援する。</p> <p>(a) 美浜原子力緊急事態支援センターから支援拠点までの、美浜原子力緊急事態支援センター要員の派遣や資機材の搬送。</p> <p>(b) 支援拠点から発災事業所の災害現場までの資機材を搬送。</p> <p>(c) 発災事業者の災害現場における放射線量をはじめとする環境情報収集の支援活動。</p> <p>(d) 発災事業者の災害現場における作業を行う上で必要となるアクセスルートの確保作業の支援活動。</p> <p>(e) 支援組織の活動に必要な範囲での、放射性物質の除去等の除染作業の支援活動。</p> <p>美浜原子力緊急事態支援センターの支援体制は以下のとおり。</p>	<p>記載表現の相違 (以降、相違理由を省略)</p> <p>記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>支援内容：a. 事故時</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害発生時、事故が発生した事業者からの出動要請を受け、要員・資機材を拠点施設から迅速に搬送する。 事故が発生した事業者と協働し、遠隔操作可能なロボット等を用いて現場状況の偵察、空間線量率の測定、ガレキなど屋外障害物の除去によるアクセスルートの確保、屋内障害物の除去や機材運搬等を行う。 <p>b. 平常時</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の連絡体制(24時間体制)を確保し、出動計画を整備する。 支援組織の要員の技能向上を図り、また原子力事業者各社の対応要員の計画的な育成に係る訓練を実施する。 必要な資機材の調達・維持管理に努める。 	<p>(事故時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子力災害発生時、事故が発生した事業者からの出動要請を受け、要員・資機材を拠点施設から迅速に搬送する。 事故が発生した事業者の指揮の下、協働で遠隔操作可能なロボット等を用いて現場状況の偵察、空間線量率の測定、がれき等屋外障害物の除去によるアクセスルートの確保、屋内障害物の除去や機材運搬等を行う。 <p>(平常時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の連絡体制(24時間体制)を確保し、出動計画を整備する。 ロボット等の操作訓練や必要な資機材の調達・維持管理及び訓練等で得られたノウハウや経験に基づく改良を行う。 <p>(要員)</p> <p>21名</p> <p>(資機材)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠隔操作資機材(小型・中型ロボット、小型・大型無線重機、無線小型ヘリコプター) 現地活動用資機材(放射線防護用資機材、放射線管理・除染用資機材、作業用資機材、一般資機材) 搬送用車両(ワゴン車、大型トラック(重機搬送車用)、中型トラック) 	<p>c. 事故時</p> <ul style="list-style-type: none"> (a) 原子力災害発生時、事故が発生した事業者からの出動要請を受け、要員・資機材を拠点施設から迅速に搬送する。 (b) 事故が発生した事業者の指揮の下、協働で遠隔操作可能なロボット等を用いて現場状況の偵察、空間線量率の測定、がれき等屋外障害物の除去によるアクセスルートの確保、屋内障害物の除去や機材運搬等を行う。 <p>d. 平常時</p> <ul style="list-style-type: none"> (a) 緊急時の連絡体制(24時間体制)を確保し、出動計画を整備する。 (b) ロボット等の操作訓練や必要な資機材の調達・維持管理及び訓練等で得られたノウハウや経験に基づく改良を行う。 <p>e. 要員</p> <p>21名</p> <p>f. 資機材</p> <ul style="list-style-type: none"> (a) 遠隔操作資機材(小型・中型ロボット、小型・大型無線重機、無線小型ヘリコプター) (b) 現地活動用資機材(放射線防護用資機材、放射線管理・除染用資機材、作業用資機材、一般資機材) (c) 搬送用車両(ワゴン車、大型トラック(重機搬送)、中型トラック) 	<p>名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色:大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字:設備、運用又は体制の相違(設計方針の相違)
 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)
 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>5. 原子力事業所災害対策支援拠点</p> <p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故において、発電所外からの支援に係る対応拠点としてJヴィレッジを活用したことを踏まえ、女川原子力発電所においても同様な機能を配置する候補地点をあらかじめ選定し、必要な要員及び資機材を確保する。候補地点の選定に当たっては、重大事故等時における風向、放射性物質の拡散範囲等を考慮し、女川原子力発電所からの方位、距離(約30km圏内外)が異なる地点を複数選定する。</p> <p>別紙2の第1図に、支援拠点の候補地を記した地図を示す。女川原子力発電所原子力事業者防災業務計画においては、石巻ヘリポート(宮城県石巻市)、当社本店ビル(宮城県仙台市)、女川地域総合事務所(宮城県女川町)、女川地域総合事務所跡地(宮城県女川町)を支援拠点として定めている。</p> <p>第2図に防災組織全体図を、第3図に支援拠点の体制図を示す。原災法第10条に基づく通報の判断基準に該当する事象が発生した場合、社長は、原子力事業所災害対策の実施を支援するための発電所周辺の拠点として支援拠点の設置を指示する。</p> <p>支援拠点の責任者は、原子力災害の進展状況等を踏まえながら支援活動の準備を実施する。支援拠点の設置場所及び活動場所を、放射性物質が放出された場合の影響、周囲の道路状況等を踏まえた上で決定し、発電所、本店や関係機関と連携をして、発電所における災害対策活動の支援を実施する。</p> <p>また、支援拠点で使用する主な原子力関連資機材は本店等にて確保しており、定期的に保守点検を行い、常に使用可能な状態に整備している(第7表)。</p> <p>なお、資機材の消耗品については、初動7日間の対応を可能とする量であり、8日目以降は、原子力事業者間協力協定に基づく支援物資、外部からの購入品等で対応する計画としている。</p>	<p>3. 原子力事業所災害対策支援拠点</p> <p>東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故において、発電所外からの支援に係る対応拠点としてJヴィレッジを活用したことを踏まえ、泊発電所においても同様な機能を配置する候補地点をあらかじめ選定し、必要な要員及び資機材を確保する。候補地点の選定に当たっては、重大事故等時における風向、放射性物質の拡散範囲等を考慮し、泊発電所からの方位、距離(約30km圏内外)が異なる地点を複数選定する。</p> <p>別紙1の図1に、支援拠点の候補地を記した地図を示す。泊発電所原子力事業者防災業務計画においては、北海道電力ネットワーク株式会社倶知安ネットワークセンター(北海道倶知安町)、北海道電力ネットワーク株式会社倶知安無線局(北海道倶知安町)、北海道電力ネットワーク株式会社所有地(旧変電所用地)(北海道倶知安町)、北海電気工事株式会社小樽支店(北海道小樽市)、北海道電力ネットワーク株式会社余市ネットワークセンター(北海道余市町)、社有地(旧資材置場)(北海道余市町)を支援拠点として定めている。</p> <p>図2に防災組織全体図を、図3に支援拠点の体制図を示す。原災法第10条に基づく通報の判断基準に該当する事象が発生した場合、社長は、原子力事業所災害対策の実施を支援するための発電所周辺の拠点として支援拠点の設置を指示する。</p> <p>原子力班長(原子力部長)は、原子力災害の進展状況等を踏まえながら支援活動の準備を実施する。支援拠点の設置場所及び活動場所を放射性物質が放出された場合の影響、周囲の道路状況等を踏まえた上で決定し、発電所、本店や関係機関と連携をして、発電所における災害対策活動の支援を実施する。</p> <p>また、支援拠点で使用する主な原子力関連資機材は本店及び保管庫にて確保しており、定期的に保守点検を行い、常に使用可能な状態に整備している。(表7)</p> <p>なお、資機材の消耗品については、初動7日間の対応を可能とする量であり、8日目以降は、原子力事業者間協力協定に基づく支援物資、外部からの購入品等で対応する計画としている。</p>	<p>支援拠点名称の相違</p> <p>名称の相違</p> <p>保管場所の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉

表1 放射線管理用資機材及びチェンジングエリア用資機材等（緊急時対策所）

品名	保管数		
	緊急時対策所 指揮所 ^{*16}	緊急時対策所 待機場所 ^{*16}	構内保管 ^{*1}
汚染防護服（タイベック）	1,900着 ^{*2}	1,200着 ^{*9}	約6,000着
綿帽子	950個 ^{*3}	600個 ^{*10}	約6,000個
靴下	950足 ^{*3}	600足 ^{*10}	約6,000足
綿手袋	950双 ^{*3}	600双 ^{*10}	約29,000双
ゴム手袋	1,900双 ^{*4}	1,200双 ^{*11}	約27,000双
全面マスク	120個 ^{*5}	90個 ^{*12}	約1,600個
交換カートリッジ （2個で1組）	950組 ^{*6}	600組 ^{*13}	約3,000組
靴カバー	950足 ^{*3}	600足 ^{*10}	約6,000足
長靴	200足 ^{*7}	100足 ^{*14}	約300足
タンクステンベスト	20着 ^{*8}	10着 ^{*8}	20着
可搬型空気浄化装置	2台 ^{*15}	2台 ^{*15}	約14台

- *1：平成27年6月現在の保有数量（構内用）
- *2：指揮所要員65名×7日＋余裕（2重化含む）
- *3：指揮所要員65名×7日＋余裕
- *4：指揮所要員65名×7日×2重＋余裕
- *5：指揮所要員65名＋余裕
- *6：指揮所要員65名×7回（07:00前後各1回＋その後1日に1回＝5回）＋余裕
- *7：指揮所要員65名＋余裕
- *8：指揮者1名＋放射線管理1名＋作業員3名×2班
- *9：待機場所要員41名×7日＋余裕（2重化含む）
- *10：待機場所要員41名×7日＋余裕
- *11：待機場所要員41名×7日×2重＋余裕
- *12：待機場所要員41名＋余裕
- *13：待機場所要員41名×7回（07:00前後各1回＋その後1日に1回＝5回）＋余裕
- *14：待機場所要員44名＋余裕
- *15：予備1台含む
- *16：一部近傍資機材倉庫に保管

【比較のため、比較表P1.0.4-17より再掲】

表4 防護具及びチェンジングエリア設置用資機材等（中央制御室）

品名	保管数	考え方
汚染防護服（タイベック）	46着（約6,000着）	運転員等12名×1回（初動対応）＋余裕（2重化含む）
綿帽子	23個（約6,000個）	運転員等12名×1回（初動対応）＋余裕
靴下	23足（約6,000足）	運転員等12名×1回（初動対応）＋余裕
綿手袋	23双（約29,000双）	運転員等12名×1回（初動対応）＋余裕
ゴム手袋	46双（約27,000双）	運転員等12名×2重×1回（初動対応）＋余裕
アノラック	23着（約700着）	運転員等12名×1回（初動対応）＋余裕
全面マスク	23個（約1,600個）	運転員等12名×1回（初動対応）＋余裕
靴カバー	23足（約6,000足）	運転員等12名×1回（初動対応）＋余裕
セルフエアセット	2台（約70台）	—
交換カートリッジ（2個/組）	23組（約3,000個）	運転員等12名×1回（初動対応）＋余裕

注：初動対応時に運転員は中央制御室保管の防護用資機材を使用。
 （ ）内は構内保管数。1週間分の防護用資機材は構内保管分を使用。

女川原子力発電所2号炉

第2表 放射線管理用資機材等

○防護具

品名	配備数 ^{※1} /保管容量		
タイベック	2,100着 ^{※1}	147着 ^{※7}	約29,000着
下着（上下セット）	2,100着 ^{※1}	147着 ^{※7}	約6,000着
綿帽子	2,100個 ^{※1}	147個 ^{※7}	約24,000個
靴下	2,100足 ^{※1}	147足 ^{※7}	約36,000足
綿手袋	2,100双 ^{※1}	147双 ^{※7}	約36,000双
ゴム手袋	4,200双 ^{※2}	294双 ^{※8}	約150,000双
全面マスク	960個 ^{※3}	42個 ^{※9}	約1,800個
電動ファン付き全面マスク	—	7個 ^{※9}	約300個
電動ファン付き全面マスクバッチリ	—	緊急時対策所	約300個
マスク用チャコールフィルタ（2個/セット）	2,100セット ^{※1}	147セット ^{※7}	約8,900セット
EVAスリーブ（上下セット）	1,050セット ^{※4}	74セット ^{※10}	約3,000セット
汚染区域用靴	46足 ^{※5}	8足 ^{※11}	約500足
自給式呼吸器	—	4セット ^{※11}	4セット
耐熱靴	—	3セット ^{※12}	3セット
タンクステンベスト	20着 ^{※6}	4着 ^{※11}	10着

- ※1：60名（本部要員38名＋余裕）×7日及び現場要員40名×6回/日×7日
- ※2：※1×2
- ※3：60名（本部要員38名＋余裕）×3日及び現場要員40名×6回/日×3日（除染による再使用を考慮）
- ※4：（60名（本部要員38名＋余裕）×7日及び現場要員40名×6回/日×7日）×50%（作働日数に基づく）
- ※5：現場要員40名（ブルーム通過直後の現場要員）×2
- ※6：現場要員20名（ブルーム通過直後の現場要員）
- ※7：2号炉運転員7名×3回/日×7日
- ※8：※7×2
- ※9：2号炉運転員7名×6日
- ※10：2号炉運転員7名×1日
- ※11：2号炉運転員7名×3回/日×7日×50%
- ※12：2号炉運転員のうち現場要員2名×2班×2
- ※13：伊中根地区における原子炉格納容器フィルタバント系による格納容器除熱（現場操作）対応者2名＋予備2
- ※14：インターフェイスシステムLOCA対応者2名＋予備1
- ※15：2号炉運転員のうち現場要員2名×2班
- ※16：防護具が不足する場合は、構内より適宜運搬することにより補充する
- ※17：防護具が不足する場合は、構内より適宜運搬することにより補充する

泊発電所3号炉

表2 放射線管理用資機材等

○防護具

品名	配備数 ^{※1} /保管場所		
	緊急時対策所 指揮所 ^{※14}	3号炉 中央 制御室 ^{※15}	構内 ^{※15} （参考）
タイベック	1,050着 ^{※1}	50着 ^{※17}	約2,400着
下着（上下セット）	—	—	約400着
帽子	1,050個 ^{※1}	50個 ^{※17}	約15,000個
靴下	1,050足 ^{※1}	50足 ^{※17}	約7,000足
綿手袋	1,050双 ^{※1}	50双 ^{※17}	約39,000双
ゴム手袋	2,100双 ^{※2}	100双 ^{※17}	約79,000双
全面マスク	1,050個 ^{※1}	100個 ^{※17}	約800個
電動ファン付きマスク	8個 ^{※3}	10個 ^{※17}	約90個
全面マスク用チャコールフィルタ（2個/セット）	2,100個 ^{※4}	200個 ^{※14}	約270個
電動ファン付きマスク用チャコールフィルタ（1個/セット）	8個 ^{※3}	10個 ^{※17}	約90個
アノラック	830着 ^{※5}	50着 ^{※17}	約1,800着
長靴	810足 ^{※6}	30足 ^{※17}	約1,000足
オーバーシューズ（靴カバー）	1,050足 ^{※1}	50足 ^{※17}	約820足
自給式呼吸器	8台 ^{※7}	15台 ^{※18}	約72台
圧縮酸素形循環式呼吸器	8台 ^{※8}	—	—
タンクステンベスト	20着 ^{※9}	—	—

- ※1：100名（本部要員50名＋現場要員38名＋3号炉運転員6名＋余裕）×1.5倍×7日
- ※2：100名（本部要員50名＋現場要員38名＋3号炉運転員6名＋余裕）×2重×1.5倍×7日
- ※3：6名（事務員2名＋放管班員4名）＋余裕
- ※4：100名（本部要員50名＋現場要員38名＋3号炉運転員6名＋余裕）×2個×1.5倍×7日
- ※5：79名（緊急時対策所の最大収容人数120名－本部要員41名）×1.5倍×7日
- ※6：79名（緊急時対策所の最大収容人数120名－本部要員41名）×1.1倍×7日
- ※7：8名（災害対策要員（支援）6名＋作業員2名）
- ※8：79名（緊急時対策所の最大収容人数120名－本部要員41名）の10%分
- ※9：8名（現場指揮者1名＋放管班員1名＋作業員3名×2班）×2セット＋余裕
- ※10：21名（運転員6名＋災害対策要員7名＋災害対策要員（支援）2名＋運転員（交替要員）6名）×1.5倍＋余裕
- ※11：21名（運転員6名＋災害対策要員7名＋災害対策要員（支援）2名＋運転員（交替要員）6名）×1.5倍×2重＋余裕
- ※12：21名（運転員6名＋災害対策要員7名＋災害対策要員（支援）2名＋運転員（交替要員）6名）×2回分（中央制御室内での着脱分）×1.5倍＋余裕
- ※13：8名（運転員6名＋放管班員2名）＋余裕
- ※14：21名（運転員6名＋災害対策要員7名＋災害対策要員（支援）2名＋運転員（交替要員）6名）×2個×2回分（中央制御室内での着脱分）×1.5倍＋余裕
- ※15：21名（運転員6名＋災害対策要員7名＋災害対策要員（支援）2名＋運転員（交替要員）6名）＋余裕
- ※16：15名（運転員6名＋災害対策要員7名＋災害対策要員（支援）2名）
- ※17：防護具が不足する場合は、構内より適宜運搬することにより補充する
- ※18：発電所構内に保管又は配備している数量

引用元

- ・DB26条 原子炉制御室等まとめ資料 別添1
- ・DB34条 緊急時対策所まとめ資料 別添1

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：大飯3/4号炉の記載のうち、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0.4 外部からの支援について

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																													
<p>○計測器（被ばく管理・汚染管理）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">保管数</th> </tr> <tr> <th>緊急時対策所 指揮所</th> <th>緊急時対策所 待機場所</th> <th>構内保管^{*1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人線量計</td> <td>120台^{*2}</td> <td>90台^{*7}</td> <td>約2,900台</td> </tr> <tr> <td>表面汚染密度測定用 サーベイメータ</td> <td>5台^{*3}</td> <td>5台^{*8}</td> <td>約50台</td> </tr> <tr> <td>ガンマ線測定用 サーベイメータ</td> <td>5台^{*4}</td> <td>5台^{*4}</td> <td>約60台</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所内 可搬型エリアモニタ</td> <td colspan="2">3台^{*5*}</td> <td>約15台</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所外 可搬型エリアモニタ</td> <td colspan="2">2台^{*6*}</td> <td>約4台</td> </tr> </tbody> </table> <p>^{*1}：平成27年6月現在の保有数量（構内用） ^{*2}：指揮所要員65名＋余裕 ^{*3}：チェンジングエリアにて使用 ^{*4}：現場作業時に使用 ^{*5}：緊急時対策所にて使用 ^{*6}：原子炉補助建屋内に使用 ^{*7}：待機場所要員41名＋余裕 ^{*8}：予備1台を含む</p>	品名	保管数			緊急時対策所 指揮所	緊急時対策所 待機場所	構内保管 ^{*1}	個人線量計	120台 ^{*2}	90台 ^{*7}	約2,900台	表面汚染密度測定用 サーベイメータ	5台 ^{*3}	5台 ^{*8}	約50台	ガンマ線測定用 サーベイメータ	5台 ^{*4}	5台 ^{*4}	約60台	緊急時対策所内 可搬型エリアモニタ	3台 ^{*5*}		約15台	緊急時対策所外 可搬型エリアモニタ	2台 ^{*6*}		約4台	<p>○計測器（被ばく管理、汚染管理）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">配備台数^{*1}／保管場所</th> </tr> <tr> <th>個人線量計</th> <th>表面汚染密度測定用 サーベイメータ</th> <th>可搬型エリアモニタ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子式線量計</td> <td>200台^{*1}</td> <td>8台^{*2}</td> <td>4台^{*4}</td> </tr> <tr> <td>ガラスバッジ</td> <td>200台^{*1}</td> <td>8台^{*2}</td> <td>4台^{*4}</td> </tr> <tr> <td>表面汚染密度測定用 サーベイメータ</td> <td>8台^{*2}</td> <td>8台^{*2}</td> <td>4台^{*4}</td> </tr> <tr> <td>ガンマ線測定用 サーベイメータ</td> <td>8台^{*2}</td> <td>8台^{*2}</td> <td>4台^{*4}</td> </tr> <tr> <td>可搬型エリアモニタ</td> <td>4台^{*4}</td> <td>4台^{*4}</td> <td>4台^{*4}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×2 ※2：チェンジングエリア用4台（汚染検査を行う放射線管理班員2名分＋余裕）＋緊急時対策建屋内及び屋外用4台（屋外等のモニタリングを行う放射線管理班員2名分＋余裕） ※3：チェンジングエリア用4台（チェンジングエリアのモニタリングを行う放射線管理班員2名分＋余裕）＋緊急時対策建屋内及び屋外用4台（屋外等のモニタリングを行う放射線管理班員2名分＋余裕） ※4：緊急時対策所内2台（1台＋余裕）＋緊急時対策建屋内2台（1台＋余裕） ※5：2号炉運転員7名×2 ※6：チェンジングエリア用2台（汚染検査を行う放射線管理班員1名分＋余裕）＋中央制御室内外用2台（モニタリングを行う放射線管理班員1名分＋余裕） ※7：チェンジングエリア用2台（モニタリングを行う放射線管理班員1名分＋余裕）＋中央制御室内外用2台（モニタリングを行う放射線管理班員1名分＋余裕） ※8：中央制御室内2台（1台＋余裕）＋待機所内2台（1台＋余裕） ※9：予備含む（今後、訓練等で見直しを行う。）</p>	品名	配備台数 ^{*1} ／保管場所			個人線量計	表面汚染密度測定用 サーベイメータ	可搬型エリアモニタ	電子式線量計	200台 ^{*1}	8台 ^{*2}	4台 ^{*4}	ガラスバッジ	200台 ^{*1}	8台 ^{*2}	4台 ^{*4}	表面汚染密度測定用 サーベイメータ	8台 ^{*2}	8台 ^{*2}	4台 ^{*4}	ガンマ線測定用 サーベイメータ	8台 ^{*2}	8台 ^{*2}	4台 ^{*4}	可搬型エリアモニタ	4台 ^{*4}	4台 ^{*4}	4台 ^{*4}	<p>○計測器（被ばく管理、汚染管理）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">配備台数^{*1}／保管場所</th> </tr> <tr> <th>個人線量計</th> <th>GM汚染サーベイメータ</th> <th>可搬型エリアモニタ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポケット線量計</td> <td>140台^{*1}</td> <td>10台^{*2}</td> <td>4台^{*4}</td> </tr> <tr> <td>ガラスバッジ</td> <td>140台^{*1}</td> <td>10台^{*2}</td> <td>4台^{*4}</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所 指揮所、 緊急時対策所 待機所</td> <td>50台^{*5}</td> <td>3台^{*6}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>3号炉 中央制御室</td> <td>50台^{*5}</td> <td>3台^{*6}</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：60名×2箇所（指揮所、待機所）×1.1倍＋余裕 ※2：チェンジングエリア用6台（汚染検査を行う放管班員2名分×2箇所（指揮所、待機所）＋余裕）＋緊急時対策所内及び屋外用4台（屋外等のモニタリングを行う放管班員2名分＋余裕） ※3：チェンジングエリア用4台（汚染検査を行う放管班員2名分×2箇所（指揮所、待機所））＋緊急時対策所内及び屋外用6台（屋外等のモニタリングを行う放管班員2名分＋余裕） ※4：緊急時対策所指揮所2台（1台＋余裕）＋緊急時対策所待機所2台（1台＋余裕） ※5：31名×1.5倍 ※6：チェンジングエリア用1台（汚染検査を行う放管班員1名分）＋中央制御室内用1台（中央制御室内の汚染検査用1台）＋余裕 ※7：チェンジングエリア用1台（チェンジングエリア内のモニタリング用1台）＋中央制御室内用1台（中央制御室内のモニタリング用1台）＋余裕</p>	品名	配備台数 ^{*1} ／保管場所			個人線量計	GM汚染サーベイメータ	可搬型エリアモニタ	ポケット線量計	140台 ^{*1}	10台 ^{*2}	4台 ^{*4}	ガラスバッジ	140台 ^{*1}	10台 ^{*2}	4台 ^{*4}	緊急時対策所 指揮所、 緊急時対策所 待機所	50台 ^{*5}	3台 ^{*6}	—	3号炉 中央制御室	50台 ^{*5}	3台 ^{*6}	—	<p>引用元</p> <ul style="list-style-type: none"> DB26条 原子炉制御室等まとめ資料 別添1 DB34条 緊急時対策所まとめ資料 別添1
品名		保管数																																																																														
	緊急時対策所 指揮所	緊急時対策所 待機場所	構内保管 ^{*1}																																																																													
個人線量計	120台 ^{*2}	90台 ^{*7}	約2,900台																																																																													
表面汚染密度測定用 サーベイメータ	5台 ^{*3}	5台 ^{*8}	約50台																																																																													
ガンマ線測定用 サーベイメータ	5台 ^{*4}	5台 ^{*4}	約60台																																																																													
緊急時対策所内 可搬型エリアモニタ	3台 ^{*5*}		約15台																																																																													
緊急時対策所外 可搬型エリアモニタ	2台 ^{*6*}		約4台																																																																													
品名	配備台数 ^{*1} ／保管場所																																																																															
	個人線量計	表面汚染密度測定用 サーベイメータ	可搬型エリアモニタ																																																																													
電子式線量計	200台 ^{*1}	8台 ^{*2}	4台 ^{*4}																																																																													
ガラスバッジ	200台 ^{*1}	8台 ^{*2}	4台 ^{*4}																																																																													
表面汚染密度測定用 サーベイメータ	8台 ^{*2}	8台 ^{*2}	4台 ^{*4}																																																																													
ガンマ線測定用 サーベイメータ	8台 ^{*2}	8台 ^{*2}	4台 ^{*4}																																																																													
可搬型エリアモニタ	4台 ^{*4}	4台 ^{*4}	4台 ^{*4}																																																																													
品名	配備台数 ^{*1} ／保管場所																																																																															
	個人線量計	GM汚染サーベイメータ	可搬型エリアモニタ																																																																													
ポケット線量計	140台 ^{*1}	10台 ^{*2}	4台 ^{*4}																																																																													
ガラスバッジ	140台 ^{*1}	10台 ^{*2}	4台 ^{*4}																																																																													
緊急時対策所 指揮所、 緊急時対策所 待機所	50台 ^{*5}	3台 ^{*6}	—																																																																													
3号炉 中央制御室	50台 ^{*5}	3台 ^{*6}	—																																																																													
<p>【比較のため、比較表P1.0.4-14より再掲】</p> <table border="1"> <caption>表2 食料等（緊急時対策所）</caption> <thead> <tr> <th colspan="2">○食料等</th> </tr> <tr> <th>品名</th> <th>保管数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料</td> <td>2,940食^{*1}</td> </tr> <tr> <td>飲料水</td> <td>1,470リットル^{*2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：指揮所65名＋待機場所41名×3食×7日＋余裕 ※2：指揮所65名＋待機場所41名×3食×500ミリリットル×7日＋余裕 ※3：指揮所65名×3食×7日＋余裕 ※4：指揮所65名×3食×500ミリリットル×7日＋余裕 ※5：待機場所41名×3食×7日＋余裕 ※6：待機場所41名×3食×500ミリリットル×7日＋余裕</p>	○食料等		品名	保管数量	食料	2,940食 ^{*1}	飲料水	1,470リットル ^{*2}	<p>○食料等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">配備数^{*1}／保管場所</th> </tr> <tr> <th>食料</th> <th>飲料水</th> <th>簡易トイレ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料等</td> <td>2,100食^{*1}</td> <td>1,400本^{*2}</td> <td>4,900個^{*3}</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素剤</td> <td>800錠^{*4}</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×7日×3食 ※2：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×7日×2本（1.5リットル/本） ※3：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×（7回/1日×7日）＝4,900個 ※4：100名（本部要員38名＋現場要員40名＋余裕）×（初日2錠＋2日目以降1錠/1日×6日）＝800錠 ※5：7名（2号炉運転員）×7日×3食 ※6：7名（2号炉運転員）×7日×2本 ※7：7名（2号炉運転員）×（3回/10時間（ブルーム通過中））＋余裕＝30錠 ※8：7名（2号炉運転員）×（初日2錠＋2日目以降1錠/1日×6日）＝90錠 ※9：今後、訓練等で見直しを行う。</p>	品名	配備数 ^{*1} ／保管場所			食料	飲料水	簡易トイレ	食料等	2,100食 ^{*1}	1,400本 ^{*2}	4,900個 ^{*3}	ヨウ素剤	800錠 ^{*4}	—	—	<p>○食料等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品名</th> <th colspan="3">配備数^{*1}／保管場所</th> </tr> <tr> <th>食料</th> <th>飲料水</th> <th>簡易トイレ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食料等</td> <td>2,520食^{*1}</td> <td>1,680L^{*2}</td> <td>2式</td> </tr> <tr> <td>安定用薬剤</td> <td>—</td> <td>2000錠^{*3}</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：120名×3食×7日 ※2：120名×4本×0.5L×7日 ※3：120名×2錠×7日＋余裕分 ※4：6名（運転員）×3食×7日 ※5：6名（運転員）×4本×0.5L×7日 ※6：6名（運転員）×2錠×7日＋余裕分 ※7：今後、訓練等で見直しを行う</p>	品名	配備数 ^{*1} ／保管場所			食料	飲料水	簡易トイレ	食料等	2,520食 ^{*1}	1,680L ^{*2}	2式	安定用薬剤	—	2000錠 ^{*3}	—	<p>相違理由</p>																																							
○食料等																																																																																
品名	保管数量																																																																															
食料	2,940食 ^{*1}																																																																															
飲料水	1,470リットル ^{*2}																																																																															
品名	配備数 ^{*1} ／保管場所																																																																															
	食料	飲料水	簡易トイレ																																																																													
食料等	2,100食 ^{*1}	1,400本 ^{*2}	4,900個 ^{*3}																																																																													
ヨウ素剤	800錠 ^{*4}	—	—																																																																													
品名	配備数 ^{*1} ／保管場所																																																																															
	食料	飲料水	簡易トイレ																																																																													
食料等	2,520食 ^{*1}	1,680L ^{*2}	2式																																																																													
安定用薬剤	—	2000錠 ^{*3}	—																																																																													